

目 次

1. 会期日程表	1
2. 平成30年6月4日（月曜日）	5
3. 議事日程（第1号）	5
4. 開 会	10
5. 日程第1 会議録署名議員の指名	10
6. 日程第2 会期の決定	10
7. 日程第3 市長あいさつ	10
8. 日程第4 市長提出議案上程（議第54号から議第90号まで）	13
9. 日程第5 提案理由の説明	13
10. 日程第6 報告（7件）	20
11. 日程第7 請願の報告（請第1号）	24
12. 散 会	24
13. 平成30年6月12日（火曜日）	27
14. 議事日程（第2号）	27
15. 開 議	30
16. 日程第1 一般質問	30
17. 近松恵美子議員 質問	30
18. 西川裕文議員 質問	43
19. 城戸 淳議員 質問	52
20. 松本憲二議員 質問	64
21. 古奥俊男議員 質問	78
22. 散 会	86
23. 平成30年6月13日（水曜日）	89
24. 議事日程（第3号）	89
25. 開 議	93
26. 日程第1 一般質問	93
27. 北本将幸議員 質問	93
28. 吉田憲司議員 質問	120
29. 坂本公司議員 質問	135
30. 内田靖信議員 質問	147

31. 徳村登志郎議員 質問	158
32. 散 会	170
33. 平成30年6月14日（木曜日）	173
34. 議事日程（第4号）	173
35. 開 議	177
36. 日程第1 一般質問	177
37. 前田正治議員 質問	177
38. 多田隈啓二議員 質問	193
39. 吉田真樹子議員 質問	221
40. 江田計司議員 質問	227
41. 日程第2 議案及び請願の委員会付託	239
42. 散 会	242
43. 平成30年6月26日（火曜日）	245
44. 議事日程（第5号）	245
45. 開 議	251
46. 日程第1 全国市議会議長会表彰状の伝達	251
47. 日程第2 委員会の中間報告	252
48. 公共施設等建設特別委員長報告	252
49. 日程第3 委員長報告	254
50. 総務委員長報告	254
51. 建設経済委員長報告	258
52. 文教厚生委員長報告	262
53. 日程第4 質疑・議員間討議・討論・採決（議第54号から議第69号 まで、請第1号）	267
54. 日程第5 閉会中の継続審査の件	276
55. 日程第6 市長提出議案審議（質疑・議員間討議・討論・採決） （議第70号から議第90号まで）	276
56. 日程第7 議員派遣の件	280
57. 日程第8 意見書案上程（意見書案第1号）	281
58. 日程第9 提案理由の説明	282
59. 日程第10 意見書案審議（質疑・議員間討議・討論・採決） （意見書案第1号）	283

60. 日程第 1 1	議員提出議案上程（議員提出第 1 号）	283
61. 日程第 1 2	提案理由の説明	284
62. 日程第 1 3	議員提出議案審議（質疑・議員間討議・討論・採決） （議員提出第 1 号）	285
63. 日程第 1 4	金栗四三地域創造戦略特別委員会委員の選任	286
64. 日程第 1 5	金栗四三地域創造戦略特別委員会正副委員長互選結果報告	287
65. 日程第 1 6	市長提出追加議案上程（議第 9 1 号及び議第 9 2 号）	287
66. 日程第 1 7	提案理由の説明	288
67. 日程第 1 8	報告（1 件）	289
68. 日程第 1 9	議案の委員会付託	290
69. 日程第 2 0	委員長報告	291
70.	総務委員長報告	291
71. 日程第 2 1	質疑・議員間討議・討論・採決（議第 9 1 号及び議第 9 2 号）	292
72. 日程第 2 2	公共施設等建設特別委員会副委員長互選結果報告	293
73. 閉 会		294
74. 署 名 欄		295

平成30年第3回玉名市議会定例会会期日程表
(会期 6月4日から6月26日までの23日間)

月	日	曜	開議時刻	会議別	摘 要
6	4	月	午前10時	本会議	開会宣告 会議録署名議員の指名 会期の決定 市長あいさつ 市長提出議案上程 提案理由の説明 報告 請願の報告
6	5	火		休 会	(一般質問発言通告締切 正午)
6	6	水		休 会	
6	7	木		休 会	
6	8	金		休 会	
6	9	土		休 会	(市の休日)
6	10	日		休 会	(市の休日)
6	11	月		休 会	
6	12	火	午前10時	本会議	一般質問
6	13	水	午前10時	本会議	一般質問
6	14	木	午前10時	本会議	一般質問 議案及び請願の委員会付託
6	15	金		休 会	
6	16	土		休 会	(市の休日)
6	17	日		休 会	(市の休日)
6	18	月	午前10時	委員会	総務委員会
6	19	火	午前10時	委員会	建設経済委員会
6	20	水	午前10時	委員会	文教厚生委員会
6	21	木		休 会	
6	22	金		休 会	
6	23	土		休 会	(市の休日)
6	24	日		休 会	(市の休日)
6	25	月		休 会	
6	26	火	午前10時	本会議	委員長報告 質疑・議員間討議・討論・採決 閉会宣告

第 1 号

6 月 4 日 (月)

平成30年第3回玉名市議会定例会会議録（第1号）

議事日程（第1号）

平成30年6月4日（月曜日）午前10時00分開会

開 会 宣 告

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 市長あいさつ

日程第4 市長提出議案上程

（議第54号から議第90号まで）

議第54号 専決処分事項の承認について 専決第2号
工事施行協定の締結について

議第55号 専決処分事項の承認について 専決第3号
平成29年度玉名市一般会計補正予算（第11号）

議第56号 専決処分事項の承認について 専決第4号
玉名市税条例等の一部を改正する条例の制定について

議第57号 専決処分事項の承認について 専決第5号
玉名市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について

議第58号 専決処分事項の承認について 専決第6号
玉名市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

議第59号 平成30年度玉名市一般会計補正予算（第1号）

議第60号 平成30年度玉名市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）

議第61号 平成30年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）

議第62号 平成30年度玉名市浄化槽整備事業特別会計補正予算（第1号）

議第63号 平成30年度玉名市九州新幹線漏水等被害対策事業特別会計
補正予算（第1号）

議第64号 平成30年度玉名市水道事業会計補正予算（第1号）

議第65号 平成30年度玉名市公共下水道事業会計補正予算（第1号）

議第66号 玉名市新玉名駅自動車駐車場条例の制定について

議第67号 玉名市立小学校臨時教員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制
定について

議第68号 玉名市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部
を改正する条例の制定について

議第69号 工事請負契約の締結について

議第70号 農業委員会委員の任命について

議第 7 1 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 2 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 3 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 4 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 5 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 6 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 7 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 8 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 9 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 0 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 1 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 2 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 3 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 4 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 5 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 6 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 7 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 8 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 9 号 人権擁護委員候補者の推薦について
議第 9 0 号 人権擁護委員候補者の推薦について

日程第 5 提案理由の説明

日程第 6 報告（7 件）

報告第 2 号 平成 2 9 年度玉名市一般会計予算繰越明許費繰越計算書の報告について
報告第 3 号 平成 2 9 年度玉名市一般会計予算事故繰越し繰越計算書の報告について
報告第 4 号 平成 2 9 年度玉名市水道事業会計予算繰越計算書の報告について
報告第 5 号 平成 2 9 年度玉名市公共下水道事業会計予算繰越計算書の報告について
報告第 6 号 一般財団法人玉名市自治振興公社の経営状況を説明する書類について
報告第 7 号 専決処分の報告について 専決第 7 号
報告第 8 号 専決処分の報告について 専決第 8 号

日程第 7 請願の報告

（請第 1 号）

請第 1 号 築山小学校の施設整備を求める請願

散 会 宣 告

+++++

本日の会議に付した事件

開 会 宣 告

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 市長あいさつ

日程第 4 市長提出議案上程

(議第 5 4 号から議第 9 0 号まで)

議第 5 4 号 専決処分事項の承認について 専決第 2 号

工事施行協定の締結について

議第 5 5 号 専決処分事項の承認について 専決第 3 号

平成 2 9 年度玉名市一般会計補正予算 (第 1 1 号)

議第 5 6 号 専決処分事項の承認について 専決第 4 号

玉名市税条例等の一部を改正する条例の制定について

議第 5 7 号 専決処分事項の承認について 専決第 5 号

玉名市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について

議第 5 8 号 専決処分事項の承認について 専決第 6 号

玉名市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

議第 5 9 号 平成 3 0 年度玉名市一般会計補正予算 (第 1 号)

議第 6 0 号 平成 3 0 年度玉名市国民健康保険事業特別会計補正予算 (第 1 号)

議第 6 1 号 平成 3 0 年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算 (第 1 号)

議第 6 2 号 平成 3 0 年度玉名市浄化槽整備事業特別会計補正予算 (第 1 号)

議第 6 3 号 平成 3 0 年度玉名市九州新幹線漏水等被害対策事業特別会計
補正予算 (第 1 号)

議第 6 4 号 平成 3 0 年度玉名市水道事業会計補正予算 (第 1 号)

議第 6 5 号 平成 3 0 年度玉名市公共下水道事業会計補正予算 (第 1 号)

議第 6 6 号 玉名市新玉名駅自動車駐車場条例の制定について

議第 6 7 号 玉名市立小学校臨時教員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制
定について

議第 6 8 号 玉名市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部
を改正する条例の制定について

議第 6 9 号 工事請負契約の締結について

議第 7 0 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 1 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 2 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 3 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 4 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 5 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 6 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 7 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 8 号 農業委員会委員の任命について
議第 7 9 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 0 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 1 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 2 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 3 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 4 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 5 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 6 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 7 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 8 号 農業委員会委員の任命について
議第 8 9 号 人権擁護委員候補者の推薦について
議第 9 0 号 人権擁護委員候補者の推薦について

日程第 5 提案理由の説明

日程第 6 報告（7 件）

報告第 2 号 平成 2 9 年度玉名市一般会計予算繰越明許費繰越計算書の報告について
報告第 3 号 平成 2 9 年度玉名市一般会計予算事故繰越し繰越計算書の報告について
報告第 4 号 平成 2 9 年度玉名市水道事業会計予算繰越計算書の報告について
報告第 5 号 平成 2 9 年度玉名市公共下水道事業会計予算繰越計算書の報告について
報告第 6 号 一般財団法人玉名市自治振興公社の経営状況を説明する書類について
報告第 7 号 専決処分の報告について 専決第 7 号
報告第 8 号 専決処分の報告について 専決第 8 号

日程第 7 請願の報告

（請第 1 号）

請第 1 号 築山小学校の施設整備を求める請願

散 会 宣 告

出席議員（21 名）

1 番 坂 本 公 司 君

2 番 吉 田 真樹子 さん

3 番	吉 田 憲 司 君	4 番	一 瀬 重 隆 君
5 番	赤 松 英 康 君	6 番	古 奥 俊 男 君
7 番	北 本 将 幸 君	8 番	多田隈 啓 二 君
9 番	松 本 憲 二 君	10 番	徳 村 登志郎 君
11 番	城 戸 淳 君	12 番	西 川 裕 文 君
13 番	嶋 村 徹 君	14 番	内 田 靖 信 君
15 番	江 田 計 司 君	16 番	近 松 恵美子 さん
18 番	前 田 正 治 君	19 番	作 本 幸 男 君
20 番	森 川 和 博 君	21 番	中 尾 嘉 男 君
22 番	田 畑 久 吉 君		

+++++

欠席議員（1名）

17 番 福 嶋 讓 治 君

+++++

事務局職員出席者

事 務 局 長	堀 内 政 信 君	事 務 局 次 長	荒 木 勇 君
次 長 補 佐	松 野 和 博 君	書 記	松 尾 和 俊 君
書 記	古 閑 俊 彦 君		

+++++

説明のため出席した者

市 長	藏 原 隆 浩 君	副 市 長	村 上 隆 之 君
総 務 部 長	西 山 俊 信 君	企画経営部長	水 本 明 子 さん
市民生活部長	村 崎 信 介 君	健康福祉部長	松 野 信 生 君
産業経済部長	松 本 忠 光 君	建 設 部 長	前 田 慎一郎 君
企 業 局 長	松 本 優 一 君	教 育 長	池 田 誠 一 君
教 育 部 長	戸 寄 孝 司 君	監 査 委 員	元 田 充 洋 君
会 計 管 理 者	竹 村 昌 記 君		

午前10時00分 開会

○議長（中尾嘉男君） おはようございます。

ただいまから、平成30年第3回玉名市議会定例会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。なお、今期定例会の説明員の出席につきましては、地方自治法第121条の規定により、お手元に配付しております報告のとおり、あらかじめ出席を要請しておきましたので、御了承願います。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（中尾嘉男君） 日程第1、「会議録署名議員の指名」を行ないます。

会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において指名いたします。

松本憲二君、徳村登志郎君、以上の両君を指名いたします。

日程第2 会期の決定

○議長（中尾嘉男君） 日程第2、「会期の決定」を議題といたします。

お諮りいたします。このたびの定例会の会期については、5月28日の議会運営委員会の結論に基づき、本日から26日までの23日間にいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、会期は本日から26日までの23日間に決定いたしました。

日程第3 市長あいさつ

○議長（中尾嘉男君） 日程第3、「市長あいさつ」を行ないます。

市長より発言の申し出があつておりますので、これを許可いたします。

市長 蔵原隆浩君。

〔市長 蔵原隆浩君 登壇〕

○市長（蔵原隆浩君） 皆様、おはようございます。

本日は、平成30年第3回玉名市議会定例会を招集しましたところ、議員の皆様におかれましては、御出席をいただき、御審議を進めていただきますことに対し、厚くお礼を申し上げます。

開会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

国会では会期末を控え、政府が最重要法案と位置付ける働き方改革関連法案が衆議院本会議で可決され、TPP締結に必要な関連法案の審議が大詰めに入っているものの、

与野党の対立から議論が不十分な状態が続き、会期の延長も予定されている状況であります。また、経済財政運営の指針として6月に決定する予定の「骨太方針」の骨子案では、2019年10月1日の消費税引き上げと需要変動の平準化が明記され、国民の目から見ても、大いに気になるところでございます。

一方、県内に目を向けますと、熊本地震の発生から2年が経過し、道路の復旧や被災家屋の解体など、少しずつ復旧作業も進んでいる状況ではありますが、被災者の仮設住宅入居期限が迫る中、災害公営住宅などへの転居の問題や、まだまだ不足しているボランティアの募集など、被災者の生活再生には、いまだ多くの課題が残されております。

市といたしましても、被災地域への職員派遣はもとより、県や他市町村との信頼関係を保ち、しっかりと連携をしながら県全体の復興への協力を惜しまず、市政を推進する所存でございます。

さて、九州北部地方も5月28日に梅雨入りが発表され、今年も大雨を警戒しなければならない季節となりました。昨年発生しました、九州北部豪雨災害では、福岡県と大分県を中心として多くの被害があり、復旧作業は進んでいるものの、ここに改めてお見舞いを申し上げる次第でございます。

玉名市でも、菊池市、山鹿市、和水町の首長さまをはじめ、議員各位、そして国土交通省、消防団、協力事業所などで編成する水防班が一堂に会し、先月13日に菊池川水防演習を実施し、大雨時などの対処について訓練を行い、また、関係機関との会議などの中でも、市民の尊い生命と財産を災害から守るため、本格的な出水期を迎えた、この時期の大雨情報などに細心の注意を払いながら、お互いの連携を強化し、防災体制等の確立に努めてまいることといたしております。

また、これまで2度の入札不落となり重大な懸案事項となっておりました、玉名市民会館の入札におきましては、議員の皆様様の御理解と御協力により、お陰さまで落札業者も決まり本議会での御承認を賜れば、本契約の上、速やかに事業に着手し、平成32年3月の完成を目指して推進することとなります。

この市民会館が、市民にとって文化の中心となり、周辺整備も含めて、玉名市になくしてはならない施設にしていきたいと思いますので、議員各位におかれましては、今後とも、御指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

6月号の「広報たまな」をごらんになり、議員の皆様方も既に御承知のことと思いますが、2019年の大河ドラマ「いだてん」の撮影が5月6日と7日、そして9日の3日間、高瀬船着場跡の史跡、俵ころがし周辺で行われ、金栗四三役の中村勘九郎さんをはじめとする著名な俳優陣に加え、エキストラ約70名が参加し大々的に行なわれたところでございます。撮影現場では明治時代の物流の集積場が再現され、熱気あふれる雰囲気に取り込まれるとともに、改めてドラマの放送が近づいていることを実感した次第

でございます。

着々と進む撮影に伴い、昨年１２月に「玉名市いだてん地域振興協議会」が発足し、その中で集客の核となる「大河ドラマ館」の設置について検討を重ねてまいりました。設置場所につきましては、複数の候補地の中から、建設費、利便性、効果面を精査するとともに、最終的な候補地を先般５月２５日開催されました第２回玉名市いだてん地域振興協議会の中で、旧玉名市役所庁舎跡地を協議のうえ、御承認をいただいたところでございます。

今回の補正に関連予算を計上しておりますので、詳細な説明をさせていただいた上で、議員の皆様の御審議を賜り、御承認いただきたいと存じます。この千載一遇のチャンスを生かすべく、１市２町と連携した新しい観光ルートや地域特産品の開発のみならず、「金栗四三先生ゆかりの地」である小田地域の整備、各種イベントの実施、ＰＲなどに取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

そして、皆様も気に留めていただいていることと存じますが、少子化に伴う児童・生徒の減少が顕著である中、教育環境の充実を目指した学校規模適正化事業として、４月に開校いたしました玉陵小学校でございますが、子どもたちの様子について、学校からは、子どもたちは思ったより順応が早かったようで、全体的に落ち着いているようだと言っております。また、子どもたちは新しい人間関係を既に築いており、集団生活の中で人間関係を学ぶ機会が増えているようでもあります。学習面についても、学習規律にばらつきがあると、子どもたちにとって負担になるのではと思っておりましたけれども、集中して学習に取り組んでいるとお聞きしております。

子どもたちのほうからも「友だちが増えて休み時間が楽しい」といった声や、また同じ敷地には玉陵中学校がありますが、中学生が毎朝あいさつ運動を行っているのを見て「私たちもしっかりあいさつしたい」と刺激を受けている子どもたちの様子がうかがえるとのことであり、私も安心した次第でございます。

このような市政の動きの中、市長に就任いたしまして半年を迎えようとする５月１日に、県内自治体では２番目となる「よかボス宣言」をさせていただき、熊本県に申請を行いました。働きやすく、働き甲斐のある市役所の実現を目指すとともに、市内の企業などの宣言の実施を促進することを目的とするものでありますけれども、この宣言をきっかけに、職員の働き方の改善、結婚、子育て、介護などに取り組みやすい職場環境づくり、生活の充実につなげることは、より良い市民サービスの提供にもつながるものであると思っております。

また、昨年は「菊池川流域二千年の米作りのストーリー」が日本遺産に認定されましたが、今後は、流域市町との連携を図りながら関連事業を推進してまいります。その菊池川水系の裏川のほうでは、今年もしょうぶの花に彩られ、５月２５日から６月９日ま

で「高瀬裏川花しょうぶまつり」が開催されております。多くの市民の皆さまをはじめ、観光客の皆さまにも、石垣に囲まれ、しょうぶの花が咲きそろふ裏川の風情を楽しんでいただきたいと思います。

以上、最近における市政の動きの一端について申し上げましたが、今定例市議会に提案しておりますのは、補正予算関係では専決処分1件、補正予算7件、報告案件といたしまして繰越計算書の報告4件を御提案させていただいております。

平成30年度一般会計の補正予算の主なものといたしましては、平成31年1月より大河ドラマ「いだてん」の放送を控え、ドラマに出演される俳優とともに、バーチャルリアリティ技術を利用し玉名で撮影が行われた「俵ころがし」などの撮影風景を再現し、360度の風景を疑似体験できるコーナーの設置や撮影地となりました玉名の名所を美しい映像で楽しんでいただき、玉名の魅力をPRする情報発信拠点施設である「大河ドラマ館」を整備する経費を計上しております。

また、本市の魅力発信を促進し、新たなコミュニケーションツールとしてソーシャルメディアを活用し、イベント情報、観光情報などを投稿するシステム構築費、水田等の農地をフル活用し低コスト生産を実現するため、施設・機械などの基盤整備に要する経費を補助する、攻めの園芸生産対策事業補助金などを計上いたしております。

このほか、条例案件等7件、農業委員会委員の任命、人権擁護委員候補者の推薦などの人事案件21件、工事請負契約関係で2件、報告案件も併せ御提案申し上げております。

これらの議案につきまして、よろしく御審議の上、議決いただきますようお願い申し上げます。開会に当たってのごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

日程第4 市長提出議案上程（議第54号から議第90号まで）

○議長（中尾嘉男君） 日程第4、「市長提出議案上程」を行ないます。

これより、市長提出議案を上程いたします。

議第54号専決処分事項の承認について、専決第2号、工事施行協定の締結についてから、議第90号人権擁護委員候補者の推薦についてまでの市長提出議案37件を一括議題といたします。

お手元に配付しております議案の朗読は、これを省略いたします。

日程第5 提案理由の説明

○議長（中尾嘉男君） 日程第5、「提案理由の説明」を行ないます。

ただいまの各議案について、提案理由の説明を求めます。

総務部長 西山俊信君。

[総務部長 西山俊信君 登壇]

○総務部長（西山俊信君） 皆さん、おはようございます。

私のほうからは補正予算関係案につきまして、提案理由の御説明を申し上げます。

お手元にお配りしております予算関係の資料の１ページをごらんいただきたいと思います。

初めに、議第５５号専決処分事項の承認について、専決第３号平成２９年度玉名市一般会計補正予算（第１１号）について御説明申し上げます。

これは地方自治法第１７９条第１項の規定によりまして、専決処分を行ないましたので、同条第３項の規定により議会の承認を求めるものでございます。

主な内容につきましては、市税の決算見込み及び地方消費税交付金等の各種交付金などの決定により、補正を行なったものでございます。

第１表歳入歳出予算補正につきましては、歳入歳出それぞれ５億９,８０７万９,０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を３６５億３５１万円とするものでございます。

まず、歳入の主なものを申し上げますと、１款市税が２億６,６９０万円の追加、６款地方消費税交付金は４,０６９万４,０００円の追加、８款自動車取得税交付金は２,３４４万６,０００円の追加、１０款地方交付税は６,１９１万２,０００円の追加でございます。１７款寄附金は、高校生の育英資金として寄附がございましたので、１８万円の追加。１９款繰越金は１億７,２５４万７,０００円で、前回までの補正で計上しておりました繰越金の補正との差額を全額追加するものでございます。２０款諸収入は、２,５１９万４,０００円の追加で、熊本県市町村振興協会市町村交付金でございます。

歳出につきましては、２款総務費は５億９,７８９万９,０００円の追加で、市有施設整備基金への積み立てを行なうもので、今回、補正の歳入歳出の調整でございます。また、１０款教育費の１８万円の追加は、高校生の育英資金としての寄附金を教育振興特別基金へ積み立てるものでございます。

続きまして、議第５９号から議第６５号までの平成３０年度補正予算関係７件につきまして、提案理由の御説明を申し上げます。

今回、御提案いたします補正予算は、現計予算計上後の事情の変化によりまして補正を行なう必要が生じたので、御提案いたすものでございます。

初めに、議第５９号平成３０年度玉名市一般会計補正予算（第１号）について御説明申し上げます。予算資料の２ページでございます。

第１表歳入歳出予算補正につきましては、歳入歳出それぞれ２億６,７７４万３,０００円を追加し、総額を３２４億３,３７４万３,０００円とするものでございます。

まず、歳入の主なものを申し上げますと、１４款国庫支出金は２,１４６万４,０００

円の減額、平成30年度当初予算において計上しておりました玉名町小学校教室棟解体工事について、平成29年度国の補正予算対応によりまして、3月補正に前倒ししたことによる学校施設環境改善交付金の減額などがございます。15款県支出金は1,524万4,000円の追加で、攻めの園芸生産対策事業補助金、小・中学校の教育支援体制整備事業費補助金の追加などがございます。17款寄附金は1,513万4,000円の追加で、ふるさと寄附金などで、18款繰入金は、財政調整基金繰入金を3億1,112万9,000円追加するもので、今回の歳入歳出の財源調整分でございます。20款諸収入は220万円の追加で、コミュニティ助成事業助成金などがございます。21款市債は5,450万円の減額で、玉名町小学校教室棟解体工事の前倒しに伴う減額でございます。

歳出につきましては、平成31年1月に放映を控えました大河ドラマ「いだてん」により、本市の観光資源を広く紹介できる絶好の機会であり、効果的な情報発信や誘客宣伝に取り組みを行なっております。多くの観光客に訪れていただき、地域の活性化につながるため、ドラマの放映期間に合わせて、大河ドラマの世界を体感いただける大河ドラマ館を期間限定で設置する予算等を計上しております。また、4月の職員の定期異動等に伴う職員給与の調整、共済費の負担率変更による増額などにより、人件費の総額といたしまして5,986万2,000円の追加を計上しており、1款議会費から10款教育費まで調整を行なっております。

主な内容ですが、1款議会費は151万7,000円の追加、2款総務費は7,173万2,000円の追加で、定期異動等に伴う職員給与等の調整、ふるさと納税推進事業は、ふるさと寄附金をインターネットで受け付けする委託業者を1社追加する経費、また、これまでの広報活動に加え、ソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用し、地域のイベント、観光や物産などの効果的な情報発信を図るため、SNS自動投稿システム構築業務委託料の追加などがございます。

3款民生費は6,183万2,000円の減額で、定期異動及び組織機構の見直しに伴う熊本地震被災者支援課の廃止などによります職員給与等の調整、岱明ふれあい健康センタートレーニング室天井、照明、空調設備改修設計委託料の追加などがございます。

4款衛生費は2,625万8,000円の追加で、定期異動等に伴う職員給与等の調整、6款農林水産業費は1,859万4,000円の追加で、ハウス及び果樹栽培の機械・施設設備に対する攻めの園芸生産対策事業補助金の追加、滑石晒排水機場の整備改修について、県より承認されたことに伴う土地改良施設適正化事業拠出金の追加などがございます。

7款商工費は2億5,174万円の追加で、金栗四三PR事業については、主に大河ドラマの世界を体感できる大河ドラマ館の建設リース費用及び展示業務の委託等を市い

だてん地域振興協議会へ負担金として支出するものでございます。

8款土木費は736万5,000円の追加、9款消防費は392万7,000円の追加で、天水市民センター建設に伴う震度計移設業務委託料などでございます。

10款教育費は、5,155万8,000円の減額で、定期異動等に伴う職員給与等の調整、玉陵小学校体育館建設による電波障害に伴う補償費の追加、玉名町小学校教室棟解体工事の前倒しに伴う減額でございます。また、平成31年8月に開催される全国高等学校総合体育大会に向けて、玉名市実行委員会が先月5月30日に発足いたしましたことに伴う玉名市実行委員会負担金の追加などでございます。

3ページでございます。

次に、第2表債務負担行為補正につきまして、市いだてん地域振興協議会負担金として、大河ドラマ館の建設リース料を平成31年度の11カ月分を追加することに伴い、限度額の設定を変更するものでございます。

次に、第3表地方債補正につきましては、玉名町小学校教室棟解体工事の前倒しに伴い、小学校施設整備事業債の限度額を減額するものでございます。

以上が一般会計の補正予算の説明でございます。

次に、議第60号平成30年度玉名市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）について御説明申し上げます。

第1表歳入歳出予算補正につきましては、歳入歳出それぞれ292万4,000円を追加し、総額を91億9,250万7,000円とするもので、定期異動等に伴う職員給与等の調整でございます。

次に、議第61号平成30年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）について御説明申し上げます。4ページでございます。

第1表歳入歳出予算補正につきましては、歳入歳出それぞれ2億3,649万1,000円を追加し、総額を78億4,169万7,000円とするものでございます。主な内容は、歳出の1款総務費は定期異動等に伴う職員給与等の調整による減額、7款諸支出金につきましては、平成29年度の介護給付費等の決定に伴います国、県及び支払基金への償還金でございます。

次に、議第62号平成30年度玉名市浄化槽整備事業特別会計補正予算（第1号）について御説明申し上げます。

第1表歳入歳出予算補正につきましては、歳入歳出それぞれ214万5,000円を追加し、総額を4,397万円2,000円とするもので、定期異動等に伴う職員給与等の調整でございます。

次に、議第63号平成30年度玉名市九州新幹線漏水等被害対策事業特別会計補正予算（第1号）について御説明申し上げます。5ページでございます。

第1表歳入歳出予算補正につきましては、歳入歳出それぞれ73万9,000円を減額し、総額を5億2,482万2,000円とするもので、定期異動等に伴う職員給与等の調整でございます。

議第64号平成30年度玉名市水道事業会計補正予算（第1号）について御説明申し上げます。

第2条収益的支出の補正につきましては589万7,000円を減額し、総額を8億1,547万1,000円とするもので、定期異動等に伴う職員給与等の調整でございます。

次に、議65号平成30年度玉名市公共下水道事業会計補正予算（第1号）について御説明申し上げます。

第2条収益的支出の補正につきましては21万5,000円を減額し、総額を16億3,491万1,000円とするもので、定期異動等に伴う職員給与等の調整等でございます。

以上、主な内容等について御説明申し上げましたが、詳細につきましては所管の各委員会におきまして御説明申し上げますので、御審議の上、原案どおり御承認賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 副市長 村上隆之君。

〔副市長 村上隆之君 登壇〕

○副市長（村上隆之君） おはようございます。

私のほうからは、条例案件等につきまして、専決処分に関する議案4件及び議第66号から議第69号までの提案理由につきまして御説明を申し上げます。

議案書の1ページをお願いいたします。

議第54号専決処分事項の承認についてでございますが、これは地方自治法第179条第1項の規定に基づき、専決処分した工事施行協定の締結につきまして、同条第3項の規定により、これを議会に報告し、その承認を求めるものでございます。協定の内容といたしましては、現在工事を進めております都市計画道路岱明玉名線とJR鹿児島本線とが交差する箇所に、築造を予定している跨線橋につきまして、その上部工の架設工事等を委託するものでございます。本工事が路線内に物が落下する危険性がある工事であることから、九州旅客鉄道株式会社と契約金額を3億6,321万円として、随意契約により工事施行協定の締結を行ったところでございます。

議案書の3ページをお願いいたします。

議第56号専決処分事項の承認についてでございますが、これは地方税法等の一部を改正する法律の公布に伴い、専決処分により玉名市税条例等の一部改正を行ないましたので、地方自治法第179条第3項の規定に基づき、議会に報告し、承認を求めるもの

でございます。主な改正内容といたしましては、まず、個人市民税における給与所得控除及び公的年金等控除の引き下げを行なうとともに、基礎控除を同額引き上げる改正及びこの改正に伴う所要の調整措置を行なうもので、平成３３年度分以降の年度分の個人市民税から適用するものでございます。

次に、固定資産税に係る改正で、生産性革命の実現に向けた中小企業の設備投資の支援として、中小企業の取得した一定の設備投資について、固定資産税の課税標準を３年間ゼロとする特例措置の創設等を行うものでございます。また、市たばこ税の税率について、本年１０月１日から３段階で引き上げ等の改正を行なうものでございます。

なお、附則といたしまして、この条例は一部を除き、平成３０年４月１日から施行するものでございます。

２２ページをお願いいたします。

議第５７号専決処分事項の承認についてでございますが、これも前号同様に地方税法等の一部を改正する法律の公布に伴い、玉名市都市計画税条例の一部改正を行ないましたので、地方自治法の規定に基づき、議会に報告し、承認を求めるものでございます。改正の内容といたしましては、法改正に伴う項ずれに対応する改正、その他所要の改正を行なうものでございます。

なお、附則といたしまして、この条例は一部を除き平成３０年４月１日から施行し、平成３０年度以降の年度分の都市計画税から適用するものでございます。

次に、２６ページをお願いいたします。

議第５８号専決処分事項の承認についてでございますが、地方税法施行令の一部を改正する政令の公布に伴い、玉名市国民健康保険税条例の一部改正を行ないましたので、地方自治法の規定に基づき、議会に報告し、承認を求めるものでございます。改正の内容といたしましては、課税限度額を現行の８９万円から９３万円に引き上げますとともに、国民健康保険税の減額の対象となる所得の基準額につきまして、５割軽減対象世帯の軽減判定所得の算定において、被保険者の数に乗すべき額を現行の２７万円から２７万５,０００円に、２割軽減対象世帯の軽減判定所得の算定において、被保険者の数に乗すべき額を現行の４９万円から５０万円にそれぞれ引き上げ、低所得者の負担軽減を図るものでございます。

なお、附則といたしまして、この条例は平成３０年４月１日から施行し、平成３０年度以後の年度分の国民健康保険税から適用するものでございます。

２８ページをお願いいたします。

議第６６号玉名市新玉名駅自動車駐車場条例の制定についてでございますが、これは地方自治法第２４４条の２第１項の規定により、玉名市新玉名駅自動車駐車場の設置及び管理に関し条例を制定するものでございます。内容といたしましては、新玉名駅の自

自動車駐車を地方自治法に規定する公の施設として位置付け、利用時間、利用料、その他管理に関し必要な事項を定めるとともに、指定管理者による管理について定めるものでございます。

なお、附則といたしまして、この条例は平成31年4月1日から施行するものでございます。また、附則第2項におきまして、玉名市道路附属物自動車駐車場条例を廃止するものでございます。

次に、34ページをお願いいたします。

議第67号玉名市立小学校臨時職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございますが、これは熊本県学校教員の給与改定に準じて、臨時職員の給与を改定するため、条例の整備を図るものでございます。内容といたしまして、修学旅行の引率業務、部活動の指導業務等に対して支給されます教員特殊業務手当の引き上げを行なうものでございます。

なお、附則といたしまして、この条例は公布の日から施行し、改正後の条例の規定は平成30年4月1日から適用するものでございます。

次に、35ページをお願いいたします。

議第68号玉名市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございますが、これは放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、条例の整備を図るものでございます。内容といたしましては、学童クラブに従事する放課後児童支援員の資格要件につきまして、一定の実務経験がある者までその対象を拡大するとともに、資格要件の一つとなっております教員職員免許についての取り扱いを明確化するものでございます。

なお、附則といたしまして、この条例は、公布の日から施行するものでございます。

36ページをお願いいたします。

議第69号工事請負契約の締結についてでございますが、これは玉名市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定により提案するものでございます。内容といたしましては、玉名市民会館新築のため、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造の3階建て、延べ床面積4,687.75平方メートルの建築工事を行なうものでございます。契約の方法は、建築一式工事の建設業許可業者で、かつ特定建設業許可を有する業者による条件付きの一般競争入札を実施し、入札の結果、福岡市博多区祇園町2番1号、東急建設株式会社九州支店が34億1,300万円で落札をいたしました。現在、同社と税込36億8,604万円で仮契約を締結しており、本議会で御承認をいただきましたのちに、本契約の締結とするものでございます。

以上、条例案件等につきまして提案理由の御説明を申し上げましたが、詳細につつま

しては所管の各委員会で御説明申し上げますので、御審議の上、原案どおり御承認いただきますようお願い申し上げます。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

〔市長 藏原隆浩 登壇〕

○市長（藏原隆浩君） 本会議に提案しております人事案件の提案理由について御説明を申し上げます。３７ページから５５ページまでお願いいたします。

議第７０号から議第８８号までの農業委員会委員の任命についてでございますが、まずは３７ページ、田上 一氏、吉田孝壽氏、永田知博氏、鶴田克士氏、竹下宏介氏、船津和利氏、永田眞一氏、堀田昌子氏、赤松繁之氏、村端一弘氏、福田友明氏、島村秀敏氏、中島浩輔氏、高田優子氏、下川 安氏、澤村哲志氏、浦谷幸司氏、小川信孝氏、縄田伊知郎氏、以上の１９人を本市農業委員会委員に任命いたしたく、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定によりまして、議会の同意を求めるものでございます。

次に、５６ページ及び５７ページをお願いいたします。

議第８９号及び議第９０号の人権擁護委員候補者の推薦についてでございますが、現委員の古閑順而氏及び松本祐一氏が本年９月３０日をもって任期満了となるため、古閑順而氏の後任に日田匠氏を、松本祐一氏の後任に吉村孝行氏をそれぞれ推薦いたしたく、人権擁護委員法第６条第３項の規定によりまして議会の意見を求めるものでございます。

以上２１件の人事案件につきまして、よろしくをお願いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

日程第６ 報告（７件）

○議長（中尾嘉男君） 日程第６、「報告」を行ないます。

報告第２号平成２９年度玉名市一般会計予算繰越明許費繰越計算書の報告について、ほか６件の報告があります。

総務部長 西山俊信君。

〔総務部長 西山俊信君 登壇〕

○総務部長（西山俊信君） それでは報告７件につきまして、御報告をさせていただきます。

初めに、報告第２号から報告第５号までの繰越計算書の報告について御説明を申し上げます。

議案書の５８ページ及び５９ページをお開き願いたいと思います。

一般会計は、地方自治法施行令第１４６条第２項の規定及び同令第１５０条第３項において準用する第１４６条第２項の規定、また、水道事業会計及び下水道事業会計は地

方公営企業法第26条第3項の規定に基づき、議会に報告するものでございます。

まず、報告第2号平成29年度玉名市一般会計予算繰越明許費繰越計算書について御説明申し上げます。

平成30年度への繰越事業としまして、総務費において2件、民生費において2件、農林水産業費において5件、土木費において5件、消防費において1件、教育費において1件、災害復旧費において1件の計17件の事業を繰り越したところでございます。繰越総額は28億2,284万4,120円で、その財源の内訳は一般財源1億1,457万6,120円、未収入特定財源のうち国庫支出金3億4,486万5,000円、県支出金が8億4,615万3,000円、地方債が15億960万円、諸収入が765万円でございます。

次に、60ページ、61ページでございます。

報告第3号平成29年度玉名市一般会計予算事故繰越繰越計算書の報告について御説明申し上げます。

平成30年度への事故繰越繰越事業としまして、農林水産業費において1件、事業を繰り越したところでございます。繰り越しの理由といたしまして、熊本地震被災農業者向け経営体育成支援事業において、再建・修繕に伴う資材の入手困難及び請負業者等の人手不足などにより、事業を中断せざるを得ない期間が発生し、年度内に事業が完成することが不可能となったため、事故繰越を行なうものでございます。総額は4,906万4,829円で、その財源内訳は未収入特定財源の国庫支出金3,274万円、県支出金1,343万7,708円、一般財源は288万7,121円でございます。

次に、62ページ、63ページでございます。

報告第4号平成29年度玉名市水道事業会計予算繰越計算書について御説明申し上げます。

平成30年度への繰越事業としまして、水道事業1件でございます。繰越額は757万400円、財源内訳としまして損益勘定留保資金757万400円となっております。内容としまして、本市発注の下水道工事及び県発注の道路改良工事が施工上の問題で中断し、同時施工を予定していた野口地区配水管布設工事、玉名立花線道路改良工事に伴う配水管布設替工事に不測の日数を要したため、繰り越したものでございます。

次に、64ページ、65ページをお願いいたします。

報告第5号平成29年度玉名市公共下水道事業会計予算繰越計算書の報告について御説明申し上げます。

平成30年度への繰越事業としまして、公共下水道事業1件でございます。繰越額は3億4,578万円で、財源内訳としまして国庫補助金1億5,625万8,910円、公共下水道事業債が1億5,510万円、損益勘定留保資金3,442万1,090円と

なっております。内容といたしまして、下前原の管路工事、公共下水道根幹的施設建設工事委託及び立願寺污水中継ポンプ場建設工事委託ございますが、関係機関との協議に不測の日数を要し、事業の着手が遅れたため、繰り越しいたすものでございます。

次に、66ページをお願いいたします。

報告第6号一般財団法人玉名市自治振興公社の経営状況を説明する書類についてでございますが、これは地方自治法第243条の3第2項の規定により議会に報告するものでございます。別冊の一般財団法人玉名市自治振興公社経営状況説明書をごらんいただきたいと思います。

平成29年度事業報告書及び収支決算書中の4ページをお開き願いたいと思います。

初めに、平成29年度の事業報告でございますが、中段の4指定管理者及び受託管理施設でございます。玉名市から公共施設の管理運営を受託しました施設は、玉名市民会館をはじめとする6施設でございます。それぞれの施設によりまして、多くの皆さまに利用されているところでございます。

資料を戻りまして、3ページをお願いいたします。

(1)文化振興事業では、「第14回たまきな映画のつどい、映画うつくしいひと上映会」を実施し、多くの市民の方に地元を題材とした映画を楽しんでいただくことができました。また「第6回玉名市民会館カラオケ祭たまな紅白歌合戦」では、客席も満席となる中、歌や踊りで大いに盛り上がりました。音楽の都づくりの一環として実施しました「真空管アンプで聴くクリスマスレコードコンサート」では、愛好家の方々の御協力により、音響機器等の展示も行なうことができ、多くの方々に喜ばれる事業となりました。

(2)の勤労福祉事業では、ヨガをはじめとする12の定期講座及び浴衣着付けをはじめとする4つの短期講座の合わせて16講座を実施いたしました。

5ページをお願いいたします。

平成29年度収支決算でございますが、経常収益計のAは8,549万4,469円、経常費用計のBは8,328万8,072円、なお、収支差額220万6,394円につきましては、当期一般正味財産として積み立てることといたしております。

次に、この資料のあとのページになりますが、平成30年度事業計画書及び収支予算書中の1ページをお開き願いたいと思います。

平成30年度の主な事業計画でございますが、(1)文化振興事業としまして、イのところになります。6月に映画「中村勘三郎上映会及び音の和musicミニコンサート」の実施を予定いたしております。

2ページをお願いいたします。次に(2)勤労福祉事業の勤労者体育センター事業においては、11月に「健康親善ラージボール卓球大会」を計画しております。今年は1

0回目の記念大会ということもあり、より一層盛り上がるよう努めてまいります。

最後のページになりますが、3ページをお開き願いたいと思います。

平成30年度収支予算でございます。経常収益計Aは8,423万7,000円で、その内訳としまして、基本財産運用益が7,500円、事業収益が市から受託しております6施設の管理料収入及び受託収入並びに市民会館、勤労青少年ホーム、勤労者体育センター及び弓道場の利用料収入として6,107万1,000円、玉名市からの補助金収入として1,909万6,000円、雑収入として406万2,500円などとなっております。

続きまして、経常費用計につきましては8,636万5,000円で、その内訳として、事業費が6,612万9,834円、管理費が2,023万2,166円となって、差し引きの当期経常増減額としましては、マイナス212万8,000円でございます。

以上が一般財団法人玉名市自治振興公社の経営状況の報告でございます。

次に、議案書の67ページをお願いいたします。

報告第7号専決処分の報告についてでございますが、これは地方自治法第180条第1項の規定により、専決処分した損害賠償の額の決定について、同条第2項の規定により報告するものでございます。

内容といたしましては、平成30年3月13日午後3時45分頃、玉名ファミリー温泉駐車場において、市職員が運転する公用車が相手方所有の乗用車と接触し、右前ドアなどを破損させたものでございます。相手方への損害賠償額として、市は100%に当たる19万3,857円を支払うものでございます。なお、損害賠償金につきましては、公益社団法人全国市有物件災害共済会の自動車共済より全額給付されます。

68ページをお願いいたします。

報告第8号専決処分の報告についてでございますが、これも地方自治法第180条第1項の規定により、専決処分した損害賠償の額の決定について、同条第2項の規定により報告するものでございます。

内容といたしましては、平成30年3月22日午後1時45分頃、株式会社肥後銀行玉名支店駐車場において、市職員が運転する公用車が相手方が運転する軽自動車と接触し、左後方バンパーなどを破損させたものでございます。相手方への損害賠償額として、市は45%に当たる4万4,550円を支払うものでございます。なお、損害賠償金につきましては、公益社団法人全国市有物件災害共済会の自動車共済より全額給付されるところでございます。

報告案件7件につきましては以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、報告の説明は終わりました。

日程第 7 請願の報告（請第 1 号）

○議長（中尾嘉男君） 日程第 7、「請願の報告」を行ないます。

請第 1 号築山小学校の施設整備を求める請願

以上、請願 1 件が今回提出されております。内容については、お手元にその要旨を配付しておりますので、説明を省略いたします。

以上で、本日の日程は終了しました。

この際、お諮りいたします。議事の都合により明 5 日から 1 1 日までの 7 日間、休会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、明 5 日から 1 1 日までの 7 日間、休会することに決定いたしました。

1 2 日は定刻より会議を開き、一般質問を行ないます。一般質問を希望しておられる方は、発言通告書に質問の要旨を具体的に記載し、明 5 日の正午までに、事務局に届けください。

本日はこれにて散会いたします。

午前 1 1 時 0 3 分 散会

第 2 号

6 月 1 2 日 (火)

平成30年第3回玉名市議会定例会会議録（第2号）

議事日程（第2号）

平成30年6月12日（火曜日）午前10時01分開議

開 議 宣 告

日程第1 一般質問

- 1 16番 近松 恵美子 議員（新生クラブ）
- 2 12番 西川 裕文 議員（新生クラブ）
- 3 11番 城戸 淳 議員（新生クラブ）
- 4 9番 松本 憲二 議員（自友クラブ）
- 5 6番 古奥 俊男 議員（新生クラブ）

散 会 宣 告

本日の会議に付した事件

開 議 宣 告

日程第1 一般質問

- 1 16番 近松 恵美子 議員（新生クラブ）
 - 1 玉名市の小中学生における読解力の現状と対策について
 - （1）「中学生の多くが教科書の文章を正確に理解できない」は事実か
 - （2）PISAショック以降の子どもたちの読解力は向上しているのか
 - 2 観光産業の実態と取り組みについて
 - （1）インバウンド事業の進捗状況は
 - （2）着地型観光客はふえているのか
 - （3）市内の宿泊施設の稼働率は
 - （4）民泊新法への対策を伺う
- 2 12番 西川 裕文 議員（新生クラブ）
 - 1 工業団地計画について
 - 2 イノシシ捕獲の状況について
 - 3 有明海沿岸道路の早期実現について
 - 4 玉名市公共施設長期整備計画について
 - 5 いだてんと日本遺産の広報活動について
- 3 11番 城戸 淳 議員（新生クラブ）
 - 1 買い物弱者対策について
 - （1）買い物弱者・交通弱者の実態調査の実施は
 - （2）買い物弱者の支援策は

- 2 ケーブルテレビ（ひまわりてれび）を利用した市議会中継放送の現状について
 - （１）中継放送に対する視聴の実態は
 - （２）中継映像の画質が悪いとの苦情があるが、改善できないのか
- 4 9 番 松本 憲二 議員（自友クラブ）
 - 1 専門職職員のあり方について
 - （１）各分野の専門職職員の定数は確保されているのか
 - （２）土木職等の技術職員の現状は
 - 2 玉名市の基幹産業である農業の現在の課題と、今後の玉名市としての取り組みについて
 - （１）減反政策が廃止された今、農地の耕作放棄地化が懸念されるが、現在の状況は
 - （２）稼げる農業を目指すために、農家に対して市としての取り組みは
- 5 6 番 古奥 俊男 議員（新生クラブ）
 - 1 玉陵学園小中一貫校の開校後の検証について
 - （１）今後の緑地、樹木の必要性について
 - （２）玉名学と月瀬太鼓について
 - （３）公民館のあり方と選挙箇所について
 - 2 専門職の増について
 - （１）建設課の職員（専門職）が不足しているのではないか
 - 3 新玉名駅周辺の開発について
 - （１）新玉名駅周辺基本計画の中の、道路網と排水路の設定を急ぐべきではないか

散 会 宣 告

出席議員（２１名）

1 番	坂 本 公 司 君	2 番	吉 田 真樹子 さん
3 番	吉 田 憲 司 君	4 番	一 瀬 重 隆 君
5 番	赤 松 英 康 君	6 番	古 奥 俊 男 君
7 番	北 本 将 幸 君	8 番	多田隈 啓 二 君
9 番	松 本 憲 二 君	10 番	徳 村 登志郎 君
11 番	城 戸 淳 君	12 番	西 川 裕 文 君
13 番	嶋 村 徹 君	14 番	内 田 靖 信 君
15 番	江 田 計 司 君	16 番	近 松 恵美子 さん

18番 前田正治君
20番 森川和博君
22番 田畑久吉君

19番 作本幸男君
21番 中尾嘉男君

+++++

欠席議員（1名）

17番 福島譲治君

+++++

事務局職員出席者

事務局長	堀内政信君	事務局次長	荒木勇君
次長補佐	松野和博君	書記	松尾和俊君
書記	古閑俊彦君		

+++++

説明のため出席した者

市長	藏原隆浩君	副市長	村上隆之君
総務部長	西山俊信君	企画経営部長	水本明子さん
市民生活部長	村崎信介君	健康福祉部長	松野信生君
産業経済部長	松本忠光君	建設部長	前田慎一郎君
企業局長	松本優一君	教育長	池田誠一君
教育部長	戸寄孝司君	監査委員	元田充洋君
会計管理者	竹村昌記君		

午前10時01分 開議

○議長（中尾嘉男君） ただいまから、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（中尾嘉男君） 日程第1、「一般質問」を行ないます。質問は、通告の順序によって許すことにいたします。

16番 近松恵美子さん。

〔16番 近松恵美子さん 登壇〕

○16番（近松恵美子さん） おはようございます。

1番バッターを努めさせていただきます新生クラブの近松です。

きょうは質問に先立ちまして、朗報がありますので、御報告いたします。

今、議会改革を進めておりますけれども、早稲田大学マニフェスト研究所実施の2017年議会改革度調査の結果、応募された1,318の自治体のうち、玉名市は上位300位に入りました。インターネットで見ますと、300位までがその成績といいますか、点数が載っていますのでごらんいただきたいと思います。

300位以内に入って、204位と1,318の中の204位ということでした。204位かと思われるかもしれませんが、熊本県でトップでした。今まで熊本県の10位以内に玉名市が入ったことがなかったんですけども、今度熊本県トップということで躍り出たということですので、御報告いたしておきます。

これはちなみに、300位以内に入ったのは、熊本県では204位が玉名市、荒尾市が238位、熊本市が281位ということで、3自治体だけでした。これは2017年ですので、前回の議会改革をけん引していただきました江田委員長をはじめ、委員会の皆さま、そして議会全体で頑張ってきたことだと思います。また、江田委員長よりバトンを引き受けまして、さらに今年は議員間討議、そしてまた、住民報告会など、市民に議会は変わったと感じていただけるように取り組んでいきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、通告に従いまして、一般質問させていただきます。

まず、第1点は、玉名市の小中学生における読解力の現状と対策についてということでございます。

ここに中学生の多くが教科書の文章を正確に理解できないと書いてありますけれども、これは今年の2月に発刊された本にそのように書いてあったんです。国立情報学研究所の新井教授の出された本です。そこには数多くの調査の結果とともに書いてありましたので、玉名としてこの言葉をどう受けとめるか、ということをお伺いしたいという思い

でおります。

まず、読書運動といいますと、何か本を読む子は頭がいいとか、成績がいいとか、そういうふうなところにいきがちですけども、私が本に対するお願いと、思いというものはそういうものではありませんで、私は多くの方との出会いによって、子どもに、3人の子どもに本を読み聞かせたり、また、共に読んでできましたけども、絵本だけでなく児童文学といわれるもの、小学校の高学年まで共に読んでできましたけども、その本を読んできたことで、私は自分の子どものころこれだけの本に出会ったら、私の人生は変わっただろうと、変わっていただろうというふうに思ったんですね、それほど感動いたしました。もちろん、今の私の人生が悪いわけではございませんけども、本当にこの質の高い本に、10歳までの間に、12歳までの間に会っていたら、多くの子どもたちは、人生が変わっていくんじゃないかということを感じています。特に、3大ファンタジーと言われます、ナルニア国とかトールキンの指輪物語とか、それからゲド戦記とか、本当に勇気を持って、この世をよき人生にしていくために、子どもたちにとって欠かせないものだというふうに思います。また、私が本をずっとこだわり続けてきましたのは、本というのは心を育てるもんだということを聞きました。食べものは体を育てるけども、心を育てるのは本だということで、私自身、自分自身が未熟な中で子どもを育てていくわけなんですけども、そこの部分を、自分の心が育っていないのに、子どもの心を育てていくという、母親は並行していかなくちゃいけないんですけども、本を読んであげること、子どもの心が育ってくれるなら、こんなにありがたいことはない、簡単なことだということで、これで子どもが挫折せずに生き延びてくれるなら、こんな簡単なことがないという思いで、本を読み続けてきたわけでございます。

そういう意味で、多くの子どもたちに、本当に感動を与える本に出会ってほしい、読んでほしいと、そういう思いでいたんですけども、学校図書館に行くと本を見ますと、なかなかそういう本に巡り会ってる子はいないとか、読んでる子がほとんどいないんですね、そこで私は、平成18年に子どもたちの読解力はどうなのかという質問をいたしました。読解力がなくて読めないのかなと思ったわけです。そうしましたら、当時の教育長が、玉名市の読解力、国語力は県平均と大体同じだからおおむねいいでしょうというふうな回答でございましたので、読解力がそれなりにあるんでしたら、図書補助員を、図書の先生といいますかね、図書司書をきちっと充実させてほしいということを行いました。やはり「この本おもしろいよ。」というふうに手渡してくれる大人がいれば、子どもはその本に飛びつくんじゃないかという思いで、図書補助員の充実ということ、その議会で申し上げたわけでございます。

そしてまた、きょうあとで出てきますけども、アニメーションという、スペインで始まった貧しい地域の子どもの学力が低い子どもに対して、力をつけていくために開発され

た読書法なんですけども、アニメーション導入しないかということ、きょうもお願いしようと思うんですけど、平成18年に質問しましたら、検討していくというふうな回答で、今日までそのままになっております。それでも図書補助員を雇うことで、的確な本を渡せてもらえるからいいのではないかというふうに思ってたわけですが、平成22年に森教育長にかわれまして、また、森教育長にアニメーションを導入したらどうかということを議会で質問いたしました。やはり現場から聞くんですけども、ゲーム感覚の本しか、もう今読まれてないって言われるんですね、ぱっぱっと開いて理解できる。そういう本しか読まれてなくて、じっくりした本を読まないということを図書の先生から聞きましたので、やはりこの読む力をつけるということに取り組んだほうがいいのではないかと、学校が無理なら、夏休み期間中に図書補助員や読み聞かせ団体、ボランティア団体の研修にアニメーションを導入できないかということを平成22年に質問したわけですが、当時学校の統廃合でお忙しかった時期もあり、検討していくということで今日までできているわけですが。

そうこうしているうちに、図書補助員、学校の図書司書の数が少しずつ充実してきましたので、そこで補っていけるかなというふうに私も思っていたわけですが、去年の9月23日ですね、ちょうど選挙の1カ月前でございました。そのときに新聞に「中3読解力不足25%。教科書理解できず。」というショッキングなことが載っていました。そしてこれを調査した方が、「多くの生徒が教科書を読めていない状況で中学を卒業している」と。「今後どのような教え方をかえるかが重要だ。」と、「読書力向上に有効な指導法を研究したい。」というふうに述べておられます。選挙の直前だったこともあって、これを切り取っておいたままちょっと片づけたら、しばらく忘れていたんですけども、ことしの2月になりまして、この新聞記事に出ました調査をした方の本が出ました。A1対、A1というのは人工知能ですけど、「A1対教科書を理解できない子どもたち」という本でした。この方は、国立情報学研究所で人工知能、東大ロボくんというんですかね、人工知能は東大に入れるかというふうなことを研究してきた方です。人工知能とその人間とどう違うかということは、読解力であると、そういうふうなことを言われています。そこで今、読解力の現状はどうかということを1万5,000人に対して調査したわけですが、今、4万人ぐらいのデータを持っておられます。その本には、どういう質問に対して正答率が何パーセントであったかと、中学1年生、中学2年生、3年生、高校、高1、高2、高3、その正答率がどのくらいであったかということが書いてありました。私自身もちょっと間違っただけなんですけども、でもこんなことがどうして理解できないのかなということも、非常に多かったんですから、その例題を見て、非常にびっくりしました。つまり、問題の意味がわからない子が多いたんだというふうなことがわかったわけですが、この本では、いず

れ人工知能がどんどん、どんどん開発して実用化されますと、いろんな職業がなくなっていくと、その中で、やっぱり必要なのは、人工知能にできないのは読解力なんですけども、読解力がこのようにないのであったら、その子たちの仕事はなくなるんじゃないかという警告を発している方であります。その本を読んでびっくりしまして、また改めてやはり玉名の読解力はどうなっているのかということをお尋ねしたいわけでございます。

また、以前、玉名市の読解力、国語力は県平均でいいですよというふうな回答をいただきましたけども、世界学力調査の中では、がくっと落ちた時期であったんですね、だから全体的にやはり読解力が落ちてるということは間違いないのではないかなと思います。このPISAショックというのは、世界の学力調査の結果なんですけども、非常に上位だったのが、15位に落ちたと思ったら、次の次は15と、どんどん落ちていたもので、このままどうなるんだろうということで、非常にショックを受けた時期があります。それから国もいろんな対策を講じたと思いますけども、そのことも含めて、子どもたちの読解力は向上してきてるのか、どのようなことをされてるのかということをお尋ねします。

済みません。1つ言い忘れました。大事なこと言い忘れました。

さっきの議会改革の熊本県ナンバー1になったことで、私たちが頑張りましたということは確かなんですけど、下支えとして、議会事務局がもう本当に縁の下の力持ちとしてしっかり補佐していただいたということを、本当にここで改めて感謝したいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 教育長 池田誠一君。

〔教育長 池田誠一君 登壇〕

○教育長（池田誠一君） 玉名市の小学生における読解力の現状と対策につきまして、中学生の多くが教科書の文章を正確に理解できないのは事実かというお尋ねに、まず、お答えしたいというふうに思います。

近松議員の中学生の多くが教科書の文章を正確に理解できないのは事実かという質問でございますが、中学生の読解力を含む、学習の定着状況を客観的に示すデータの1つとしまして、文部科学省が全国の小学生6年生と中学3年生を対象に実施している全国学力学習状況調査がございます。この調査は主に、国語と算数、数学の2教科で実施され、基礎的な知識理解の程度を問うA問題と、その知識理解の応用力を問うB問題に分かれております。

まず、直近の平成29年度の全国学力学習状況調査について、玉名市の中学校の結果について確認いたしました。国語については、全国と比較してみますと、ほぼ同じ達成レベルであり、全国標準を100として数値化したとき、国語Aは99、国語Bで10

0 でした。また、数学につきましては、A問題、B問題ともに98という結果でした。平成19年度から10年間の結果についても調査しましたところ、最高は20年度の国語B、数学Bで101で、最低が28年度数学Aの97でした。つまり、国語と数学ともに、この10年間は全国標準とほぼ同等の結果が得られるということとであります。この結果は、教科書の文章を理解できなければ得られない数字であると考えております。この学力調査の結果が、中学生の学力のすべてを表しているというわけではなく、生徒一人一人の個人差もございますが、これらの結果を見ましたときに、本市におきましては、中学生の多くが教科書の文章を正確に理解できないという文献上の主張は当たらないと考えております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 近松恵美子さん。

○16番（近松恵美子さん） 今、全国学力テストでしょうか、それによりますと玉名市は特に落ちてるわけではないというふうな答えでございました。非常に安心した部分もあるわけでございますけども、先ほど述べましたように、平成18年もそのような回答だったんですね。ところが日本全体が落ちてたということだったんですね。その日本のテストの中では玉名は標準だということなんですけど、その日本が世界の学力調査の結果、そのPISAの結果は非常にがたがたと落ちてきたということによってこの2年前ですか、2年前の結果も少し上がったと思ったら落ちたということで、松野文部科学大臣が、そのPISAの結果について、2015年のその世界ですね、OECDですね、OECDの検査結果に対して、読解力の向上に向けた対応策に基づく学習の基盤となる言語能力、情報活用能力の育成が大事だということを強くコメントをされているんですね。それで、私としては、その本をぜひ教育長も読んでいただいて、どのような問題に対して、どのような回答率だったということをぜひ読んでいただきたいなということをお願いしたいと思います。

そしてまた、現場から聞こえるこの本にも指摘されてますし、図書の現場の方も言われますけども、そのパターン化したパターン認識で回答することが多いので、読解力を要するものに対して間違ってしまうというふうなことだったんですけども、現場の図書司書の、図書の方のお話でも、やはりそういう本を好むと、じっくりした本を読めないということを聞いておりますので、この現場の声は一体何だろうと思うわけです。テストがどういう方式でされたのかもしれないんですけど、その辺を感じてらっしゃることがありましたら、お伺いしたいなと。本当にこの10年間、平成18年も読解力は国レベルで、県レベルで大丈夫だということだったんですけど、現場で言われる落ちてると、言語能力が落ちてるとということに対してはどんなふうにお考えかということをお伺いしたいということと、もう1つ、そのアニメーションというの先ほど言いましたけど、

海外にはいろんな読書力を高める、つまりもっと文章にフォーカスして理解するという方法がいろいろ取り入れられてます。アニメーションは1970年ですけども、ブックトークだったり、ブッククラブだったり、リテラチャーサークルというものだったり、また、日本全国いろんな学校でこういうものを取り組んでるところもあります。私は、やはりこういうものがあるということを、一応、勉強していただいてからどの程度取り入れてみるのか、やれるとこだけ取り入れてみるとか、そういうことを検討していただきたいなと思うんですけども、それについてはどんなお考えでしょうか。

それから、学校は本当にお忙しいところですので、埼玉大学の名誉教授の岡部先生という方が言われてましたけども、「家庭での読書の時間が世界最低で、ゲーム漬け、テレビ漬けの状態では、どんなに教師集団が頑張っても台無しになってしまう。こんな状態で世界学力調査の結果がこのくらいなのは、教師が頑張っているからだ。」と、「学校はこれで精いっぱいです。」ということを書かれてましたけども、そういう意味じゃあ、読書力を高めるというのは、司書が担当していただいたらいいのか。読み聞かせボランティアの方がされたほうがいいのか。また、家庭の主婦が家庭でできる範囲でしたらいいのか。そのことも含めて、私はせっかくあれだけの本を準備してるのに読めてない本が非常に多いと、それとか本の読み冊数競争があるもんですから、借りただけで読まずに返す子も多いと、そういうふうな中で本当の意味で本の楽しみを子どもたちに味わってもらうには、こういう読書法というのを、学校でされるのか、地域でされるのか、される前に、まず勉強をしていただいて、取り入れる価値があるものかどうかというものを、実際お話を聞いて、見ていただきたいなと思うんですけども、その件については、いかがでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 教育長 池田誠一君。

○教育長（池田誠一君） ただいまの質問にお答えします。

2点についてお答えしたいと思います。

最初に、PISAショックに関したことでお尋ねがあったと思います。PISAショック以降の子どもたちの読解力は向上しているのかという視点でお答えしていきます。議員の御質問にありますように、PISAショックというのは、OECDの学力到達度調査におきまして、日本が2003年、2006年と連続して多くの分野で順位を下げたことを受けとめております。特に読解力につきましては、大きく順位を落としました。PISAにおける読解力では、情報を取り出すこと、解釈し理解すること、実行し判断すること、そして自分の意見を表現することが求められます。日本で求められていました、以前から日本で求められていました読解力、つまり内容を理解して読み解く力とは、確実に異なる読解力であるために、文部科学省はPISA型という文言をあえて付け足し、PISAでなくて、PISA型という学力、単なる学力という言葉ではなくてです

ね、PISA型という文言をあえて付け足し、PISA型読解力向上のためのワーキンググループをつくり、結果分析を精力的に行ないました。そして、国際的に質の高い学力を目指すため、学習指導要領の見直しや全国学力調査の出題内容の検討、授業改善の徹底など、学力向上の具体的戦略を進めてまいりました。その結果、2009年以降のPISA調査では、改善が図られ日本は高い成績を残しております。先の御質問でお答えしましたとおり、玉名市の中学生の学力につきましては、ほぼ全国と同じレベルにありますので、読解力についても一定程度の定着はできていると考えておるわけでございます。しかし、全国の上位に位置するレベルにまでは到達しておらず、まだまだ伸びる余地があると考えております。読解力の向上という点から考えますと、目的に応じた的確に読み取る能力、自分の考えをもち論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、読書に親しむ能力を含むことが求められていると考えております。従来の読解力の解釈と今の点が異なっているところでございます。変化の激しいこれからの社会を生き抜くために、読解力は大変重要な力だと考えております。今後も児童生徒に求められる資質能力の育成に全力を挙げて取り組んでまいります。

次に、2点目につきまして、玉名市の小中学生における読解力の現状と対策につきまして、アニメシオンの導入についての御意見を聞かせていただきましたし、答弁を求められておることと思いますので、お答えいたします。

アニメシオンというのは、1970年代にスペインで発祥した読書を楽しむための試みで、子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに、読む力を引き出すためのグループ参加型読書の指導方法です。近松議員の話の中にも出てまいりましたが、方法の一例として、グループで全員が1冊の同じ本を読み、あとで本の内容についての質問に答えていき、その本を深く理解していく方法があり、繰り返して行なっていくことで、本からの情報を読み取る力がついてくるものです。本市の図書館事業として、本年7月に新しく開館します天水図書館の運営において、既存の3図書館と同様に、読み聞かせの会を新規で立ち上げる予定でございます。地域の読み聞かせボランティアと十分に協議を行ない、天水図書館の読み聞かせ会におきまして、アニメシオン等の新たな手法をモデル事業として導入できるか、否かを検討してまいりたいと考えております。現代の子どもたちに欠けている読解力、思考力、表現力を身につけてもらえるよう努めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 近松恵美子さん。

○16番（近松恵美子さん） 確かにPISAの結果、一時上がったんですけど、また下がってしまったんですね。また下がってしまったので、松野文部大臣が読解力の向上に向けて対応策をしていきますということですので、アニメシオンも検討していただ

けるということですので、ぜひ、よろしくお願いしたいというふうに思います。

8月20日でしたでしょうか、22日でしたでしょうか、このアニメーションとても一生懸命してらっしゃる、前公立小学校の教師だったんですけども、今、明治学院大学の教授されている岩辺先生という方がアニメーションについてのお話に福岡に行かれてますので、よろしければ多くの方にお話聞いていただきたいなというふうに思っています。

天水地区で新たにということでございましたけども、講演会するときには全地域に呼びかけて、8月にでも先生方もぜひ、聞いていただきたいというふうに思います。

それともう1つお願いしたいのは、その国立情報学研究所のその調査の結果を、本をぜひお読みになって、平均であっても、新聞にありましたように25%が理解できてないというふうなことが載ってましたけど、やはりこの低い子を底上げするのに考え出されたのがアニメーションなんですね、それで本当にどの子も可能性がありますので、家庭環境恵まれない子、いろんな子に対して底上げできるような、このアニメーションをぜひ取り組んでいただきたいというふうに思いまして、これはおしまいいたします。よろしく願いいたします。

〔16番 近松恵美子さん 登壇〕

○16番（近松恵美子さん） では、2点目の観光産業の実態と取り組みについてということでお伺いいたします。

今年の花しょうぶはとてもきれいで、また、例年より非常に、にぎわっていたのではないかというふうに感じました。関係各位の御尽力のたまものであり、皆さまの努力が実って本当によかったなと心からうれしく思ったことでした。

ところで、しょうぶまつりや花火大会、大俵ころがしについても、担当課、また、商工関係の方々の並々なぬお力で、毎年工夫され、少しずつなんか魅力的なものになってきているように、いろいろ考えておられるんだなというふうに思いながら参加しております。しかし、私はいつもこれらの数々のイベントは、市民のためにされてるのかなと、観光戦略としてのイベントなのかなと思ひながら眺めています。当然、市民のためでもあり、観光戦略としてのイベントでもあると思いますが、そうは思えない。つまり観光戦略としては、つまり、これはもうかっているのかなと。努力した分、利益が上がっているのかなというふうな思いで見ているんです。観光戦略として開催しているのであれば、皆さんが大変な思いをした分、そしてまた、市が投資しただけの経済効果があったのかどうか当然問われます。

ところで国は、平成18年に観光立国推進基本法をつくり、観光戦略に取りかかりました。平成29年には、去年ですけども、観光立国推進基本計画が閣議決定され、平成32年度までに国内旅行消費額を2兆円にする。これはあまりふえてませんので、国内旅行客は余り増加しないんじゃないかと、国としては考えているんじゃないかという

ふうに思いました。訪日外国人旅行客数を4,000万人にするという計画で、平成27年は1,974万人ですから、外国人旅行客を5年間で倍にするという計画なんですね。また、訪日外国人旅行者の消費額を8兆円、つまり、5年間で2.5倍にするなど目標をきっちりと掲げています。5月のあるセミナーでは、菅官房長官が、国のこの観光戦略は功を成して、どんどん訪日観光客がふえていると自慢げに話をされていました。観光収益もふえているということです。確かに、国全体では、10年間で3倍近く訪日観光客がふえているんですね、しかし、玉名では残念ながら経済効果としての観光戦略の成果が、なかなか感じられないんです。それどころかイベントをしても、玉名の旅館は高いから、周辺にみんな泊まってるらしいというふうな声を聞きますと、このイベントは一体何のためになってるんだろうかと。玉名に遊びに来て、お金を落とすのは近隣の自治体などでは、非常に寂しい限りだというふうに思うわけです。

そこで、実態はどうか。玉名に泊まる人はふえているのか。外国からの旅行者はふえているのか。市内の宿泊施設の稼働率など、観光産業の実態について伺いします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

〔産業経済部長 松本忠光君 登壇〕

○産業経済部長（松本忠光君） おはようございます。

近松議員の御質問の観光産業の実態と取り組みについてのインバウンド事業の進捗状況についてお答えいたします。

日本における人口の減少、少子高齢化が進展する中、観光には高い経済波及効果や雇用創出効果が期待されており、本市においてもインバウンド事業の取り組みによって、交流人口を拡大させ、地域を活性化させるような取り組みを進めております。具体的には、平成26年度の香港へのトップセールスに始まり、台湾の台北市及び高雄市での旅行博への出店、いちごマラソンを素材としたツアーの商品化、菊池市、山鹿市、和水町及び玉名市で構成するくまもと県北観光協議会への広域連携事業などを実施しており、着実にインバウンド施策を進めているところです。

玉名市を訪れている外国人の宿泊観光客は、平成28年が1,373人、平成29年が2,030人と少しずつではございますが、増加傾向にあります。また、地域型観光はふえているのかにつきましては、スポーツツーリズムの観点から、小岱山トレイルランニング大会の誘致やビーチサッカー九州リーグ大会の誘致、県北広域連携事業の1つであるアウトドアフェスティバルの開催など、いずれも県外からの参加者が多いイベントを企画し、少しでも本市での滞在時間を延ばす取り組みを行っており、さらに玉名市商工会と連携して、名人が教えるシャク釣り体験などの体験型プログラム、旬たまウィークを実施し、県外からの参加者もふえてきておりますが、宿泊につながっていると

までは言えないところです。

次に、市内の宿泊施設の稼働率につきましては、先般主な宿泊施設に客室の稼働率をお尋ねしたところ、オンシーズンが約８割、オフシーズンが約４割、年間平均で約６割の稼働率でございました。

○議長（中尾嘉男君） 近松恵美子さん。

○１６番（近松恵美子さん） 国がインバウンド事業をけん引してくれてる成果が、玉名にも上がってきて、外国人が少しずつふえてきていることがわかりました。ただ、いろいろ工夫しているけども、国内の宿泊については、なかなか宿泊につながっていないということで、これは大俵まつりとか、その他のイベントについても、今スポーツについてお答えいただきましたけども、その他のイベントについても宿泊になかなかつながっていないということなんでしょうか。そしてその原因は何なんでしょうか。再質問してお答えもらっていいですか。

例えば、私が聞くのは、土日いろんなイベントがされるので、土日だけが埋まってなかなか泊まらないということを聞くんですね。今宿泊が６割というふうに、平均６割と言われましたけど、６割ということは大体あいてるんじゃないかという感じなんですけど、やはり集中するからなかなか土日は難しいというふうなことなんで、よろしいでしょうか。大体感じられているのでいいですけども、ごめんなさい。私が今この回答を聞いてそう思いましたので、じゃあ、市長が。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） ただいまの再質問にお答えいたします。

宿泊関係につきましては、玉名における宿泊施設、これは同じような形態が非常に多ございます。宿泊形態、また、料金の問題、そういった点においてさまざまなランクといますか、さまざまなあり方というものがないことによって、どうしても集中してしまうということが考えられるのではないかというふうに思います。

それから、先ほどの質問でもありましたけれども、イベントのときに商業者、宿泊業者が稼働しているのかどうかという問題もそうなんですけれども、玉名におけるイベント事業におきましては、玉名市も力を入れて開催しておりますけれども、官民連携で行なっている関係上、本来もうかっていただかなければならない事業所、業者、商売をされておられる方々が、そのイベントに協力を、非常に協力をしていただいております、その協力をさせていただくことによって、御自身のなりわいが、おろそかになってしまうという場面も見られます。ですので、そういったところをせつかく議員がおっしゃられるように、人が大勢集まってくれて、その観光事業としてのイベントの場面で、なりわいとしてもしっかりともうかっていただくために、官民連携のあり方を、どういう形に今後していけばいいのかという研究はしっかりしていかなければならないというふうに

思っています。

そして、宿泊施設の問題は、やはり宿泊事業所とのしっかりとした話し合いの中で、例えば、料金設定の問題であるとか、宿泊についてはシングルユースというものが非常に今、多い時代でありますけれども、旅館、ホテルとなりますとビジネスホテルのようにはいきませんので、そういったところも宿泊事業所さんともいろんな協議をさせていただいて、検討させていただかなければならないところかなというふうには考えております。

いずれにしても、そういったところを解消すべく、これからしっかり取り組んでいかなければならないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 近松恵美子さん。

○16番（近松恵美子さん） よくわかりました。なかなか宿泊もそのつながっていないというふうな状況ですね。ちまたにもよくそのことを聞いてますので、これから市長もかわられましたし、また、部長も4月にかわられたばかりですので、これからまた新たにこの問題に対して取り組んでいただきたいなというふうに思います。

私から、玉名の観光政策に関して2つ提言させていただきます。

今、話しましたようにだれでもいいから、だれでもいいからもうかってほしいというか、利益が上がるようなイベントであってほしいというふうな思いをしております。それがやっぱり税収として上がってくるといことと、やはりそれぞれの方が励みになりますので、そんなふうな経済効果をしっかり狙ったイベントにしていきたいというふうに思います。

今、非常にイベントに官民連携ということで協力していただいているというふうな、協力していただく余りに御自分の仕事が十分にできない状態であるというふうなこと、市長からお話いただきましたけども、私は、これからは、もっと多くの人にビジネスチャンスを与えるようなイベントにしていきたいと思うんですね、いわゆる商工関係の方だけでなくですね、だれでもいいんです。そのイベントで楽しんでいただけるんですね。でも、一般の方はなりわいと、それを主のなりわいとしてない方にとっては、余り利益が上がりなくともお祭りに主体的に参加するということは、非常に楽しいことですので、もっと一般の方を交えて、一般の方にもビジネスチャンスをいただきたいというふうに思います。

それで1つは、民泊を、民泊がふえたらいいなと私は思ってるんですね、さっき、土日のことが出ませんでしたけど、稼働率平均6割ということですけど、いろんな条件がいいところは8割ということですけども、その8割に、8割ということは土日はほとんど埋まっているというふうな、多分状況じゃないかと思うんですね。そういうこともあ

りまして、近隣に泊まるぐらいだったら、玉名に泊まっていたきたいということで、もっともっと民泊がふえたほうがいいんじゃないかなと思います。この民泊は危険な部分だけマスコミに、こういろいろ出てますけども、私としてはこれから非常に民泊というのはふえていくんじゃないかというふうに思います。民宿よりも非常に基準が簡単ですし、県に届け出ということです、市としては余り関係ないといえれば関係ないことなんですけども、こういう民泊新法ができましたと、こういうものがありますということを知りしめるぐらいのことはしていただきたいなと、そのぐらいはしてもいいんじゃないかなというふうに思います。年間180日以内ということです、生活、これを主たる生活の糧とするわけには、ちょっと物足りないと思いますけども、やはり今、定年後の人が非常に多いですから、楽しみを兼ねて、多くの人が取り組んでいただいたらいいんじゃないかなと思います。

それから、2つ目は、今言いましたように、やっぱりいろんなイベントの場に一般市民が販売できるような、そういうことも考えていただきたいということです。ことし花しょうぶまつりに行きましたら、夜はすごく人がぶつかり合うぐらいじゃうじゃいましたので、私もいかなかったんですけど、あの人たちの、せっかく出てきて、何か見たいな、買いたいなというものがちゃんと満たされるような準備ができてるのかなと思います。翌日行ったんですけど、やっぱりちょっと寂しいなと思いました。大牟田の方が、アクセサリーと小さな絵を販売してたんですね、500円ぐらいのですね。どうして大牟田から来たのかなと、このくらいのもだったら玉名の人だって販売したい人がいっぱいいるのになと思って見たわけなんです。本当にイベントに主体的にかかわるというのは、やっぱりお祭りですから、利益が少なくても楽しいことですので、ビジネスチャンスを多くの方を対象に考えていただきたいなというふうに思っております。

この民泊新法についてのお考えをお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 民泊新法への対策を伺うということでお答えいたします。

御質問の住宅宿泊事業法、いわゆる民泊新法は、近年増加する訪日外国人観光客の多様な宿泊ニーズへの対応や空き店舗、空き部屋の有効活用といった地域活性化の観点から、民泊の機運が高まる中、公衆衛生の確保、地域住民等のトラブル防止、違法民泊への対応等の課題を踏まえ、昨年6月に成立し、今週6月15日からいよいよ施行となります。民泊事業を行なおうとする場合、都道府県知事への届出義務、衛生確保を措置し、火災、その他、災害が発生した場合における宿泊者の安全確保、宿泊者名簿の作成等が必要となるため、県のホームページや国の民泊制度をポータルサイト等での周知が図ら

れておりますが、本市のホームページ等でのお知らせは、現在のところ行なっておりません。今後は、法施行に合わせ市のホームページ上に国のポータルサイトのリンクを設定し、周知を図ってまいりたいと考えております。

なお、生活環境の悪化を防止する観点から、必要があるときに営業日数や住居専用地域での営業などを条例により制限することは認められておりますが、条例制定措置が可能な自治体は、都道府県及び保健所設置地、政令市、中核市等特別区東京23区となります。熊本県におきましては、法施行後現時点では、条例制定の予定はないとお聞きしております。

また、多くの方にビジネスチャンスをとという御質問でございますけれども、各イベント時における出店につきましては、市民も参加しやすい仕組みづくりを行なったかどうかとの御質問だと思いますけれども、ふるさとセールス課が事務局を努めております玉名大俵まつりにおきましては、出店につきましては広報たまなや市ホームページで公募をしております。応募多数の際は、イベントの趣旨に沿っているかななどを考慮し、実行委員会で協議して決定しております。近松議員の御提案のように、市民の方が物販等も含め、各種イベントに参加していただくことはイベントの盛り上がりにも寄与するものと考えますので、検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 近松恵美子さん。

○16番（近松恵美子さん） 本当に商工関係の方、どこの部署もそうですけれども、日曜日がないと言われますけれども、精いっぱい努力していただいていることを本当に感じております。

本当にいろいろ努力して、いろんなイベントを誘致したり、スポーツ大会を誘致したりしているけれども、宿泊につながっているとは言えないということですので、ぜひ、このところを分析されて、せっかく玉名においでたので、玉名で楽しんでいただけるようにもう1つ工夫していただきたいというふうに思います。

また、出店については、検討してくださるということですので、どうか本当にお店がいっぱいあって、歩くだけで楽しいような、そういうふうなイベントをつくっていただきたいなということをお願いしたいというふうに思います。

きょうは読書力の問題と観光の経済効果の問題について御質問いたしました。読解力については、心配ないというふうなことでしたけど、平成18年も心配ないといわれて今日ですので、本当に大丈夫なのかなという私の思いと、でもああいう本を読まれてないじゃないかというのがその原点なんです、ああいう魅力的な本を読んでほしいなと思うんですけれども、読まれてないのは何だろうかというのが私の原点ですので、図書館改革を含めて、力を入れていただけたらなというふうに思います。

新しくできた玉陵小中学校の図書館は、やはり新しいところはすばらしいなど、天水もすばらしいなというふうに思います。地元の岱明の中学校の図書館って倉庫みたいですね、あれはやっぱり読書環境かと思ってますので、あの辺も考えていただきたいなというふうな思いであります。本当に教育委員会にしましても、学校にしましても、商工関係の方にしましても、本当に精いっぱいいただいていることに、本市民の代表として感謝申し上げ、そしてまた、さらなる努力をお願いして、私の質問をおしまいにします。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、近松恵美子さんの質問は終わりました。

議事の都合により、暫時休憩いたします。

午前10時53分 休憩

午前11時10分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

12番 西川裕文君。

〔12番 西川裕文君 登壇〕

○12番（西川裕文君） どうもありがとうございます。傍聴の皆さま方も本当にありがとうございます。本日、2番目の質問者になります12番、新生クラブ、西川裕文です。

通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

まず、1番目になりますけども、工業団地計画について質問をいたします。今回、議会始まってすぐですけども、全員協議会の中でも説明がございましたけども、新玉名駅周辺整備計画が作成をされております。今後の玉名市をより発展させるためには、本当に大切な計画でもあります。計画の内容につきましては、商業地域、住居地域が中心でありまして、先日、ちょうど9年前に市の誘致企業でありました企業の社長様が定年となられまして、本社へ戻られました。そのときお話をする機会がありまして、企業の誘致について伺いました。何が必要かということを経験したときに、やはり団地化が必要だという話をされました。その企業さんは、ちょうど1つだけ田んぼの中にちょうど市の空間があつて、そこで企業を新しく建てられましたけども、やっぱりなかなか周りの住民の方々に対する配慮等々はかなり必要だということがありまして、団地化をしていただければ、そういう企業、いち企業での心配事等々は少なくなるから、企業も入りやすいんじゃないかと、そういうふうなお話をさせていただきました。人口減少の玉名におきまして、仕事場の確保は本当に大変重要であります。若者がおります。また、玉名市の場合も5つの高校があります。産業すべての農業、工業、商業、看護、栄養関係、すべての勉強をしておる高校生等もおりまして、ぜひ、玉名のこの地に仕事場をつくっ

ていただいて、残っていくことが必要だと、重要だと思っております。その中で、ただいま申しましたように、工業団地の計画について、前はあったみたいですが、今、具体的にはどのように考えられているのか、質問いたします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

〔産業経済部長 松本忠光君 登壇〕

○産業経済部長（松本忠光君） 西川議員の工業団地計画についての御質問にお答えいたします。

議員御存じのとおり、本市ではまとまりのある市所有の工場適地を保有しておらず、企業からの土地等の問い合わせに対し、民間の遊休地や空き物件を紹介するにとどまっております。また、玉陵校区の空き校舎の利用も検討しておりますが、地元の意向をお聞きしながら、積極的に推進していきたいと考えております。企業を誘致する際の用地不足は以前より懸念されておりましたが、これから市民会館の建てかえや公共施設等の整備に相当な費用がかかることを考えていくと、市で工業団地を整備することは財政上厳しい状況にあると考えます。ほかの自治体では、民間の力を活用して工業用地を整備したところもありますので、そのような例を参考に、本市におきましてもできるだけ市民の皆様に負担をかけないような手法を用いて、企業に提供できる用地を確保したいと考えております。工場適地不足の解消は、企業誘致において喫緊の課題ですので、できるだけ早く紹介できる工業適地の確保に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 西川裕文君。

○12番（西川裕文君） ありがとうございます。

今、部長のほうから答弁いただきまして、いろんな面で今計画の中で、市の財政、今からいっぱい厳しくなるのはわかりました。部長のほうからも話がありましたように、旧学校跡地の活用、それから新玉名駅の周辺につきましてもまた、考えることができるんじゃないかということもありますし、民間用地の活用ということでぜひ、今後いろんな面で検討をしていただきたいと思いますし、1つだけ、また、企業誘致につきましてもいろんな企業、全産業に渡る企業誘致をしていただくように、工業とか、商業だけでなくですね、いろんな面での誘致のほうの検討のほうもあわせてお願いしたいと思います。

以上です。

〔12番 西川裕文君 登壇〕

○12番（西川裕文君） それでは続きまして2番目にまいります。

イノシシの捕獲の実態について伺います。これにつきましては、まず、昨年度イノシシの捕獲頭数はどのようなであったか。また、ここ数年の推移についてどういうふうな頭

数になっているか伺います。

続きまして2番目になりますけども、定住自立圏構想の中で、以前伺いましたけども、ジビエの活用について、処理場の建設等を話し合いながら、今検討をしているというふうな回答がありました。これにつきましの進捗状況はどうであるか伺います。

続きまして、現在、玉名市においては捕獲されたイノシシの頭数の確認につきましては、以前は職員が行かれて写真を撮ってこられたというところですけども、今現在は、イノシシのしっぽをとってきてその確認で頭数の確認を行なわれるというふうに聞いておりますけども、これも前ありましたけども、周りの自治体がどういうふうな確認になっておるか、やっぱり捕獲隊の方々の話をちらっと聞くと、内々ですけども、ほかからしっぽが回ってくる可能性もありますので、ほかの自治体もすべて同じようなしっぽの確認の方法にさせていただくようなことのほうがそういう問題が少なくなるんじゃないですかというふうなところを伺いました。周りの自治体に対しての確認の方法についての要請については、どのようにされているのか伺います。

最後になりますけども、これも昨年ちょっと伺いましたけども、地元企業のほうから有害鳥獣駆除というところでの寄附を行なわれておりましたけども、その寄附内容につきまして現在どういうふうになってるかということを質問いたします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

〔産業経済部長 松本忠光君 登壇〕

○産業経済部長（松本忠光君） 西川議員御質問のイノシシ捕獲の状況についてお答えいたします。

まず、捕獲の状況についてであります。平成27年度における捕獲頭数は698頭、平成28年度が753頭、平成29年度が1,146頭と毎年増加傾向にあります。

次に、有害鳥獣捕獲活用事業についての進捗であります。現在、玉名圏域定住自立圏形成推進会議の農林水産部会で捕獲個体の処理に関する実態調査を行なっております。今後は可能な限り策定されたスケジュールに基づき、検討、調査を実施してまいります。

次に、イノシシ捕獲確認方法についてであります。現在、玉名市では捕獲者が切断したしっぽを市に提出していただき、頭数を確認しております。近隣市町の状況としましては、現地にて捕獲者が捕獲状況を写真撮影し、その写真を提出することで頭数確認しているところが、荒尾市と玉東町、捕獲者が撮影した現地写真及びしっぽの提出により頭数確認しているところが、和水町、玉名市と同じ方法で確認しているところが南関町であります。確認については、各市町独自の方法で頭数確認をしており、統一はされておられません。今後は猟友会による現地確認などのよりよい方法を玉名地域鳥獣被害防

止対策広域連絡協議会などの会議の場で提案できればと考えております。

次に、イノシシ捕獲に対する民間等から市への寄附についてですが、現在、JAたまなより捕獲分担金として、1頭当たり1,000円を負担していただいておりますが、寄附としての受け入れはございません。仮に、民間からの寄附の要望があれば受け入れは可能かと思われますが、現在までそのような要望はございません。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 西川裕文君。

○12番（西川裕文君） ありがとうございます。

ちょっと再質問になりますけども、2番目に言いました定住自立圏構想の中で、今後農林水産部会主体になって検討していくというふうなところで話がありましたけども、再質問ですけども、ジビエ活用の処理場の建設等々については、そういう話がありますか。これについてはちょっと前もって言ってなかったもので、わかる範囲の中でお願いします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 具体的な話は、私のほうはまだ聞いておりません。まだ勉強不足だと思っておりますけど、申しわけございません。

○議長（中尾嘉男君） 西川裕文君。

○12番（西川裕文君） 定住自立圏構想の中では交渉、交渉というか、話し合いをそれぞれされておるということだったもので、あとは具体的なところで進めていっていただきたいと思います。

農産物の被害は本当にふえておる状況でもあります。天水のほうでは県や市のモデルケースとして住民の方々一体となった対策等々もされておりますけども、今後、特に先ほどありました猟友会等々対応していただいて、もう1つは、事故がないようなことで配慮を十分していただいて、市民の皆さんの役に立つようなことでよろしく願いしたいと思います。

〔12番 西川裕文君 登壇〕

○12番（西川裕文君） それでは3番目になりますけども、有明海沿岸道路早期実現について伺います。

先日、熊本市も含めたところの城北の3道路の開設のための期成会の総会が行なわれておりました。これにつきまして、特に熊本市が3つありまして、有明海沿岸道路早期実現に向けての進捗状況について、新しい市長になられまして、特に言いましたように、熊本市への働きかけが本当に大事であるというふうに思います。まず、熊本市の意向はどうであるか。また、本当に長洲町までは計画が来ておりますけども、そのあとの玉名市及び熊本市以降、南のほうの早期実現、本当に必要だと思います。私も沿岸道路

は使わせていただいて、荒尾から大牟田、そして今もうずっと大川、柳川、そして今、佐賀のほうの筑後川の橋もかかりよります。本当に無料で通れる高速までは行きませんが、大切な道路でありますので、新市長には本当に働きかけをしていただいて、早期に実現するようにお願いしたいと思います。市長のほうの意気込みをお願いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

〔市長 藏原隆浩君 登壇〕

○市長（藏原隆浩君） 西川議員の有明海沿岸道路早期実現についての御質問にお答えをいたします。

有明海沿岸道路は、有明海沿岸の都市を結ぶことにより、地域間の交流、連携を強化するとともに、深刻な渋滞箇所が存在する国道３号線並びに２０８号線等の混雑緩和、また、交通安全の確保を目的として計画された地域高規格道路でございます。１期事業のほうでは、平成６年１２月に佐賀県鹿島市より大牟田市までの約５５キロメートルが計画路線に指定をされ、そのうち自動車専用道路が３０．３キロメートル、一般路で９．６キロメートルが供用されてるところでございます。また、大牟田市から熊本市までの区間における２期事業では、１期事業の終点である三池港インターチェンジから長洲町までの区間が平成２７年４月に都市計画決定され、県内では初となる荒尾競馬場跡付近までの約２．７キロメートルが事業着手となりまして、現在、道路設計等が進められているところでございます。

議員御質問の有明海沿岸道路整備の早期実現に向けた取り組みでございますけれども、平成１０年に行政を中心とする有明海沿岸道路建設促進熊本県期成会、平成２４年には、荒尾玉名の民間が中心となった有明海沿岸道路荒尾玉名地域整備促進期成会が設立をされまして、毎年道路整備の予算確保に向けて、九州地方整備局を始め、国土交通省、財務省、並びに県選出の国会議員に対し、要望活動を行なっているところでございます。

それで、今後につきましては、熊本県期成会の会長である熊本市長に対し、長洲町以南、南の未整備区間を最優先の整備区間として位置づけていただきまして、度あるごとに、市町様ともそういったお話もさせていただいておりますし、これまで、沿線上でないかわりのなかった自治体のほう、近隣の町の首長さんのほうからも「これから一緒にやるぞ。」と、「声をかけてください。」というようなお話も大変心強いお話もいただいております。そういったことで、関係自治体や関係団体とともに、今年度も８月上旬に九州地方整備局、そしてまた、下旬には国土交通省ほかに要望活動を予定しております。引き続き、国直轄による全線整備の実現に向けて、強く要望してまいりたいというふうに考えております。しかしながら、一昨年の熊本地震によりまして、現在、阿蘇、並びに西原村、益城町のほうに国の直轄事業としては、全精力を注いでおられます。そ

ういったこともありますので、当然それは地震のあとの復興、復旧に向けて取り組まなければならない事柄でありますので、これは粘り強く、根気強く、これからはしっかりと要望をしていきたいと、連携をさらに強めて、要望していきたいというふうに思っておりますので、どうか御理解をよろしくお願いします。

○議長（中尾嘉男君） 西川裕文君。

○12番（西川裕文君） ありがとうございます。

市長のほうから力強い思いを述べていただきました。ありがとうございました。

市長のほうからもありましたように、熊本地震の影響で、本当に西原、南阿蘇、それから阿蘇大橋も含めたところで鉄道関係も本当にそちらのほうの復旧、復興というのがやっぱりメインになってるのはわかりました。しかし、今、言っていたように、熊本市への働きかけも含めまして、近隣市町のほうも応援をしますと、一緒になっていきたいと思いますという話を伺いましたので、ぜひ、粘り強く、早めに行えるような対応をとっていただくように、節にまた、お願いをいたします。

〔12番 西川裕文君 登壇〕

○12番（西川裕文君） それでは続きまして、4番目になりますけども、玉名市公共施設長期整備計画について伺います。

平成28年3月、玉名市公共施設長期整備計画が作成されております。平成28年から平成67年までの40年間の長期計画であります。今ちょうど2年を経過して、なかなか結果についてどうこうというのは言えないと思いますけども、計画だけのぞいてみると、2年で計画どおり実施されているところ、また、なお実施がされていない項目があります。計画の時と時代の経過とともに、状況は刻々変化をしております。その時代にあわせて計画の前倒しとか、見直しも必然的に必要になると思いますけども、これにつきまして前倒し等々については、執行部のほうでどういうふうに考えられているか質問いたします。

○議長（中尾嘉男君） 建設部長 前田慎一郎君。

〔建設部長 前田慎一郎君 登壇〕

○建設部長（前田慎一郎君） 議員御質問の玉名市公共施設長期整備計画についてお答えをいたします。

玉名市公共施設長期整備計画は、議員おっしゃいましたとおり、平成28年3月に策定をしております2年余りが経過しております。この計画は、本市が保管しております施設120ございますので、対象期間が40年と長期にわたるため、市の財政状況や社会情勢、市民ニーズ等の変化も踏まえ、5年ごとに計画の見直しを行なうこととしております。見直しに当たりましては、毎年施設の所管課と実際に向けたヒアリングを行なっております。その中で、計画に伴う進捗状況の確認や問題点を把握し、お互いが情報を共

有し、所管課との連携を密に行ない計画に沿った事業展開ができるよう取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 西川裕文君。

○12番（西川裕文君） ありがとうございます。

今、部長のほうから答弁をいただきまして、計画について見直しをしながらしていくというところでありました。これにつきましては、今、答弁中でありましたように、所管課から上がってきているというところでの所管課の内容の見直し等々というのが、やっぱり大事になってくるというふうに思いました。建設部だけでなく、対応しておる所管課の各部長さんたちにつきまして、やっぱり十分にその時代、時代の状況を把握していただいてやるべきところは早くしていただくというところで、本当にこの計画ありきだけでなく、やっぱり早く進めていくところは進めていくというふうなところで、所管課のそれぞれの所管にもよろしくお願ひしたいと思ひます。

〔12番 西川裕文君 登壇〕

○12番（西川裕文君） それでは最後になりますけれども、いだてんと日本遺産の広報活動について伺ひます。

金栗四三名誉市民、来年の「いだてん」ですけれども、それから日本遺産につきましては、市民の方々への意識の浸透は少しずつではありますけれども、広まっているとは思ひます。しかしながら、やっぱり市内の個々の団体に対しての浸透というのは、まだ足りんのじゃなかろうかなと。子どもたちから幼児から児童・生徒、また、敬老会や文化団体、支館への浸透について本当に十分に今なされているのか、まだ不十分じゃないかと思ひます。これについて、どういうふうに今後なされていくか、学校の場合には、玉名学もありますし、いろんな面で金栗さんの紹介。また、ほかにも日本遺産の紹介等々、いろんな面でPR推進課だけでなく、やっぱりこれにつきましても各それぞれの所管が一体となってPRをしていく必要があると、日本遺産等々についても広報活動が必要であると思ひます。そういうところで、今現在、浸透については、どういうふうなことで広報活動されているのか伺ひます。

それからもう1つになりますけれども、インバウンド、海外からですけれども、2,000数名ですか、昨年が。それから国内の観光客の皆さまに対して、十分説明をできる人づくり等々は、今、されておるのか。観光客の方々に来られて、それに対して対応が、質問等々がある。紹介もする。そういう対応をする人づくりがなされているのか。また、案内をされるタクシー業界等々への働きかけはどのようにされているのか、伺ひます。

最後になりますけれども、今回、先日「いだてん」のマスコットキャラクターが決定さ

れました。その活用の方法として、ちょうど会派研修で浜松に行きましたけど、浜松の場合は、直虎等のキャラクターをそれぞれ運送会社の方々へマグネットシールをつくって、貼っていろいろ紹介をされておりました。玉名のほうもぜひ、キャラクターの、マスコットキャラクターのマグネットシールをつくって、市庁舎の車はもちろんのこと、市内の運送業者、バス、タクシー、郵便局の配達バイク、並びにぜひ、希望される市民の方々がおられれば、貼っていただいて、市全体で盛り上げていく必要があるというふうに感じますが、これについてどういうふうな考えがあるか、お聞きします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

〔産業経済部長 松本忠光君 登壇〕

○産業経済部長（松本忠光君） 西川議員の御質問の「いだてん」と日本遺産の広報活動についてお答えいたします。

最初に大河ドラマ「いだてん」に関する広報活動、特に学校と個々の団体への紹介はどこまで進んでいるのかについてでございますが、市内の小学校、中学校においては、玉名の歴史と伝統文化を育むための教育として行なわれている玉名学の中で、金栗四三氏を紹介していただき、関心を持ってもらうなど、児童生徒の機運の醸成を図っているところでございます。また、そのほかにも老人会など、個々の団体につきましても総会時やイベントを通して、積極的に呼びかけ、市全体が盛り上がるよう、連携を図っていきたいと考えているところです。

続きまして、インバウンドや国内旅行者に向けて「いだてん」を紹介できる人材づくりはどうなっているのかについてでございますが、今回の「いだてん」を契機とした取り組みの中で、来訪者へ玉名の魅力発信やおもてなしをする手段として地域ボランティアガイドの育成は必要であると考えております。そのため、玉名市いだてん地域振興協議会におもてなし部会を設置したところであり、当部会を中心に、玉名の観光を担う玉名観光協会、玉名観光ガイドの会、小田校区市内タクシー会社などと連携することで金栗氏の功績はもとより、玉名を広く紹介していきたいと考えているところです。

次に、いだてんマスコットキャラクターとロゴマークの今後の活用方法についてでございますが、まず、玉名市のマスコットキャラクター、タマにゃんに金栗氏がオリンピックで使用したユニフォームを着用させ、各イベントに参加することで効果的なPRを図っていきたいと考えているところです。また、ロゴマークにつきましては、今後のぼりやチラシ、物産商品等で広く活用し、金栗四三氏を全国へ発信していきたいと考えているところです。また、PR用マグネットシートをつくり、宅配配送会社やタクシー会社に配付し、宣伝広報を支援してもらうことを進めてはどうかについてでございますが、市内外へ広くPRを図る上では、運送会社等にPR用のマグネットシートをお渡しし、PRしていただくことは効果的できあり、広くPRにつながるものと考えております。

PR用のマグネットシートにつきましては、現在、玉名市いだてん地域振興協議会において作成の準備を進めているところです。今後はデザインや枚数等を協議し、完成後は広く周知を図っていきたいと考えているところです。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

〔教育部長 戸寄孝司君 登壇〕

○教育部長（戸寄孝司君） 議員御質問の中で、日本遺産の広報活動については、私のほうからお答えさせていただきます。

日本遺産は、平成27年度に創設された制度で、日本の文化、伝統をかたるストーリーを国が認定するもので、目的は、これを戦略的に活用し、観光振興などを推進して、地域活性化につなげていくことにあります。

そこで本市も一昨年2月、山鹿市、菊池市及び和水町の菊池川流域市町や県、国土交通省、各種民間団体と協力して、「二千年にわたる米作り」をテーマにストーリーを作成し、申請したもので、昨年4月に文化庁から日本遺産として認定をしていただきました。認定後の広報活動といたしましては、日本遺産に関する情報発信や普及啓発などを図るため、本市独自又は菊池川流域3市1町などと共同で、各市町の広報紙やホームページによる周知はもとより、シンポジウムやモニターツアーの開催、また、SNS、動画、テレビ、ラジオ、ポスター、チラシ、のぼりなど、思いつく限りの多様な情報伝達媒体を利用し、認定されたストーリーやその日本遺産そのものの意義、目的などについて積極的、かつ精力的に実施しており、また、インバウンドも視野に入れた観光客等に対応するための日本遺産ガイドを育成する事業にも取り組んでおります。今後は、これまで以上に日本遺産に係る情報発信、人材育成、普及啓発、調査研究などの各事業をさらに充実させる予定であります。特に、ガイドの人材育成につきましては、昨年度作成しましたガイド教本を使用して、プロの日本遺産ガイド養成を目指す講座と、本市独自ではございますけれども、ボランティア的位置づけで活躍してもらうことを想定した玉名市歴史博物館こころピアの主催による講座を実施しております。日本遺産の認定や「いだてん」の放送決定は、本市や菊池川流域の国内外での知名度の向上、地域活性化の取り組みや飛躍させるまたとない大きなチャンスととらえておりますので、他の事業や近隣の市町が実施されている多様な取り組みとのコラボレーションによる相乗効果が大きいと期待できるものと、事業展開、広報活動に努めてまいりたいと存じております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 西川裕文君。

○12番（西川裕文君） どうもありがとうございました。

「いだてん」並びに日本遺産について、特に交流人口が、本当にふえるように、特に

「いだてん」の場合は、来年オリンピック前の年で、一過性にならんような形で、これが次につながるようなことで、今、検討をされているというところで、また、お願いしたいと思います。

それぞれ、ボランティア、並びにガイドの方々の育成はぜひ、必要だと思いますし、今現在、観光協会のほうでタブレットというんですか、各地区地区に行けば、スイッチを押せば説明ができる、そういう貸し出しも行なわれているというところで、観光協会にかかわらず、いろんな地域でそういうふうな機器が貸し出し等々ができるようなことでも今後も検討をしていただきたいと思います。

そして、本当に大河ドラマについては、思いもしなかった大河ドラマの主人公ということで、名誉市民の金栗四三先生がなられるわけですが、本当に一過性にするのではなく、この機運をぜひ、玉名人自体が自分たちで金栗先生のようにやっていくぞという思いをもつように、それぞれ私たちも含めて、全体で持っていく必要があると思います。金栗四三さんが恩師の嘉納治五郎さんからちょうどオリンピックに出るときに、時代を背負う人間となるというところでも御存じのとおり、「黎明の鐘」となれというふうなところを言われております。それを言われて、日本で初めてオリンピック選手となられて、箱根駅伝等「日本マラソンの父」と呼ばれるようになりました。この大河ドラマを期に、交流人口、もうその年の交流人口増加だけでなく、ぜひ、それを期に、これを期に、私たち玉名市民が本当に年齢に関係なく、子どもから年配の方々まで、体力、気力、努力の心構えを持って、それぞれの年齢の、それぞれの立場で、自分たちが「黎明の鐘」になるぞと、そういうふうな意気込みを市民の皆さんが、みんな持つように、まずは我々が主体となって、機運を盛り上げていく必要があると思いますので、もう庁舎全体となって、来年のもう取材も入っておりますので、この気持ちを玉名人として、時代をつくるぞと、年齢関係なく。そういう機運を高めていくように、広げていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

これで一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、西川裕文君の質問は終わりました。

議事の都合により、午後１時まで休憩いたします。

午前１１時５２分 休憩

午後 １時０１分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

１１番 城戸 淳君。

〔１１番 城戸 淳君 登壇〕

○１１番（城戸 淳君） こんにちは。１１番、新生クラブ、城戸淳です。よろしくお

願います。

また、傍聴の方、いつもありがとうございます。お疲れでございます。

実は、昨年、6月議会だったでしょうか。私の会社に実はハクセキレイという鳥が洗車機のプロアーの上に巣をつくり、巣立ちをして、これはKKTのてれびタミで放送されたり、全国の晩のエブリイでも放送されました。これは本当に縁起がいいということで、私も昨年、喜んだ次第でございますけど、実は、ことしもまた新しく洗車機がかわったんですけど、そのプロアーの上に巣をつくって、また、かわいい雛を見ることもできました。野鳥の会の方だったり、いろんなお客さんがちょこちょこ見に来られている状況で、本当に私としてはいい宣伝になったところでございます。

〔作本幸男君 「よかことのあつど。」と呼ぶ〕

○11番（城戸 淳君） さて、いよいよ金栗四三の大河ドラマ「いだてん」ですね、オリンピックが来年1月から放送をされます。また、観光施設の核となる大河ドラマ館の建設が旧庁舎跡にいだてん地域振興協議会で決まり、観光客の誘客に期待しているところでございます。ただ、ちょっと私は少し心配しているのは、旧庁舎のところにドラマ館ができるということで、中には物産館ができるような計画がございます。物産館はもちろん大事でしょうけど、今まで篤姫のときもそうだったけど、まずはお食事処で食事を食べて、物産館で土産を買って、ドラマ館に行かれたということで、非常に篤姫の時は動線がよかったということも聞いております。西郷どんが動線が悪いということではないですけど、非常にちょっとその辺がなかなか苦労されているような状況でございます。玉名も今、しょうぶまつりがあっていますけど、今、昔は大型バスが来て、やっぱり花しょうぶまつりを見られました。ただ、いつもそのときから玉名市の中で来られたお客さんが言われているのが、やはり食事処がないと。観光で本当にしょうぶまつりを見るんだけど、お店、お土産を買って食べる場所がないというのが今までの問題点というか、そういうことでございました。和水町の大型バスがとまるそういう施設もございますけど、そちらのほうに流れているという状況で、震災以来バスがなかなか来ない状況にもなっておりますけど、そういうのも踏まえれば、ドラマ館の中にお土産はあるけど、食事処がないと。恐らく周辺のお店当たりを散策しながら、ちょうど西南の役とか、そういうのがありますので、散策しながらお店に立ち寄って食事をするというのもございましょう。ただやはり、ドラマ館というのは、やっぱり核となるわけですので、やっぱり20万人、30万人というお客が来られる中で、お土産は買って行くけど、やっぱりどうしても食事が、玉名の食事を食べていただきたいということで、非常にその私は、その食事処がドラマ館の中になのが非常に不安でございまして、これはまたいろいろおもてなし部会とか、食料部会とかありますので、その辺で検討をされると思いますけど、その辺がちょっと心配でございますけど、ここは玉名市民一体と

なって、そしてオール玉名でこれを進めていかなければならないと思います。私も精いっぱい頑張る覚悟でございます。そしてあと一步、5月28日に藏原市長がよかボス宣言を行なわれました。このよかボス宣言とは、熊本県が実施するもので、熊本を支える力強い産業の復活、発展と魅力のある雇用の創出や県民の結婚、出産、子育ての希望の実現を目指して子育て環境をはじめとするだれもが働きやすい環境の整備など、県民総幸福量の最大化に向けた取り組み、県内企業や事業所の経営者など、熊本県全体によかボスをふやして、オール熊本で県民の総幸福量の最大化を目指すものと、うたっていました。本当にこれは、市長が宣言されたとおり、非常にいいことだと私も思っております。ただ、しかしまだまだ社会全体の問題点もあります。その一反が今回質問する買い物弱者問題ではないでしょうか。

それでは、通告に従いまして、質問いたします。今回2項目をいたします。最初に、買い物弱者についてです。

経済産業省が、買い物弱者に関する調査を行なっております。平成22年に約600万人と推定をされました。しかし平成27年の調査では700万人、現在は1,000万人に届くと推定をされております。これは増加傾向にあります。玉名市でも日常の買い物に不安を感じる買い物弱者が相当おられるようです。市民生活の最重要課題の1つとなる買い物弱者対策は、車を所有しない高齢者世帯には大変深刻な問題です。特に、買い物ができない状況が続けば、食事が満足に取れない上に、栄養が足りないために病気を発生し、それに伴う医療費や介護費の増加など、リスクが高まることが指摘をされております。

そこで質問です。1番目の買い物弱者・交通弱者の実態調査の実施はということで、まずは最初に、買い物弱者の定義とどういう認識をもってらっしゃるかをお聞きいたします。さらに、本市の第2次総合計画の商業活性化の推進にも明記されているように、そこには現状把握とうたっております。そこでアンケート等の実施は、今までなされているのか。また、これから先、実施する予定はあるのか、お伺いをいたします。

よろしく申し上げます。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

〔産業経済部長 松本忠光君 登壇〕

○産業経済部長（松本忠光君） こんにちは。城戸議員の買い物弱者対策についてお答えいたします。

まず、買い物弱者とは、経済産業省の買い物弱者支援においての定義として、人口減少や少子高齢者等を背景とした流通機能や交通網の弱体化などの多様な理由により日常の買い物機会が十分に提供されない状況におかれている人々を買い物弱者と位置づけてあります。また、本市では、第2次総合計画の前期基本計画の中で、商業活性化の推進

として日常生活必需品の買い物が容易にできる仕組みを検討すると明記しているところです。

議員お尋ねの買い物弱者及び交通弱者への直接のアンケート調査は実施しておりますが、生鮮3品が購入できない買い物弱者居住地区の範囲調査を実施しているところでございます。今後はアンケート調査の実施に向け取り組んでいきたいと考えておりますが、本市では、高齢者の免許返納者が他自治体より多いと伺っており、免許返納者が買い物弱者、交通弱者となっている可能性がございます。そこで、アンケート調査の実施に際しては、現在、地域振興課が取り組んでいる交通弱者対策の事例研究や移動手段の手法等とあわせて買い物弱者対策を検討し、効果的な調査方法を関係各課、関係団体と速やかに協議した上で、実施に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 城戸 淳君。

○11番（城戸 淳君） 答弁いただきました。

この買い物弱者対策というか、これは先ほど言いました実態調査に関しては今から進めていくという答弁でございましたけども、実は、玉名商工会議所の商業部会ということで、私もその部会長をさせていただいています。その中でも、今年度は一番かわりのあるお買い物弱者についてのことをまずは調査研究ということで、我々商工会議所もそこを中心に今考えるところでございます。これもぜひ、行政と一緒に先ほど言われましたことも踏まえて、我々商工会議所も一緒になって、この調査に関しては、まずはやっぱり把握しとかなないと、いろんな意味でアンケートも含めて、前へ進んでいかないのかなと、まず把握した上で対策をどうするのかということまで考えれば、まず一番に実態調査だと思っておりますので、ぜひ、この辺は早急にこの問題は本当に先延ばしはできない問題でございますので、よければ調査を進めていただきたいと思います。

それでは次に、2番目の買い物弱者の支援策について質問します。

まず、なぜ、買い物弱者となってしまったのかというと、先ほどもいろいろありましたけど、高齢化や人口減少などの影響で身近な場所から買い物するための店が撤退する地区がふえてきているというのが1つあります。その上、高齢のために自動車が運転できない等の理由で、遠くまで行けないと、困難に感じている人がまたこれが多くなっているという現状でございます。今後も高齢化が続くと、早期に手を打っていかねばならないと思っておりますのでございます。まず、対策については、いろいろ調べて見ますと、まず、身近な場所に新店舗の開設をするというのが1つの対策の1つでございます。それと宅配サービス。これも1つの手法でございます。それに伴ってまた移動販売、これも1つの手法でございます。この今3つ言いましたけど、そういうのには、国のお買い物弱者の支援補助金というのがあるみたいです。その辺も含めて、今言ったの

を、見解をお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 城戸議員の買い物弱者の支援策についてお答えいたします。

本市では、現在、直接的な支援策は講じておりません。議員御指摘の身近な場所への新店舗開設や宅配サービス、移動販売については、行政が直接できるものではなく、民間を活用して実施するものであり、現在、宅配サービスは調理された弁当や食材のみを配達するサービスが民間で数社行なわれております。また、移動販売については、国が進める買い物弱者対策事業での補助金申請を市内事業者が申請されており、市では申請に必要な推薦書を提出しているところです。

なお、買い物弱者対策については、商業だけではなく、福祉、交通等さまざまな分野と絡んでくることから、今後実態調査を行なった上で、関係各課と協議を行なってまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 城戸 淳君。

○11番（城戸 淳君） 答弁いただきました。

まず、買い物弱者対策といいますか、買い物弱者を支えていくという方向から見ていくと、先ほども言いましたけど、まずは身近な場所にもう店がないということで、店をつくらうということですね、これに関しては、実は事例がございます。お隣の荒尾市でございます。荒尾市では「青研（せいけん）」という名前で、中央青空企画というところがやっておりますけど、荒尾市もまずは人口の流出や高齢化が進んで、商店街が衰退したということも踏まえて、商店らが自ら企業組合を立ち上げて、今、徒歩圏内の高齢者をターゲットにミニスーパーマーケットを開設されております。この荒尾はですね。その今、成果としては、対象圏内は150世帯だそうです。1日大体10万円は売り上げられてるそうです。こういう成果としては、今、品揃えをもうちょっとふやしていくということで、頑張られておられます。そうして今後の取り組みとしては、もちろん御用聞きと一緒に宅配サービスの実施も、今予定をされております。こういう形で、身近なところにまずつくるということを事例として、荒尾市の中のそういう、これは補助金の実実はあっております。もう、立ち上げられていると。あまり広域になればなかなか難しいですけど、150世帯のために空き店舗を利用して店をつくられていると。その中で1日10万円も上げていらっしゃると。ということは、なかなか車も持っていない方が、ちょっと歩いてそこに買い物に、日常の買い物に行こうということで来られているそうです。それが1つ、身近な場所に店をつくらうということで、ちょっと事例を言いましたけど、あと1つが、家まで商品を届けようというのも1つの弱者を支えていくた

めの方法でございます。これは宅配いろいろありますけど、これも実は熊本県内1つございます。これは熊本市の健軍商店街がやっている事業でございます。これはもともと健軍商店街は市電の起点停留所の周辺に位置して、ベッドタウンとして成長したわけでございますけど、商店の高齢化率が24%以上になっているということで、大型店の競争も激化している中、商店街から半径2キロメートル程度に移住する顧客をお買い上げの品を1日2便、タクシーにより配送されているそうです。タクシーにより。そして料金は1回当たり300円、うち100円をその商店街が補助されているという事業で、タクシーを利用して買い物されたのをお届けするという、これ事業です。大体、年に今300件ぐらいこの利用をされている実績だそうです。この健軍商店街も震災でかなり被災されましたけど、今、復興に向けても頑張っております。もともとこれはもう21年、早い段階からこれはされている取り組みでございます。今は、商店街が一部のタクシーの100円を負担されていますけど、これはこれから先はお聞きしたところ各お店が負担をすることで、お店の意識を高めるということで、サービスの品質向上にもつながると会長さんは今、言われております。そういうことで、商品を届けるということで、この健軍商店街の事例もこういう形で頑張っておられます。

あと1つ、3点目が、家から出やすくしようというのも1つの買い物弱者を支えていくためのポイントだと思います。これは実は、事例があります。玉名市も乗合タクシーがございまして、これは茨城県土浦市の事例ですけど、キララちゃんバスというのがあつとですよ。これも市民が支えるバスですね、賛同を得て実現をされたそうです。これはもともと土浦市は50万とも言われる商業都市だったんですね、そして間違いなく衰退が進んで、中心市街地への人が集まらなくなったという問題点がありまして、市と地域団体と中心市街地活性化について話し合ったところ、まずは交通整備が必要だということで、地域通貨にキララを発行、キララというチケットみたいなものを発行して、あわせてバス運行を始めたという事例でございます。これは1日大体平均400人ぐらいあつて、増加傾向にあるみたいです。まずは、そのこれは地元のタクシー協同組合が賛同されて、それを代行されているそうです。これはおもしろいのが、商品を買って、キララ券バスチケットというのを各商店街がお客さんが来られて配んなはるとですよ、それを使ってそのバスに乗って行かれるということで、要は結局、コミュニティバスという形になりますね、そういう形で運行もされて、これは収支が問題なんですよ、補助金も市も、土浦市も出されていますけど、こういう取り組みもされてるところでございます。これは企画段階で住民の方、区長さんとか、副区長さんが参加されて、いろいろ会議をされてこれは実現したそうです。バスの運行は先ほど言いました関東鉄道と土浦地区のタクシー協同組合が委託をされてこれを運行しておるということで、おもしろいのは先ほど言いましたように、100円のキララという地域通貨ですね、玉名ではハ

ロースタンプという地域通貨が今、ございますけど、それを協賛店舗で1,000円以上お買い上げいただいた方に配っていると、そしてそれに乗ってそのバスに乗られるという仕組みで、非常に考えられているなと思いました。こういう今、言いました3点がこの買い物弱者対策には、ポイントだと言うことを全国的なこういう事例として発表もされておりますし、補助金のほうもありますから、あとは補助金を使いながら、恐らく先ほど移動バスに関しては、今、長洲町が1件、徳永さんですかね、移動バス、移動販売のやつがございまして、恐らく玉名にもこれから進出されるでしょう。こういうのは、非常に採算性の問題があつとですよ、どこまでそれが採算ができるのかという。ある事例を見てみますと、独自でその市がですね、補てんをするというか、そういうところも特殊なところもございまして、買い物難民をいかに減らしていくかというか、ふやさないかというのは、そのやっぱり地域がどれだけ真剣に考えて、そしてこれは民間だけの問題じゃないと思います。今、セブンイレブンとかいろいろ民間で宅配もされていますけど、これ一番行政上で、最重要課題としてとらえてこれは、行政が積極的に私は関与していくことが望ましいと思っております。この買い物難民に関しては、非常に難しい問題でございまして、恐らくもう社会問題になっております。これもいち早くやはり真剣に我々議員も行政も考えていく必要があるのかなと思っていますので、先ほどまずは実態調査からということで、ぜひ、早急にその辺は実態調査をしてもらって、まずは、把握ということをお願いしたいと思います。

それでは、2項目目にしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 城戸 淳君。

○11番（城戸 淳君） それでは続きまして、2項目目のケーブルテレビを利用した市議会放送の現状について質問をいたします。

まず、今や住民の行政に対する需要やニーズは複雑多様化し、自治体が住民のために率先して行政情報を発信することは重要不可欠の時代となっております。本市におきましても、さまざまな行政情報が広報たまなや市のホームページを通じて随時発信をされております。先般、市のフェイスブックも開設されたばかりだと聞いております。そうした中、我々市議会におきましても、積極的な市政情報の発信を重要施策の1つに位置づけているところでございます。特に、市議会は昨年、議会基本条例を制定し、市民と情報の共有を図るため、条例の第44条に広報広聴機能の充実とうたっております。さらにその第4項には、議会は情報通信技術の発達を踏まえた多様な広報手段を活用することにより、広く市民等に対し、本市の議会運営及び市政に関心をもつよう、議会広報広聴活動に努めるものとする規定をしております。この規定の理念を達成するためにも、我々議員は市政や議会運営に関する情報を市民の皆さまに対して積極的に発信提供し、議会への関心をより高めていただくことで議会や議員に対する理解をもっともっと

深めてもらわなければならない。改めてそう強く感じているところでございます。

さて現在、市政や市議会に関する情報発信としては、議会だよりの発行や市ホームページの市議会サイトにおけるさまざまな議会の情報や会議録、政務活動費の使途公開に加え、市議会中継放送が実施をされています。中でも市議会中継放送については、市の条例や予算の審議を始め、市の重要施策に対する議論や一般質問など、本市の最高意思決定の場である議会の模様を視聴できるとともに、その緊張感まで伝えることができ、これ以上にすぐれた市政情報発信の方法はないと思っております。この市議会中継放送については、本市の場合は、パソコンやスマートフォンなど、インターネットを利用した中継放送のほか、ケーブルテレビを利用した中継放送が実施をされております。特に、ケーブルテレビによる中継は、ネットが不得意なご年配の方々や議場までなかなか傍聴に行けない方々を中心に、普通にテレビを見る感覚で、自宅にしながら、手軽に議会中継を視聴できることで、市民の皆さまからも好評を得ているところでございます。また、ケーブルテレビのみ、ライブ中継のほか、当日午後7時から録画再放送が行なわれております。昼間仕事など、放送が見ることができない方々からは、非常に重宝がられておるところでございます。

そこで、まず、このケーブルテレビ、いわゆるひまわりテレビでございますけど、による市議会中継放送の視聴の実態としては、地域内での視聴可能なエリアの分布はどうなっているのか。それと視聴可能件数は、現在どの程度なのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

〔総務部長 西山俊信君 登壇〕

○総務部長（西山俊信君） 城戸議員御質問のケーブルテレビを利用した市議会中継放送に対する視聴の実態についてお答え申し上げます。

玉名市議会ケーブルテレビ放送は、平成22年10月より本市で事業を開始されました株式会社ひまわりテレビ運営のケーブルテレビを利用して、平成24年10月から放送を行なって見られるところでございます。

まず、このケーブルテレビによる市議会中継放送が開始された経緯から改めて御説明を申し上げます。本市におけます市政情報発信の取り組みとしまして、合併前の旧玉名市では、平成13年6月より市役所ロビーモニターによって市議会中継放送が、また、合併後の新玉名市では、平成19年6月よりインターネットを利用した市議会中継放送がそれぞれ既に実施をされております。しかしながら、さまざまな事情によりまして議場や庁舎へ傍聴に来ることができない方やインターネット環境が整っていない環境が不十分な所のため、ネット中継を視聴できない方などから、ケーブルテレビによる市議会中継放送実現の強い要望が上げられるようになりまして、平成24年10月、ひまわり

てテレビから本市に対しまして、地域への情報公開に寄与することを目的に市議会放送を行ないたいとの提案と放送に関する申請書の提出がなされたところでございます。これを受けまして本市では、同年同月申請内容を承諾いたしまして、その後平成24年12月定例会からケーブルテレビによります市議会中継放送が開始され、以来、市民の皆さまに対する市政情報発信の一翼を担っているところでございます。

続きまして、このひまわりテレビが運営いたしますケーブルテレビのサービス提供のエリアについて申し上げます。

まず、玉名地区でございますけども、全域対応エリアが高瀬、繁根木、岩崎、中、立願寺、亀甲、松木、六田、築地、山田、中尾、大浜、北牟田、川島、千田川原でございます。一部対応エリアが、秋丸、小野尻、小島、伊倉北方、伊倉南方、片諏訪、大倉となっております。なお、未対応エリアといたしまして、菊池川右岸では、玉名バイパス以北の地域、永徳寺、滑石、また、菊池川左岸では、小田、梅林、八嘉等が残っている状況でございます。

次に、岱明地区でございますけども、ここは既に光回線が入り込んでいるため、ケーブルテレビの普及が進んでおりませんけども、庄山、野口、中土、下前原、山下が一部対応エリアとなっているところでございます。

次に、横島地区でございますけども、この地区は共栄を除きまして、全域対応となっているところであります。

次に、天水地区でございますけども、全域対応エリアが、立花、竹崎、一部対応エリアが部田見、小天、尾田となっているところでございます。

今後は天水地区の未配線地区で、要望が多いことから、拡張予定とのことでございますが、同時に市内全域での拡張工事も行なっていく予定ということでございます。新たなサービス提供エリアの拡大に努められているということで伺っているところでございます。

続きまして、加入状況について申し上げます。

ケーブルテレビ加入件数につきましては、現在、およそ2,000件でございます。このうち市議会中継放送は専用チューナーを設置しているということが必要になってまいりまして、加入世帯のみで視聴可能となっておりますけども、その件数は現在415件と伺っているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 城戸 淳君。

○11番（城戸 淳君） 今、サービスエリアといいましょうか、いろいろ玉名地区、岱明、天水、横島と言われましたけど、天水のほうは要望が強いということで、計画をされてるということで、玉名市全体をまずはこの拡張工事をやっぱりしていただいて、

もっともっと市内に普及していくのがいい、進めてほしいなと思っています。恐らくこれも費用等がかかると思いますので、ただ、市としてもひまわりテレビさんがこのエリア拡大ということでされていくと思いますけど、この辺は市のほうもやっぱり先ほど私がる言いましたけど、市民のために議会中継をこういうサービスをしているということは、いかに市議会と市民が身近な立ち位置にいるのかなというのが問題だと思います。やはり市議会と市民がなかなか交わらないというか、近くにならないことだということは、やっぱり情報を議会だよりもありますが、やっぱり生の臨場感ある議会中継を見ながら、「ああ、こういうことを玉名市は今してるんだな。」とか、いろいろ施策に対して文章じゃなくて、やっぱり目で見て、そしていろんな議員さんの質問だったり、いろんな答弁だったり聞いて、市民も感心を少しずつ深めていくのかなと思いますので、ぜひ、これはまずは市内に普及することを望んで、望みまして次の質問に移りたいと思います。

それでは、2番目の中継放送の画質が悪いとの苦情があるということで、改善はできないかという質問に移らせていただきます。

市議会の模様は家庭用テレビで手軽に見られることで評価を得ているということで、このケーブルテレビによる市議会中継放送ですが、1つ残念なことに、視聴者である市民の方から、中継映像の画質が悪いという苦情が我々議員にもしばしば寄せられているところでございます。中には、議場のカメラや設備が悪いと思われている方もいらっしゃるし、「どうにかならないか。」という改善を求める声が以前から上がっている状況でございます。先に述べたとおり、市議会は現在、市政情報の発信によって多様な広報広聴手段を活用すると規定している。ケーブルテレビも広報手段の活用の1つでありますし、活用する以上はやはりその効果を最大限に生かす方法をとるべきではないかと考えております。そして何より、市政や市議会に対する関心を尋ねてもらうための放送です。特に我々議員は、市民の皆さまから負託を受けてこの壇上に立たせていただいております。その負託に答えるべく、我々議員はどういう形で市政に取り組んでいるのか、我々が活動する姿を公開により、対外的にしっかりと見ていることは、市民の代表として議員の責任でもあります。せっかく取り組みでありますので、やはり市民からの苦情が出ない形であってほしいと願っております。特に、御年配の方々に対し、きれいで見やすい映像にて、市議会中継をお届けし、ごらんいただきたいと思っております。

そこでこの中継放送の画像が悪い原因は何なのか、また、どうしたら、どういう改善策があるのか、この件に対してどういう対応を考えているのか、お伺いしたいと思います。

よろしくお願いします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 城戸議員御質問の市議会中継映像の画質が悪いとの苦情があるということで、改善できないのかとの件についてお答えいたします。

現在、ケーブルテレビによります市議会中継は、議場内のカメラで撮影し、映像を放送局へ送信して、そこからケーブルテレビの伝送路網を通して放映をされているところでございます。この議場内のカメラで撮影した映像は、壁のモニターでも確認いただけますものと、本来、高画質のデジタル画像となっております。しかしながら、既存の設備では、技術的な都合により、放送局までデジタル画像のまま送信することができず、一旦低画質のアナログ画像に変換しなければ送信できないといった事情がございます。このためケーブルテレビにおける市議会中継は、アナログ映像で放映されておまして、これが中継映像の画質の粗さの主な原因となっているところでございます。特に、2011年の地上デジタル放送への完全移行に伴いまして、テレビ放送はすべて高画質のデジタル映像に切りかわっておりますので、その画質のよさに見慣れてしまった現在では、市議会中継のアナログ画像の画質の粗さがより強く感じられてしまうほか、各家庭テレビも大画面化が進み、低画質のアナログ映像が大画面に引き延ばされてしまうため、画像の粗さがより際立ってしまうことが苦情の要因になっているということで考えております。

続きまして、この画質の粗さの改善策について申し上げます。議場内のカメラで撮影したテレビ画像をそのまま放送局まで送信できる設備へ切りかえることで、中継映像の画質の粗さは解消いたします。しかしながら、そのためには議場からひまわりてれびの放送局までデジタル映像を送信するための専用の光ケーブルを新たに布設しなければならないなど、現状の設備から大きく変更する必要があることに加えまして、設備更新に多額のコストがかかるなど、財政的課題もございます。また、先に述べましたとおり、ひまわりてれびの市議会中継放送の開始にあわせまして、平成24年10月同社と本市との間で、本市に放送に関する申請書及び承諾書を締結いたしておりますけれども、その中で、本市に対しましては、市議会放送にかかる費用などの請求は一切行なわないものとする旨の条件がされているところでございます。しかしながら、ケーブルテレビが市政情報発信に寄与している実情に鑑みるとともに、市政に関心をお寄せいただいております市民の皆さまのためにも今後本件については、本市がどのような形で関与していくことが可能なのか、前向きに検討してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 城戸 淳君。

○11番（城戸 淳君） 答弁いただきました。

私も実は、いろんな方からもう今、先ほど言われましたように、大画面のテレビでございます。見ていただくとわかるように、非常に暗くて、やっぱりアナログでしょうか

ら画像が悪くて、何が、音も悪かですもんね。何が何か、非常に誰かわからないということを高齢者の方からひまわりてれびを設置して、議会中継を見るためにとったんだけど、非常にわかりにくいということも何人の方からも言われました。先ほど答弁の中にもありましたように、もともと玉名市とひまわりてれびさんで業務提携といいいましょいか、提携をされてる中では一切お金を出さないということで契約書を交わされたということ、先ほど言われました。ただ、これだけこのケーブルテレビが今、この市議会中継で市民の方に提供できる最大の、一番の情報発信ということで、これは行政も、ここはせっかく先ほど近松議員も言われました議会改革議会基本条例は、300番熊本で一番という、今順位になってると。せっかく玉名が議会基本条例をつくって、より市民のために身近に議会をもっていくためにこれはつくったわけですので、このそういう情報発信の市民に対する情報提供というやつは、やはりお金をかけてでも、それが将来は市民の、玉名市の発展にも私はつながっていくのかなと思います。金栗さんも来年あるのに、やっぱり市民がやはり情報を共有しないと、恐らくオール玉名ではできないということでございます。いろんな市の施策に関しても一部の方は、市民は興味のある方は傍聴だったりされます。ただ手軽に市議会を傍聴できることを先ほどエリア拡大もごさいますし、この画像のこともあります。予算はもちろんかかるということも十分にわかっておりますけども、恐らく市の将来のためには、これは費用対効果は非常にあるのかなと、議会に活発になれば、やっぱり市民の方もいろいろと玉名市に託す、将来の子どもに託せるという思いがいろいろあられる方もあると思いますので、ぜひ、この辺は検討をしていただいて、本当に見ていただければわかると思います。画質が悪いです。この辺もぜひ、検討して、来年の予算のときにでも入れていただきたいなと思っております。

今回、冒頭にも言いましたけど、来年の金栗さんが始まって、大河ドラマが始まって問題点を私は、これは質問は、もう大河ドラマの質問は何回もしておりますけど、食事処がないという私の不安があります。ただ、この間、実は、建設経済委員会でホテルを小田の奥野というところ、一番端ですね、皆さん御存じだと思いますけど、見に行きました。小田の途中にはもちろん金栗四三氏の墓がございまして、そこからまた先に奥野に降りていけば、いいホテルがあります。ホテルは岱明のどこだったですかね、

〔「開田」と呼ぶ者あり〕

○11番（城戸 淳君） 開田にもありますし、三ツ川にもあるし、梅林にもホテルがあるわけですね、これも玉名の1つのポイントとしてはいい材料かなと、観光客を呼べるのかな。そこに奥野に行ったときに一番奥の奥ですね、奥野と言いますが、一番奥の奥に地鶏を食べさせるところがあつとですよ、奥野ということなんですけど、非常にやっぱりこれはおいしいです。やっぱり地鶏を食べながらホテルを見ながら、やっぱ

り観光客もそこまで呼び込むのも、これは一瀬議員が一生懸命奥野のためにされており
ますので、その辺のPRもしていただいて、やはり誘客をして、そして交流人口をふや
しながら、おいしいやつもちゃんとしたパンフレットに載せて提供していくというのも
1つの材料かなと思っております。そういう意味では、ぜひ、来年の大河ドラマ、ここ
にいる皆さんと一緒に本当にもうスピード感をもって頑張っていこうと思っております
ので、ぜひ、よろしくお願いしたいと思います。

最後に一言だけ、全く関係ない話ですけど、実は、私が7月から玉名ライオンズクラ
ブの会長を務めることになっております。玉名ライオンズクラブというのはロータリー
とかもありますけど、長きにわたってこれは奉仕団体として活動をしている団体でござ
います。特に玉名ライオンズクラブは献血事業は本当に力を、日赤と一緒に力を入れて
いるところでございます。実は、明日、玉名市役所駐車場で献血を行ないます。ぜひ、
我々議員の方にも、そして市の行政の方にも、ぜひ、明日9時半から16時、4時まで
献血がありますので、ぜひ、献血をお願いして一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、城戸 淳君の質問は終わりました。

議事の都合により、暫時休憩いたします。

午後 1時50分 休憩

午後 2時05分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

9番 松本憲二君。

〔9番 松本憲二君 登壇〕

○9番（松本憲二君） 皆さんお疲れさまです。9番、自友クラブの松本でございま
す。

議員は12月の議会から新しいメンバーに入れかわりまして、12月議会、そして3
月議会と、もう2回の議会で新人の6名の皆さまもしっかり一般質問もされてるような
状況でございます。しかしながら、今議会からは執行部の顔が入れかわりまして、新し
い部長さん方がここに答弁者として今立たれてるわけですけども、選挙がありまして、
女性議員が近松議員が1人だったのから、吉田議員が加わられて2人になられて、そし
てまた執行部のほうでは、玉名市発の女性部長ということで、水本部長が今回からは、
ここの執行部の席に座られております。やっぱり女性の活躍が非常に今叫ばれてる中
で、私たち男もしっかりしていきたいなというふうに思っております。

それでは、通告に従いまして、一般質問のほうに移らせていただきます。

まず1番目に、専門職員のあり方についてということで、各分野の専門職員の定数

は、確保されているのか、それとまた、土木職等の技術職員の現状はということなんですけれども、行政の中には、いろいろ保健師であったり、保育士であったり、また、その土木のほうの技術職、そういうので教育総務課のほうには、教育主事とかといって、その学校の先生の免許を持ってらっしゃる方々が、その専門職ということで入っておられます。そんな中で、合併から約10年間は退職者の約3分の1採用ということで、非常にその職員のその人数も、その削減をされていたような状況なんですけれども、10年を過ぎて、その職員のその採用のまたあり方だったり、そういうものが少しずつ改革をされているような状況で、果たしてその専門職というのの分野の中で、ある程度の適正数というのがちゃんと玉名市では確保をされているのかということで、質問をしているわけで、ちょっとこの2点について、まずはお聞きしたいと思います。

答弁のほどよろしくお願いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

〔総務部長 西山俊信君 登壇〕

○総務部長（西山俊信君） 松本議員の御質問の専門職職員のあり方についての各分野の専門職職員の定数は確保されているのかと及び土木職等の技術職員の現状はについてお答えを申し上げます。

現在、専門職職員の確保につきましては、平成29年3月に策定いたしました第3次玉名市行政改革大綱の実施計画に基づきまして、専門職の計画的な採用に取り組んでいくところでございます。それにあわせまして、専門職職員が退職予定者である場合や年次次年度以降の業務量等を勘案いたしまして、専門職職員の採用予定者を決定しているところでございます。

続きまして、専門職職員の現状について申し上げますと、保健師は19人、管理栄養士は4人が在籍しております。必要とする職員数は確保できていると考えておりますけれども、議員御指摘のとおり、土木技術職員につきましては、予定どおりの採用ができておらず、不足しているという認識をいたしているところでございます。そのために、平成31年4月1日に採用いたします今年度の職員採用試験におきましては、土木技術職員の確保が急務であり、行政改革大綱の実施計画を前倒ししてでも優秀な人材確保に努めてまいりたいというふうに思っております。さらに近年は、職員内定者が辞退するケースが見受けられることから、平成31年4月1日に採用する本年度の不足職員採用試験では、得点の高い合格者の順位で職員採用予定候補者名簿に登載いたしまして、採用辞退者が出た場合には補充を行なうなど、必要とする職員に不足が生じないように、対策を講じておきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 松本憲二君。

○9番（松本憲二君） 今、答弁をいただいたわけですがけれども、保健師と管理栄養士に関しては19名と4名ということで、ちゃんとした適正な人数は確保されているというような今答弁がありました。しかしながら、土木系のその技術職員というのは、その人員不足というような今、答弁がなされました。しかしながら、ちょっとこれは私もちよっとこれは私もちよっとこの4月で異動が、職員の異動がありまして、その中でちよっと感じてるとというのが、土木建設部の中で技術職員が結局、不足している、不足しているということで、私は28年だったと思うんですよね、一般質問で民間からの中途採用で技術職を、結局、玉名市が確保されたということで、それは民を圧迫する、その民で、民の事業者でしっかり技術を養った人たちを途中で市が採用するということに對しまして一般質問をしたと思います。これは笹子トンネルの落盤事故が起りまして、国交省のほうから橋の、橋梁のそのもう1回その検証だったり、そういうことをしなさいということで、行政のほうにそういう指示があったということで、そういうやむを得ないそういうその措置が、結局、玉名市で行なわれたということで、しかしながらそのときの建設部長の答弁では、もうその今後そういうことが一切ないような、人事のちゃんとその採用をしていきたいということだったんですね、しかしながら、今、総務部長のほうから答弁がありましたように、採用試験で、辞退をされた。それとか、なかなか一次試験で合格をされないというような状況に陥っていると。今、その民間のほうが非常に好景気ということで、新聞でも非常にやっぱり売り手市場ということが今叫ばれてる中で、しっかりその人員確保をしていかなければいけないというような状況だと思います。この4月の異動がありまして、今のその建設部で、これちよっと通告をしてなかったんですけども、ちよっと建設部長のほうにちよっとお伺いしたいんですけども、そのいろんなその今度30年度の事業が多分玉名市であると思うんですけど、建設部に係る部門で、今の段階でのその技術職の職員ていうののその人数のその対応というのはどうなのかというのをちよっともし答弁いただけるのであれば、答弁をお願いしたいと思うんですけども。

○議長（中尾嘉男君） 建設部長 前田慎一郎君。

○建設部長（前田慎一郎君） 再質問にお答えをいたしますが、現在の建設部の技術職員の状況についてでございますけれども、建設部は3つの事業課がございます。ただ、現実的なお話を申し上げますと業務の量からしまして、技術員の数は少ないと私自身も感じております。ただ、今後ともこれまでの業務に加えまして新たな業務のほうもふえてまいります。例えば、建設課は新玉名駅の周辺整備事業をやったり、そして建設管理課におきましては、現在橋梁のメンテナンスサイクルの業務を行っておりますけれども、今後は、この橋梁以外におきましても土木構造物に対して、長寿命化計画に沿ってメンテナイスサイクルを実施していかなくてはなりません。さらには、営繕課におきま

しては、西川議員の御質問にもお答えしましたように、箱物の長期計画を立てております。もうこれら３つの業務を予定どおり進めるに当たりましては、技術職員の増員が不可欠と建設部のほうも感じておりますので、この課題を今後総務課と協議して、増員のほうを図っていきたいと考えております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 松本憲二君。

○９番（松本憲二君） 今、急にちょっと今、建設部長のほうに答弁を振りまして、答弁を行なっていたんですけれども、３課ある中で、いずれの３課にしても全然技術職員が足りていないというような状況で、先ほど総務部長のほうからこの第３次玉名市行政改革大綱の中でも、やっぱりきっちりここにうたわれてるわけですね。土木系の部門で人員不足に至るなどと、有能な即戦力となる人員の確保が喫緊の課題ということであります。そしてまた、取り組み内容に関しましては、きっちりやっぱりその採用を行ないますということになってます。ちょっと調べたところでは、熊本市と八代市に関しては、その技術系の職員はしっかり採用がなされて一応足りてるというような現状です。ちょっと調べてみましたら、玉名市の職員採用の一次試験が毎年９月、しかし、その２市では、７月先行して行なわれてるわけですね、民間の会社よりも若干早めに、そして内定を早く出すというような、そういう工夫がされてるわけですね、そこに関しまして、そのこの試験のその日にちを前倒しにすること、可能なかどうなのか、ちょっと部長いいですか。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 松本議員の再質問にお答えいたします。

まず、平成２８年度に実施いたしました、先ほど御質問がございましたけれども、年度途中での土木技術職員の採用に関する件について、まずお答えを申し上げたいと思います。

議員申されましたとおり平成２４年の笹子トンネル崩落等の事故によりまして、法改正がなされております。それに伴いまして、橋梁メンテナンスサイクルの事業等に対応するために、平成２８年度に土木施工管理技士の資格を有し、即戦力としての活用できる方を対象とした試験を実施いたしましたところでございます。その後、平成２８年１２月の議会におきまして、このような採用試験の今後の実施予定について松本議員のほうから御質問を受けたところでございますが、当時お答えいたしているとおり、今現在も実施の予定はございません。

なお、今年度の土木技術職員の募集内容について申し上げますと、高校卒及び大学卒程度の競争試験と、それから、土木技術職員を志す方を対象とした選考試験を実施する予定でございます。しかしながら、予定しております人員が確保できなかった場合につ

きましては、土木技術職員としての一般職で採用いたしました職員の育成も視野に入れながら、不足の解消に努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

続きまして、職員採用試験の早期実現についてお答えを申し上げます。

現在、本市におきましては、公平性が保たれるなどの観点から、県内の47団体が参加しております市町村等職員採用共同試験を一次試験として、例年9月に実施をいたしているところでございます。職員採用試験の早期実現につきましては、実施につきましては、実施いたしている他市の状況を参考に、今後、調査研究によりメリット、それからデメリット等の調整を図りながら、今後検討いたしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 松本憲二君。

○9番（松本憲二君） 今答弁をいただきました。

その民間からの中途採用の計画は今はないということで、答弁をいただき、それとまた、この試験に関しましては、採用試験に関しましては、他市の状況を見て、メリット、デメリットということを経査をして実施するか、実施しないかは検証をしたあとにするということなんですけれども、やっぱり今ずっとこう議会の予算とか審議する中で、非常にやっぱりその土木系の職員が不足しているということで、コンサルに頼っている部分が非常にあるんですね。もういつも思うんですけれども、これ何回か私も委員会とかでも、前、建設経済の委員会にいたときに言ってたと思うんですけれども、昨年は、玉陵小学校を結局、建設するに当たって、土木のその技術系の職員を教育総務課のほうに異動させると、果たしてそれが必要なのかなと思うんですね、同じこの玉名市の職員であって、土木部にそういう技術職は全部集中させとって、農業土木もありますから、それともちろん上下水道もありますね、大体土木系というのはこの3課だと思うんですね、必要なのが。しかしながら、そういうその小学校の建設のときには土木部の、建設部のほうから協力をするというような、やっぱりそういうシステムがなぜ図れないのかなというふうに、非常にやっぱり疑問に思うわけですね、やっぱりその縦割り社会というのが、ずっとやっぱり根深くあるのかなと。しかしながらやっぱりその辺はやっぱり一つ一つ改革をしていって、そのやっぱり建設部においてきっちりした一般職で入っても、やっぱり5年間、6年間で、もしそこにいるのであれば、ちゃんとやっぱり技術が身につくわけですから、やっぱりそういう人たちをやっぱり育てていくというのも非常に必要なのかなというふうに思います。

やっぱり県の土木事務所であったり、国交省のほうにもその人材教育ということで派遣もできるような制度もあります。そんな中で、やっぱりそういうところをしっかりと活用していって、玉名だけのその玉名ぐらいのその規模の工事とかじゃなくて、やっぱり

県、国の工事だったら大っきい工事に結局、携わって自分でしっかりそのそういうその技師的なものも多分身についてくると思うんですね、やっぱりそんな中で、その今、10年間の合併したときの協定の中で、その職員採用に対しては十分抑えますよということで、職員削減がなされたわけですがけれども、そういうことをそのやっぱりコンサルなんかには、ずっとやっぱりお願いして、その費用とじゃあ二十歳ぐらいで市のほうに採用をされて60まで、40年間やっぱり技術職で、40年間やっぱり携わられてきて、こうずっと積み重なっていくということで、やっぱりそういうコンサルに投げなくていいって。そうしたら費用対効果というのはものすごくやっぱり出てくると思うんですね、やっぱりその辺もその視野に入れた中で、やっぱりその人材確保というのにはしっかりやっぱり努めていただきたいし、採用の試験の日時なんかは、やっぱり十分検討をさせていただいて、そのなるべくそのコンサルに回さなくていいように、そうしたら市の1年間の財政のその負担というのもまたほかの分野にいろいろ回せる部分が、多分出てくると思うんですね、やっぱりそういうのをしっかりやっぱり検証をやっぱりしていくというのが、一番重要になっていくのかなというふうに思います。

そんな中で、その検証をするというような返答を採用試験については、総務部長のほうからいただいたわけですがけれども、この土木職の今、技術職のその非常にやっぱり足りないような状況について、その建設部から異動があって、そしてまた、結局4月に異動があって、また5月に異動があったというその技術職の職員もいます。そういうその異動が4月に1回土木部の建設部のほうからほかの部に異動があって、また5月にその同じ部内ではあるけれども、また異動があったというような、その事例も今回発生をしております。そんな中で、やっぱりこの橋梁の問題であったり、いろんなその先ほど西川議員が質問をされた公共施設の長期的な計画の中で、やっぱり必要だと思いますので、その辺はしっかり精査をしていただいて、技術職員、そしてまた専門職に関しては、しっかりその必要な人数というのをやっぱり確保していただきたいと思います。

そしたら、次の質問に移らせていただきます。

〔9番 松本憲二君 登壇〕

○9番（松本憲二君） 続きまして、玉名市の基幹産業である農業の現在のその課題と、今後の玉名市としての取り組みについてということなんですけれども、本年度から減反政策が廃止されるということで、これは多田隈議員が一昨年だったかな質問をされた中で、1億ちょっとぐらいの減反奨励金が多分、玉名市に下りてこないというような状況になるというような答弁があってるわけですがけれども、そんな中で、もう今、こっち私から見たら右手のほうなんですけれども、こっちのほうを見たら田んぼにもう水張り、そして肥料まきが先ほどまでちょっとなされてたわけですがけれども、こういうその稲の作付けが行なわれるその時期となりましたけれども、今、減反政策が廃止された

今、農地の耕作放棄地化が非常に懸念をされているわけですが、現在のその玉名市の状況はということでお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

〔産業経済部長 松本忠光君 登壇〕

○産業経済部長（松本忠光君） 松本議員御質問の減反政策が廃止された今、農地の耕作放棄地化が懸念されるが、現在の状況はについてお答えいたします。

米政策につきましては、国の政策展開に伴い、平成30年産から行政による生産数量目標の配分に頼らず、生産者や集荷業者団体の主体的な判断により生産可能になりました。本市といたしましても2月末から3月にかけて実施しました管内のJA支所単位での地域説明会を通じ、10アール当たり7,500円の米直接支払交付金廃止により、不作付け地が増加しないように、米作付けの推進を図ったところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 松本憲二君。

○9番（松本憲二君） 答弁をいただきました。

新聞紙上でも載ってるんですけども、その主食用米に関しては、その日本全国で6県が増産ということで、その作付けの面積をふやすということで、それはもうほとんどやっぱり北海道から東北のほうがやっぱりそのお米のおいしいところ、お米処と言われているところが作付けがふえるというような状況で、そしてまたあとの地区に対しましては、その県とか市町村単位で、ある程度の話し合いの中で、米の販売価格であったりとか、そのやっぱり作付けが多くなれば過剰になりお米の値段が下がるというような、そういう懸念材料があるということで、いろんなその調整が本年度はなされたのかなというふうに私も思ってるんですけども、今、やっぱりその米のその主食用米と飼料用米、それと加工米、そしてまたその飼料米というのが、お米になってそのお米を刈り取って飼料に出す部分と、今度はWCSといって、そのまま結局、茎のまま、青刈りですね、青刈りを結局する部分と、今、入ってきてもうそのお米といっても、稲作といっても、いろんな分野が今、あるわけですね。しかしながらいろんな状況の中で、やっぱりこう見ましても、耕作放棄地がやっぱり転々とやっぱり点在する中で、自民党の農林部会が新聞に出してたのが、その米の輸出増へ支援拡大ということで、低コスト産地を育成ということで、ここに新聞に書いてあったのが、その平野部、平野部では多収量米といって、1反当たり、普通だったら大体8俵から多く取れて10俵ぐらいのところは普通なんですけれども、この多収量米というのは12俵から15俵ぐらいとれると。そういうのを推進していきますよと、今後は。そしてましてやその今度は中山間地においてはブランド米を導入をして、そして富裕層に対して、海外の富裕層に対してそういうおいしい米を輸出をするということで、新聞にもちゃんとやっぱり載ってますし、そうい

う支援をちゃんとしていくよということでもあります。そういう中で、本市といたしましては、そのこういうその自民党の輸出米増へ支援拡大ということで、いろんな多分取り組みがなされると思うんですけども、その辺をどのように把握、把握というか、この自民党が打ち出された、自民党の農林部会が打ち出されて、それはＪＡの、この前ＪＡの全国大会というのがあるんですけども、そこでも農林部会の小泉進次郎会長が行かれて、こういうことを打ち出していきますよということなんですけれども、そこに対しての今の玉名市としてのその把握というか、取り組みというか、何かそこに対してのは、今何かなされてるかどうかというのが、部長わかりますか。

やってないならやってないでいいです。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） あとで回答させていただいてよろしいでしょうか。

○９番（松本憲二君） はい、済みません。

○議長（中尾嘉男君） 松本憲二君。

○９番（松本憲二君） そうしたらちょっとあとでお願いいたします。

そうしたら、じゃあちょっと関連があるんで、ちょっと２番のほうに移らせていただきます。

その稼げる農業を目指すために、農家に対して市としての結局、取り組みというのが、何か今、あるのかというのをちょっとお聞きしたいと思うんですけども。

２番の部分です。私の質問のこの。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 松本議員御質問の稼げる農業を目指すためにということですね。

○９番（松本憲二君） はい。

○産業経済部長（松本忠光君） 農家に対して市としての取り組みはについてお答えいたします。

現在、玉名市が独自で取り組んでおります単独補助事業につきましては、地域の担い手である認定農業者が、農業経営基盤強化促進法等に基づく５年以上の賃貸借権を設定し、農地を借り入れた場合、借り手、貸し手に対し１０アール当たり１万円と５，０００円の助成金を交付する玉名市農業担い手規模拡大助成事業がございます。また、認定農業者等が生産力回復や景観美化のために耕作放棄地を解消に取り組む場合、１０アール当たり１万円を交付する玉名市耕作放棄地解消対策事業補助金もございます。また、このほかにも認定農業者の農業経営の安定化のために農業経営の効率化や省力化等に取り組む場合、農業用機械や設備等の購入費用の一部を助成する玉名市農業機械等整備事業に取り組んでいるところでございます。

次に、今後の取り組みとして、新規補助事業の創設につきましては、現在のところ特に計画しておりませんが、農業者のニーズを踏まえた上で、既存の補助事業の内容の見直しや予算規模や補助対象範囲等の拡大も場合によっては必要かと考えておりますので、引き続き、必要な予算の確保に努め、足腰の強い稼げる農業づくりを目指してまいります。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 松本憲二君。

○9番（松本憲二君） 今、答弁をいただきました。

玉名市での独自の取り組みということで、その認定農家に、その貸した場合に1万円とか5,000円とか、それと機械の25%の補助があったと思うんですね、やっぱりここに私、玉名市の食料・農業・農村基本計画というのが、その29年3月を持ってるんですけど、いろんなその多様な担い手、後継者の育成確保とかですね、いっぱいこう農業所得の向上っていうところもあります。本年、今までその熊本の赤ということで、赤牛、トマト、イチゴということで、非常にその湧いて、トマトも昨年まではまあまあ高かったのかな、しかしながら今年は急激に落ち込みまして、もうトマト類が非常に暴落をして、イチゴは非常によかったと、もう多分、前年比対の金額では110%ぐらいまでいってるんじゃないかなというふうな農協の推計が出ております。今はその熊本の赤牛も非常にもうやっぱりブランド牛として非常に高値で推移をしていると。牛全体が今非常に高値で推移をしているというふうな状況なんですけれども、熊本の赤の中でも、そのやっぱり3つの中のそのトマト類が非常にその今年はもう非常にその低迷をいたしまして、生産者は今嘆いているわけなんですけれども、今、やっぱりこのJAたまな管内を見ましても、イチゴからやっぱり作物転換をされる農家が非常に多いと、それはなんかといたらやっぱりその労働力のやっぱり一番最盛期になれば、朝の3時からハウスに行って、夜は7時、8時までのパック詰め作業というような、非常にその時期的なものなんではあるんですけれども、そういうのがやっぱり若者がそういうその仕事形態を嫌がるというようなことで、後継者がいるところでは、非常にその作物転換というのがなされております。そんな中で、今ここに資料の中にもあるんですけれども、担い手、そして新規就農者は玉名は多分一番多かったと思うんですね、その中で新規就農者が農業を始めた場合、じゃあ、全然そのサラリーマンの結局、家庭から自分は農業したいということで、農家を始めた場合に、その支援というのが全くないわけですね、その金銭的な面で、若干そのお国の政策で農の雇用ということで、150万円ぐらいっていうの、しかしながらそれは結局その雇われた側に入ってきて、それをその研修をされてる人に給与として渡すのか、そういう感じなんですけれども、じゃあ、自分でハウスを始めるっていったときに、無利子の融資しかないんですよ、そうしたらじゃあ、ハウ

スを建てます。じゃあ、認定農家もまだとってないような感じ、そしてまた、いろんなその半額補助の政策にも自分は手を挙げられないというような状況で、その担い手をやっぱり確保していくという分野で、やっぱりそのそしてまたイチゴの土耕栽培から高設栽培にするときってというのは、今3分の1補助しかその国のほうでのその施策がない。やっぱりそこにまた新たに玉名市が2割を補助をしてあげれば、50%の補助になるというようなこともある。やっぱりその辺もしっかりその考えていかないといけないし、その本当に新規就農者がその農家を始めるときに、結局トラクターも必要なんですよ。消毒をする道具も必要なんですよ。そういうのを全部考えると、無利子なんですよ補助がない。やっぱりそこで補助の創設、今、非常にその東京の若者の人口が減ってるというなのが週刊誌に載ってて、どこ行ってるのっていったら、長野とかそういうところで農家をやりたいということで、夫婦で引っ越されてる方が非常に多いんですね、そういう現状を思えば、定住でも、こうやっぱり農地に「農業やりませんか。」っていうことで、「補助こっだけありますよ。」っていうのも定住促進にもつながるんじゃないかなと思うんですけど、その辺のその玉名市、本年度が多分1,800万円の予算が計上してあったと思うんですね、農業のそのいろんな省力化だったり、しかしながらその限定してあったわけですね、結局これに、これに、これにっていうことで、そこも少し緩和策だったり、そのもうちょっと予算的な面でふやすというようなお考えは、その市長のほうにはないのかなというのをちょっとお伺いしたいんですけども。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） ありがとうございます。

通告にない質問で、よろしいですかね。

○9番（松本憲二君） はい。

○市長（藏原隆浩君） 議員おっしゃるとおり、そういったところは考えていかなければならないと思っておりますし、耐候性ハウスの問題であるとか、なかなか建設費に費用がかかりすぎるので、どうにかならないかというお話もよくいただいております。そこに補助を出すという考え方も検討していかなければならないのかもしれませんが、例えば、これからはいろんなプロジェクトチームなりなんなりを考えながら、例えば、そのハウスを建設する会社をつくってみるとかですね、そういうことも考えていかなければ、側面からできることも考えていかなければならないだろうというふうに思っております。総合的に、あとからまたいろいろ答弁をしていく場面も出るだろうというふうに思いますので、それぐらいにとどめといてよろしいですかね。

必要性は重々感じております。

○議長（中尾嘉男君） 松本憲二君。

○9番（松本憲二君） ちょっと通告してなかった部分で、ちょっと急に市長にふった

もんですから。

このいろんな面で、やっぱりこの今、やっぱりどうしてもこの玉名では、その基幹産業というのは、その農業というのが占めてるということで、やっぱりここ2年ぐらいは農業の景気がよくて、国民健康保険の分野でも一番上限まで達せられた農家がふえて、その国民健康保険の分野でも税収が上がったというようなのは、もう数字的に出てるわけですけども、今、その耐候性ハウスだったり、今、市長がおっしゃられましたその耐候性ハウスだったり、そういうその補助事業に関しまして、農協に共販されてる方は、農協のほうでいろんな書類手続きを結局やってくれるわけですけども、農協共販外の方々というのが、その申請が非常に難しいような今、状況に至っているわけですね。そんな中で、やっぱりそこは行政、結局、お金がこの行政を通していくわけですね、耐候性ハウスであったり、そういうその補助金、国の補助金というのはですね、そういう観点から、ちゃんとその同じ玉名市で農業をされてて、農協の共販と共販外ということで、それはそのJAさんが結局、区別をされてるわけですから、そこはそこで仕方ないんですけども、しかしながらちゃんとそこ、玉名市で農業を営まれて、そして市税もちゃんと納めていただいているというような状況で、そのやっぱり補助金申請の部分で、行政としての後押しというのもしっかり考えていかないといけないのかなというふうに思うんですね、そしてまた、ミカンのやっぱり天水地区を見てみますと、やっぱり廃園というのが非常にふえてきまして、今年はミカンが高かったんですけども、量が取れてないというような状況。そしてまた、先ほど西川議員の質問でもありましたイノシシも頭数が年々ふえてるというような状況で、非常にそのやっぱり懸念されるわけですけども、私は、県南のほうを見ますと県がしっかり力を入れている県南のフードバレー構想というのがあります。しかし県北の方はなかなかそういうのがない。熊本県で初めての結局取り組みになると思うんですけども、行政と農協が連携をして、その玉名農業推進プロジェクト室かなんかを結局、つくるというようなのも1つの案じゃないかなと思うんですね、行政のほうから職員をじゃあ、何名か、それと農協のほうから何名かということで、結局、農家の方々とのお付き合いというのは、非常に農協のほうに密にやってますんで、やっぱりそういうところの情報を行政もちゃんと把握をすとか、そしてそこでこう全部その補助事業に関しては、その推進プロジェクト室で全部受けるよと、だから共販外の人全部相談に来てくださいというような、そういうそのやっぱり農業をやっぱり改革して、前に進めて、高所得を上げていただく。そしてその耕作放棄地もしっかり解消していくというようなので、そういう熊本県内初のそういうそのプロジェクト推進室というのを立ち上げてみてはどうかというふうに思うんですけども、その辺に関しましてどのようなお考えをもってらっしゃるか、ちょっとお伺いしたいと思うんですけども。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 松本議員の再質問にお答えします。

補助事業申請についてＪＡ共販者の場合、基本的にはＪＡが申請書類を作成いたしますが、共販外の場合、申請者自らが申請書類を作成しなければならず、補助事業に取り組みがたいとの御指摘でございますが、現在もＪＡ共販以外の生産者が申請される場合、担当職員による申請書類のサポートを行なっているところでございます。非共販農家の方が、補助事業に取り組みようとされる場合、申請書類等の作成が少しでも容易になるように、市職員の相談窓口の強化、充実に努めてまいります。

済みません、引き続きまして、先ほどちょっと答弁漏れがあった部分を、答弁の追加ということでよろしいでしょうか。

一番最初の減反政策が廃止された今、農地の耕作放棄地が懸念されるが、現在の状況はというところで、数字を申しておりませんでしたので、数字をちょっと申し上げたいと思います。

実際の主食用米作付面積につきましては、平成２９年産が２，４０４ヘクタールでありましたが、平成３０年産は２，３６５ヘクタールとなり、３９ヘクタールの減少となりました。

また、先ほどあとから答弁するといったものですが、松本議員の再質問ですね、ブランド米の自民党農林部会で平野部は多収量米、中山間部はブランド米の通信と示されたが、市としての考えについてということで答弁いたします。松本議員の再質問ということで、市としての考えにつきましては、平野部では高く売れる米のみを追い求めずに、多収性品種「やまだわら」や「山田錦」のような専用品種の作付けを推進し、中山間部においては熊本県が推奨する県オリジナル水稻新品種「くまさんの輝き」の推進を考えております。また、米政策や消費動向に柔軟に対応できる水田フル活用ビジョンを着実に推進するとともに、主食用米と飼料用米や米粉用米などの非主食用米等のバランスを図り、あわせて需要に応じた生産となるように、ＪＡを初めとした市内の農業団体との連携により地域に応じた米づくりを推進してまいります。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 松本憲二君。

○９番（松本憲二君） 答弁をいただきました。

やっぱり平成２９年から平成３０年、３９ヘクタールほどやっぱり減少してるというふうな状況があります。その辺はしっかり今後、その減ったところが耕作放棄地化にならないように、目配りをしっかりしていただきたいなというふうに思います。

今のちょっと私のさっきの質問の中で、ＪＡとの結局、取り組みでその農業の活性化推進プロジェクト室というのを、そういうのをちょっとつくってみてはどうかというこ

となんですけども、それに対してちょっと市長のほうから何か思いがあられるかどうかというのを、ちょっと答弁をいただきたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） ありがとうございます。

先ほど、その必要性は大いに認められるというふうに申しあげましたけれども、やはりこれはＪＡさんのほうとしっかりと協議をしてから進めていかなければならないだろうというふうに思っております。当然、そのアプローチの熱が、どれくらい熱量があるのかという問題も含めてになると思いますけれども、ＪＡさんとともにしっかりと検討をしていかなければならないだろうというふうに思っております。

設置されるならば、それは素晴らしいことであり、それなりの事業内容をもって、それなりの成果が上がっていくのではないかというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 松本憲二君。

○９番（松本憲二君） 北海道のほうでは、ＪＡきたそらちというところが、行政と連携で法人を設立ということで、もうやってらっしゃいます。やっぱりその基幹産業であるのを、どうやっぱり伸ばすかっていったら、やっぱり行政もしっかり考えて、そして税収のちゃんとした確保、そしてやっぱり所得向上をやっぱりちゃんとしたこの基本計画で、ちゃんとやっぱりその所得向上ということで、そしてまた、その基幹産業の食糧の安定供給ということで、ちゃんとうたってあるわけですから、やっぱりその辺はしっかりやっぱりＪＡさんと協議をしていただいて、そういう方向に、いい方向に向かっていていただきたいなというふうに思います。

この中山間地でなかなかやっぱり私も石貫とか三ツ川だったり、月瀬だったり、そういうところにちょっと脚を伸ばすわけですけども、非常にやっぱり耕作放棄地も少しずつ、少しずつではありますけれども、ふえてるような状況で、圃場の整備がなかなか担い手がもう少なくなって、圃場の整備がなかなかできないというような現状にも至っているのかなというふうにも思います。そしてまた、岱明の鍋の下沖洲地区ですかね、嶋村議員ですね、あの辺もですね、圃場のその整備ができないというような状況で、田植えをする前には小さい圃場の前にエンジンのポンプを何個も並べて、毎日ガソリンをつぎ足し継ぎ足しに行ってるような光景も非常にやっぱり目にして、非常にやっぱり作付状況もままならないのかなというふうに思いますけれども、多分、担当課はわかってると思うんですけども、この中間管理機構というのは多分もう皆さん御存じだと思うんですけども、政府が今、非常にすすめている中で、農地バンクということで、この中間管理機構というので、こういうその担い手がない地域は結局、その圃場整備、基盤整備をしようとする、農地を所有している人が１２．５％のその費用を負

担しなければなりません。だからもうお年が召した方々が、「いや、それだけお金を払わなるとなれば、もう後継者もおらんけん、もうそういうお金は払いたくない。」ということで、その断念をされるということなんですけれども、その地区全体で、平野部だったら10ヘクタール以上あれば、「もう私たちはつくらないけん、だれかに貸します。」というときに、中間管理機構にそれを全部10ヘクタールなら10ヘクタール、全部お貸しするわけですね、そうしたら中間管理機構が圃場整備、基盤整備を全部します。地主には一切求めません、お金は。しかしながら15年間はその結局、所有者にもお金は行かないんですけれども、基盤はきっちりできて、そして新たな担い手がその10ヘクタールなら10ヘクタールを作付けができる。圃場はきっちりきれいに整備されたところを作付けができるというような制度があるんですね、やっぱりそういうのもしっかりやっぱり行政として、そこ地区、地区にあった説明会を実施して、そういう理解を得ながら、やっぱりそういう説明がなかとかなかなかこう情報が入っていない部分があります。やっぱりそういう面をしっかり行政として説明をしていただいて、これは今、水田だからということで、水田に圃場整備をしなきゃならないという条件もあります。畑にしてもいいんです。水田だったところを畑として圃場整備をして、そして新たなその担い手が、そこでできるということで、これはちょっと取り組みをここで書いてあるんですけれども、鳥取県米子市では、その小さく曲がりくねった区画が連なる10.6ヘクタールをその野菜を作る圃場としてその整備をしたということで、ここにはやっぱりそういうそのダイコンとか、そういうところがやっぱり鳥取では非常に、ネギも非常に流行ってますんで、そういうところにもともと水田だったのを基盤整備によってそういう畑地に全部転換をして、新たな担い手にその貸し付けたという事例も載っています。そういうことをしっかり地域に説明をしていただきながら、しっかりやっぱり玉名の基幹産業であるやっぱり農業をそのもっともっと前に推進をさせていただいて、そしてしっかり所得を向上させていただいて、税金をしっかり払っていただいて、いい玉名市を形成していけるようお願いを申し上げまして、私の一般質問はこれで終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、松本憲二君の質問は終わりました。

議事の都合により、暫時休憩いたします。

午後 2時59分 休憩

午後 3時15分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

6番 古奥俊男君。

〔6番 古奥俊男君 登壇〕

○6番（古奥俊男君） 皆さんお疲れでございます。最後の質問者になります。最後までお付き合いのほど、よろしくお願いいたします。

6番、新生クラブ、古奥俊男です。

本日は、3つの項目を質問させていただきます。

玉陵学園の小中一貫校の開校後の検証について、これは私なりの検証であります、新学年が始まり2カ月がたちました。スクールバスで通学する子どもたち、生徒に聞けば「バスは楽しい。」「なぜ。」と聞いたら「車内で友だちと話ができる。」「運転手さんも優しい。」と、評判もよいように思われます。また、6校の生徒も思ったより早く仲よしになったと思っています。子どもたちも学校生活を楽しんでいるように見てとれます。玉名小学校区におきましては、徒歩での通学ですが、子どもの安全を第一に、朝はそれぞれの集合場所まで、帰りは地域の方々が見守り隊という組織をつくり、子どもと一緒に学校から家庭までの送り迎えをしております。これは、地域があるからこそできることだと思います。ありがたいことです。今後は、教育委員会、学校、保護者さん、PTA、地域の方々とともに、よりよい学校を目指し一緒に検証していただきたいと思います。

通告に従って質問をさせていただきます。

1番、今後の緑地、樹木の必要性についてであります。校舎、プール、体育館、運動場と施設はできあがり、開校いたしました、残念ながら運動場においては緑がありません。開発行為において最低3%の緑地を設けなさい条件がありますが、開発において運動場を緑地広場と見なすという項目があり、市は緑を外されたと思います。これが不思議でならなかったために、私は、県振興局城北本部に出向き、項目をたどりましたが、「開発行為において項目がある以上、許可しましたが、緑に関していないとか、そういうことは一切言っていない。」と、「それは学校運営者が決めることであります。」ということでありました。5月の梅林校区の球技大会において、駐車場は150台で満杯になり、運動場においては日陰がなく、競技中に校舎の陰に移動し、競技を見られない状態であったと聞いています。今後、緑の大切さ、樹木の大切さ、その必要性、環境の大切さをどう考えておられるかお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

〔教育部長 戸寄孝司君 登壇〕

○教育部長（戸寄孝司君） 古奥議員の今後の緑地、樹木の必要性についてお答えいたします。

玉陵小中学校のグラウンドの樹木につきましては、まず、グラウンド整備を行なう前に、樹木のあり方について玉陵中学校と相談をし、記念樹等の確認や今後の樹木等の手

入れ等を勘案し、移植する樹木を選定を行なった上で、グラウンドの南東側にもみじと木蓮を移植したところでございます。しかしながら、4月に開校しました玉陵小学校のグラウンドと玉陵中学校のグラウンドは一体的となり、広々としたグラウンドとなった一方で、議員御指摘のとおりグラウンド周辺には緑がなく、日陰もない状況でございます。児童生徒の教育環境を考えますと、もう少し緑豊かなほうがよいのではないかと考えているところでございます。今後小中学校、あるいは周辺住民の方、及び周辺で農業をされてる方と御相談をしながら、植樹に適した時期、本数などを考慮しつつ、計画的に植樹を進めたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 古奥俊男君。

○6番（古奥俊男君） ありがとうございます。

おっしゃるとおり、やっぱり学校は勉強の場でもありますけれども、昔からよく遊び、よく遊べというように、運動場には非常に大切な教育の一環だと思っております。やっぱり緑というのは大切でございますので、今後計画的に植樹なされて、子どもたちが喜んで運動するような場所にしていきたいと思えます。

では2番に移らせていただきます。

玉名学と月瀬太鼓についてでございますが、玉名学、エンジョイ・イングリッシュと玉名学は玉名市独自の教育だと思います。よい人間社会を構築を目指すことは、地域社会において重要であり、それは絆、道徳、論理といったことに起因しますが、新聞、テレビ等で、毎日これに起因する問題や事件ばかりがあり、こういった問題は家庭、学校、地域社会全体で取り組まなければなりません。小学校、中学校の義務教育期間中にこれらの教育が成されることが極めて重要であると考えます。玉陵小学校、中学校、学校教育目標というのを掲げてありますけれども、玉陵小学校の目指す目標とここにちょっと読ませていただきますが、目標としまして、郷土を愛し、未来を切り開く力を備えた児童、生徒の育成、具体的目標といたしまして、自分の言葉で自信を持って表現できる力、よりよい社会の実現に貢献できる高い志、人生を生き抜く健康や体力、玉陵小中学校の目指す子ども像として、希望する進路に向け、主体的に確かな学力を身につける児童生徒、自他を大切にし、思いやりのある心豊かな児童生徒、心身共に健康で、生涯にわたって運動に親しむ児童生徒となっております。こういうふうに書いてありますが、言葉というのは、書くのは簡単であります。実行し、その実績を出すというか、これが一番難しいのではないかと思います。まず、実行が第一歩で、そしてその実績が伴ってくるものと思います。玉名学とは、歴史と文化、郷土愛があり、絆づくりとなっていると思います。月瀬太鼓はその地域の協力があって20年間伝統文化を維持してきましたが、絆づくりが人間社会づくりの原点ではないでしょうか。見守り隊も、地域が

あるからこそ、安心・安全が保てていることと思います。

そこでちょっと教育長にお尋ねします。

月瀬小学校の伝統ある太鼓は教育上残したいとは思われませんか、お伺いしたいと思います。教育長にお願いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 教育長 池田誠一君。

○教育長（池田誠一君） 古奥議員のお尋ねにお答えしたいと思います。

月瀬太鼓は先ほど古奥議員がおっしゃったように、月瀬地区の子どもたち、地域の方々が20年かけてつくってこられたすばらしい、もう伝統芸能と言っていいところまでできているようなもので、月瀬の子どもたちの誇りでもありました。そういったことにつきましては、私も同じ考えを持っております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 古奥俊男君。

○6番（古奥俊男君） ありがとうございます。

確かに、そういうことは私もそう思っておられると思いますんですけども、残したいと思われないのかなということをお願いしたんですけども、そういう答弁でありましたので、ちょっとこれ質問はなかったんですけど、ちょっと市長にお伺いしたいと思います。

月瀬小学校の閉校式典に参列され、月瀬小学校の子どもたちの太鼓をお聞きになりましたが、いかが思われましたでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） 教育長に続き、私のほうからは閉校式で子どもたちの最後の閉校式での全校生徒が一丸となって、すばらしい演奏をされた。本当に涙なしには、そこにはいれないというほどすばらしいものだったというふうに思います。

もうちょっとしゃべってもよろしいですか。

○6番（古奥俊男君） はい。

○市長（藏原隆浩君） 幾つも来るようでしたら、この辺で、まだいいですか。

教育長もおっしゃられたとおりでもありますし、そういう中でやはり6小学校が統合をしまして、各地域においてもそれぞれの伝統芸能というものがございます。その中で月瀬地区のほうからもぜひとも残していただきたい、残したいんだという意思表示をしっかりとさせていただくことによって、やはり取り組みとして残していけるのではないかなというふうに思ってます。私もあれその太鼓が全校生徒が一丸となって、すばらしい演奏する姿を見ながら、教育の一環としてもすばらしいことではないかなというふうに感じたところであります。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 古奥俊男君。

○6番（古奥俊男君） ありがとうございます。

私もなるだけ残していただきたいという思いで質問をさせていただきました。市長のほうから、非常に前向きな言葉をいただきまして、少し安心をいたしました。あとはよろしく願いしておきます。

確かに、こういう玉名学は玉名独自の費用で生まれたもんだと思っておりますので、月瀬太鼓も地域の方たちは残したいという思いでいっぱいでございますので、よろしくお願いしておきます。ありがとうございました。

続きまして、3番目の公民館のあり方と投票箇所についてでございますが、各小学校には御存じのように校区の公民館施設ということ、会議室が設けてあります。合併に当たりその使用方法で意見の不一致があるように思われます。教育委員会が3年間の使用可とする言葉を出されましたが、私は5年間という意見を申し上げたんですが、結果論として3年間になりました。出された以上は守るべきものであります。この3年間の間に学校の買い取りとか借り上げ等々の問題が生じた場合は、地域と話をされ、合意をすればできるものと、私は確信しております。地域も発展することに対して反対はなされないものと考えます。

そこで、この考え方は、私の考え方は、教育委員会としての考え方をお聞かせいただきたいと思います。

教育部長で結構です。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

○教育部長（戸寄孝司君） 跡地の活用ということでございますかね。

○6番（古奥俊男君） はい。

○教育部長（戸寄孝司君） 跡地活用につきましては、今まで地域の方々といろいろと協議をしてまいりましたが、なかなか進まない部分がございます。もちろん閉校しまして、数箇月たってきたわけですが、このあと進展が見られる可能性もございます。その中では、やはり言われるとおり、地域の方々とも御相談しながら、その跡地活用については協議していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 古奥俊男君。

○6番（古奥俊男君） ありがとうございます。

そのことでこの前、ずっと各課長さんたちが、各校区、支館の会長さんたちと回られながらお話をなされたと聞いております。私も聞いておりますので、安心はしましたが、要は、すぐにもっと早く決めた以上は、守っていただきたいと。また、それが課長さん変わったら、また方針が変わったという問題が生じておりましたので、そういうこ

とがないように、一度は言った以上は守っていただきたいと思いますので、よろしくお願いしときます。

それから、投票箇所についてでございますが、閉校になりますとどうしても今度は、今話があったのが、例えば、三ツ川とか、小田とか、買い取りになるか、リースになるかわかりませんが、あとそこそこで今から先、市議会選挙とか市長選挙とか、県会議員さんとか、4年に1回でございますけども、衆議院選挙になりますといつあるかわかりません。そこがずっと使えるのかという問題が生じてくると思います。今までは体育館で投票をやっておりました。大体学校というのは、その真ん中ぐらいに位置しております。ところがなくなったときに、どういう投票箇所をしていらっしゃるのか、今はありますからいいです。でも、なくなったときにどこで投票をするのか。どういうお考えなのか、それをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 古奥議員の公民館のあり方と選挙箇所について答弁をさせていただきます。

玉陵校区の選挙投票所につきましては、これまで7つの投票区を設け、奥野を除く6つの投票区におきましては、小学校施設を利用しております。そのうち三ツ川では校舎を、そのほかの残りの地区につきましては、それぞれ体育館を使用させていただいているという状況でございます。玉陵小学校の統合によりまして、旧玉名小学校につきましては、新しい玉陵学園の施設を活用させていただきたいというふうに考えております。また、その他につきましては、当面の間は従来どおりの場所を使用させていただきたいと考えておりますけども、将来的には、跡地活用における検討状況や地域の実情等も十分に踏まえながら、投票区内の自治公民館など利用させていただきたく、その方向で考えております。

また、議員御指摘のような駐車場等の課題もございますので、地域とも十分協議をさせていただきながら、今後の状況に従って、投票所の場所の変更は有権者の投票環境の利便性の低下につながりかねませんので、今後とも慎重に検討を進めて対応をしてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 古奥俊男君。

○6番（古奥俊男君） ありがとうございます。

確かに、そういう公民館という案もあるかと思いますが、ただ、公民館はやっぱり小さい公民館から、所帯が大きい、大きい公民館まであります。でも、玉名校区で言いますと、今真ん中ですので、結構それでも車でほとんど投票に来られています。今度は例えば、公民館を、どっかの公民館を借りて使用するとありますと、玉名校区で言

いますと、例えば、下迫間まで行かれた場合は、こっちは大坊からこっちまで、端から端まで行かなんということになります。どうしてもそうなりますと、車で投票に行かれると思いますが、普通の公民館だったら、広いところで4、5台しかとまりません。小さいところで2、3台、ないところも結構あります。そうなりますと、投票率は相当下がる可能性が出てきますので、いろんな面を考慮しながら検討していただきたいと思います。よろしくお願いします。

〔6番 古奥俊男君 登壇〕

○6番（古奥俊男君） 1番は終わらせていただきます。今度は2番に移させていただきます。

専門職の増についてでございますが、新玉名駅周辺の開発によって、進捗状況を見ておりましたが、ちょっと遅いように、私自身が思っております。担当者さんにお聞きしましたところ、一人の職員さんが小さい工事まで含めると5本ぐらい抱えておるという状況です。図面を発注し、警察の交差点協議とか、地元説明、県の認可、結構多忙を極めているように見てとれます。

そこで、このほかに土地交渉も担当しているようでございますので、ちょっと建設課を考えてみますと、一般建設事業に加えて、都市計画、用地交渉も担当しておりますので、ちょっと他と比較をしてみたいと思います。

農林水産業の予算が39億2,600万円、土木は29億5,800万円、教育費が28億9,400万円、同等規模のやつをちょっと比較をさせていただきます。農林水産業におきましては、39億2,600万円のうちに、職員は46名、人件費が3億1,800万円ぐらいですね、それと土木が、29億5,800万円のうちに、3億1,565万6,000円、教育費は、28億9,400万円のうちに、これは61名の職員がいっぱいいます。4億6,200万円ぐらいの人件費がかかっております。単純にこれを1人幾らかと計算しますと、農林水産が691万6,000円、土木費が671万6,000円、教育費が757万5,000円、が1人当たりの給料に当たります。ほかにもちろん教育費においては、28億9,400万円のうち、人件費が8億2,937万4,000円でございます。そのうち、2億8,800万円ぐらいがこれ文化財の調査の費用です。合計しますとこの金額になります。そうしますと、人件費を引いた事業費が、農林水産においては35億8,000万円、土木費が26億3,900万円、教育費は、20億6,400万円、その中で、農林水産費の内訳を見ますと、事業費は35億8,100万円でございますけども、補助金というのがございます。強い農業づくり補助金として11億9,100万円、あと担い手とか促進とか、水田農業構造改革とか、農業集落排水、多機能機能、これ合計しますと人件費込みだったら27億円なんですけど、人権を引いた金額でいきますと、19億5,000万円ぐらいになる。そうすると、10億

円ぐらいここが高いんでございますけども、あんまり他の事業とかかわらないんじゃないかなと思って、61名の職員さんがいらっしゃいますけど、人件費がちょっと高いのかなという感じをいたしておりますけども、内容がどうなっているか、ちょっと私は判断をしかねますので、それは控えさせていただきます。そんな中で、土木費におきましては、47名、総額で3億1,500万円、土木管理費が1億2,900万円、道路橋りょう費が17億1,000万円、河川は1,200万円、都市計画が7億1,500万円となっております。内訳はもう中に入らんとわかりませんので、これが正しいのかどうか、わかりませんけども、金額の一番多い職員分の給料といたしまして、1人当たりが教育費におきましては、757万5,000円です。土木が671万6,000円ですから、その差額が85万9,000円、年間違う。要するに管理職が多いのか、それだけの職員がいるのか、わかりませんけども、それだけの費用を使っていることにはかわりはありません。

そこでちょっとお聞きしたいんですが、建設部長にお聞きします。職員は足りていますか。お聞きしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

〔総務部長 西山俊信君 登壇〕

○総務部長（西山俊信君） 古奥議員の御質問、建設課の職員、専門職が不足しているのではないかということについて御答弁をさせていただきます。

現在、建設課の主な業務といたしましては、道路や河川、橋梁、排水施設等の建設に関することや都市計画景観形成、用地事務に関することなどがございますが、それらの業務に課長を含めて14人で対応しているところでございます。そのうち土木技術職としまして、採用された職員につきましては、8人を配置しておりますけども、先ほどの松本議員の一般質問でお答えしたとおりでございます。土木技術職員の絶対数につきましては、不足が生じているというのが現状でございます。

つきましては、先ほどの答弁と重なるところがございますけども、平成31年4月1日に採用いたします今年度の職員採用試験では、土木技術職員の確保に向けまして、全力で取り組んでまいりたいというふうに考えております。

また、職員採用試験における採用辞退者の補充や土木技術職員の育成を図るなど、専門職員不足の解消に努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 古奥俊男君。

○6番（古奥俊男君） ありがとうございます。

30年に職員採用がなされて、確か3名の募集があったと思いますが、ゼロということでございます。また、今年度何名かの募集がなされるかと思っておりますけども、そうしま

したら、例えば、建設課の職員が足りないというのは、都市計画もなんもかんもやっておるということだろうと思います。そこで、職員が足るようになりましたら、機構改革といえますか、私から言わせれば、都市計画駅前開発は分散したほうがいいんじゃないかなろうかと思っております。その辺はいかがお考えでしょうか。総務部長、お尋ねいたします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） ただいまの古奥議員の再質問にお答えいたします。

現在、策定中の新玉名駅周辺等整備基本計画やその他都市計画業務につきましては、市街地開発等のために都市計画課の新設設置を視野に入れながら、機構改革に今後検討を進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 古奥俊男君。

○6番（古奥俊男君） ありがとうございます。

なるべくスムーズに進行しますように、できれば機構改革も考えていただければありがたいなと思っています。よろしくお願いいたします。

2番はこれで終わらせていただきます。

〔6番 古奥俊男君 登壇〕

○6番（古奥俊男君） 続いて、3番目の新玉名駅周辺の開発についてであります、今度第2次の基本計画が、整備計画が説明がありました。道路網と35.6ヘクタールの分で計画されております。縦2本、横3本の道路となっております。ところがこの駅前周辺は地元では深田地区と申しまして、新幹線駅ができるときに15メートルまでL値が0ということは、非常に軟弱地盤ということです。特に、向かいにありますケーズ電気横につくる道路、通常中牟田線と申しますが、先だって市道認定をしていただきました。今から用地交渉とか、測量しながら、工事が行なわれていくかと思えますけども、この箇所は余盛りを1年間かけなきゃなりません。なぜならば地盤沈下がおきますので、その防止として1年間の余盛りをするわけなんです、東西線も、県道の東西線も1年間全線において余盛りをしております。通常、30センチから50センチ下がります。そうなりますと、今、工事認定をしていただいて、工事を始めて、余盛りを始めたとしても、来年1年間そのままの状態でおかなくてはなりません。工事は再来年になります。こういう状況で、その周辺整備をしていきますと、恐らく10年ぐらいかかりはせんかなと、縦2本と横3本の道路が完成するまで。そのためには、今度の第2次の周辺等整備基本計画に載っておりますように、早く今、農道でございまして、市道認定を一括して一緒に行ない、測量費、地権者の了解を得られれば、早めにその余盛りをしていただいて、1年間おかなきゃなりませんので、他の工事の廃土が出る可能性があ

るところからこの余盛りを早めにして、工事が前に進むようにしていただきたいなと思います。また、排水路の計画が今回載っておりませんが、現状では、任意の2つの排水路があります。これも一緒に計画をすべきじゃないかなと、私は思っております。あくまでも、今のところ基本計画ですので、私のあくまでも意見ということでお聞きいただければ結構かなと思いますので、答弁は結構でございます。

私の一般質問は、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、古奥俊男君の質問は終わりました。

以上で、本日の日程は、終了いたしました。

明13日は、定刻より会議を開き、一般質問を行ないます。

本日は、これにて散会いたします。

午後 3時54分 散会

第 3 号

6 月 1 3 日 (水)

平成30年第3回玉名市議会定例会会議録（第3号）

議事日程（第3号）

平成30年6月13日（水曜日）午前10時01分開議

開 議 宣 告

日程第1 一般質問

- 1 7番 北本 将幸 議員（創政未来）
- 2 3番 吉田 憲司 議員（創政未来）
- 3 1番 坂本 公司 議員（新生クラブ）
- 4 14番 内田 靖信 議員（自友クラブ）
- 5 10番 徳村 登志郎 議員（無会派：公明党）

散 会 宣 告

本日の会議に付した事件

開 議 宣 告

日程第1 一般質問

- 1 7番 北本 将幸 議員（創政未来）
 - 1 新玉名駅駐車場の有料化について
 - （1）西側駐車場開設からの利用状況について
 - （2）有料化の目的について
 - （3）定期利用者に対する対応について
 - 2 金栗四三PR推進事業について
 - （1）大河ドラマ館の概要について
 - （2）集客目標の設定について
 - （3）経済効果について
 - （4）地域商店会との連携について
 - （5）和水町、小田地区との連携について
 - 3 フルマラソン事業について
 - （1）現在の進捗状況と今後の流れについて
 - （2）県や地域団体との連携について
 - （3）他のマラソン大会との関係について
 - 4 職員の人事異動、組織再編について
 - （1）人事異動の基準について
 - （2）異動における職員の希望調査について
 - （3）職員の適材適所の把握について

- (4) 各部署における専門家の育成について
- (5) 組織再編による秘書課政策推進係の役割と業務について
- (6) 組織再編による地域振興課の業務について

2 3 番 吉田 憲司 議員（創政未来）

- 1 平成30年度予算執行に伴う提言について
 - (1) 地域公共交通対策事業を進める上で、市職員等のノーマイカードの実施について
 - (2) マイキープラットフォーム事業に対する付加価値について
 - (3) 観光スポット（蛇ヶ谷公園、高瀬裏川水際緑地、山田日吉神社等）におけるイベント期間中の来場者数と、トイレの洋式化及び設置数について
- 2 介護施設等に従事する介護職員（看護師含む）の慢性的な職員不足について
 - (1) 現状の認識と将来の見通しについて
 - (2) 今後、深刻となる介護職員不足の対応策について
- 3 多目的競技場について
 - (1) 3月議会で市長が答弁された多目的競技場の機能及び利活用について

3 1 番 坂本 公司 議員（新生クラブ）

- 1 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）に関する事項について
 - (1) 地域振興課情報発信係の働きについて
 - (2) SNSでの問題及び犯罪について
 - ア 誹謗中傷以外の問題について
 - イ デジタルタトゥーとは
 - ウ 出会い系サイトになりうるのでは
 - エ 生徒や児童に教育しているのか
- 2 児童・生徒に関する事件及び命のあり方について
 - (1) 昨今の事件について
 - ア 学校や地域はどのような対策をとっているか
 - イ 不審人物への対応は
 - (2) うつ病や自殺に関連する事項について
 - ア 全国や玉名の自殺者の統計は
 - イ うつ病との関係性は

- 3 大河ドラマ「いだてん」ドラマ館について
 - (1) 内容や設置規模等について
 - (2) 宣伝内容の規定は
 - (3) ステージ、屋根、椅子等について
- 4 14番 内田 靖信 議員（自友クラブ）
 - 1 光回線インターネット接続について
 - (1) 整備することによる具体的な効果について
 - (2) 荒尾・玉名管内における整備状況について
 - (3) 未整備地区の背景について
 - (4) 国・県の財政措置について
 - (5) 玉名市の今後の整備方針について
- 5 10番 徳村 登志郎 議員（無会派：公明党）
 - 1 生活困窮世帯の子どもの学習支援について
 - (1) 学習支援の現状について
 - (2) 高校中退者を含む10代の「高校生世代」の学習支援拡充について
 - (3) 小学生への学習支援の充実について
 - 2 いじめ通報アプリの導入について
 - (1) いじめ相談の現状について
 - (2) 千葉県柏市等で導入されているいじめ通報アプリ「STOP i t（ストップイット）」について
 - 3 キッズウィークについて
 - (1) キッズウィークの導入検討について
 - 4 健康マイレージの導入について
 - (1) 本市が実施している健康づくりについて
 - (2) 健康マイレージと行政ポイント付与事業の活用について

散 会 宣 告

+++++

出席議員（21名）

1番	坂 本 公 司 君	2番	吉 田 真樹子 さん
3番	吉 田 憲 司 君	4番	一 瀬 重 隆 君
5番	赤 松 英 康 君	6番	古 奥 俊 男 君
7番	北 本 将 幸 君	8番	多田隈 啓 二 君
9番	松 本 憲 二 君	10番	徳 村 登志郎 君

11番 城戸 淳 君
 13番 嶋村 徹 君
 15番 江田 計 司 君
 18番 前田 正 治 君
 20番 森川 和 博 君
 22番 田畑 久 吉 君

12番 西川 裕 文 君
 14番 内田 靖 信 君
 16番 近松 恵美子 さん
 19番 作本 幸 男 君
 21番 中尾 嘉 男 君

+++++

欠席議員（1名）

17番 福島 讓 治 君

+++++

事務局職員出席者

事務局 長 堀内 政 信 君
 次長 補佐 松野 和 博 君
 書 記 古閑 俊 彦 君

事務局 次長 荒木 勇 君
 書 記 松尾 和 俊 君

+++++

説明のため出席した者

市 長 藏原 隆 浩 君
 総務部長 西山 俊 信 君
 市民生活部長 村崎 信 介 君
 産業経済部長 松本 忠 光 君
 企業局長 松本 優 一 君
 教育部長 戸寄 孝 司 君
 会計管理者 竹村 昌 記 君

副 市 長 村上 隆 之 君
 企画経営部長 水本 明 子 さん
 健康福祉部長 松野 信 生 君
 建設部長 前田 慎一郎 君
 教 育 長 池田 誠 一 君
 監査委員 元田 充 洋 君

午前10時01分 開議

○議長（中尾嘉男君） ただいまから、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（中尾嘉男君） 日程第1、「一般質問」を行ないます。質問は、通告の順序によって許すことにいたします。

7番 北本将幸君。

〔7番 北本将幸君 登壇〕

○7番（北本将幸君） 皆さんおはようございます。7番、創政未来の北本将幸です。

昨日は、シンガポールにて史上初の米朝首脳会談が開催され、共同声明が発表されました。声明では、核の非核化や朝鮮半島の平和体制の構築などが含まれていました。また一步、世界平和が進んだのではないのでしょうか。しかし、各国の反応では、具体策がないなど批判的な意見も出ていました。やはり物事を進めていくには、具体的に提示していくことが必要だと、改めて感じました。玉名市がだれもが住みよい町になるために、議会としても具体案をしっかりと提示しながら議論して進めていかなければいけないと思います。

それでは、通告に従いまして、一般質問を始めさせていただきます。

まず初めに、新玉名駅駐車場の有料化について質問いたします。新玉名駅の駐車場においては、開通以来無料駐車場として利用されてきましたが、混雑が問題となっており、その解消が求められてきました。対策の一環として、駅西側に新駐車場が拡張され、4月から本格的な利用が開始されています。西側駐車場の開設により、駐車台数もふえ、混雑は大分解消しているように感じます。しかし、ゴールデンウィークなどの大型連休においては、利用者が多くまだ混雑しているようです。このような中、今議会において新玉名駅駐車場有料化に向けた条例改正案が上程されています。内容としては、一時利用が1時間を超えたら100円で、上限1日500円まで、月額利用が5,000円を上限として改正される予定ですが、詳しい料金設定においては、今後業務委託など、業者選定を進められていく中で決定していくと思います。

そこで、新玉名駅駐車場有料化について3点質問いたします。

1、西側駐車場開設からの利用状況について。2、有料化の目的について。3、定期利用者に対する対応について。

以上、3点質問いたします。

○議長（中尾嘉男君） 建設部長 前田慎一郎君。

〔建設部長 前田慎一郎君 登壇〕

○建設部長（前田慎一郎君） おはようございます。

北本議員御質問の新玉名駅駐車場の有料化についてお答えをいたします。

初めに、1点目の西側駐車場開設からの利用状況についてでございますが、西側駐車場は、本年4月1日より供用開始を行ない、新たに211台分のスペースを増設を行ない、既存の駐車場とあわせると465台となっております。また、西側駐車場の供用開始に伴い、これまでの交流広場と芝生広場の臨時駐車場のほうは閉鎖をいたしました。供用開始を行ないまして、まだ2カ月余りでございますが、利用時間帯でも多少の差はあるものの、調査を行なっております昼頃には、既存の駐車場では平日及び週末も満車の状態にあります。また、新設いたしました西側駐車場におきましては、平日は6割の駐車状況、週末は8割程度の利用となっております。ただ、議員がおっしゃいましたように、先日の大型連休の5月4日の日においては、利用者も非常に多く、既存の駐車場も西側駐車場におきましても100%超えの利用状況でございました。

次の質問の有料化の目的についてお答えをいたします。平成23年に開業以来、これまで県北の拠点駅として無料化を推進してまいりましたが、先ほど申し上げましたように、連休時には増設したにもかかわらず不足する状況もおきております。やはり今後は駅の利用者の方々が安心して駐車できるように有料化の目的といたしまして、第1に混雑の解消、2つ目に受益者負担の観点から有料化のほうを考えております。

次に、3つ目の質問でございますけれども、定期利用者に対する対応についてお答えをいたします。駐車場定期利用者につきましては、新玉名駅の新幹線定期購入者の方々を考えております。今後は指定管理者のほうに管理をお願いする方針ですので、定期券額を月額5,000円以内の料金と考えております。月額料金を仮に4,000円と設定いたしますと、一般利用者の方々の1日最大の金額、これもやはり仮定でございますが、1日当たり400円の場合は10日分になりますので、月額料金といたしましては、割安の料金設定と考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 答弁いただきました。

まず、1点目の西側駐車場開設からの利用状況についてですけど、既存の駐車場はほぼ毎日埋まってるということで、西側の拡張されたほうは平日が6割で、休日が8割ぐらい埋まってるということで、この拡張したことによってその目的の混雑解消のほうは大分解消してるんじゃないかなと思います。でも、ゴールデンウィークなど大型連休にはいっぱいになったということで、目的のもう1個である受益者負担の考えも含めて、今回、有料化を進めていかれると思いますけど、この有料化を進めるに当たって、ゲートを設置したり、機械を設置したり、新たな設備投資が必要になると思いますけど、そ

の新たにかかる費用としてはどのくらい、概算でいいんですけど、わかればお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 建設部長 前田慎一郎君。

○建設部長（前田慎一郎君） 再質問にお答えをいたします。

有料化に伴う維持管理費用でございますけれども、今期6月議会において、新玉名駅駐車場の条例のほうを上程しております。これから駐車場管理体制に伴う指定管理者の選定業務を行ないますので、金額は確定しておりませんが、新玉名駅駐車場の台数の規模から考慮いたしますと、おおよそ月額250万円から350万円のほうを試算しております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 今、維持管理料のほうが250万円から300万円ぐらいということだったんですけど、その新たにつくるゲートの費用とかわかんなかったですか。

○議長（中尾嘉男君） 建設部長 前田慎一郎君。

○建設部長（前田慎一郎君） その点は、ゲート持ち込みのほうで指定管理者のほうにお願いをしていこうという考えです。

なぜならば、ゲートを市管理で行ないますと、1基当たり1,000万円から2,000万円の間ということになりまして、新玉名駅の駐車場の場合、南口、北口、西口の3カ所になります。そうすることで、約3,000万円から5,000万円の範囲になりますけれども、どうしてもその出入り口のゲートに関しましては、毎日のこのゲートの開閉がありますので、5年を以て機械の交換という話を聞きましたので、それではもう5年おきにその市税のほうから払い込むよりも、月額そちらのほうで、指定管理者のほうで機械持ち込みということで考えました。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 機械も含めた上で、今回有料化進めていく上で、新たに250万円から300万円、維持管理がかかってくるということなんですけど、今回、条例改正では、先ほど答弁にもあったんですけど、1日利用の人がマックスで500円以内で、定期利用の人が5,000円以内。だからそれよりも恐らく安くなると思うんですけど、465台駐車台数があるとして、大体毎日多くてもそれが1回転するぐらいじゃないかなと思うんですけど、ちょっと私、457台でちょっと計算してきたんで、ちょっとすれちゃうんですけど、1日100円として、その457台がとめられたとしたら、1日で4万円ぐらい、4万6,500円ぐらいになって、それが30日になって、それがまた年間になって、大体収入というのがわかってくると思うんですけど、100

円は多分安いと思うんで、もっと上になると思うんですけど、その収入を有料化することによって金額的には、その３００万円を賄える程度ぐらいにするということによろしいんですか。

○議長（中尾嘉男君） 建設部長 前田慎一郎君。

○建設部長（前田慎一郎君） 再質問にお答えをいたします。

決して駐車場において利益を求めるものではございません。ただ、今の維持管理のほうにつきましても、年間７００万円ほどの維持管理が係っております。いずれにしても構造物ですので、やはり舗装においてもいずれか維持管理のほうは入ってくると思いますので、それらを考慮いたしまして、これから指定管理者を決めていく中で、市長、副市長との相談をしまして、当駅の駐車料金体制を考えていきたいと思います。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○７番（北本将幸君） 有料化することによって、受益者負担も含めて、決して利益を生むものじゃないという考えで進められて、維持管理程度ぐらいでいかれると思うんですけど、よく市民の方からも「有料化したほうがいいんじゃない。」って言われることが多いんですけど、その言われるときに、有料化したら市に新たな財源がふえて、それがもっと活用できると思われてる方も結構いるんで、そうじゃないということで、ちゃんと受益者負担をして、駐車場の維持管理費ぐらいで進めていくということなので、最後に市長が有料化、今回決意されたと思うんですけど、その総合的に質問含めて、その市長がどういう思いで今回、有料化に踏み切られたのか、最後１点だけ質問いたします。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） ありがとうございます。

先ほども建設部長のほうから答弁がありましたとおりでございますが、県北地区の拠点としての位置づけであるこの新玉名駅でありまして、これまでは無料化を推進してまいりました。しかし、利用者の方が安心して利用できる駐車場の形態を考えるならば、受益者負担の観点から、やはり有料化にするべきではないかというふうに考えるわけでございます。

今後は答弁、これまでの答弁でもあったとおり、平成３１年度からの有料化に向けて推進を図って、その後の民間活力のほうにも、しっかりと期待をするところでもあります。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○７番（北本将幸君） しっかり、そういう目的を持って、混雑解消も含めて、進めて

いただきたいと思います。

定期利用、毎日今まで利用されてる方たちもいると思うので、そういう人たちの駐車スペースをしっかりと確保するなど、しっかりと利用されてる方の利便性が向上するように、今後進めていただきたいと思います。

次の質問に移ります。

〔7番 北本将幸君 登壇〕

○7番（北本将幸君） 次に、金栗四三PR推進事業について質問いたします。

玉名市の名誉市民である金栗さんが主人公である大河ドラマ「いだてん」の放送開始まで、早いもので残すところ半年余りとなりました。そのような中、今議会において大河ドラマ館の建設関連予算が計上されております。ドラマ館の事業費としては総額4億5,000万円程度になると報道されておりました。入場客数は30万人を目標としているとのことでした。大河ドラマは放送されると多くの観光客が舞台となった地域を訪れ、経済波及効果が数百億円になるため、一部の自治体では、大河ドラマの誘致を積極的に行なっています。経済効果の大きなところでは、龍馬伝の535億円、真田丸の200億円など、本当に大きな経済効果をもたらしています。もちろんこの両方にもドラマ館が設置され、90万人程度の来場者が訪れています。現在、西郷どんが放送されており、鹿児島にもドラマ館が建設されていますが、先月5月23日に20万人を突破したとの報道がなされておりました。この大河ドラマを活用した観光事業の1つが大河ドラマ館の設置であります。今までのドラマ館の来場者数や経済効果においては、各地域で大きな違いがあります。それは大河ドラマ自体の人気であったり、交通の利便性であったり、自治体の取り組み方であったり、さまざまな要因があると思います。今回は、今までの大河ドラマとは違い、近代の方を描くもので、しかも1年間1人の主人公を物語とするのではなく、2人の方をオリンピックをもとに描いていく形となり、形式もいっしょとは違っています。金栗さんは、前半部分の主人公と言われているので、最初の半年間が勝負になってくるのではないかと思います。

そこで、金栗四三PR推進事業について5点質問いたします。

1、大河ドラマ館の概要について。2、集客目標の設定について。3、経済効果について。4、地域商店会との連携について。5、和水町、小田地区との連携について。

以上質問いたします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

〔産業経済部長 松本忠光君 登壇〕

○産業経済部長（松本忠光君） おはようございます。

議員御質問の金栗四三PR推進事業についてお答えいたします。

まず、大河ドラマ館の概要についてでございますが、今回の大河ドラマ館は、設置場

所を旧玉名市役所庁舎跡地として、建物面積が約620平方メートル、うち展示施設は約350平方メートル、特産品等販売所が約120平方メートル、その他チケット販売ブース、トイレ、事務所等が約150平方メートルを設けることとしております。

続きまして、集客目標の設定についてでございますが、集客の目標設定をドラマ館の来館者数とし、年間で約30万人の来館者を予定しているところです。年間30万人の根拠につきましては、過去の大河ドラマ館を設置された平成20年の鹿児島市「篤姫」、平成27年の萩市「花燃ゆ」の目標来館者数や実績を参考に設定いたしました。

次に、経済効果についてでございますが、玉名地域に経済効果を広く波及させるためには、たくさんの方へお越しいただき、食事処で飲食やお土産物を購入していただくことで、経済効果につながってくるものと考えております。そのためにも、今回、玉名市いだてん地域振興協議会に新たに立ち上げた、飲食物販部会へ新たな飲食メニューや物産品の開発等を積極的に取り組んでいただきたいと考えているところです。また、1市2町協議会の中でも、金栗四三氏のゆかりの地をめぐる新たな観光ルートの開発に取り組み、大河ドラマを契機とした新たな旅行商品の造成に取り組んでおりますので、ドラマ終了後も継続した経済効果の波及につながるよう、官民一体となって進めていきたいと考えているところでございます。

次に、地域商店会との連携についてでございますが、玉名商工会議所や玉名市商工会、さらには、地域の商店会などと連携し、ドラマ館のみならず、近隣の商店街へ回遊させる仕掛けを今後検討してまいりたいと考えているところです。特に、来訪者へ地元の食材を使った新たな飲食メニューの提供や既存のお土産の磨き上げなどについても先ほど申し上げました飲食物販部会を中心に、地元の商店会と連携し、取り組んでいきたいと考えているところです。

最後に、和水町、小田地区との連携についてでございますが、まず、和水町が今回設置する施設は、金栗氏の人物像を知っていただく「金栗四三ミュージアム」であり、本市に設置する施設は、ドラマ館の世界観を楽しんでもらう「ドラマ館」であり、差別化が図られているところから、双方を訪れ楽しんでもらうための入場券の割引制度等を検討し、回遊につなげていきたいと考えているところです。また、小田地区につきましては、引き続き地区の方々との連携を図るとともに、金栗氏の住家や瀬戸口公園など新たなゆかりの地として回遊していただけるようなスキームや整備手続きについて検討を進めてまいりたいと考えているところです。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 答弁いただきました。

まず、1点目の大河ドラマ館の概要についてですけど、特産品の販売所も含めて、展

示施設も含めて建設されるとの説明だったと思います。報道で書かれていたのは、その展示施設には疑似体験型みたいなものも取り入れられるとのことですので、今までにない魅力的なドラマ館をつくって、玉名市の活性化につなげていただきたいと思います。このドラマ館の建設というのは、玉名市いだてん地域振興協議会、この協議会で今後進めていくことになると思います。実際、今回の議会でもこの地域振興協議会に対する負担金として2億4,282万5,000円が計上されているわけですけど、この玉名市いだてん地域振興協議会は、昨年12月に発足したと思います。金栗四三PRも含め、大河ドラマ「いだてん」を生かした活性化に向けて、さまざまな取り組みをこの協議会で行なっていけるんだなと思っていたんですが、この協議会発足から、約半年経過したわけですけど、先月、5月に第2回、やっと2回目が開催されて、このドラマ館の場所が決定して、この2億円、3億円もの事業費を負担して行政が渡すわけですけど、この大河ドラマを生かしたPRって、結構力入れないといけない事業だと思うんですけど、この協議会自体がたった2回しか開催されていない理由か、意図か、あるのかお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 北本議員の再質問にお答えいたします。

議員御質問の玉名市いだてん地域振興協議会は、今回で2回目になるわけなんですけども、その間の動きについてでございますが、昨年12月22日に民間の商工観光、地域の団体等を中心とした第1回玉名市いだてん地域振興協議会が発足いたしました。第1回の協議会では、ドラマ館の建設予定地の選定に伴い、各委員の方から意見を伺うため、候補地に関するアンケートを配付し、その後複数の候補地が上げられ、事業費や利便性、効果面を検証する中で、候補地の絞り込みを行なってまいりました。また、あわせて各団体等でのどのような取り組みが考えられるのか、直接団体等へ出向き聞き取りを行なう中で、意見の集約を図ってまいりました。そのような中、候補地の1つである小田地区の区長などにドラマ館の候補地に関する事務局の考え方を説明し、一定の御理解をいただいたことから、第2回の協議会開催に至ったということでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 1回目で集めて、アンケートを取って、それを集約、直接聞き取りに行って、集約して行って、最後は小田地区の合意というか、了承が取れたので、最終的に5月に2回目を開いたとの答弁だったと思いますけど、ということは、もうその2回目の協議会が開かれるときは、ある程度内容が固まった時点で2回目の協議会を開いて、今回、議会に2億5,000万円ぐらいの負担金が上げられてお渡しするわけですけど、実際、12月から、12月発足してもう6カ月あったわけなんですけど、こ

ここにその協議会の規約をもらってきて、メンバーが書かれているんですけど、市長を会長として、商工会議所の会頭であったり、観光協会の会長であったり、青年会議所の理事長であったり、区長会の会長であったり、そうそうたるメンバーが入っています。直接職員の方が聞いて、意見を集約するというのも大事だと思うんですけど、こういう各団体、団体のメンバーが入られて、協議会をつくっておられるわけですから、やっぱり会議をせっかくだったら、月1回やるだけでも6回できたと思うんですね、6回会議をしていろんな意見を出し合って、その中で集約して最終的な決定をすれば、またよりよいものが生まれてきたかもしれないし、その一緒に会議をすることによって結束力も生まれて、さらに市民を巻き込んでいった動きになったんじゃないかなと思います。やっぱりこの半年間たった2回しか開催されなかったというのは、やっぱりこの盛り上がりをもっと見せるためには、ちょっともったいなかったのかなと思います。

この規約の目的も書いてあるんですけど、目的読むと、大河ドラマ「いだてん」に係るイベントの実施に関することであったり、大河ドラマ「いだてん」に係る情報発信に関することであったり、いだてんを活用した誘客促進等経済効果の向上に関することであったり、さまざまな目的が上げられています。この目的達成するためには、本当たくさんすることがあると思います。せっかく本当、大河ドラマ旧庁舎に建てるとして、今からスタートしていくわけですので、この協議会というものをもっともっと生かして、みんなでつくり上げていくような流れをつくっていただきたいなと思います。

2点目の集客目標の設定についてですが、30万人という目標設定されて、篤姫と萩の花燃ゆを参考にされたということで、ここに大河ドラマの来館者数がいろいろ書いてある資料があるんですけど、篤姫だと60万人ぐらいで、花燃ゆの、萩市の花燃ゆのドラマ館だったと30万人ぐらい来られていて、これを参考にして30万人という集客目標を立てられたと思いますけど、今後、受け入れ体制を整える中で、他の自治体、こういうドラマ館を建設された地域では、放送中の観光客増加に伴う問題点として、観光ガイドの不足や地域、観光地での人と車の増加による安全面の問題などが課題だったみたいです。今後、恐らく玉名市でもこういう安全対策やボランティアガイドなど、課題が出てくると思いますんで、しっかり取り組んでいただいて、この30万人という目標は最低でも30万人はいきたいという目標だと恐らく思いますんで、いい意味でもこれを上回っていけるように、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

3点目の経済効果についてですけど、具体的な数字はなかったんですけど、今までの大河ドラマの舞台となったところの県の観光客数の増加は、過去10年間の平均で約6%程度増加するという統計もあります。要因としては、イベントが放送期間中に連続して開催されたり、テレビや新聞などのマスコミ報道により多くの情報が発信され、観

光客増加につながると思います。答弁にもあったんですけど、その経済効果の1つとして、食事処での飲食等、答弁があったんですけど、やはりこのご飯を、来てご飯を食べるといのは経済効果をもたらすと思うんですけど、この玉名の観光施策の中で、やっぱりいつも問題にされるのが、この食事処の問題だと思います。現在、花しょうぶまつりあって、結構たくさんの方が毎年来られるんですけど、団体の食事するところが少ないとか、たびたび言われています。今回、ドラマ館建設においては、その飲食する、食事処などについては、どのような考えで進められるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 議員の再質問にお答えします。

ドラマ館設置に伴う飲食関係についてでございますが、第2回玉名市いだてん地域振興協議会では、先ほど答弁しました飲食物販部会を立ち上げたところでございます。地域の食材を使った商品開発や物産品の販売促進、飲食店との連携を図っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） とにかくドラマ館自体には、その近隣には新たな食事処はつくらないということでもいいんですかね。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） ただいまの件ですけども、飲食物販部会ということで立ち上げておりますので、その部会のほうで話し合いをしていただいて、必要であれば確保するということになります。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） この食事処に関しては、きのう城戸議員のほうも心配であると言われていましたけど、今後、飲食物販部会で考えていかれるということなので、やっぱりドラマ館に来た人をそこからどうやって地域に流れをもっていくかというのは、やっぱり簡単なことじゃないと思いますけど、やらなければいけないことだと思います。玉名自体にも魅力的な飲食店、たくさんあると思いますんで、しっかりその流れをつくってけるように、今後、その部会であったり、協議会であったりで議論して進めたいと思います。そのためにも、小田小跡地でなくて、この中心地である旧庁舎跡地にドラマ館をもってこられるんだと思いますんで、このぜひともこの飲食関係については、ちゃんと来た人が帰るんじゃなくて、来た人が玉名に流れていくような仕組みをつくっていただきたいと思います。

このいだてんに関しては、こういう玉名市内の連携も重要なんですけど、この生誕の地である和水町やゆかりのある南関町との連携も重要になってくると思いますけど、こ

の1市2町のいだてん地域振興協議会の取り組みの現状としては、どうなっているのかお伺いします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 1市2町の地域振興協議会動きについてでございますが、主な事業としては、ロゴマークの作成業務、金栗四三氏ゆかりの地域誘客推進業務を進めているところでございます。

ロゴマークの作成業務につきましては、全国から広くデザイン案を公募したところ113点の応募がありまして、投票選考後、デザイン1点を玉名地域の共通ロゴマークとして決定いたしました。今後は、のぼりやチラシ、物産品など、広く活用していきたいと考えているところでございます。

次に、金栗四三氏ゆかりの地域誘客推進業務につきまして、今回の大河ドラマによる経済波及効果を一過性のものにするのではなく、ドラマ終了後も地域への誘客を持続させるために、観光地を結ぶ交通体系の構築と、観光ルートの開発は必要であることから、和水町の生家や小田の住家、玉名地域の観光素材を結ぶルート開発を進めているところでございます。

各市町の取り組みについては、それぞれでやっておりますので、完全に把握しきっておりませんので、答弁を控えさせていただきます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 答弁いただきました。

やっぱり答弁であったように、その観光ルートの開発というのがやっぱり、1個手段じゃないかなと思うんですけど、現実的に、玉名のドラマ館であったり、和水のミュージアムであったり、生家であったり、住まれていた住家であったり、お墓であったりを結ぶ観光ルートというのは、実際に開発可能なのか、開発に向けて検討されているのか、その辺をお伺いします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 和水町の金栗四三ミュージアムと大河ドラマ館を結ぶ観光ルートの計画についてでございますが、先ほど答弁いたしました金栗四三氏ゆかりの地域誘客推進業務の中で、和水町のミュージアムや玉名市の大河ドラマ館、小田の住家、玉名地域の観光素材を結ぶルートの開発を進めているところです。

特に、今月6日、7日の2日間にわたり、旅行会社を対象とした金栗四三ゆかりの地視察ツアーを実施したところ、11社の参加があったところでございます。今後も引き続き魅力ある観光ルートの開発に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） このそれがこの新聞なんですけど、このモニターツアー大分大きく取り上げられていたんですけど、11社ぐらい旅行関連会社の方が参加されてたので、こういうのが観光商品になっていったらさらにアピールしていけるんじゃないかなと思います。この記事のこの下側に和水町が金栗さんの生家を一般公開へという記事も同時に載ってました。入場料200円前後で見学できるようにして、2万人ぐらいいを来て貰えるように目標立てて進めていくと書かれていたんですけど、玉名市にも住まれている住家があると思うんですけど、その辺については、玉名市は現時点でどうお考えられているかお伺いします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 議員御質問の小田にある金栗四三氏の住家の活用についてでございますが、住家につきましては、金栗氏のお墓に近いこともあり、来訪者の新しい回遊ルートとして検討していきたいと考えております。

ただし、住家につきましては、金栗氏の御親族が所有され管理を行なわれているため、その活用にあたっては、今後御親族と相談を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 住家については、親族の意向も考えながら進めていかないといけない部分もあると思いますが、和水町はこのミュージアムをつくるといったのも、大分、1年前にもう打ち出して進められて、今回、玉名市は大河ドラマ館を今から打ち出していくわけなんですけど、この生家もう既に和水町はこういうふうに使おうと打ち出されてるんですけど、やっぱりPRしていくに当たって、お隣の和水町のほうがやっぱり1歩1歩先をいってるなというような感じがします。玉名市もこれから取り組んでいかれると思いますんで、しっかりスピード感をもって、余り時間ないんで取り組んでいただきたいと思います。

この大河ドラマの効果を一過性に終わらせないためにも、大河ドラマ館を見るためだけでなく、玉名市の魅力的な観光資源を生かして、さらに玉名の魅力を伝えていけるかが重要だと思います。新幹線もあり、高速インターもあり、都市圏からの地理的条件はいいと思います。モニターツアーに参加された鹿児島の方のコメントが掲載されていましたが、金栗さんは今放送されている西郷どんの西郷さんほど一般的に知られておらず、逆に新鮮な興味をかき立てるのではないかと書かれていました。私もそうだと思います。知られていないからこそ、可能性は大きいと思います。また逆に、知られていないからこそ、取り組み方次第ではほとんど効果がないという結果にもなりかねません。市民を巻き込みながら、市全体で取り組んでいけるように市長を先頭として頑張っていただきたいと思います。

この大河ドラマを用いた観光施策には、コンテンツツーリズムという言葉が用いられます。これは国土交通省、経済産業省、文化庁などが共同でまとめた映像とコンテンツの政策活用による地域振興のあり方に関する調査報告書において、コンテンツツーリズムという言葉が用いられるようになりました。この語源は、地域にかかわるコンテンツ、いわゆる映画であったり、テレビドラマであったり、小説、漫画、ゲームなどを活用して観光と関連産業の振興を図ることを意図としたツーリズムであります。映画のロケ地巡りや大河ドラマ観光、アニメ、漫画の聖地巡礼など、数えれば切りがない状況にあります。実際、玉名においてもこの前、同田貫がゲームに用いられたことにより、その刀を見るために多くの方が玉名に訪れました。関連したグッズも発売されました。今回もこの大河ドラマ「いだてん」というコンテンツを通して、それを観光資源として活用することが重要です。SNSが発達し、ありとあらゆるところから情報が飛び交う時代となり、定住人口が減少していく日本では、いかに交流人口をふやすことが重要になってきています。このコンテンツツーリズムの課題として、よく上げられるのが、持続可能性であります。大河ドラマのようなこの大々的なコンテンツであっても、その効果は放送があっている1年間だけか、あるいは長くとも2年ぐらいで、一過性なものが多いと言われています。しかし、大河ドラマ放送後、翌年も観光客が増加している自治体もあります。そういう自治体では、新たなイベントを実施したり、新たな施設を開業したり、観光客を集めるさまざまな努力をして、魅力を創出されています。この大河ドラマをコンテンツとした新たな事業として考えられるのが、マラソンの父とされる金栗さんにちなんだフルマラソン事業だと思いますけど、それでは次の質問に移ります。

〔7番 北本将幸君 登壇〕

○7番（北本将幸君） 次に、3点目のフルマラソン事業について質問いたします。

マラソンの父といわれた金栗さんが、大河ドラマの主人公として来年放送されるわけですが、市長もこれを千載一遇のチャンスとして考え、フルマラソンに取り組んでいきたいと宣言されました。しかし、フルマラソン事業はいまいち進展してないような気がいたします。フルマラソンの開催にたどり着くまでは、コースの選定や運営人員など、ボランティアの確保、参加者や観客の安全面の確保、交通規制に伴う市民生活への影響など、解決すべき課題が数多くあると思います。しかし、開催するのであれば、この一つ一つ課題をクリアしていかなければなりません。

そこでフルマラソン事業について3点質問いたします。

- 1、現在の進捗状況と今後の流れについて。
- 2、県や地域団体との連携について。
- 3、他のマラソン大会との関係について。

以上、3点質問いたします。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

〔教育部長 戸寄孝司君 登壇〕

○教育部長（戸寄孝司君） おはようございます。

北本議員のフルマラソン事業の現在の進捗状況、今後の流れについてお答えいたします。

現在の進捗状況といたしましては、フルマラソン大会のコース設定を複数検討しているところでございます。また、フルマラソン大会を企画するに当たり、主要な関係団体、検討委員会を設立すべきか、検討段階での実行委員会を設立すべきかを含めて検討しているところでございます。

今後の流れにつきましては、フルマラソン大会は再来年の春までの大会を開催できるように目標を立てておりますけれども、大会開催の半年前にはエントリーを開始する必要がありますので、これまでの間に関連団体との協議を行なっていく予定としております。

次に、県や地域団体との連携についてお答えいたします。

熊本県との連携につきましては、道路を使用する際の申請と、それから県内マラソンマップ「走Runね熊本」等での情報発信など、これからより密に連携を図っていきたいと考えております。また、地域団体との連携につきましては、玉名警察署をはじめ、交通指導隊、玉名青年会議所、商工団体、陸上協会と大会運営の要となる団体への協力のお願いが必要となります。さらにコース付近の商店街や道路の迂回が必要となるトラック協会と、マラソン大会への御協力をお願いしなければならない団体もございます。各団体への協力のお願いや連携は随時行なってまいりたいと考えております。

3番目に他のマラソン大会との関係ということでございますが、現在、市が実施しておりますマラソン大会は、金栗杯玉名ハーフマラソン大会、玉名市横島町いちごマラソン大会、ミカンと草枕の里スポーツ祭でのマラソン大会等がございます。フルマラソン大会を単体で行なうということも現段階の中で、検討の中にはございます。既に既存の大会にフルマラソン大会を組み込むという形での整理、それから既存の大会の磨き上げ、全体の再構築も検討にありますので、これから慎重に判断し、効果的な大会運営となるように調整を進めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 答弁いただきました。

このフルマラソン事業については、12月議会にも質問させていただいたんですが、そのときの市長の答弁としては、民間が盛り上がってきて、民間主導で進めていただいて、市としても協力できるところは協力していきたいという答弁だったと思います。その後、2月に市長が市としてフルマラソン事業に取り組むと宣言されて、報

道にも大きく載りました。これは市が先頭に立って取り組んでいくという意思表示だったのかなと思います。公言されて2月、2、3、4、5、4カ月ぐらいたつんですけど、具体的な進展というのがまだないかなというように感じているんですけど、市長として、現時点でいいんですけど、このフルマラソンに対してどういうふうにお考ええられるのか、考えのほうをお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） 宣言をしましたとおり、官民連携でしっかりとフルマラソン大会は実現していきたいというふうに思っております。その思いには全くかわりはありません。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） しっかり開催していきたいということであるんで、今後していくからには、やっぱり具体的に課題をクリアしていかなければならないと思います。実際、マラソン大会するんであれば、部長の答弁でもあったんですけど、やっぱりコースの問題が一番決めなければいけないかなと思うんですけど、東京オリンピックのマラソンコースもちょっと前に発表されていまして。コース選定していくには、お隣の和木町であったり、南関町さんとの連携が必要な場合も出てくるのではないかと思いますけど、この開催に向けては玉名市単独で行なっていくのか、それともほかの和木町、南関町さんとも協力しながら行なっていくという考えなのか、その辺、今の時点でわかればお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） マラソンのコースにつきましてですけれども、現在、複数のコースを検討中であります。

玉名市内で完結させるコース。また、複数の市、町をまたぐコース。それから金栗四三氏ゆかりの場所を通り、必ず通らせるコースなど、エリア、またルートがさまざまありますので、それから実現できるか、できないかという問題もありますので、大会の実行委員会の設立までには、ある程度のコースを固めて、単独開催なのか、その共同開催なのかの方針を、市、町としてのコースがまたぐ場合は、そういった部分を決定してまいりたいというふうに考えております。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） いろんなコースがあって、その協議会というか、検討委員会立ち上げられるときには、ある程度コースを絞って進めていきたいという答弁だったと思います。本当このコースはやっぱり規制とかしないといけないので、難しいと思いますし、そのゆかりの地を通りたいと思うと、この道路をどうしても通らないといけないと

か、いろいろあると思うんで、しっかり今、検討をされてるということなんで、進めていただきたいと思います。

この検討委員会立ち上げていくに当たって、やっぱりこのフルマラソンって結構事業が大きいと思うんで、一から市内だけで立ち上げるっていうのはかなり労力がいると思うんですけど、民間の企画会社っていうのもあるとお聞きするんですけど、そういう企画会社も含めて、そのマラソン大会を実現に向けて進んでいくというような、そういうほかの民間の団体との連携については、どう考えておられるのかお伺いします。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） ありがとうございます。

民間との連携というか、委託というんですかね、民間事業者への委託ということですが、その前に、市としても民間と民間団体としっかり連携をしながら、ぜひ、フルマラソン大会を先ほど申し上げましたとおり、開催の実現をさせていきたいというふうに思っておりますし、市としても全面的に取り組んでいきたいというふうな思いがあります。

当然ながら、今回のフルマラソン大会、官民連携しなければ、決して大会の実現できるものではないというふうに思っておりますし、そのためには、まず、市としてそして私は市長としてリーダーシップをしっかりと発揮していかなければ実現できないというふうに考えたわけでございます。それで、民間企業への委託を考えているかどうかということですが、当然民間企業に委託することによって、大会の開催が現実性を増す、実現できる、具現化できるのであれば、民間企業への委託も視野に入れて、ただいまも検討しているところでありますので、その際には、また、皆様方の御理解と御協力をお願いしたいというふうに思います。

それから、ドラマ館の件もそうなんですけれども、やはり先方さん、相手方がいらっしゃるものですから、NHKとの折衝で非常にデリケートな問題もありますので、なかなか公の中で、大勢の方々と話をできるというものではないということの御理解はいただきたいというふうに思います。そういったことで、ある程度NHKとの理解が示される中での提案をしなければならないという問題もあった。それから今回のマラソンの実行委員会にしてもそうなんですけれども、大勢の方たちに集まっていただいて、それぞれに、それぞれのコースを、たくさんのコースを上げていただいたところで、警察協議、要するに交通の規制の問題がありますので、できる、できないということが限られてきます。だからある程度コースというものは固めた中で、実行委員会を立ち上げて、固められたコースの中でどうやって実現していくのか、そこを皆さんと知恵を出し合いながら話しあって、何としても実現させたい、そういうふうに思っておりますので、どうか御協力をよろしくお願いします。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 私もその市長がリーダーシップとられて、庁内である程度具体的にこういうのでいきたいというのを打ち出して、そこから検討していく形が一番進んでいくんじゃないかなと思います。

今、庁内でしっかり検討されてるとのことですから、しっかり練っていただいて、ぜひとも実現に向けて、市長も今、熱い、強い気持ちで言われたと思うんで、向かって1歩1歩進んでいただきたいなと思います。

答弁の中でもあったんですけど、もしかしたらやっぱり現実的に難しいということも出てくるかもしれません。そういったときにやはり一過性でこのドラマの効果を終わらせちゃいけないと思うんですけど、もしこのマラソン事業できなかったとして、それ以外に市長として持続的に玉名を盛り上げていくというような何か対策というのを考えられているのかお伺いします。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） ありがとうございます。

今回の大河ドラマによる経済波及効果これを、また、活性化という意味合いも含めて、一過性のものにしておくのではなくて、ドラマ終了後も地域への誘客を持続させるためにも、やはり観光地を結ぶ交通体系の構築と観光ルートの開発というものは、これは絶対必要であるというふうに考えております。先ほど部長からも答弁がありましたけれども、旅行会社も入ってもらいます。また、九州観光機構、そちらのほうにも協力をしていただきます。そういった意味合いの中で、そういった業者だけでなしに、地域は官民を連携をしながら、玉名市民も総力で取り組んでいきたい、そう願っています。そうできるために自分も努力しなければならないというふうに思っています。そのために、それ以外にも、玉名市、和水町、南関町いだてん地域振興協議会の中で、和水町との生家、それから小田の住家、玉名温泉や草枕温泉など、玉名地域の観光素材を結ぶルートの開発というのは、これは確実にやっていくべきものでありますし、今回のドラマを機に、そういった魅力ある観光ルートを開発し、商品化する。そして今後持続した観光誘客の仕組みづくりに必ずそれがつながっていくものというふうに思っています。そしてまた、これを機会に繰り返しになりますけれども、この機会に来ていただけた方々にこれまでの玉名のたくさんの魅力を知っていただくこと、それが大変重要だろうと思ってます。玉名市内のほうにおいても、さまざまなスポット、それからイベント等もあってます。それぞれのイベントもそうですし、部会を地域振興協議会の中で部会を設けましたけれども、おもてなし部会のほうで、またいろんな議論をしていただきたいと思いますけれども、例えば、ドラマ館周辺になるならば、これはただ単にいだてんということだけではなく、西南戦争の西南の役の激戦地であった。また、日赤の発祥地であった。そういったもの

に対して散策するルート、そういったものもつくったほうがいいと思いますし、小田の住家の周辺にしてもそうです。だからそういったものを知っていただく機会にしなければならぬと思っておりますので、ドラマ館により多くの方々に来ていただくための動員の努力というものをしっかりしていきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 私もそうだと思います。30万人ぐらいの方が来られるわけですから、この来るというのをチャンスにして、そこから玉名をアピールして行って今年にやっぱりつなげていくのがやっぱり重要じゃないかなと思います。観光ルートの開発も業者も入れて進めていかれるということなんで、観光ルートもつくって、フルマラソンも実施して、すればやっぱり玉名がどんどん、どんどんこの大河ドラマを期に、活性化していくんじゃないかなと思うんで、ぜひとも進めていただきたいと思います。

2020年の春ぐらいに恐らく開催できればいいんじゃないかなということで、その前にランイベント的なものも開催できればいいかなというような、以前の答弁であったんですけど、金栗さんは箱根駅伝の創設にもかかわられたということで、そういうランイベントだったら、合志市がリレーマラソン、たすきつないで42.195キロメートル走るといようなイベントされてるんで、そういうイベントをされてフルマラソンにつなげるというのもいいんじゃないかなと思います。その市長の今言われた熱い思いを今一度職員の方たちにもしっかり伝えていただいて、スピード感をもって進めていただきたいと思います。

で、今回、このマラソンの質問するに当たり、いろんなマラソン大会の情報を見てたんですけど、その中で、岡山県総社市で開催されている「そうじゃ吉備路マラソン」というのがあるんですけど、その記事が5月29日の記事があったんですけど、記事の内容としては、2019年大会の開催を2月24日に決めて、定員数を2万5,000人として9月に募集をして進めていくとの内容だったんですけど、このマラソンは昨年が第10回大会の記念大会だったそうで、参加者は全国から過去最多の2万1,457人が出場された大会だそうです。さらにこの総社市というところは平成30年に桃太郎伝説の生まれた町岡山が日本遺産に認定されており、今度の11回大会では、この日本遺産を2万5,000人来た人にアピールしていきたいと、市長が言われていました。玉名市も菊池川の米作りが日本遺産に認定されてると思うんで、もしマラソンでいっぱい人が来たときに、こういうのもアピールできるチャンスになると思います。で、この総社市を人口調べたんですけど、5月時点で6万8,700人で、世帯数2万7,329人で、現在、玉名市が6万6,864人なんで、ほぼ玉名市と同じくらいの市がされてるマラソンで、さらには2万人以上の方が参加されてるマラソンを実施されてるというこ

とでびっくりしたんですけど、市民が支える手づくりマラソンとして、ボランティアは約2,500人、地元の方たちと一緒に盛り上げてつくられているようです。このように、玉名市と同じ規模の自治体でも、この大々的なマラソン大会に取り組まれているところがあります。で、この10回されてるところでも5月に決めて準備をされて2月に開催して、やっぱりそれ相応の時間と労力がかかるんだと思います。で、2020年の春まであと1年半ですけど、金栗さんの言葉である「気力、体力、努力」の精神があれば、必ず実現できるのではないかと思います。名誉市民である、マラソンの父といわれた方でありますので、マラソンの聖地、玉名市として全国に売り出していくためにも今一度力を入れて取り組んでいただきたいと要望いたします、次の質問に移ります。

〔7番 北本将幸君 登壇〕

○7番（北本将幸君） 最後に4点目の職員の人事異動について質問いたします。

地方自治の行政運営において行なわれる人事異動は、主に年度初めの4月に実施されています。目的としては、地方自治体の事業目的である市民の福祉向上を達成するためだと思います。人事異動により職員のスキルアップを図り、同時に組織全体としてレベルアップしていくことで、さまざまな質の高い行政サービスを提供していくことができ、地域住民の生活をよりよいものにしていけることができると思います。よって、人事異動は職員のスキルアップの実現、職員のモチベーションの向上、適材適所の配置を実施することが重要であります。今回、玉名市においても4月に人事異動が発令され、今回の異動では、255人が異動となり、500人余りの職員の方の約半数が異動したことになります。

そこで、人事異動について、まず初めに4点質問いたします。

1、人事異動の基準について。2、異動における職員の希望調査について。3、職員の適材適所の把握について。4、各部署における専門家の育成について。質問いたします。組織再編の5番、6番の質問は、質問席にて行ないたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

〔総務部長 西山俊信君 登壇〕

○総務部長（西山俊信君） 北本議員の御質問の職員の人事異動についてお答えをいたします。

まず、1項目目の人事異動の基準につきまして、それから2項目目の異動における職員の希望調査について、それから3項目目の職員の適材適所の把握については、関連をいたしておりますので、一括してお答えをさせていただきたいと思います。

職員の人事異動の流れについて御説明いたしますと、10月に退職予定者や臨時非常勤職員を除く職員から、身上報告書を提出してもらい、その後各所属長と人事に関するヒアリングを実施いたしているところでございます。この職員の身上報告書は、異動希

望や仕事の意欲だけではなく、職員の健康状態や家庭の事情など、適材適所の見極めや適正配置を行なう上で重要であるものと考えているところであります。最終的には身上報告書と所属長ヒアリングをもとに、職員の能力や在籍年数、それから人事評価結果などを加味したところで、人事異動を行なっているところであります。なお、人事異動は職員の活性化だけでなく、職員の成長や意欲向上を図ることができ、ひいては市民満足の向上及び市の発展につながることから、その効果を最大限に発揮できる人事異動に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、4項目目の各部署における専門家の育成についてお答えいたします。議員お尋ねの専門家とは、専門職職員のことではなく、ある一定期間は異動させず、スペシャリストとして育成する職員のことであると思いますので、その件に関する育成についてお答え申し上げます。部署によっては専門性、特殊性が高く、知識と経験が必要とされる業務がございます。そのような業務に長年携わった職員が異動いたしますと、業務遂行に支障を来し、市民サービスの低下につながる恐れがございます。その半面、スペシャリストの育成には、当該職員が仕事の幅を広げることができず、マンネリ化による意識、意欲低下につながることもございます。そういったことから必ずしも職員本人が希望していないケースなども考えられるところであります。そのため、先ほど申し上げたとおり、所属長ヒアリングにおきまして、専門性、特殊性が高く、知識と経験が必要とされる業務の有無を確認し、担当職員が異動するケースを踏まえまして、マニュアルなどの作成や複数職員での対応や育成を図ってまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 答弁いただきました。

人事異動においては、今、答弁あったように、身上報告書で本人の希望を聞いたり、所属長のヒアリングを行なって、適材適所に努めて、スキルアップの向上などになるように進められていると思います。でもやはり、今回のように異動の人数、半分異動しているんで、人数規模自体が多くなると、そもそもの行政サービスというのがスムーズに機能しなくて、本来の目的である市民サービスの向上につながらないというような本末転倒の事態も起こりかねないと思います。

で、そこで再質問なんですけど、4月に半分ぐらい異動して、実際4月、5月と業務を行なわれてると思うんですけど、職員の方の業務量などを把握する上で、労働時間や残業時間があると思いますけど、前年度と比較して、その辺の4月、5月の労働時間といますか、残業時間というのは、比較するとどういうふうになってるのかお伺いします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 北本議員の再質問にお答えをいたします。

平成29年4月の1人当たりの残業時間につきましては、14.7時間ということでございます。これに対しまして、平成30年4月の1人当たりの残業時間につきましては、16時間となっております。前年度比較いたしますと、1.3時間、1時間20分ほど増加しているという状況でございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 残業時間を比較すると、1人当たり1.3時間多く働いてるということは、やはり今回異動が結構あってるんで、やっぱり業務になれるというのは、時間がかかるといいますんで、仕事量も低下していくと思うんで、やっぱり残業しないといけない部分ができてるんで、そういうことも関連して、それが絶対とは言えないですけど、こういう残業時間の増加にもつながっているんじゃないかなと思います。で、実際に、4月にその行政サービス対応された方で、3月とか2月とかと違って、ちょっと対応が違ったっていうような話も市民の方からお話も伺いました。やっぱり異動が余りにも多いと、市民対応も低下するし、職員の方たち自体の労働量というか、業務的なものも大変になって、残業時間も延びていくというような負の面も出てくると思うんで、やっぱりこの異動する量というのもやっぱりある程度考えないといけないのかなと思います。で、以前、松本議員が一般質問において、高齢介護課の異動で課の3分の1が異動して、業務に支障を来しているのではという質問をされたことがあったんですけど、そのときの総務部長の答弁として、配慮が足りなかった。その反省を踏まえ、今後適正配置に努めてまいりたいと思っておりますと答弁されていました。やはり行政運営というものは、専門的な対応も必要になってくるので、3分の1以上が異動になるということは、やっぱり日常の業務に支障が出ると思います。そこでもう1点再質問ですけど、今回の人事異動において、課で人員の3分の1以上の異動があった課があるのか、ないのか、もしあるのであれば、恐らく今、四十数課あると思いますけど、どの程度あったのかお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 北本議員の再質問にお答えいたします。

平成30年度の定期異動で3分の1以上の職員が異動した課につきましては、平成30年4月の新規採用職員及び派遣職員、それから平成30年度の組織再編によります影響があった課を除きますと、40課中23課でございまして、全体の約6割弱ということでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） 今、答弁いただいて、23課で6割以上あったということで、ちょっとびっくりしたんですけど、このとき、松本議員がされたときは高齢介護課で行政としては配慮が足りなくて、今後適正配置に努めてまいりたいという答弁で、実際この質問されたのが、平成28年の12月議会なので、このあと異動があつてるのは、平成29年と今年の30年のたった2回しかあつてないんですけど、この2回目でこの3分の1以上異動した課が23課もあるということは、やはり玉名市としてこの人事に対する明確というか、ある程度の基準というのがやっぱりないのかなと、ないからやっぱりこういうそのときそのときの裁量で異動が行なわれるので、こういう事態が起きてくるのかなと思います。でもしかし、行政における人事は市長の専権事項でありますので、市長のビジョンであつたり、政策を実現できるように、市長が決めるものなので、そういう細かな規定などつくるのは実際、難しいかもしれません。しかし、だれが市長になっても目指すところは、玉名市がよりよい町になっていくこの方向性は変わらないと思います。やはりこの3分の1以上が23課もあつて、恐らく業務量低下していると思うんですけど、職員さん自体のモチベーション低下にも、本当つながっていくと思います。だからしっかりある程度の基準は設けてもらって行なっていきたいと思います。で、この業務低下にもつながっているのが要因かもしれませんが、もう1点再質問なんですけど、実際4月に人事異動されて、1カ月ぐらいたった5月にまた一部の人事異動をされていますけど、この意図としてはどのようなものがあるのかお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 北本議員の再質問にお答えをいたします。

5月10日付におきまして、産業経済部内で5名、それから会計と岱明、横島市民生活内で2名の計7名の人事異動を行なったところでございます。産業経済部内の5名につきましては、技術職員が体調を崩し、工事に支障を来す恐れがあることから、円滑に事業を遂行するため人事異動を行なったところでございます。

次に、会計課と岱明、横島市民生活内の2名につきましては、4月の定期異動人事に伴い、会計課におきまして経験を有する職員が不足する自体ということになりまして、出納審査などの事務を確実に遂行するために、会計事務を経験している職員を9月末までの期間限定で人事異動を行なったところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） やはりその5月に一部異動されて、病気というのはしょうがないと思うんですけど、会計課においてはやっぱり業務量低下したから、やっぱり人補充

しないといけなかったという部分もあると思うんで、やっぱりそこは適材適所をちゃんとしっかり把握して、進めていただきたいと思います。やはり4月に異動があつて、また5月に異動があると、もう職員の方たちはまた次異動があるんじゃないかというように、業務にやっぱり専念できないというところも出てくると思うんで、やっぱりしっかり対応していただきたいと思います。で、職員の方においては、身上報告書でしたかね、希望調査されてるということですけど、その希望調査されてる希望どおりにはすべてはいかないと思うんですけど、どの程度その希望されたところにいかれているのか、わかればお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 北本議員の再質問にお答えいたします。

平成29年度に実施いたしました身上報告書におきまして、異動を希望した職員は、117名おりまして、そのうち69名、59%に当たる職員が異動をいたしております。それから、異動希望し具体的に異動先を記入した職員は104名おりまして、そのうち24名、23%に当たる職員が希望する課に異動いたしているという状況でございます。以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） やはりすべてが希望どおりにいくのは難しいと思います。希望に配慮しながらもやっぱりその人、その人の適材適所であつたり、得意な分野であつたり、本当あると思うんで、そこをしっかりと人事の方は見極めながら、組織というものをつくっていただきたいと思います。

職種によってはある程度長い間いたほうがいいところもあるだろうし、あんまり長くないほうがいい業務もあると思います。自治体運営においては、市民ニーズの多様化により、これまで以上の課題解決能力、政策立案能力が求められ、そのためには専門的かつ広範な知識が要求されます。一通りの経験を積むために幾つかの部署で経験して、基礎を築いていくことが必要だと思います。であれば、最初の10年ぐらいは3年ごとぐらいに異動させて、10年過ぎたら恐らくこの人はどこら辺が得意かなというのも段々見えてくると思うんで、そこに配置しながら、さらにはスキルアップをいくというようなやはり大まかなマニュアルといいますか、こういう方向性というものをしっかりもっていただきたいと思います。

そこで、もう1点、この異動について質問したいんですけど、4月に異動があつて、5月に異動があつて、6月にもきのう新聞に載って1人異動されてると思うんですけど、やっぱり異動が多いというのは、そもそもの職員人数、総数ですね、きのう専門職の方は足りないという答弁あつたんですけど、そもそもの総数として職員数が足りてないんじゃないかなというのも考えられると思うんですけど、職員の総数というのについ

ては、どのようにお考えかお伺いします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 北本議員の再質問にお答えいたします。

現在、再任用短時間勤務職員及び県からの派遣職員、そして臨時非常勤職員を除きますと511名の正職員で日々の業務に取り組んでいるところでございます。昨日もお答えいたしましたとおり、土木技術職員を中心に職員不足は否めず、今年度は予定いたしております職員採用試験で必要とする人員の確保に努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） やっぱり職員さんの総数が足りてないということで、そこしっかり確保できるように進めていただきたいと思います。

社会情勢の変化により行政運営においては、高度化、複雑化する課題に対する対応が求められ、専門知識を必要とする場合も多くなってきています。今まで自治体の人事異動においては、定期的なジョブローテーションにより税関係から教育、福祉、防災など、さまざまな分野を経験させ、幅広い知識を持った職員を育成して組織を編成していくことが中心だったと思います。しかし、先ほど申したように、社会情勢の変化、市民ニーズの多様化などにより、専門知識を必要とする場合が多くなっています。一人の能力というのは限られていると思います。国も地方創生を掲げ、自治体間の生き残りをかけた競争が始まっています。これを勝ち抜いていくためにも、玉名市という市内全体で1つのチームとして、いかにさまざまな問題に対応しながら、新たなことに取り組み、玉名市として発展していくかが重要です。よって、今後は幅広い知識を有するジェネラリスト的な職員と同時に、各職員の能力、適性を生かしながら、専門的なスペシャリスト的な職員を育成していくことも必要になってくると思われます。職員の知識、能力、経験を最大限に生かし、玉名市が行政のプロフェッショナル集団として、今後運営していくためにも今一度玉名市として人事を見直し、きちんと基準などを設けて、組織全体がスキルアップしていくような体制をとっていただきたいと、強く要望いたしまして最後の組織再編の質問に移ります。

組織再編については、2点質問いたします。

4月の機構改革により、新たな課、係が新設されました。市長のビジョンを達成していくために改革を行なっていかれると思いますが、今回新設されたものについて、2点お伺いいたします。

5、組織再編による秘書課政策推進係の役割、現状について。6、組織再編による地域振興課の業務について。以上、2点質問いたします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 北本議員の御質問の職員の人事等についての中のもの5項目目の組織再編による秘書課政策推進係の役割と業務について、それから、6項目目の組織再編による地域振興課の業務についてお答えをいたします。

まず、秘書課政策推進係の役割と業務につきましては、前回の議会でもお答えをいたしておりますけれども、有効な政策の施策の早期事業化を図るため、スキームの構築や予算面での財政課協議など、部局横断的な事前調整のサポートや事業展開までの進行管理を行なっているところでございます。

続きまして、地域振興課の主な業務につきまして御説明を申し上げますと、地域振興係では、地域経済活性化を図るため、従来の公共交通対策や定住化促進の地域振興策に加えて、マイキープラットフォーム事業に取り組んでおり、情報発信係では、広報たまの発行やホームページの更新はもちろんのことでございますけれども、本年度はSNSを活用した情報発信に力を注いでいるところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） この5番目の政策推進係については、前回の一般質問においても質問させていただきましたけど、市の重要施策の振興やとりまとめを行なっていく係だと思います。で、先ほど質問した大河ドラマなど重要施策、いろいろあると思いますが、いまいちその事業が進んでないと感じるところも見られます。実質的な業務としてこの政策推進係というのは、4月、5月においてどのような業務をされたのか、お伺いします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 北本議員の再質問にお答えをいたします。

政策推進係が設置されてから取り組んだ具体的な業務内容につきましては、市長が10年後のあるべき玉名を描く10年ビジョンまちづくりの作成準備や複数課にまたがる懸案事項解決の調整、また、各部局から取り組むべく重要事項につきまして、市長、副市長及び各部局の意思統一を図るためのヒアリングなどを行なっているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） やはりその事業をしようと思ったら、複数の課にまたがることが多いと思うんで、やっぱり今までやっぱり行政運営というのは縦割りだった部分が多いんで、なかなか進まなかったところもあるんで、その横断的な意見のとりまとめをして、進めていく役割を担うのがこの政策推進係で、この係が本当いい係だと思うんです。

けど、これうまく機能すればやっぱり事業がどんどん、どんどん進んでいくと思いますんで、この市長が掲げる施策が進んでいくように、この係をうまく機能させながら、行政運営、スピード感をもって進むようにしていただきたいと思います。

最後の6点目の組織再編による地域振興課の業務についてですけど、この地域振興課には、地域振興係と情報発信係が設置され、答弁であったようにマイキープラットフォームや広報活動など、されていくと思うんですけど、今議会でふるさと納税推進事業として地域振興係がされるんだと思いますけど、826万円ぐらい計上されていたんですけど、このふるさと納税推進事業というのは、なんか今までのふるさと納税とはちょっと違う取り組みをされるのか、どういう事業なのか、お伺いします。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

○企画経営部長（水本明子さん） 私のほうからは、組織再編による地域振興課の業務についてのうち、ふるさと納税についてお答えを申し上げます。

まず、本市のふるさと納税額でございますが、平成29年度実績で約2,900万円、平成27年度と比較いたしますと約10倍の寄附額となっております。これは平成28年度から実施いたしましたインターネットを利用したふるさと納税ポータルサイトの活用による成果といえます。しかしながら、他市におきましても同様の取り組みを行なっておりますため、本市の住民税の減収額も増加傾向にあるのが現状でございます。これまでのふるさと納税の傾向を分析いたしますと、寄附者は税控除のほか、返礼品によるお得感から自治体を選択する傾向にございます。本市の申し込み状況は、98.5%がポータルサイトからの申し込みであることから、複数のポータルサイトを活用し、寄附申し込みの窓口をふやすことこそが寄附の増加につながるものと判断いたしまして、これまでの委託事業者に加え、新たな事業者への委託料等を今議会へ補正予算として上程をしているところでございます。寄附額をふやすということは、返礼品を通じて市の魅力を全国に発信することや市内経済の活性化にも寄与できるものと考え、地域振興課においても返礼品のPRや返礼品の品数をふやす取り組みをあわせて行なっているところでございます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） このふるさと納税、2,900万円ぐらいあって、1つのサイトにしていたのをもう1つ新たなサイトをふやして、その拡大していこうということだと思います。やはり2,900万円ぐらい寄附があっても結局、委託料で800万円ぐらいで、逆にまた減税される部分とか含めると、このふるさと納税自体が実際あまり入ってきてないんじゃないかという問題点も出てきています。ふるさと納税の意義としては、生まれた故郷や御世話になった地域への応援の意味も含めて、納税した地域の力になることができることが1つの意義だと思います。しかし、実際は、さっき部長の答弁でも

あったんですけど、この寄附先を返礼品によって選択して、その運営してるサイト次第で寄附金が集まるというのも事実だと思います。で、総務省もこの過激化する返礼品において、金銭類似性が高いものとか、高額なものなど、返礼割合の高いものはやめるように通達を出しているんですけど、実際、このふるさと納税において10数億円の税収を得ている自治体もあるので、人口減少により税収が減っていく地方においては、この争いに参入せざるを得ないのが現状だと思います。また、ふるさと納税は地元の特産物や観光資源、地元の特産品のPRをしていくよい機会だとも思います。今回新たなサイトで対策をとられていくとのことですので、しっかり販路拡大につながるような取り組みにしていきたいと思います。

最後、情報発信係のほうなんですけど、SNS自動投稿構築システムというなんか新たな業務をされるということなんですけど、これは実際どういう業務なんでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

○企画経営部長（水本明子さん） ただいまお尋ねのSNSに関する補正予算に関しましてお答え申し上げます。

平成30年5月24日に新たな情報発信の手段といたしまして、玉名市公式フェイスブック広報たまなを開設し、運用を開始したところでございます。SNSの最大の魅力は、新鮮な情報を発信できるスピード感であり、その情報をもつ話題性やリアルタイム性こそが閲覧者が求めているものと考えております。そのニーズに応えるためには、担当各課からのタイムリーな情報提供等が必要不可欠となります。各課が直接投稿内容を登録し、投稿時間の予約等ができるようにするシステムの構築費用を本議会へ補正予算として上程させていただいております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（中尾嘉男君） 北本将幸君。

○7番（北本将幸君） SNSが発展して、フェイスブックやインスタグラムなど、情報の発信源がありとあらゆるところにある時代となりました。で、今度市としてこのSNS自動投稿構築システムという新たな取り組みをされるということで、玉名の情報、魅力がより多くの方に発信されていくんじゃないかと思います。このように、新たなことに取り組んでいくことは、本当にいいことだと思います。今後もしっかり取り組んでいきたいと思っています。

このように機構改革をされ、玉名市として市長の掲げる10年ビジョンのまちづくりを進められていきながら、今後も魅力ある玉名市をつくっていただきたいと思っています。また、議会としても情報発信の1つとして、議会だよりを発行しているんですが、現在より市民の方に読んでいただけるように、誌面のリニューアルであったり、内容の表示の仕方であったり、今後もしっかり取り組んでいきたいと思っています。議会としても行政としても、二元代表制を担うものとして、市民の方たちに具体的にわかりやすく、

透明性をもって情報発信に努めていかなければいけないと思います。

今回、新玉名駅の有料化、金栗四三PR推進事業、人事異動、組織再編について質問させていただきましたが、有料化においては、受益者負担の公平性を考えながら、混雑解消につなげ、新たに財源をつぎ込むわけですので、利用者の利便性向上にしっかりつなげていただきたいと思います。

大河ドラマにおいては、放送開始まで、あと半年程度しかありません。スピード感をもち、広報活動、新たな観光資源の創出など、しっかり取り組んでいただきたいと思います。また、マラソン事業においても、市長から熱い、しっかり取り組んでいくとの答弁を今回いただきましたので、今までの遅れをしっかりと取り戻して、開催が実現できるように、1歩1歩課題をクリアしながら取り組んでいただきたいと思います。

しかし、このようにさまざまな取り組みを行なっていくに当たっては、やはり一番重要になるのが組織再編だと思います。あらゆる事業において実際に進められていくのは職員の方たちであり、いかに職員の方が市長の思いであったり、ビジョンであったり、今後の方向性をしっかりと共有して、高いモチベーションをもちながら進めていけるかだと思います。そのためにも、人事異動においては、玉名市という1つの組織体として、全体が成長していけるような異動にさせていただき、市長の掲げる10年ビジョンのまちづくりに向けて、さまざまな事業がスピード感をもってよりよく進められることを期待いたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） 副市長 村上隆之君

○副市長（村上隆之君） 先ほど北本議員から質問の中で、人事異動の3分の1以上の職員が異動した課というふうな、課はどれくらいあるのかという質問がありまして、答弁では、40課中23課というふうに申しました。この数値につきましては、もう1回精査をしていただいて、恐らく昇給昇格、そういったものも含めた数ではなかろうかというふうにも思われますので、もう1回調べさせていただきたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、北本将幸君の質問は終わりました。

議事の都合により、午後1時まで休憩いたします。

午前11時43分 休憩

午後 1時01分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

その前に、午前中の答弁で、

副市長 村上隆之君

○副市長（村上隆之君） 北本議員の人事異動の件で、先ほど数値の確認をさせていた

だきたいということで、私のほうから発言いたしまして、数値につきましては、先ほどの総務部長の答弁とかかわらず40課中23課がやはり3分の1の異動があったということでございます。

課をまたぐ異動の職員が180名いたということで間違いございません。北本議員のほうから御指摘がございました市民の皆さん方に御迷惑をかけているというふうな御発言がありまして、それはあってはならんことだというふうに思っております。誠に申しわけなく思っております。今後、このこういう異動に関しまして、こういうことがないように善処してまいります。

○議長（中尾嘉男君） 3番 吉田憲司君。

〔3番 吉田憲司君 登壇〕

○3番（吉田憲司君） こんにちは。お疲れさまです。3番、創政未来の吉田憲司でございます。

傍聴席の皆さま、ひまわりてれば、それからインターネットをご覧の皆さまいつもありがとうございます。よろしくお願いします。

きのう、1日目の一般質問が終わりまして帰りがけ髪を切ってまいりました。ちょっと気合いを入れてきました。

突然ですが、これは新聞やテレビでも報道されているところですが、金栗先生生誕の町、お隣の和水町の荒木宏太議員がまさに金栗先生のごとく、先月スペインで行なわれましたトレイルラン、山の中を走るやつですけども、トレイルランの世界選手権に出場され、330人中、日本人最高の12位となりました。荒木議員は金栗先生が創設に尽力をされた箱根駅伝にも出場をされております。また、熊本城マラソンでも毎年トップ争いをされております。私も熊本城マラソン走っておりますけど、荒木議員にはやっぱり勝てません。対抗するわけじゃないんですけど、先日俵ころがしで撮影されました大河ドラマ「いだてん」のエキストラで参加をしてまいりました。綾瀬はるかさんの演技に魅了され、それから中村獅童さんのオーラに圧倒されながら同じ空間に入れたことが夢のようで、貴重な体験をさせていただきました。ほかにもたくさんのエキストラが、地元のエキストラが協力をされていて、そのシーンについては第8話ということで、8話です。覚えていてほしいと思います。私のところはカットされているかもしれませんが、皆さんと一緒に放送を待ちたいというふうに思います。これはどうでもいい情報なんですけど、私、紋付き袴で出ております。はい、よろしくお願いします。

以上、いだてんのPRはこれで終わりたいと思います。

では、一般質問に入りたいというふうに思います。

ここに広報たまなの6月号があります。これの10ページ、11ページに玉名市の今

年度予算の概要が市民の皆さま方にお示しをされております。まず最初の質問は、この30年度予算の執行に伴う提言についてというところで、3点ほどお伺いをいたします。

まず、1点目。1点目は、地域公共交通対策事業を進める上で、市職員等のノーマイカーデーの実施についてであります。また書いてまいりました。先日も90歳の女性が運転する車が4人をはねたという事故がありました。また、熊本でも60代の女性が運転する車が南熊本駅の待合室に突っ込みました。このような事故が毎日続いております。先週、警察庁の発表によると、免許の更新時に検査で認知症の恐れがあるといわれた高齢者のドライバーが5万7,000人にのぼり、免許取り消しや免許停止の処分となったそうです。しかし、このことは免許の自主返納や全国で824万人、きのうは城戸議員が1,000万人を超えたということがありましたけども、これ熊本県でいうと14万人買い物難民、それから通院難民という問題が露呈をします。実に65歳以上の4人に1人が、この買い物難民、通院難民ということになります。3月議会でも内田議員のほうが免許返納について質問をされていました。ここに6月1日の熊日新聞の社説があります。これは何て書いてあるかというと、「免許を返納を促す環境整備を」と書いてあります。現実のままでは、免許を返納したくてもできないのが現状です。この環境整備をととのえるのが行政の仕事と私は考えます。公務員は全体の奉仕者です。相手の立場になって、行政運営を進めていく姿勢が重要ではないかと思います。なので、私が提言いたしますのは、月に1度、月に1度で結構ですので、免許を返納された方や買い物難民、通院難民といわれる方々の立場に立って、担当部署だけではなく、全庁的に玉名の未来を考えるきっかけになればと思います。きのうの城戸議員も早急な対策の必要があると言われ、松本部長も交通や福祉など、さまざまな部署が関係してくるのでこれから検討をしていきたいという答弁がありました。

しかし、多分これは私が言いますと、相当な抵抗感があると思います。やれない理由を探すのではなくて、やれる人から、できる人でいいので、まずはやってみようという提案です。もちろん子どもを保育園に送迎しなくてはならない。介護をしています。病院にいかなくてはならないと、そのような理由は仕方のないと思いますが、先ほども言いましたように、やれる人からやれるしこでいいので、徒歩、自転車、バイク、あるいは近所の職員との相乗りで結構です。公共交通を利用したりだとか、ノーマイカーデーをやってみる価値はあると思います。この通勤車両を減らすということは、京都議定書でも約束をされておりますCO2の削減にも貢献します。歩いたり自転車だと血圧も下がります。血糖値も下がります。今、財政を圧迫している医療費や介護費の削減にも寄与できると、私は確信しています。将来的な医療費や介護費の抑制は、30代、40代、50代の運動習慣や喫煙の有無が今後の市の財政運営にも大きく影響してくると思

います。実施すれば、もう昼休みにたくさんの方が歩いておられますが、それが必要なかなと思います。私はすべてがウィンウィンになると思いますけども、その点について見解をお伺いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

〔市長 藏原隆浩君 登壇〕

○市長（藏原隆浩君） 吉田議員の御質問にお答えをいたします。

議員が提言されるとおり、自家用車の使用自粛は公共交通機関の利用促進、また、CO₂の削減、あるいは職員の健康増進、また、医療費の抑制に寄与することになる取り組みであると認識いたしております。また、交通弱者や免許を返納する高齢者の立場も実感することができるということで、新たな課題などの発見にもつながっていくというふうに考えております。全職員を対象とした月1回のノーマイカーデーの完全実施ということになりますと、居住地や家族の送迎などの理由でなかなか難しいところもあるというふうには思われますけれども、職員には、自家用車の使用自粛を呼びかけるとともに、職員それぞれが考え、自主的に取り組みを促していきたいというふうに考えておりますし、そのように取り組んでいくことについての検討をしっかりとさせていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 吉田憲司君。

○3番（吉田憲司君） 答弁をいただきました。

市長から前向きな答弁をいただいたというふうに思います。

実は、私、この質問をするからじゃないんですけど、きのうときょう自転車で来ました。もう汗だくです。汗は出ましたけど、カロリーは減りました。逆にガソリンはそのままです。家の車はですね。先ほど市長言われましたとおり、やっぱりその免許を返納された方、それから買い物難民、通院難民といわれる方、そういう人たちの立場になって、この現役世代が、車が運転できないということはどういうことなのかということをやっぱり職員自身、私たちもそうですけど、自分たちが体で感じとって、今後の対策を将来の自分のこととして考えていくことが重要だと思いますので、御検討のほどよろしくお願いいたします。

それでは、2点目に入ります。予算の2点目の提言ですけども、2点目はマイキープラットフォーム事業についてであります。マイキープラットフォーム事業に対する付加価値についてということでお伺いをいたします。

今回この事業に対しまして予算はつきましたが、まだまだマイナンバーカードの取得率も低調でありますし、各ポイントの足し算だけではなかなか魅力的ではありません。しかもポイントの返還の手続きに2週間程度かかるとかですね、返還するときに手数料

がポイントから差し引かれると、そういうのを聞きするとこれは恐縮なんです、撤退する勇気というのもどこかの段階では選択肢の中に入ってくるのかなと思っています。しかし、せっかくここまで来ました。これがシステム上可能かどうか分かりませんが、この事業をより進化させる提案をしたいというふうに思います。

玉名市でもこのハローポイントに結婚、出産、健康に関する講習会等に参加をすれば行政ポイントが貰えます。しかし、市民が主体的に取り組むようなものではなく、いまいちな感じがします。そこで現在いろいろな自治体で取り組んでいる健康ポイントをこの中に取り込むことができれば、さらに進化できるのではないかなと思います。スマホのアプリや紙ベースで行なっているところもあります。好評な自治体は滋賀県や宇都宮市、栃木ですね、それから県内では上天草市や山鹿市が始められて好評のようです。ウォーキングをしたりとかラジオ体操、それから献血、きょうも市役所で献血やっておりますけども、それから健康に関するイベントに参加するとポイントが貰えて、地元の商店街などで使用できる商品券などと交換できるもの。これは自分がやればやるだけポイントがたまります。自分が歩けば歩くだけポイントがたまります。そしてそのことによって健康になって、お得に買い物できて、地元の商店街も潤うという仕掛けです。繰り返しになりますが、市民が主体的に健康になって、地元でお買い物できて、商店街の活性化につながり、さらに先ほどもありました医療費、介護費の抑制になれば、これまた市民の皆様も地元のお店も、それから玉名市としてもみんながウィンウィンになると思いますけども、これについての見解をお伺いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

○企画経営部長（水本明子さん） 吉田議員お尋ねのマイキープラットフォーム事業に対する付加価値について御質問にお答えいたします。

国が推進しておりますマイキープラットフォーム構想は、マイナンバーカードを活用し、公共施設などのさまざまな利用者カードの一元化を行なうことができるものでございます。また、各自治体のボランティアポイント、健康ポイントなどのクラウド化を行なうとともに、クレジットカードなどのポイントを自治体ポイントに交換する仕組みを導入して、地域の消費拡大につなげるなど、さまざまな可能性が示されております。

本市のマイキープラットフォーム事業に関しましては、平成30年1月から地域経済の活性化、好循環拡大を目的に実証実験を開始し、その後事業推進のための啓発活動を行なっているところでございます。しかしながらさまざまな課題もあり、マイキー登録者は伸び悩んでいるというのが現状でございます。現在、本市におきましては、マイキープラットフォーム事業の自治体ポイントのほか、福祉事業のイベントなどへの参加促進ですとか、福祉活動の充実につなげることを目的とした行政ポイント付与事業も行なっております。今後はさまざまな問題を解決するとともに、議員御提案の行政ポイント

の拡充や2つのポイントの連動などについて検討してまいります。

また、本事業を進めていく上では、マイナンバーカードの取得が必須となりますので、市民の皆様方への取得をお願いするとともに、まずは市職員への取得を促し、全庁を上げて取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 吉田憲司君。

○3番（吉田憲司君） 答弁をいただきました。

先ほど部長の答弁にもありましたように、現状伸び悩んでいるというところで、全国的に見ると先進的な取り組みであるのかなというふうにも思います。先ほど言いましたように、撤退する勇気というのもどっかうちに秘めながら盛り上がるような仕掛け、それから進化していく仕掛けを検討していただくようお願いをいたします。

それでは、じゃあ、次にまいりたいと思います。

予算に関する3点目です。3点目は、観光スポット（蛇ヶ谷公園、高瀬裏川水際緑地、山田日吉神社等）におけるイベント期間中の来場者数と、トイレの洋式化及び設置数について伺いをいたします。3点目ですね。

今年度、小中学校のトイレの洋式化の予算が計上をされました。そこでいわゆる玉名市の代表的な観光スポットである蛇ヶ谷公園の桜、山田神社の藤、そして裏川のしょうぶ、この観光スポットに対しても洋式化や設置数などを検証、精査する必要があるのではないのでしょうかという提言でございます。

先ほどからも、きのうもお食事処、観光スポットを回遊するのにお食事処がないというのが質問がありましたけれども、私はちょっと視点を変えて、このトイレの視点から観光スポットを考えてみたいというふうに思います。実は、私、4月に神奈川県に行きまして、もう皆さんが知ってる海岸沿いの代表的な観光地に行きました。どことは言えないんですけど、トイレに行きましたらやっぱりトイレがめっちゃ汚れてたんですよ、その外国人観光客が多いのかどうか理由はわかりませんが、そういうのを見ると、やっぱりそれだけでその観光地自体の印象が悪くなってしまいます。それと5月に福岡の大濠公園に行きました。大濠公園の近くでフリーマーケットをやっております、そのときものすごい人で、仮設トイレが設置をしてあったんですけども、見た目やっぱり仮設トイレって残念な感じがするんですが、その仮設トイレが洋式のちょっと大きめの、洋式の仮設トイレで、これはやっぱり高齢者とか体のご不自由な方には優しいなと感じました。

話を玉名に戻しますが、玉名市のホームページには、先ほどもありましたように、桜とか、藤とか、しょうぶの開花の様子がリアルタイムで載せられてます。そして広報たまのフェイスブックにでも玉名の魅力がどんどん、どんどん発信されています。こ

れらを確認されて、ことしもたくさんの皆さまが玉名に来られて楽しまれたことと思います。まず、この3つの会場の一番このピークといいますか、花が咲いているころのイベント期間中の過去3年くらいの来場者数の推移と既存のトイレが洋式なのか、和式なのか、その設置数をお伺いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 吉田議員御質問の蛇ヶ谷公園、高瀬裏川水際緑地、山田日吉神社などにおけるイベント期間中の過去3年間の来場者数と、トイレの洋式化及び設置数についてお答えいたします。

玉名市では、4月の蛇ヶ谷公園の桜、4月下旬の山田の藤、6月上旬の高瀬裏川の花しょうぶと花を素材とした観光客の誘致を行なっております。おかげさまをもちまして、毎年多くの来場者にお越しいただき、旬の玉名を楽しんでいただいております。平成27年、平成28年、平成29年の各会場の来場者の概要は、蛇ヶ谷公園が2万7,000人、2万2,000人、2万5,000人、高瀬の裏川水際緑地が21万1,000人、14万7,000人、17万6,000人、山田日吉神社が3万8,000人、1万2,000人、4万人で推移しております。28年につきましては、藤と花しょうぶは熊本地震後ということで減少しております。

次に、観光スポットのトイレでございますが、蛇ヶ谷公園は、小便器16基、和式20基、洋式4基、洋式に改修中のものが1基ございます。山田日吉神社は、小便器2基、和式1基、洋式2基、高瀬の裏川水際緑地は、小便器2基、和式4基、洋式1基でございます。高瀬の裏川で開催される高瀬裏川花しょうぶまつりに既設トイレの数では不足するため、仮設の簡易トイレ、これは和式ですけども、4基を設置して対応しております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 吉田憲司君。

○3番（吉田憲司君） 済みません。もう1回、高瀬裏川の来場者数をもう一度よろしいですか。済みません。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 高瀬の裏川水際緑地ですけども、21万1,000人、14万7,000人、17万6,000人でございます。

○議長（中尾嘉男君） 吉田憲司君。

○3番（吉田憲司君） 答弁いただきました。ありがとうございます。

やっぱり観光客の皆様からすると、この人数からするとやっぱり今言われた特に裏川のトイレの数とかすると、ちょっとどうなのかなと思ってしまいます。しかし、今年もたくさんの皆様方に来ていただきました。私もしょうぶまつり、3、4回ぐらい行きま

したけども、多分、前年度を上回っているんじゃないかなというふうに思います。これも来ていただいた皆様にも感謝をしたいんですけども、同時に手入れをされてる受け入れ側の皆様にも感謝を申し上げたいというふうに思います。

さて、トイレは家の顔とも言われます。観光地でも同じことが言えるのではないのでしょうか。「花はきれいだったばってんがトイレが汚れとった。」とかですね、「暗かった。」とか、「数が足らなんだった。」「洋式ではなかった。」ということになりますと、やっぱりその観光地、観光スポットのイメージはやっぱり悪くなると思います。特に観光地に訪れる、観光スポットに訪れる男女の比率は女性が私は多いと思っています。先日の広報たまなのフェイスブックにも女性グループの写真が掲載されていて、「しょうぶを見たら、今から玉名温泉に入りに行きます。」と書いてあったんですけど、玉名の場合も例外ではないと思います。また、体のご不自由な方も当然来られますし、さらには性的少数者、LGBTの方々への対応も考慮しなくてはならないのかなと思います。これはちょっと直接は関係ありませんけども、少し外れますが、熊本市役所は市に提出する書類、この市に提出する書類から性別欄をなくすことを検討しています。もう1つ、トイレについての調査をちょっと御紹介します。男性でも洋式トイレであれば座って用を足す方が60%を超えたという調査報告があります。また、トイレの利用時間は、この男女差、トイレの利用時間の男女差は、女性は男性の約3倍との調査結果もあります。これは観光地のみならず、観光スポットのみならず、高速道路のサービスエリアやイベント会場、それからショッピングモールなどでも女性トイレの行列に遭遇することがあります。やはり、もてなす側としては今後、トイレの男女の比率、スペース的なもの、便器の数、それから体のご不自由な方、そして性的少数者のことも十分考慮しながら、今後観光スポットのトイレの問題にも対応していく必要があると思いますが、その点についてお伺いをいたします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 議員御指摘のように、トイレの利用時間につきましては、男女差もあり、特に大きなイベント等では女性トイレの行列に遭遇したこともあります。市の現時点での計画は、蛇ヶ谷公園及び高瀬の裏川水際緑地など、既存のトイレにつきましては和式を一部洋式に改修していく予定でございます。今後、トイレ施設の新設もしくは全面改修をする際には、便器数の男女の比率やすべての人が利用しやすいトイレ環境づくりを検討してまいりたいと思います。市としましても人が集まる観光スポットにおけるトイレの重要性は認識しておりますし、来場者にとって快適なトイレ環境の充実は大事なことだと思っております。

○議長（中尾嘉男君） 吉田憲司君。

○3番（吉田憲司君） 答弁をいただきました。

前向きな検討をよろしくお願いします。

今年のしょうぶまつりは、「かたらんね」とか「クマロク」とか、何回も、しかも生放送で紹介をされました。玉名市の観光スポットランキングを、私、ちょっと独自に調べ、独自じゃないですね、ちょっと調べてみました。これは旅行会社さんの「じゃらん」が調べたものなんですけど、玉名市の観光スポットランキング第1位は玉名温泉です。蛇ヶ谷公園が第5位です。高瀬裏川水際緑地が第7位、山田の藤が第8位です。この3つはやっぱりベスト8に入っとるとですよ。先ほど言われました山田の神社のトイレもきれいなほうだと思んですけども、やっぱり男女が同じ空間というのは、ちょっと抵抗がありますし、数がやっぱり足りないかなというふうに思います。山田神社のトイレは市の所有のものではありませんので、なんとも言えませんが、補助金は交付をされていると思いますので、この点についても、地元の方々と十分なコミュニケーションをとっていただいて、御検討をお願いしたいと思います。先ほどからあっていますように、来年は大河ドラマ「いだてん」効果で、さらに多くの観光客が来られると思いますので、やはりきれいな花にはきれいな快適なトイレで、それを提供して訪れる皆様の気持ちよくお迎えし、いいイメージのままお帰りいただくことが大切かなと思います。なので、花だけじゃなくて、玉名市の観光スポットはこがんきれいかトイレよとかというとならば、また、ホームページとかフェイスブックとかで発信すれば、また、好感度もアップするのかなというふうに思います。

イメージもそうなんですけど、トイレの快適さはその観光スポット、観光地に滞在する時間にも、私は影響すると思っておりますので、精査をされて、玉名市の顔を快適にさせていただき、もっともっと玉名に来ていただきたいと思います。

それでは、次の質問に移ります。

[3番 吉田憲司君 登壇]

○3番（吉田憲司君） では、次の項目に入りたいと思います。

次は、介護施設等に従事する介護職員、これは看護師も含みますが、介護職員の慢性的な職員不足についてお伺いをいたします。

先ほど、西山部長のほうの答弁の中で、市役所の職員も足りていないとの答弁がありましたが、こちらのほうも深刻です。安倍総理大臣は、少子高齢化は国難であると言っています。昨年、全国で生まれた子どもの数は94万6,000人で、過去最少となりました。また、女性が一生に産む子どもの出生率は1.43人となりました。それからもっとショッキングなデータが公表をされました。日本創成会議によると、人口減少に伴い、2045年秋田県の人口は約半分になり、その時点での高齢化率は約50%とのことです。また、全国の消滅可能性自治体が発表されました。近隣では和水町、南関町、長洲町の名前がありました。これはあくまでも予測ですので、なんとも言えません

が、人口減少に伴う少子高齢化の加速は想像以上の早さで進み、それは社会補償制度の疲弊を意味し、行政サービスなどの維持が困難となることが懸念をされています。そして、厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上になる2025年、いわゆる2025年問題ですけども、あと6、7年後には65歳以上の高齢者が3,600万人となり、このうち介護サービスの対象者は770万人と推定をされています。このことにより、介護職員が全国で34万人不足すると推計をされており、このうち熊本県では2,055人が足りなくなるということです。玉名市においても例外ではないと思います。介護職員等の現状と将来の見通しについて、まずお伺いをいたします。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君

〔健康福祉部長 松野信生君 登壇〕

○健康福祉部長（松野信生君） 吉田議員御質問の介護施設等に従事する介護職員の現状の認識と将来の見通しについてお答えします。

現在、全国的に介護対象となる高齢者はふえ続ける一方、介護職員の人材不足が課題となっております。このような中で、厚生労働省は介護離職ゼロの実現に向け、必要な介護サービスを提供するためには、2020年代の初頭までに追加的に25万人の人材確保に取り組む必要があるとしております。本市におきましても2025年には、高齢化率は36.1%と推定しており、全国的な傾向と同様、高齢化の進展や生産人口の減少に伴い、介護人材の確保はさらに重要な課題になると懸念しているところでございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 吉田憲司君。

○3番（吉田憲司君） 答弁いただきました。

玉名市にあっても2025年高齢化率は36.1%ですね、36.1%になるということで、このうち介護が必要になられる方が当然出てまいります。介護離職者ゼロということも今、答弁の中にありましたけども、これは喫緊の課題ですので、やっぱりこれ考えていかなくちゃいけないというふうに思います。前回の3月議会でも、私は介護保険の問題を取り上げました。各自治体の保険料は軒並み上がる一方です。特に熊本県の伸び率が全国で最大となり、ワースト1位になりました。これは熊本地震の影響もあるのかなというふうに思いますが、しかしながら、その中で玉名市においては、介護保険料は5,800円のまま、今年度は据え置かれました。これはやっぱり市民の皆様の健康に対する意識の高さ、それから介護施設の職員の方々の献身的な御努力、そして市の担当する部署の職員の皆様の業務に対して感謝を申し上げたいと思います。ただ、現実には相当に厳しいと思います。さらに深刻になるであろう、先ほども答弁ありましたが、今後のこの不測に対する対応策についてお伺いをいたします。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君

○健康福祉部長（松野信生君） 吉田議員御質問の今後、深刻となる介護職員不足の対応策についてお答えします。

本市では、介護職員不足の対応策としまして、平成27年度に厚生労働省の補助事業である介護ロボット等導入支援特別事業を活用した介護ロボットを市内7事業所において導入し、介護従事者の負担の軽減、働きやすい職場環境の整備につなげております。今年度も県による募集があっているところです。また、国の政策を活用した留学生や技能実習生等の外国人の介護職員導入を検討している事業所も出始めております。

県の計画では、多様な人材の参入促進、職員の定着促進、処遇改善を柱とした取り組みに力を入れることとなっており、本市としましても、国や県の施策を効率的に活用しながら、介護職員の確保等に取り組んでまいりたいと思います。

また、介護職員の人材不足解決策としまして、介護度が軽い方については、NPO、民間企業や元気高齢者が担い手となる体制づくりを進めていくことが、結果として介護専門職が重度の方のケアにシフトしていくということにつながるものと考えております。これを推進するために、平成29年度から始まりました総合事業では、ふれあい家事支援サービスをシルバー人材センターに、また、元気アップ教室を民間企業に運営をお願いしているところでございます。

現在、介護予防活動の実施地区が全体の6割を超えていることから、今後は未実施の地区を含め、月4回の活動を推進する体制づくりをさらに強化してまいります。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 吉田憲司君。

○3番（吉田憲司君） 答弁いただきました。

介護ロボット、それから外国人の方の受け入れ、それから処遇改善をしなくてはならないという話でした。

先日の全員協議会の中でも、玉名市は保育士さんも不足をしているというお話がありました。お隣の荒尾市は、不足する保育士を補う施策として、家賃の2分の1補助を荒尾市さんはされてます。これ上限が2万5,000円なんですけども、そういう補助をされています。玉名市においても、介護職員等に対する玉名市の独自の処遇改善策を、例えば、先ほどの家賃の補助とか、それから遠くから来られてる方には通勤手当の補助とかですね、そういう環境整備もできるのじゃないかなというふうに思っています。今の、今の現時点での現状であっても施設は、建物はあっても、人手不足により事業規模を縮小せざるを得ないところとか、さらにはもう閉鎖をしなくてはならないという状況に陥ってるところもあると聞いています。また、玉名市はこのような介護施設に幾つかの事業を委託をしているというふうに思います。このような観点からもサポートできる

ところはサポートしていくべきと、私は考えます。人はだれでも必ず老いていきます。当然のことながら高齢化率が毎年のように上昇し、それと比例するように介護保険を利用する方々も増加していきます。この仕組みを維持することが最重要課題と考えます。この少子高齢化の中、自治体の存続は何回も言いますが、いかに医療費や介護費などの社会保障費を抑えることが重要だと思います。先ほどのノーマイカーデーのときも申し上げました。若い世代からの健康に対する予防が自治体の運命を決めると言っても過言ではないと思います。この職員不足の問題、市が介護施設等との連携をさらに密にさせていただき、解決策を真剣に検討していただきたいと思います。

そのことをお願いしまして、最後の質問に入りたいと思います。

〔3番 吉田憲司君 登壇〕

○3番（吉田憲司君） それでは、最後の質問に移ります。

最後は、多目的競技場についてであります。最近、聞き捨てならない話を耳にしまして、「吉田憲司は、最近、藏原市長に反対ばかりしよるね。」という話をちょっと耳にしまして、「いや、決してそうではないです。」と、これからお話しすることは、市長の思いに寄り添って、市長をもり立てて、プッシュプッシュする内容だと思いますので、市長、よろしくお願いします。

さあ、いよいよあしたからワールドカップが始まります。きのうもちょっと寝不足で、私は最後の練習試合を見ましたので、急きょ監督がかわった日本代表大丈夫なんでしょう。日ごろ余りサッカーに興味がない方も、ワールドカップとなると、一喜一憂されると思います。さて、3月の、前回の3月議会で、私のサッカー場建設に対する一般質問で、市長は、「サッカー場を単独で整備することは考えておりません。」と、断言されました。私はがくっとなってますね、なったんですけど、しかしそのあとに、400メートルトラックをもつ陸上競技場であれば、サッカーやラグビーなどもできますと。この多目的競技場の整備については、10年ビジョンに位置づけをし、責任を持って政策を推進してまいりたいとの答弁がありました。そうであるならば、私も切り替えて、いつまででん固執している場合じゃないので、切り替えまして、この市長の答弁の思いを同じくし、強い期待を込めて、そして私なりのビジョンをきょう、御提案したいというふうに思います。

3月議会で、熊本県内でサッカー場をもっている自治体を紹介いたしました。実は、先日、サッカーの高校総体を久々に見に行きました。ちょうど3年ぶりに優勝しました大津高校と専大玉名高校が試合があったもので、ルーテル学院高等学校のグラウンドに見に行きました。そうしたら、ルーテル学院高等学校のサッカー場がきれいな人工芝のサッカー場に生まれ変わっておりまして、もうびっくりしました。これで高校は、秀岳館高等学校と東海大星翔高等学校、それからルーテル学院高等学校の3つが専用のきれ

いな人工芝のサッカー場をもっております。市長の母校でもあります九州学院も、これは土のグラウンドではありますが、サッカー場、ラグビー場、野球場と、それぞれ単独の九州学院もグラウンドをもっております。ちなみに、手前味噌になりますが、私の母校の熊本工業高等学校。熊本工業高等学校は400メートルのトラックをもっています。これ日本陸連の公認4種の400メートルトラックをもっております。それとは別にサッカー場、それから当然野球場ですね、体育館は第1体育館、第2体育館まであります。高校単独でも、これだけの施設をもっているんだと、ちょっと頭なの中に、片隅に入れておいていただければと思います。

さて、ここからが本題です。先日、歌手の西城秀樹さんが亡くなりました。63歳でですね。私も中学生のころに、ザ・ベストテンを見ながら、こうYMCAとかしました。この西城秀樹さんは日本で初めて野球場でコンサートをされた方なんですよ、先日の告別式では、祭壇がなんといいますか、野球場みたいな祭壇になっておりました。これ以後、ドーム球場やスポーツ施設で音楽のイベントやライブが行なわれるようになったそうです。市長の言われる多目的競技場は、スポーツの試合やスポーツイベントはもちろんですが、音楽などのエンターテインメントの会場としても期待できると、私は思います。最近の県内の大型のエンターテインメントの開催状況をちょっと調べてみました。まず、熊本県民運動総合公園です。今はえがお健康スタジアムといいますけども、2017年、昨年ですね、それと2011年にミスターチルドレンがコンサートをしました。これ2回とも4万人です。計の8万人ですね。次に、グランメッセ、グランメッセは昨年の暮れに12月23、24の2日間、ドリカムが、ドリカムですわかりますね、ドリカムがコンサートやりまして、ツーデイズ、これが9,000人の2回です。次は、県の農業公園カントリーパークです。今年の4月7日、ほんの2カ月前ですけど、SEKAI NO OWARIというグループがおるんですが、4人組で紅白歌合戦にも出ました。1人はなんかこうお面ばかぶっとらすですもんね、そのSEKAI NO OWARIが野外ライブを2カ月前に行なって、農業公園で2万人ですこれ、2万人。同じ農業公園なんですけども、これ数年前にエイベックスに所属する歌手、エイベックスってあるんですけど、その歌手が、浜崎あゆみさんとか倅田來未さんとか、大塚愛さんとか、東方神起とか14組の野外ライブがあつてですね、このときの観客数が3万人です。最後は、先日、5月26日アスペクタでありました。阿蘇のアスペクタですね、阿蘇のアスペクタであったのが、熊本ロックフェスティバルこれが8,000人です。それで、この4つがこれ全部県の施設なんですよね、ようと考えてみたら。ちょっと県の担当課に聞きました。県の観光物産課というところにですね、これ補助金が出ております。コンサートをしたら500万円です。スポーツイベントや映画の撮影が200万円だそうです。県の補助金が。これは県の施設でなくても、市町村でも民間の

施設でも申請をすればオーケーだということでした。そこで、先ほどのいってんじゃありませんけど、県の担当者の方に、「先日、大河ドラマいってんの撮影が玉名市であったんですけど、NHKさんは補助金の申請ばしなはったですか。」て、聞きました。そうしたらですね、「NHKは皆様の受信料で政策ばしよらすけん、公金の申請はしない。」ということでした。「ああ、なるほどだな。」と思いまして、「私、出たんですよ。」ては言わなかったんですけど、県も厳しいその財政の中、今年度そのコンサートなどのそのエンターテイメントに関する補助金の予算を増額されています。やはり県もこのようなエンターテイメントの部分に付加価値をつけて、発信していく、そういうところに予算をつけておられるのかなと思いました。今の6月県議会ですね、いろいろ噂に、噂というか、話題になっておりますけど、ワンピースのルフィー像が1,300万円かけて県庁のプロムナードに建てますというのが今、審議されております。これですね、これ。このルフィーですね、これルフィー。ちなみに、これことしの熊本城マラソンの景品です、これ。あんまり反応がなかですね。ちょっと脱線しましたが、もう1つ。もし、そういう市長の言われる多目的競技場ばですね、玉名につくるとしたら、音楽の都玉名ということですので、玉名女子高等学校とか、前回松本議員も言われましたけど、玉名女子高等学校とか専大玉名高等学校のマーチングバンドのパフォーマンスとか、玉名市民音楽祭、それから玉名の紅白歌合戦なんかも野外ライブでやるとおもしろいかもかもしれません。それから毎年8月には花火大会があります。1万1発。そして来られる方が9万人以上と聞いております。JRも臨時便を出して、熊本からお客さんを誘導してますけども、例えば、花火大会と同日同じ時間に例えば、ライブをやると。これもなんか盛り上がっておもしろいのかなと思います。これを毎年やっていくと、花火大会の日は玉名で野外ライブがあるぞみたいな、そういうのが定着していけば、こうがっとう盛り上がるのかなと思います。

ここまでいろいろスポーツ施設の違った有効利用といいますか、交流人口をふやす利活用について述べてまいりました。ちょっと長くなりましたけども、市長の見解をお伺いしたいというふうに思います。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

〔市長 藏原隆浩君 登壇〕

○市長（藏原隆浩君） 吉田議員の質問にお答えをいたします。

先般、開催しました3月議会で述べさせていただきましたように、投資効果や稼働率を考えまして、単独でのサッカー場整備の考えはないということであります。ただ整備をするのであれば、陸上競技場の400メートルトラックの中に、サッカーまたラグビーのフィールドを整備をして、複合的に利用できる多目的競技場というものをイメージしているということで、御答弁を差し上げたところであります。吉田議員が述べられま

すように、スポーツの利用はもちろんでありますけれども、音楽イベントを含めたスポーツ施設の利活用というものは、交流人口をふやすことに関しましても、本市にとって大変重要な視点ではないかというふうに考えておりますので、整備の際には、より多目的に活用できるような、そういった施設になるように、しっかりと検討をしていきたいというふうに考えております。

質問の熱量から比べまして、答弁が短くて大変申しわけないんですが、以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 吉田憲司君。

○3番（吉田憲司君） 答弁いただきました。

あとでもう1回聞きたいと思いますので、よろしくお願いします。

スポーツと音楽がかみあっていけば、市長も言われましたとおり、交流人口の増加とものすごい経済効果が期待できると、私は思っています。ただ、ここで問題になってくるのが場所の問題です。市民会館も岱明町公民館も玉名第1保育所もドラマ館も消防本部も、最大の関心ごとは場所なんですよ、先ほど県民運動公園や農業公園、グランメッセ、アスペクタなど、県の施設は交通不便なところばかりです。そこに万の単位の人を輸送するのは大変だったと思います。そして帰りも大渋滞だったと聞いています。でもそこに4万人集まるんですよ。そこでスポーツにせよ、コンサートにせよ、この多くの観客の移動を考えると、私的には、新玉名駅前が最適だと思います。しかし、それが容易でないことも理解しているつもりです。地元の皆様の同意やインフラの整備、農振の除外など、それが難しいのであれば、新玉名駅から歩いて行ける距離につくるというのはどうでしょうか。距離感覚でいうと、新玉名駅から市役所までが直線距離で1.2キロメートルです。新幹線で来ると熊本から9分、福岡から40分です。この好立地を生かさない手は、私はないと思います。

それからもう1つ大事なこと、稼働率の問題です。参考までに県の体育保健課に聞いてみたところ、県民運動公園の補助競技場、あのKKウイングの隣ですけども、あそこにも400メートルでタータンの補助の人工芝のトラックがあるんですけども、その稼働率が、これちょっと疑ってしまうんですけど、100%と言われました。稼働率100%。県営八代運動公園、八代の海沿いに野球場と400メートルトラックがあるんですけども、あそこの稼働率が96%と言われました。これちょっとびっくりなんですけど、平日でもジュニアなり女子、小学校、中学校、高校、大学、社会人、クラブチーム、どこのカテゴリーかが練習をして、土日には何らかの試合とかイベントが行なわれているのかなとは思いました。この稼働率については不確かな部分があるので、この場では議論は差し控えたいと思いますが、場所についての市長の见解を、今すぐここだというのは、なかなか言えないと思いますけども、あくまで、現時点で結構です。現時点

での見解で結構ですので、お伺いをいたします。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） ありがとうございます。

吉田議員が述べられますように、私も新玉名駅周辺というものは、他自治体からのアクセスも非常によく、優位性があり、それから魅力的な場所であるというふうに考えるところであります。スポーツイベントも含めて、より集客が期待できるのではないかと、いうふうに考えます。今後、その位置を含め、そして施設の機能、それから規模、先ほども御提案ありました。そういったものをそれぞれ含めて、検討をしっかりとしたいというふうに思いますけれども、やはり財政面での裏付けの問題もあります。ですから、市が単独で整備するほうがいいのか、それとも民間資本、民活導入の中で、例えば、PFI事業であるとか、そういった部分までしっかりと含めて考えながら検討させていただく中で、吉田議員の御提言のほうは、参考にさせていただきながら、検討をしてまいりたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。

○議長（中尾嘉男君） 吉田憲司君。

○3番（吉田憲司君） 答弁いただきました。

市長も言われましたとおり、やっぱり財政面、これはもう本当、位置もそうですが、財政面もこれは本当に難しい面があると思います。

ただ、その厳しい財政状況の中ではありますけれども、私は、例えば、先ほど言われましたけど、市単独のお金だけじゃなくて、熊本城の一口城主的な御寄附であるとか、ふるさと納税にプラスアルファをお願いするとかですね、あとはネーミングライツ、今、えがお健康スタジアムですけど、例えば、城戸石油スタジアムとかですね、そういうネーミングライツを募集して、九州看護福祉大学もありますけど、そういうことでなんというかな、いろんな策はあると思います。そういうところもやっぱり検討をさせていただいて、例えば、空きスペースに広告を売るとかですね、そういうのも考えていいのかなというふうに思います。そしてその周辺では、マルシェをやったりとか、物産を販売したりとか、そういうところでも収入を得る方法が幾つかあるのかなと、私的にも思っています。

そしてその多目的競技場をつくれば、当然高齢者の方も中ではグラウンドゴルフができだと思いますし、周辺にはウォーキングコースをつくったりとかですね、これがまた話が戻りますけど、医療費とか介護費の抑制につながって、市の財政にプラスになるのかなというふうに思います。

先ほどの健康ポイントの介護の話ではありませんが、これからは高齢者が元気な自治体が残っていくと、私は思っています。3月議会でも述べましたけど、玉東の介護保険料が下がりました。ということは、元気な高齢者が多いということになります。先ほど

紹介しました消滅可能性自治体には玉東町は入っておりません。そういうことも念頭に置いていただき、幅広い年齢層に使っていただいて、そして市外、県外からもスポーツであろうが、コンサートであろうが、たくさんの方に来ていただくことによって、市長が掲げておられます未来に向けて夢と希望の実現につながるものとして、この多目的競技場が、今後の玉名市の活性化の目玉、それから起爆剤になることを信じて、そして市長の早期の決断を御期待しながら、本日の私の質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、吉田憲司君の質問は終わりました。

議事の都合により、暫時休憩いたします。

午後 2時04分 休憩

午後 2時20分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

1番 坂本公司君。

〔1番 坂本公司君 登壇〕

○1番（坂本公司君） こんにちは。1番、新生クラブ、坂本公司です。

傍聴にお越しの皆さま、お忙しい中、足を運んでいただきありがとうございます。

私、先ほど自らの意思で献血をしてみました。400ミリリットルですね、少しふらふらしております。もし、私が答弁中に倒れましたら、早速輸血のほうをよろしくお願いしたと思います。

では、早速、通告に従い一般質問をさせていただきます。

1、SNSに関する事項について。

私は昨年、12月と前回の3月の一般質問において、SNSの推進とその効果について発表させていただきました。そしてこの4月より情報発信係が設立され、前回どのような動きをされるかの問いには、これから考えていきますとのことでしたが、設立されてから2カ月が経過し、どのような方向性をお考えかということで、まずは、（1）情報発信係の働きについて、北本議員と反復するところがあると思いますが、よろしくお願いします。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

〔企画経営部長 水本明子さん 登壇〕

○企画経営部長（水本明子さん） 坂本議員の地域振興課情報発信係の働きについてお答えをいたします。

本年4月に地域振興課情報発信係を設置して、現在2カ月が経過しておりますが、新たな取り組みといたしまして、玉名市公式フェイスブック、広報たまなを開設し、平成

30年5月24日から運用開始したところでございます。今回、複数のSNSのツールがある中で、フェイスブックを選択した理由といたしましては、ツイッターの次に利用者が多いこと、利用者の年齢層が平均的であること、記事のように長い文章から写真だけの短い投稿も可能であること、実名登録を推奨されていることなどがあり、最も堅実なSNSと判断したところでございます。

議員も御存じのとおり、SNSを活用した情報発信の効果につきましては、利用者に情報が発信される即時性、情報の拡散性が高い。利用者との双方向性がある。だれもが情報の発信者、拡散者になることができるといった利点があり、そのSNSの特性をきかし、適切に運用することで、市のPRなど、一定の効果が期待されるものと考えています。ちなみに6月10日までの公式フェイスブックの閲覧者数でございますが、5,286人でございまして、多くの方にごらんをいただいているところでございます。

今後は、職員有志を参集し、SNSの活用方法についてのさらなる検討を重ねるとともに、ホームページなど既存の情報媒体と連動させることで、より効果的な広報活動の推進を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 坂本公司君。

○1番（坂本公司君） 答弁いただきました。

フェイスブックは私も拝見させてもらっています。まずは第1歩を進まれたと思っています。答弁にもありましたが、やはりフェイスブックは基本的に実名登録であり、一番適正ではないかと思います。以前、担当課のSNSにお詳しい女性職員さんとお話しさせていただいた時のことなのですが、4つのSNSのランクづけがありまして、上からフェイスブック、ラインのタイムライン、インスタグラム、ツイッターの順番が意見が一致しました。これは何の順番かといいますと、信憑性や柔軟性の順番で、例えば、私が飲食店をやっているときなんですけども、フェイスブックには、「本日、飲み放題プライスよろしく願います。」みたいな感じ書きまして、ツイッターの上は、「きょう、飲み放題これでやってるよ。」みたいに、見る人や年代にあわせた書き方をしておりました。ですので、やはりフェイスブックを選ばれたのは正解だと思います。そして、職員有志を参集してとありましたが、前回の内容にありますように、一人でも多く拡散すれば、それが何万人もの人たちに伝わる、それに市長も自らシェアされているのも拝見しました。市長職改めて激務だと認識いたしました。

しかし、ここまでは私はSNSを大いに推進してきましたが、今回は、SNSやインターネットの危険性についてお話しさせていただきたいと思います。

まずは、ア、誹謗中傷以外の問題について。SNSは実名でも匿名でもできるんですね、もちろんと言ってはなんですが、匿名の場合は、いわゆる誹謗中傷、不満や人の悪

口などを書きたいことを思う存分書かれる方もおられると思います。それが果たしていいか悪いかは別として、それでストレス発散されてる方もおられると思います。しかし、実名ともなればそういう訳にはいきません。慎重に言葉を選び、写真を載せるのも関係のない人が移っていないか確認して掲載します。なかなか実名で友人やどこかのお店の悪口を言う人はまずいないでしょう。しかし、僕はその逆も危険性があるということをお伝えしたいのです。逆とは何か。それは褒めるということです。私は飲食店を営んでまして、スタッフの中には学生もいます。そのスタッフたちには、何年も前からSNSの書き方には注意をしてきました。誹謗中傷はなおさらのことですが、例えば、「Aというラーメン屋さんが玉名で1番おいしいとか書きちゃだめだよ、わかる。」というと、大半のスタッフがわからないと言います。ここにおられる皆さんの中にも褒めて何が悪いと思われる方もおられると思いますが、ではなぜ悪いか、それを見て喜ぶのはA店だけだからです。他店の方がその書き込みを見たら、恨みはしないまでも気持ちのいいことではないでしょう。しかし、これは都会ではそうでもないのかもしれませんが、玉名のような狭い町では少し考えなければならぬのではと思います。もちろん学生さんや一般の方はそこまで問題視する必要はないかもしれませんが、飲食店ばかり、お客様商売をしていれば、もし、うちのスタッフがAもBもCもオーナーさんが来ていただいていたって、Aだけを褒めれば、ほかの方は足が遠のく可能性もあったりするかもしれません。これはもちろん、世間一般の話でしょうが、市としては十分配慮されて広報をされることを願います。

そしてもう1つが、他人が幸せに見え、自分が惨めに見えるということです。これは説明しますと、例えば、フェイスブックには基本的に実名登録をしております。先ほども言いましたように。そして1年もやっていけば個人差はあるとしても、フェイスブック上に50人や100人、中には何百人の友だちがおられる方がおられます。例えば、一般的な家庭が年に2回、家族旅行に行かれるとします。端から見ても十分幸せな家族だとは思いますが、旅行を週末だけに限定すれば、年に52週ありまして、52回の機会が訪れます。例えば、これを分散させると毎週友だちのだれかが2家族、もしくは友だちと旅行に行ってる姿をフェイスブック上で見ることになります。それを自分は年に2回しか行けてないのに、なんでみんなは毎週行っているんだろうと錯覚し、そして自分は何て不幸なんだろうと落ち込むそうです。

では、後味の悪いまま次に移らせていただきます。

イ、デジタルタトゥーとはなのですが、簡単に説明すると、ネット上に書き込まれたものは拡散されると、もとの書き込みを消しても、すべてを消すのは困難になり、これを入れ墨、タトゥーを消すのは困難なことから、そう呼ばれるものです。これに関しては、とにかくすべてがそうなのですが、ひっくるめて言いますと、書き込んだり、写真

を載せたりするときには、とにかく気をつけましょうということになります。これに関連したことを言えば、リベンジポルノもそうです。皆さんも御存じかと思われますが、多くは男性が恋人の裸などの写真を撮り、破局の後にその写真をネット上にアップするということですね。とにかく、「SNSやインターネットは、やってていいことはありませんね。」と言われてもしかたないかもしれません。

そこでもう1つ。ウ、出会い系サイトになりうるのですが、これははっきり言ってなります。そして必ずといっていいほど、月に何度かは事件化しております。何年前かに、私が目にしたニュースでは、非出会い系サイトで知り合った男女がみたいな言い方をされておりましたが、出会ってしまえば、是も否もないと思います。

今回はなぜ、こんなにもSNSのマイナスイメージにつながることをばかりを述べさせていただいてるかということ、一言で言えば、使い方を間違えれば危険で、事件などにも発展していく可能性が高いということです。SNSが流行り始めてまだ10年もたっていない。5、6年前からちらほらそういったニュースが飛び込んでくるようになりました。コンビニのバイトの男の子が冷蔵庫に入って、その写真を載せる。熊本地震の際は、動物園からライオンが逃げ出すなど、嘘のニュースを流す。上げれば切りがないほどの事例があります。それはなぜか。簡単に言えば、まだはやり始めたばかりで対策が追いついていないということだと思います。

そこで、エ、生徒や児童に教育しているのか。もちろん大人でも間違った言い方を、使い方をしている人はたくさんいると思います。しかし、世間を知らないまだ未成年のことならなおさらのことだと思いますので、これについて、答弁をよろしくお願いします。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

○教育部長（戸寄孝司君） 坂本委員のSNSでの問題及び犯罪についての質問にお答えいたします。

本市においては、SNSによるさまざまな問題に対する児童生徒への取り組みといたしまして、まず、玉名の伝統文化や基本的な生活習慣、国際理解等を学ぶ玉名学の礼節のテキストに、情報安全、モラルについて学ぶページを設けており、小学校4年生から各学年に応じた指導を行なっております。また、中学校においては、技術分野の情報技術の学習において、情報モラルについての学習を行なっているところでございます。そのほか、全小中学校に配布されている文部科学省作成の情報モラル教育啓発リーフレットや県教委作成の携帯電話、スマートフォン、SNS安全利用に関する家庭向け指導資料等を活用し、随時必要な指導を行なっているところでございます。さらに情報安全出前講座という制度を活用し、荒尾玉名管内に2人の情報安全ファシリテーターがおりますので、こちらのほうに依頼し、情報安全について学ぶ機会を設定することも可能でござ

ざいます。各学校においても県教委の研修を受け、校内リーダーによる情報教育に関する校内研修を毎年実施し、教職員の基本的認識を高め、指導力の向上を図っているところでございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 坂本公司君。

○1番（坂本公司君） 答弁いただきました。

SNSは、私が思うに本当に素晴らしいアイテムだと思います。私も暇さえあれば、スマホを片手にSNSやネットニュースを見ています。そしていろんな情報を得てきました。未来ある子どもたちにもたくさんの情報や知識をSNS、インターネットなどから学んでいただきたいと思いますとともに、子どもたち並びに市民の皆さんが事件や犯罪に巻き込まれないように、正しい教育をしていっていただきたいと思います。

じゃあ、次に進みます。

〔1番 坂本公司君 登壇〕

○1番（坂本公司君） 2、児童・生徒に関する事件及び命のあり方について。

毎日のように悲惨で残虐な事件が起こっております。大きく取り上げられた事件でいえば、線路に女兒の遺体を遺棄した事件、あるところでの女兒殺人事件は14年の時を経て、容疑者が逮捕され、しかもその容疑者は何度も女兒を呼び、女子生徒に被害を与え監獄の身でした。このような事件を未然に防ぐのは簡単な話です。それは子どもを一人にしないこと。学校関係者や地域住民の協力があれば、登下校時に児童を一人にすることはありません。ですが、昨年、あるところではその児童たちを見守る活動をされていた男性が加害者でした。もうこうなるとだれを信じていいかわかりません。そして、だれからも信じて貰えないかもしれません。私が小学校を卒業して、かれこれ30年が経ちます。本当にびっくりするぐらい状況は変わりました。児童の数も半分以下になり、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らす家庭も減りました。共働きの親御さんもふえました。ということは、子どもが一人になる時間が多くなり、いわば危険がふえたということになります。

そこで、学校や地域では、どのような対策をとっているか、答弁よろしく願いします。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

〔教育部長 戸寄孝司君 登壇〕

○教育部長（戸寄孝司君） 坂本議員の昨今の事件についての中で学校地域はどのように対策をとっているかの御質問にお答えします。

小学校における登下校時の安全対策といたしましては、登校時における集団登校、下校時における低学年担任による途中までの付き添いを実施しております。また、地域の

方々に組織していただいている見守り隊への登下校時の見守り協力をお願いし、地域ぐるみの安全確保にも取り組んでいただいているところでございます。あわせて、中学校においてもPTAや部活動保護者会による登校の見守りや下校指導を実施していただいております。地域の防犯活動における本市の取り組みといたしましては、毎年PTAをはじめとする防犯パトロール協力団体に犯罪講習会を開催しており、防犯パトロール活動では、青色回転灯を装着車を利用した巡回活動を主に下校時間帯に実施していただいております。

○議長（中尾嘉男君） 坂本公司君。

○1番（坂本公司君） 答弁いただきました。

とにかく見守ることが大事だと、私も思います。そしてパトロールの徹底、これからさらにお願ひしたところでありますが、そこでやはり一番気になるのは、不審人物になります。

そこで、イ、不審人物への対応は、答弁よろしくお願ひします。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

○教育部長（戸寄孝司君） 続きまして、不審人物の対応について、御質問にお答えいたします。

玉名市内で不審者出没事案が発生したという情報が得られました場合には、まず、全小中学校へ教育委員会から発生場所、人物の特徴、並びに発生状況の文章をファックス等で早急に送信し、注意喚起を行なっております。それを受けて各学校では、玉名市内のすべての小中学校が登録しております安心・安全メールを利用して、保護者の方へ連絡と注意喚起を行なっております。同時に必要に応じて警察との関係機関への連絡を行なうとともに、職員による校区の巡回指導を行なうなど、児童生徒の安全確保に努めているところでございます。

そのほかにも、すべての小中学校において不審者の侵入に係る対応マニュアルを作成しており、防災主任を中心に、不審者対応の避難訓練を年1回実施し、児童生徒並びに子どもの命を最前線で守るべき職員の危機管理意識を高めているところでもございます。また、県内で不審人物情報が警察に通報があった場合には、県内の警察で情報が共有化され、そしてゆっぴー安心メールで情報共有がなされることから、防犯パトロール協力団体には特にメールの登録を呼びかけ、情報の共有化を図っております。

市内で不審人物情報が入った場合には、協力団体は、防犯パトロールを強化して実施していただいているところでございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 坂本公司君。

○1番（坂本公司君） 答弁いただきました。

いろんな対応なさっているのはわかります。本当にこればかりは、何をもって不審人物とするのかというのは難しいところだと思います。

ある学校の話では、生徒が不審人物に「おはようございました。」と、声をかけられたと先生に言ったそうです。ほんとに何が正解なのかよくわかりません。

そこで、ウ、幼児、児童の誘拐についてですが、私の意見を述べさせていただきます。

一昔前は、身の代金誘拐などがありました。最近は、そういった事例はほとんど見受けられなくなりました。もしかしたら子どもの命を優先して、金銭で解決された方もおられるかもしれません。しかしやはり、最近ではそういった癖の方の犯罪が大半を占めてるように思われます。先ほどの事件を例に挙げましたが、再犯率は高いみたいです。犯罪を犯した人にも何かしらの理由があるのかもしれませんが。幼少期に受けた親からの虐待、学校や地域住民からのいじめ、だからといってそれが正答されるわけでは決してありませんが、やはり教育は大事だなと痛感します。しかし、現にそういった環境の中、さまざまな不審人物、危険人物がいます。では、どうすればいいか。やはり市の対策や地域住民の方が目を光らせてるぞとアピールする必要があると思います。未来ある子どものため、若者のため、これからも十分な対策をお願いします。

では次に移ります。(2) うつ病や自殺に関連する事項について。

題目の命のあり方について、人の命は必ずつくるものであります。病気や不慮の事故、老衰など、病気は検査や治療などで延命することはできます。事故も完全確認を徹底すれば、未然に防ぐこともできます。しかし、自殺ならなおさらどうにか防げるものであり、防ぎたいものであると考えます。

そこでまず、ア、全国の自殺者の統計をお聞かせください。よろしくお願いします。

○議長(中尾嘉男君) 健康福祉部長 松野信生君

○健康福祉部長(松野信生君) 坂本議員御質問の全国の自殺者の統計についてお答えいたします。

自殺対策につきましては、平成18年に自殺対策基本法が制定されて以降、大きく前進し、これまで個人の問題とされていた自殺が社会の問題として広く認識されるようになり、国を挙げて自殺対策を総合的に推進した結果、自殺者の年次推移は減少傾向にあるなど、着実に成果を上げています。しかし、自殺死亡率は主要先進7カ国の中でも最も高く、自殺者は毎年2万人を超えている状況です。自殺はその多くが追い込まれた末の死であり、自殺の背景には精神保健上の問題だけでなく、過労、生活困窮、育児や介護の疲れ、いじめや孤独などのさまざまな社会的要因がございます。厚生労働省自殺対策推進室の統計では、平成29年度の自殺者数は2万1,321人となっており、平成22年、3万1,690人以降、8年連続での検証で、減少率は33.2%であり、過去

最低となっております。男女別内訳では、男性1万4,826人、女性6,495人でございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 坂本公司君。

○1番（坂本公司君） 答弁いただきました。

全国では毎年信じられない数の自殺者がおられるということです。ピークからは減少したとはいえ、年間2万人、これは1日約50人、1時間で2人ということは、きょうの議会が始まって、もう既に数名の命が自らの手で失われているという計算になります。

答弁にもありましたが、やはり最終的には精神的な限界、これにつながるのだと思います。そこで、イ、うつ病との関連性について答弁よろしくお願いします。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君

○健康福祉部長（松野信生君） うつ病との関連性についてでございますが、自殺の多くは多様かつ複合的な原因、及び背景を有しており、うつ病についてもさまざまな要因が、連鎖する中でおきております。原因動機別で見ますと、健康問題49.8%、経済・生活問題15.9%、家庭問題14.6%と続いておりまして、その中でも、自殺の半数を占める健康問題において、議員御質問のうつ病の影響の自殺者は5,343人、全体の24.6%となっております。このような中、本市では関係機関と連携を図り、平成31年度中に自殺リスクを低減させるための計画書の策定を予定しているところでございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 坂本公司君。

○1番（坂本公司君） 答弁いただきました。

24.6%、約4分の1とおっしゃいましたが、私が思うに、それは通院された履歴があるだけで、健康問題や経済問題にしても、最終的にはやはり精神的に追い込まれてのことだと思います。担当課の方には、たくさんの相談があると思いますが、全力で親身になり、市民の方々を守っていただきたいと思います。

これに関連してですが、皆さんは9月1日が何の日か御存じでしょうか。あることが日本で一番多い日なのです。もうおわかりでしょうが、それは自殺です。社会人ともなれば話は変わりますが、小中高校ともなると、8月31日で楽しい夏休みが終わり、もし何らかの事情で学校に行きたくない、もしいじめられている子どもたちにとっては、楽しい夏休みではなく、いじめられない日が終わり、またいじめられる日が始まる、そういう子どもたちにとって、9月1日は地獄の毎日のスタートの日なんです。

そこで、再質問なんです。9月1日前後の統計をお聞かせください。よろしくお願いします。

いします。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君

○健康福祉部長（松野信生君） 再質問にお答えします。

平成27年8月に発表された自殺対策白書によりますと、9月1日は131人、翌日、2日は94人、また、前日の8月31日は92人となっております。その年の1日当たりの自殺者数の平均が、約50人でありますので、比較しますと9月1日の131人は、2.6倍となり突出したものとなっております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 坂本公司君。

○1番（坂本公司君） 答弁いただきました。

9月1日131人、9月2日は94人、8月31日は92人だそうです。

皆さんはこの数字を聞いてどう思われますか。3年前の2015年8月26日、神奈川県鎌倉市中央図書館のツイッターの公式アカウントの書き込みに、次のようなことが書いてあり、当時反響を呼びました。内容は、「もうすぐ2学期、学校が始まるのが、死ぬほど辛い子は、学校休んで図書館にいらっしやい。漫画もライトノベルもあるよ。9月から学校へ行くくらいなら死んじゃおうと思ったら、逃げ場所に図書館を思い出してね。」と、学校関係者や教育委員会などからは、非難の声が上がったそうですが、図書館としては削除せず、そのままツイートを残すことにしたそうです。そんなことは甘えだと、だれだって辛いことやいやなことはあるんだと。毎日テレビを見て、漫画を見て、ゲームをして、好きな時間に寝て、起きて、そんな夢のような日々を送りたいのだと。そんなのは根性がないだけ。気持ちでどうにかなると思われる方もおられるかもしれませんが、現に毎年100人以上の子どもたちが9月1日前後に自ら命を絶っています、毎年です。根性や気持ちだけでは解決できないのです。その300人を100人、50人にしたからよかった。ではなく、これは必ず0にしなければならぬと思います。自殺を100%とめる方法があるとするなら、それはずっと側にいることだと思います。何らかの手段をやめさせることができるからです。しかし、実際にはずっとつきっきりというわけにはいきません。体を側に置くことはできなくても、心を側に置くことはできるはずです。

先ほどの答弁にもありましたが、自殺者減少の計画書の策定を予定されているそうですが、これは市としての問題ではなく、我々も含め、個人個人が気にかけていかなければならない問題だと思います。これからも十分な対応をお願いします。

では、次に移ります。

〔1番 坂本公司君 登壇〕

○1番（坂本公司君） 3、大河ドラマ「いだてん」ドラマ館についてですが、これは

やはり気になるところでございます。

先ほど北本議員ともまた反復することがありますが、（１）内容や設置規模などについて答弁よろしく申し上げます。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

〔産業経済部長 松本忠光君 登壇〕

○産業経済部長（松本忠光君） 議員御質問の大河ドラマ「いだてん」ドラマ館についての内容や設置規模等についてお答えいたします。

まず、今回の大河ドラマ館の内容につきましては、ドラマにちなんだ衣装やセット、撮影風景のパネル展示などはもとより、バーチャルリアリティを活用し、まるで現実であるかのようにドラマの撮影地を疑似体験することが可能な体験型のドラマ館を目指し、準備を進めているところでございます。

次に、大河ドラマ館の規模といたしましては、本日北本議員への答弁でも申し上げましたとおり、建物面積は約６２０平方メートル、うち展示施設は約３５０平方メートル、特産品当販売所が約１２０平方メートル、その他チケット販売ブース、トイレ、事務所等が約１５０平方メートルでございます。また、そのほかにも屋外には一般車両が約６０台、大型バスで約１７台の駐車スペースを設けるとともに、記念イベントを開催する際、仮設ステージの設置を予定しているところです。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 坂本公司君。

○１番（坂本公司君） 答弁いただきました。

要望は後ほど外でさせていただくとして、先に（２）宣伝内容の規定はですが、これは何カ月も前から打ち合わせをさせていただいたのですが、これがはっきり決まっていと、このいだてんにかかわるすべての団体の方の方向性が定まらないと思いますが、御答弁をお願いします。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 続きまして、宣伝内容の規定は、についてお答えいたします。

今回の大河ドラマについては、いだてん東京オリンピックの用語金栗四三氏の名称について基本的な規定が設けられております。

まず、いだてんに関しては、番組の広報はNHKが行なうことになっていることから、NHK以外の団体や組織が使用する際は、原則許可を得る必要があります。また、オリンピックに関しましては、オリンピック・パラリンピックに関する大会エンブレムや大会名称等をはじめ、ＩＯＣ国際オリンピック委員会、ＩＰＣ国際パラリンピック委員会の独占的な所有物であることから、許可を得る必要があります。そして、金栗四三

氏の名称につきましては、金栗四三氏の御親族と協議し、氏名等の使用については許可を得ているところでございます。ただし、使用の際は、金栗氏の尊厳や名誉を損なう恐れがないよう、金栗四三PR推進室が使用に関する窓口となり、利用についての判断を行なうこととしております。

今後は、玉名市いだてん地域振興協議会に新たに設置した飲食物販部会を中心に、各団体や企業から具体的な利用内容を把握した上で、金栗四三PR推進室が窓口になり、NHKへの利用申請を行なう中で、使用範囲等の整備を行なっていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 坂本公司君。

○1番（坂本公司君） 答弁いただきました。

2月に会派研修で、静岡県の浜松市に視察に行きました。いだてんの後半の主役の田畑氏もそうですが、2017年のおんな城主直虎の撮影地でもあったからです。そこでは運送会社と看板業の協力のもと、大型トラックに、全体にでかでかと直虎の宣伝が施されていたのを資料で拝見いたしました。長距離のトラックなら、日本全国を行き交うわけですから、かなりの宣伝効果になります。私は知人に運送会社を経営されてる方が何名かおられまして、先日もこの話をしましたところ、協力は惜しまないと言っていました。とにかく、早急に規定を明確にさせていただき、しかもこの先ないぐらいのチャンスです。多少は先方に無理を通して貰えるよう、要望をお願いします。

ここで1つ提案なのですが、私が12月の議会のときに発表させていただいたQRコードをそのトラックに貼っていただくのは、これはどうなのかなと、ちょっと思います。端から見ればQRコードですから何のことかよくわからないけども、それをリーダーで読み込めば、読み込む方がおられれば、玉名市のホームページにつながるとなると、これはどうなのかなと思いますけど、これは検討よろしくをお願いします。

では、次に移ります。

3、ステージ、屋根、イスなどと簡単に書いておりますが、説明しますと、これは私の要望でありまして、ドラマ館に隣接してステージを設営していただき、ステージ前にイスやテーブルを置き、その上に屋根を設けていただきたいと思います。まずは、飲食ブースは必ず必要だと思います。これは北本議員も城戸議員もおっしゃっていましたが、観光客は、まずその地元の名産品などを食べたいはずです。そして屋根に関しては、飲食ブースから購入したものをイスに座り、テーブルに広げ、雨の日にも食べたり飲んだりできるということ。ステージに関しては、市民の方にも、観光客の方にも飲んだり食べたりしながら、ステージで催し物を見ていただきたいということ。特に玉名には、音玉、音楽のあふれる都玉名というすばらしい団体があります。玉名女子

高等学校や専大玉名高等学校の吹奏楽があります。私の知人にも音楽家たちがたくさんいます。ほかにも玉名太鼓、九州看護福祉大学のよさこいサークル、キッズダンスチーム、たくさんあります。話は音楽のほうにそれますが、そういった音楽家たちなどが気軽に発表できる場所が玉名には余り多くありません。披露する機会を与え、そしてお客様が楽しめば、一石二鳥ではないでしょうか。それにハンガリーのスティーブンワームという学者の著書の中の一分です。「光とイスさえあれば、人は集まり、ほほえみ、そして思い出が残る。」と、もし、飲食ブースがなくても、ステージでだれも演奏していなくても、もしかしたらいこいの場所になり、そして集いの場所になるかもしれません。天気の良い日はお弁当を持ち寄ってもいいでしょう。なによりもおもてなしとは何でしょうか。それこそ東京オリンピック誘致のときに、滝川クリステルさんが発言され流行語にもなりました。おもてなしを辞書で調べたら、おもてなしとは、表裏なし、心から接することとありました。しかし、一般的に言えば、食事や演芸などでお客様を楽しませることではないでしょうか。皆さんもだれか招いたときは、お茶なり、コーヒーなり、お茶菓子なり、必ずお出しするはずです。それを考えれば、飲食ブース、ステージは必要だと思います。しかし、もちろんそれには予算がかかることもわかっております。市としては、立派なものをと考えだと思います。ちゃんとした食事を、ちゃんとしたお菓子を、ちゃんとした工芸品をと、お気持ちは十分分かりますが、大学の学園祭ぐらゐの出店でもいいのではないのでしょうか。もちろん全部が全部では困るかもしれませんが、それでも何もないよりはいいのではないのでしょうか。難しいことは承知しておりますが、ぜひとも御検討よろしく申し上げます。

それと最後になりますが、ドラマ館にしても、全体に言えることなんですが、それはつくったからよかった。つくったら終わりではないということです。前回の一般質問の中で、吉田憲司議員がおっしゃってましたが、熊本城マラソンでは、市の職員さんたち、さらには部課長や市長までがコースを走り、危険な地点や給水所のポイントなどを確認されたそうです。建物や道路などもそうだと思います。いくら設計図どおりにできていても、実際は不便な箇所が見つけれられるかもしれません。建物に入って、歩いてみたり、完成した道路なら一度車で走ってみたり、とても大事なことだと思います。

ドラマ館に関しては、できた、よかった、みんな来てください、だけではなく、自ら家族なり、友人などを連れて行き、例えば、遠くの親戚や知人に名産品を送ったり、それがまた宣伝につながるのではないのでしょうか。私は先日、神奈川県の方の海岸でバーベキューを誘われたので行ってまいりました。そこには200人ほどのお客さんが集まったのですが、その中に数名、有名人といわれる方もおられました。何人かの方には手渡しでいだてんの資料を配り、玉名から2種類の玉名産のお酒を持っていき、飲んでいただきおいしいと言っていました。もしよかったら玉名に来てくれませんか

と言ったら、今度機会があったらと、考えると言っていただきました。本当にこれが結果につながるかどうかはわかりません。ただ、もしそういう著名人の方でも一度でも来られて、ドラマ館などの前で写真を撮られ、それこそインスタなど、SNSに上げられた日には、玉名は少しでも宣伝になると思いますので、私はそういうことを地道にやっ
てまいりました。皆さんの御協力も賜りたいと思います。

長くなりましたが、これで私の一般質問を終わらせていただきます。

傍聴の皆さん、御静聴ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、坂本公司君の質問は終わりました。

議事の都合により、暫時休憩いたします。

午後 3時05分 休憩

午後 3時20分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

14番 内田靖信君。

〔14番 内田靖信君 登壇〕

○14番（内田靖信君） 14番の自友クラブの内田でございます。

早速一般質問を行ないたいと存じます。

平成も残り1年を切りまして、来年5月には新しい年号のもとに、私たちは新たな生活を送ることとなっております。この平成の元号が始まりましたころの日本社会では、1に少子高齢化社会の対応、2に国際化、いわゆるグローバル化社会への対応、3に情報化社会への対応、この3つの大きな課題が国家的課題として横たわっていると言われておりました。その中の1つであります、情報化社会への玉名市の対応について伺いしたいと存じます。

この情報化社会は、私たちが想定をしておりまして以上のスピードで展開をしておりまして、それに伴いまして、新たな産業や企業が誕生し、また、雇用も確保され、私たち市民にとってもこの上もない便利な社会となっております。この情報化社会をより進展させるものの1つとして、高速ネット接続、いわゆる光回線インターネット網の整備が全国的に展開をされております。このような状況において、昨年の12月NTTの社長が光回線などの高速インターネット接続を過疎地なども整備維持する考えを示しておりまして、また、電話回線を使ったインターネット接続、ADSLを2023年には原則打ち切り、光回線への乗りかえを促すと発表をしております。これを受けてか、総務省が光回線が整備されていない過疎地などへの高速のインターネット回線が使えるように支援を強化するとしておりまして、その内容は、過疎地での回線整備に対する国の負担割合は、現在が原則として3分の1であるものを2019年度、来年度から2分

の1、あるいは3分の2に引き上げる方針を固めております。野田聖子総務大臣は会見で、人口減少など、地域の問題をICT、いわゆる情報通信技術を活用して解決すると述べられております。そして整備した回線を遠隔医療、あるいは自動運転バスの運行といった生活支援に使うほか、都市部の方々が地方に移住しやすくなるそのような効果をもまた見込むものとされておまして、このような情報化社会の対応は国家的課題として、また、私たち地方にとりましても今なお、そのような課題として横たわっております。

そこで伺います。まず、1点目に、整備することによる具体的な効果について、地域にとってはどのような効果があるのか伺いたいと存じます。

また、荒尾・玉名管内における整備状況について伺い、さらに玉名市において、なぜ未整備地区が存在するのか、その未整備地区の背景について伺いたいと存じます。

4点目に、先ほど申し上げましたように、国は情報化社会を進展させる上で、財政措置を拡大する方針でございます。そこで、国・県の財政措置について伺い、また、5点目に、未整備地区を何ら対策をとらず、現在のまま放置するのか、あるいは具体的に一步踏み出すのか、玉名市の今後の整備方針について伺いたいと存じます。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

〔企画経営部長 水本明子さん 登壇〕

○企画経営部長（水本明子さん） 内田議員の光回線インターネット接続を整備することによる具体的効果についてお答えいたします。

光回線は、通信線に光ファイバーケーブルを使用しているため、固定電話線を使用したADSL回線に比べて、高速で大容量の通信を行なうことができます。また、ADSLは収容局から離れるほど通信速度が遅くなりますが、光回線であれば収容局からの距離によって通信速度が左右されることがないため、安定した通信が可能になります。このような特徴を持つ光回線によって、インターネットの接続をした場合、データ量が大きな動画などを快適に閲覧できたり、大容量のデータを高速でやりとりすることができますので、リアルタイムの情報を受けとることが可能となり、ストレスを感じない快適なインターネット環境となります。玉名市におきましては、定住者獲得に向けた取り組みも実施しております。若者の流出を防ぎ、20代から50代のいわゆる働き世代の定住化を図るためにも、光回線による高速なインターネット接続環境が整備されれば、居住地での仕事が可能になり、より多くの情報提供を得られ、生活環境にも好影響が期待されるものでございます。また、企業を初め事業者にとりましても、高速な光回線を利用することにより、事業活動の幅が広がり、産業の活性化も期待できると考えるものでございます。

続きまして、2点目の荒尾・玉名管内における光回線の整備状況についてお答えいた

します。光回線によるインターネット接続サービスを行なっている民間通信事業者によりますと、荒尾市、南関町、長洲町、和水町、玉東町では、現在ほぼ全域において光回線が整備されてるとのことでございます。玉名市では、電話交換局単位で、玉名局、大浜局、岱明局が光回線の整備が済み、インターネット接続のサービス提供が行なわれておりますが、石貫局、横島局、天水局では、光回線の整備がなされておらず、電話線を利用したADSL回線のほか、一部の地域では、ケーブルテレビの回線を利用したケーブルインターネットのサービス提供が行なわれている状況でございます。また、熊本県内でございますが、県南の山間部が多い市町村や離島が存在する市町村など、5市2村で玉名市と同様に市内域の一部で光回線が整備されていない地域を有する市町村がございます。それ以外の市町村におきましては、おおむね全域で光回線などの超高速ブロードバンド回線の整備が済んでいる状況でございます。

続きまして、3点目の未整備地区の背景についてお答えいたします。光回線によるインターネット接続は、民間の通信事業者が行なっている超高速ブロードバンドサービスで、主に西日本電信電話株式会社の設備を使用し、各社でインターネット接続等のサービス提供が電話交換局単位で行なわれております。しかしながら、光回線の整備を行ない、インターネット接続サービスの提供を行なうには、通信事業者によるサービス提供装置の整備、局舎の改修、光ケーブルの敷設等の設備投資に多額の経費が必要となるため、現在、光回線の整備がされていない石貫局、横島局、天水局エリアにつきましては、採算性の問題により民間通信事業者独自での開局は困難であるとの回答を受けているところでございます。

近隣の自治体では、光回線によるインターネット接続サービス提供実現のため、自治体がサービス提供に要する通信事業者の初期設備投資と事業に係る赤字補填部分を通信事業者に対して補助する民設民営一部補助型に整備をした自治体もございます。光回線の整備には多額の経費が必要となりますが、行政による公的支援を行なうにしても、民設民営に対しての国や県からの有効な補助メニューもなく、すべてが市の一般財源からの対応となるため現在整備が進んでいない状況でございます。

次に、4点目の国・県の財政措置についてお答え申し上げます。まず、国の財政措置といたしましては、情報通信基盤整備促進事業という補助メニューがございます。これは総務省が光回線などの超高速ブロードバンドの整備を推進するため、過疎地域や離島などの条件不利地域を有する地方公共団体が光回線などの超高速ブロードバンドの整備を実施する場合にその事業費の一部を補助するもので、平成28年度から5年間の施策として実施されております。この補助メニューを活用する場合、光回線の設備が公設であることと、光回線を整備する自治体において、過疎地域や辺地、離党などの条件不利地域を有することが条件となっております。補助率につきましては、事業費の3分の1

となっておりますが、財政力指数が0.3未満の市町村につきましては2分の1、離党を含む市町村につきましては3分の2となっております。なお、玉名市は市内域の一部に辺地を有するため、この補助メニューの条件不利地域には該当すると思われるので、仮に玉名市がこの補助メニューを活用する場合、近年の財政力指数によりまして、補助率は3分の1になると思われます。なお、県の財政措置についてでございますが、光回線の整備に伴う補助メニューなどはございません。

最後に、5点目の玉名市の今後の整備方針についてお答えいたします。玉名市市内域において光回線の未整備地区が存在し、情報格差が生じていること、格差是正のための整備が急務であるということは十分に把握しております。先ほどお答えいたしました国の補助メニューを活用する場合、要件といたしまして公設である必要があるため、市でサービス提供装置や局舎、光ファイバーケーブルの布設など、光回線によるインターネット接続サービス提供のための多額の初期整備を行った上、整備後の運営や管理も、市で影響的に行なう必要がございますので、整備にかかる初期費用に加え、その後の運用、維持管理に係る経費も永久的に発生いたします。光ファイバーケーブルの耐用年数はおおむね15年から20年といわれておりまして、公設整備された地域におきましては、経年に伴う光ファイバーケーブルの張替などの改修も耐用年数に応じた周期で市が行なうこととなり、初期整備時における補助以上に多額のランニングコストが必要になると思われます。

このような理由によりまして、玉名市で整備を行なう場合は、現状の国の補助メニューは活用せず、整備の際に一時的に多額の経費が必要にはなりますが、補助による成約のない、民設民営一部補助型による整備を検討したほうが長期的な観点からは望ましいと思われますので、今後、国や通信事業者の動向と地域の状況などを見極めながら検討してまいる所存でございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 内田靖信君。

○14番（内田靖信君） それでは、再質問を行ないたいと存じます。

その前にまず、今回の一般質問につきましては、答弁にADSLやあるいはケーブルインターネット等の説明もございましたが、これは除き、光回線に限定して議論をさせていただきたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

まず、1点目に、現在光回線の未整備地域として、局単位では、答弁には石貫局、横島局、天水局の答弁でございましたが、具体的にこの地域は、あるいは集落はどこを差しておるのか。また、その地域、集落ごとの世帯数と人口はどの程度になっておるのか。結局は未整備地区にどの程度の方々が生活をなさっているのか、それを知りたく質問したいと存じます。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

○企画経営部長（水本明子さん） 内田議員の光回線未整備地域の具体的地域とその世帯数、人口についてお答え申し上げます。

玉名市内の光回線未整備地区は、電話交換局単位で石貫局、横島局、天水局となります。

まず、石貫局エリアはおおむね石貫1区から5区と月瀬、箱谷の一部、三ツ川全域となっており、横島局の場合は、合併前における旧横島町全域。天水局におきましても、同様に、合併前における旧天水町全域がそれぞれのエリアとなっております。

それから、光回線未整備地区の人口と世帯数についてでございますが、平成30年3月31日現在の状況で申しますと、ただいま申し上げました石貫、横島、天水合計いたしまして、人口で1万3,022人、世帯数で5,032世帯となっております。また、玉名市全体の人口は6万6,850人、総世帯数が2万7,489世帯となっておりますので、未整備地区の割合は、人口で申しますと19.5%、世帯数で申しますと18.3%でございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 内田靖信君。

○14番（内田靖信君） 人口比率が20%弱の方々がまだ未整備地区と、世帯数では18%ちょっとのぼると。相当な方々がこの光回線の、俗にいう恩恵といいますか、情報化社会の一応社会的には、当然整備されるであろうサービスを受けることができないと、こういう現状があらうかというふうに考えております。

それでは次に移ります。

先ほど光回線の整備効果として、定住促進や企業活動の活性化等があるとの答弁がございました。半面、未整備地区のハンデとしましては、携帯電話購入時の格差などもあるようでございますね、機種によっては。また、近年若年層の移住希望世帯では、上下水道の整備とこの光回線の整備が必須とされておるようでございます。この光回線の整備、これは子ども夫婦や孫世帯、あるいはUターン希望を含めましたインフラ整備になりまして、今や生活基盤であります。特に、ただいま申されましたようなところは、若い農業従事者、あるいは後継者もおいでになります。また、各種土木、建築、商業など、あらゆる事業者がおいでになりまして、その生産基盤の活動の基盤基礎ともなっております。このままこの課題を放置することはいわゆる地域管内での格差を拡大をさせ、ひいては玉名市全体の均衡ある発展を阻害することともなり、1つの大きな要因ともなります。これは合併前だったかと思いますが、平成13年前後でしたか、まだ合併議論が始まるか、始まりませんか、そのころの天水町で公共、これは機関でしたかね、インターネット整備事業を他の自治体に先駆けまして、天水町で導入した経緯もござい

ます。そういうときに現副市長は、これは担当でございましたかね、財政的な担当をなさっておったと思います。恐らく合併しなければ早めに恐らく全世帯に光回線を整備したと思っておりますが、このような形で合併をした。さらにはまだ先ほどの地域が、未整備地域が存在するということは、これはどのように副市長としては受けとめておられますか。また、天水にもお住まいでもあります。私たちと同じような地域でさまざまな要望の声等々が届いているというふうに考えておりますが、副市長のこの要望、あるいは市民の思いについて、どのような受けとめ方をなさっているのか伺いたいと存じます。

○議長（中尾嘉男君） 副市長 村上隆之君。

○副市長（村上隆之君） 内田議員の再質問にお答えします。

基本的に私が考えておりますのは、近い将来やはり地域間格差の是正、それからやはり企業誘致、そして議員もおっしゃられました若年層の定住化等には、やはりこれは必須なものでございますので、民設民営での一部補助、これをやはり実施する必要性があるのではないかとこのように思っております。そして議員も先ほど申されました一部ひまわりてれび等の問題がありますが、これは横島に今全域にもう張り巡らされております。これが光回線と同等のスピードと同じような料金形態の中で整備されておまして、また、天水町にもひまわりてれびが相当入ってきておまして、光回線が入っているのと同様の整備がなされております。しかしながら一事業社がもしも撤退された場合に、やはりその基盤となるものがなくなるわけでございますので、一番やはり必要性とするのは民設民営で、すべての世帯に整備を行なう一番基本的な部分というのは、やはり必要かなと思っておりますので、整備を進めていければというふうに考えておるところでございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 内田靖信君。

○14番（内田靖信君） それでは、3点目に、先ほどの答弁で公設の場合は過疎地域や離島などの条件が非常に不利な地域では、国の財政措置として2分の1から3分の2の補助があると。また、玉名市においては市内の一部に辺地が存在するので、3分の1補助事業には該当するが、公設の場合は先ほど説明がありましたように、初期投資、あるいは維持経費、あるいは改修経費等々が多大になるから適当ではないという見解のようでした。私もそのとおりだと思っております。

そこでただいま副市長も申されましたが、民設民営一部補助型という整備方法ならばという答弁でございまして、私も当然そちらのほうが玉名市の財政状況等々から鑑みますと適切ではなかろうかと思っております。

そこでまず、この事業にどの程度の事業費が必要となっておるのか、その事業費につ

いて、また、玉名市からどの程度の民設民営の場合財政負担が必要になってくるのかお尋ねしたいと存じます。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

○企画経営部長（水本明子さん） 内田議員の再質問にお答えいたします。

民設民営一部補助型により整備した場合の総事業費と市の財政負担についてでございますが、玉名市の光回線未整備地区3局を同時に民設民営一部補助型による整備を行なった場合、同じ民設民営一部補助型で整備を行ないました近隣の自治体の状況から推測いたしますと、1局舎エリアごとに約3億円から3億5,000万円程度の費用が必要になっているようでございます。これを玉名市の状況に当てはめると、総事業費で約9億円から10億5,000万円程度と推測されます。さらにこの中での玉名市の負担額でございますが、こちらも同様に近隣の民設民営一部補助型により整備した自治体の状況で申し上げますと、おおむね35%から50%の負担割合となっております。このような状況から推測いたしますと、推測した総事業費により算出いたしますと、おおむね3億1,500万円から5億2,500万円という金額が玉名市の負担額になるのではと推測をしているところでございます。

ただし、今申しあげました金額でございますが、あくまでも予測でございまして、実際には民間の通信事業者が行ないますため、現時点では推測ということで御承知おきください。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 内田靖信君。

○14番（内田靖信君） ただいま総事業費が9億円から10億5,000万円程度、また、その中で玉名市の財政負担が35%から50%で、およそ3億円から5億円の範囲内だろうということで、これは実際、民間の通信事業者等から見積もりをとられた数ではないでしょうから、ぜひ、1回これはきちとした形で見積もりをとりませんと、なかなか現実的な事業計画を立てられるにしましても、財政改革も立ちませんでしょうし、自己負担の割合はわかっておりますものの、具体的な自己負担額そのものが算出できませんので、どうか一つ、ぜひ早めに民間の事業者等々からこのおおよそという形でなくて、近隣の、先ほど申されましたのは近隣の事業形態を鑑みて、これ位だろうということでしょうが、ぜひ、早めに民間の事業者からでも見積もりをとって、ある程度本来の事業費に近い数字を出されて、それからぜひ、検討を進めていかれるならばと思っております。

次に、4点目に、先ほど申しあげましたように、相当の金額が玉名市の自己負担が必要となってきておりまして、現在の民設民営の一部補助という形ならば一般財源から捻出するという方向性は、これはもう先ほど申されたとおりでございます。この財政上の

課題といたしまして、政府は第30次中央制度調査会の提言を受けまして、平成26年度から、これは基本的な考えといたしまして、平成の合併により市町村の面積が拡大し、市町村の姿が大きく変化をしております、合併時点で想定されなかった新たな財政事情が生じており、これを地方交付税に反映することとしております。平成27年、平成28年度もこれは拡大するという当時の方針がなされております。これは合併市町村の支所が住民サービスの維持向上、あるいはコミュニティの維持管理や災害対応に重要な役割を果たしていることに着目して、国が交付税算定に反映すると、このような経緯がございます。その当時の答弁では、玉名市において、この手当ての交付税の算定そのものが岱明、あるいは横島、天水の各支所の住民サービスの向上、あるいは支所機能の充実、強化として、約6億6,000万円ほど算定をされておると、そういう見込みの答弁がっております。

そこで伺います。この新しい交付税、平成26年度に創設されました新しい交付税措置は現在もこれは継続しているものと思いますが、いかがになっておりますか、お尋ねしたいと存じます。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） ただいま内田議員が申されましたとおりに、地方交付税の支所に要する経費の算定についてでございますけども、こちらのほうは平成26年度より3カ年をかけまして見直しが行なわれたところでございます。額にいたしまして、約6億7,000万円が加算をされているという状況になっているところでございます。

○議長（中尾嘉男君） 本日の会議時間は、議事の都合により、あらかじめ延長いたします。

内田靖信君。

○14番（内田靖信君） それでは、今もって結局は合併市町村の当時、非常に合併した支所そのものが活力をなくした、あるいはコミュニティがうまく具合に形成ができない、あるいは災害とかに対応が非常に手遅れになる可能性がある。さまざまな形でその支所、いわゆるところの支所、もとの町部に配慮をした交付税措置をとったわけで、恐らくこれも前回説明がありましたように続いておるということでございます。財政的な裏付けとするならば一般財源という答弁の中で、やはりどうしてもこういう交付税、これがもうその6億6,000万円きちっと歳入に値するということではございません、算定ですから。これはもう皆さん方が御案内のと通りの交付税制度がございます。ただ、先ほどから申しておりますように、市民のサービスの向上のために国はこういう制度を特別につくって配慮をしております。一つの大きな財源の裏づけになるものというふうに考えております。この事業をまず具体化するためには、先ほど申しましたようにある程度きちとした見積もりと同時に、やはり実施計画に、さまざまな検討後に実施

計画という形で公にされる必要があるというふうに考えております。

また、その件と未整備地区を整備する場合はどの程度の期間に係るのか、仮に先ほど申されました3局を順次といいますか、計画的に整備するとしましても、どの程度の期間で整備することができるのか、お尋ねしたいと存じます。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

○企画経営部長（水本明子さん） 内田議員の再質問にお答えいたします。

まず、光回線整備を玉名市で新規事業として行なう場合の市役所内の手順といたしましては、本事業の主管課となります情報管理課が企画経営課のほうに提案を行ないまして、そこから企画経営課、財政課でのヒアリングを経て、企画審議会において審議される流れとなります。企画審議会では、厳しい財政状況の中で、質の高い行政サービスを提供するため、必要性、有効性、優先度や効率性など複数の観点から審議を行ない、事業実施の可否が判断されます。採択された事業につきましては、その後実施計画に登載し予算要求する流れとなります。

光回線の整備につきましては、平成30年度の企画経営部内での重要取り組み項目の一つとしても掲げておりまして、デジタルデバイド、いわゆる地域間の格差に向けた検討は行なっているところでございます。

なお、期間でございます。玉名市内の未整備地区の光回線の整備に要する期間でございますが、これは例えば、3局同時に整備をした場合の想定でございますが、近隣の自治体の実績などから予測いたしますと、おおむね3年程度の事業期間が必要になると考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 内田靖信君。

○14番（内田靖信君） 相当期間もかかるようでございますね、すぐ直ちにできあがる代物ではないということと、先ほど申されましたように、やはり実施計画にきちっとした形で提示するためには、内部でさまざまな検討を議論なさって、ぜひ、早めに実施計画に提示をしていただきたい。そうしませんと、もう月日はたつばかりになってまいりますし、もう地域住民の方々は、もう4、5年前からこれは要望として挙がっておるようでございます。どうぞその点は早めに検討を始めていただきたいと考えております。

また、この事業を行なうことは財政措置としては答弁から拝察しますと、市町村の単独事業にならざるを得ませんし、恐らく玉東町などもそのような形で地方債を起こして、これは実施されたものと受けとめております。この光回線事業は、いわゆる一般単独事業債の発行における範疇にあらうかと思っておりますが、かつて地方債の借入れ率は7%から8%と非常に高金利の時代がございましたが、現在は日銀の政策によりま

して、非常に低金利となっておりますが、地方債の利率、これは予算書では４％以内との表示がなされておりますが、現在は何の程度の利率で地方債の率は推移をしておりますか、お尋ねをしたいと存じます。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 内田議員の再質問にお答えをいたします。

光回線の整備を行なう場合に、合併特例債のような財政措置の優遇措置はございませんけれども、ただいま申されましたとおり、一般単独事業債というふうなことで充当率７０％、それから普通交付税の措置はないということでございますが、そちらのほうは活用は可能ということでございます。

また、直近の銀行からの借入利率といたしましては、０．５から０．６％の利率で現在借入を行なっているという状況でございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 内田靖信君。

○１４番（内田靖信君） 非常に７％、８％の高金利の時代は、一つの大きな事業をしますともうこの金利をまず返すことが非常に長期間にわたって、実際の借入金よりも多いというような時代もございましたですね、その点から比べますと非常に低金利になって、今答弁では０．５％から０．６％と非常にありがたい金利になっております。ぜひ、財政負担もそれほど金利面からは大きな障害にはならないというふうに考えております。

最後に、市長に伺いたいと存じます。

地方債、あるいは交付税措置等の財源につきましては、現在借金もあり市長もこの事業につきましては、十分に把握をされているものと考えております。まず、この未整備地域についての要望、あるいは民意については、市長はどのような受けとめ方をされているのか伺いたいと存じます。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） 内田議員の再質問にお答えします。

私のほうからも先ほど副市長のほうから答弁をいたしましたけれども、おおむね中身としては同じ内容になるというふうに思います。企業誘致の面にしても少子化対策の面にしても、当然、農業、商業、工業、すべての面においてどうしても必要なものだというふうに思っております。従いまして、整備する必要があるというふうに、私も認識をしております。その中でこれまでも何度となくＮＴＴさんのほうとも面会をさせていただいております。詳しく金額はまだ出ておりませんが、県北のエリアのこの光回線がカバーされているその地図というものを見ましても、要するに石貫、横島、天水、そこだけが空白地としてあいている。玉名市としても市長の立場としても、それを見な

がらこれはいかなるもんなかなというふうに感じているところでもあります。当然のことながら、デジタルデバイト、地域間格差是正の観点からもやはり整備をしていく必要があるというふうに認識をいたしております。その中で、これから業者、N T Tのほうともしっかりと話、交渉をしていかなければならないというふうに思いますけれども、先ほど部長のほうから金額のほうはおおむね概算としての金額のお伝えがあったというふうに思いますけれども、持ち出しのほうで3億円から5億円ということで、4億円と計算しまして、3カ所ですね、3局一遍にするとそういった金額なるということになると思います。これが横島がひまわりてれびさんが入っているので、そこは必要ないだろうとかそういう話の中で、個別にいきますと、これは1局、1局ごと膨大な金額がかかってまいります。恐らく7億円から8億円ぐらい、1局ずつを個別にやっていくと、そういうことになるんだと思いますので、やはり整備をするときには、一斉にすべての局を整備すべきではないかというふうにも考えておりますので、そういうところで捉え、また、部のほうでも先ほど申し上げたとおり、重要取り組み事項の一つとして掲げながら、これまでもしっかりと協議をしてきておりますので、議員おっしゃられるとおり、その手続きの面としても、これからは整備をするのであれば進めていかなければならないというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 内田靖信君。

○14番（内田靖信君） 特にこれは未整備地区の方々、私たちが生活を日々しております天水地域の方々からの要望、あるいは希望というものは非常に切実なものがございまして、10代から30代、40代、50代前後までの青年層、あるいは壮年層の方々からは、これは新市長に対する期待が非常に大きなものがあるというふうに考えております。1日も早く事業化へのスケジュールを編成されまして、地元、あるいは財政当局と協議をされて、先ほど申されましたように、事業期間としては3年ほどかかるということでございます。この任期中には、ぜひ、きちっとした形でスタート、新しい事業としてスタートができるならばと思っております。ぜひ、御努力いただき、この任期中に、何らかの形でこの光回線の整備というものが将来にわたって市民の皆様にとって一つの明るいものになればというふうに願っております。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、内田靖信君の質問は終わりました。

議事の都合により、暫時休憩いたします。

午後 4時03分 休憩

午後 4時20分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

10番 徳村登志郎君。

〔10番 徳村登志郎君 登壇〕

○10番（徳村登志郎君） 皆さんこんにちは。本日最後になりました。10番、公明党の徳村登志郎でございます。

過日、皆さんの記憶にも新しいと思います。5歳の女の子が実の母親とその交際相手、後の父親に虐待され、その結果死亡するという痛ましい事件がありました。私自身、ちょうど同じ年頃の子どものおり、なぜ、この痛ましい事件が防げなかったのか憤りを感じるとともに、だれもが真剣に考えなければならない問題だと改めて感じております。女の子を冥福を祈りながら、子どもたちが安心して暮らせる社会にする決意で臨みたいと思います。

それでは、通告に従い一般質問させていただきます。

まず、生活困窮世帯の子どもの学習支援についてお尋ねします。生活困窮世帯の子どもたちに手厚い支援を行なうべく、厚生労働省は2018年度予算で経済的に苦しい家庭の子どもに対する学習支援事業を拡充し、高校中退者らを含む10代の高校生世代の進学や就労に向けた支援を強化することにしました。これは十分な教育を受けられずに、貧困が親から子へ受け継がれる貧困の連鎖を防ぐ観点から、公明党が推進してきたものでもあります。学習支援は2015年施行の生活困窮者自立支援法に基づき、社会福祉事務所がある自治体が任意で行なう事業であります。2017年度では、該当する902自治体のうち、過半数の504自治体が取り組み、ボランティアが無料で勉強を教えたり、放課後の居場所を提供したりしています。利用者は2016年度で約2万人にのぼっています。従来、学習支援は、高校進学支援などに主眼が置かれており、中学生が利用者の6割強を占めております。一方で高校生や高校中退者、中学卒業後に進学も就労もしていない子どもへの支援の不足が指摘されていました。

そこで今回の拡充は、自治体の支援員の増員などにより、困窮世帯の高校生世代が希望する進路を選べるように後押しするようになります。支援員は、元教員などを想定しており、高校生や進学を希望する中退者には基礎学力の習得や授業のフォローアップを実施します。就労を考える中退者には、就職情報の提供などを行ないます。中学卒業後進学していない子どもには、生活習慣の改善や孤立感の解消などの手助けを行ないます。このほか、厚生労働省は貧困の連鎖を防ぐには、早い段階からの支援が重要であるとして、小学生への支援も充実させるとしています。親の事情で学童保育に通えない子どもがいる家庭などに支援員が巡回訪問し、早寝早起きや宿題を行なう習慣づくりで助言したり、子育てについて親からの相談に応じたりするようです。

そこで、3点お尋ねいたします。

本市においても学習支援が実施されていると思いますが、1、学習支援の現状について。2、高校中退者を含む10代の「高校生世代」の学習支援拡充について。3、小学生への学習支援の充実について。

以上、答弁をお願いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

〔健康福祉部長 松野信生君 登壇〕

○健康福祉部長（松野信生君） 徳村議員の学習支援の現状についての御質問にお答えいたします。

平成27年4月に生活困窮者自立支援法が施行され、その制度の中で学習支援事業がございます。これは生活困窮家庭の子どもに養育相談や学びの場を提供することにより、子どもが引き続き生活困窮となる貧困の連鎖を防止するためのもので、本市では、小学生から高校生を対象としております。

この学びの場における本市の実績でございますが、これは学校法人松本学園をお願いをしております、事業開始初年度の平成27年度9名でしたが、平成28年度21名、平成29年度28名となっており、直近の平成30年5月末現在の利用者は、小学生15名、中学生10名、高校生3名の計28名となっております。

また、学習支援の現状といたしまして、平成29年度を例に挙げますと、スケジュールについては月曜日から木曜日までの4日間の夕方約1時間半から2時間半を充て、その内容につきましては、宿題支援、教科書に沿った学習支援、定期テスト対策や苦手分野の克服及び家庭学習定着への支援等を行っております。この学習支援以外にもあいさつの励行、時間厳守、整理整頓等の生活指導を行っております。また、毎月行なっている生活困窮者自立支援調整会議において、学習支援事業の状況報告、課題提示が行なわれており、児童が在籍している学校の担任、養護教諭、スクールカウンセラー等とも情報共有をするとともに、今後の対応についても協議をしています。

学習意欲が低く、学習教室に参加できてない児童もありますが、放課後学校の教室まで迎えに行く送迎方式を実施したことにより、ほぼ毎回参加できるようになっております。学習支援事業を利用している子どもたちや保護者に行ったアンケート調査からも勉強することに意欲的になった。以前に比べ手伝いをするようになった。精神的にも落ち着いて生活できるようになった。等の肯定的意見が寄せられていることから、学校からの学習内容要望も含め、よりよい支援ときめ細やかな学習指導ができるようになったことが本市における学習支援事業の成果と思われます。

学習支援事業の方針としましては、発達障害や複雑な悩みを抱える子どもたちに対しては、心のケアに努めるとともに、さらに魅力ある教室づくりに努め、参加しやすい環境を整えてまいります。

なお、スタッフとしましては、教育支援員2名、学生の支援員1名の計3名で対応しております。

次に、高校中退者を含む10代の「高校生世代」の学習支援拡充についての質問にお答えします。本市においては、平成30年度当初における高校生の学習支援は3名おります。熊本県に問い合わせたところ、平成29年度の熊本県下の生活困窮世帯への小学生から高校生世代の学習支援実施率は100%でございました。全国平均の56%と比較しますと、熊本県は全国平均よりも進んでいる状況でございます。

次に、小学生への学習支援の充実についての御質問にお答えします。徳村議員の質問の趣旨は、巡回、いわゆるアウトリーチ型の学習支援の取り組みについてはどうかということと答弁いたします。

本市においては、平成28年度に三ツ川小校区にある公民館を使用して、学習支援のアウトリーチを行なったところでございます。今後、このようなケースがある場合には、学習支援事業の拠点からの距離、それにかかる時間、人員等、総合的に検討し、巡回型の学習支援とするのか、学習支援事業の送迎とするのかを決めたいと思います。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 徳村登志郎君。

○10番（徳村登志郎君） 答弁ありがとうございました。

幾つかちょっと再質問をさせていただきたいと思います。

本市においては、松本学園が中心となった学習支援事業「ジョイスタ」のほうがあるということで、大変参考になりました。

また、訪問型の支援も拠点を決めてやってらっしゃるということだったんですけれども、必ずこの学習支援というのはボランティアスタッフというものが必要になってくるかと思いますが、この玉名市のこのボランティアスタッフに関しては、例えば、交通費等の支給はなされているのか、また、そのボランティア自体がまた有償なのか、無償なのかというところを答弁いただけますでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 後ほど答弁いたしますけど、よろしいでしょうか。

○10番（徳村登志郎君） よろしく願いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 徳村登志郎君。

○10番（徳村登志郎君） それでは、もう1点、部長の答弁の中にも若干触れてありましたが、実施場所ですね、その学習支援を選ぶ実施場所をつくったときに、当然、送迎が必要になってくるかと思うんですけれども、こういうのも自治体によっては送迎をボランティアスタッフが行なっているとかというような対処をとっているのもあったんですね、場所がその公民館というふうに決めると、やはり特に田舎であれば、5

キロ以上離れているとか、そういうことも想定されますので、そういう場合のもし対処法を考えられていたら、その辺の部分の答弁をいただければなというふうに思いますけど、よろしくお願いします。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 後ほど一緒に答弁いたします。

○議長（中尾嘉男君） 徳村登志郎君。

○10番（徳村登志郎君） じゃあ、最後にもう1点、この学習支援の対象者になる生徒さんですね、そういう方に参加の呼びかけがどのように行なわれているのか。私が一応、調べた自治体では、いろいろ学習支援の活動の様子を記録して、そういうものを頼りにして発行していると。そういうものをこの事業を利用していない世帯の子どもたちにも、そういう対象になる世帯には、全部それを発送しているという自治体もあるみたいなんです。その頼りの内容を見て、興味があれば「ああ、利用できるんだ。」と、「利用したいな。」ということがあれば、例えば、年度の途中からでも参加できるようにしてあったりとかですね、してあるみたいなんですけど、その辺も何かそういう玉名市でもそういうたよりみたいなものをつくって、また、そういうものをそういう対象の世帯に配付されているのかどうなのかということもお聞かせして貰えればと思います。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 一緒に答弁させていただきます。

○議長（中尾嘉男君） 部長、これは通告あつとらんとですか、あつとるとですか。

○健康福祉部長（松野信生君） いえ、聞いてませんでした。

〔「はっきりせい、はっきり」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） しとらんとね、通告は。

○10番（徳村登志郎君） いや、再質問の部分ですから、関連する部分は質問させて貰います。

○議長（中尾嘉男君） ちょっと議事の都合により、暫時休憩いたします。

午後 4時36分 休憩

午後 4時42分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

先ほどの答弁いいですか。

健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 先ほどの再質問につきましてお答えいたします。

送迎につきましては、どうしてるのかということだったんですけども、これは先ほどの松本学園に対する委託料の中に含まれているということでございます。それと学生が

先ほど1名いるということで御説明しましたがけれども、学生支援については有償ボランティアということになっております。それから、市民へのチラシとかそういうものはないということですが、相談事業の中でこれを知らしめてと。ただ、それ独自のチラシはなくて、この全体の事業のチラシの中には載っているということでございます。相談事業の中で、必要な時に配付するという形をとってみたいのです。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 徳村登志郎君。

○10番（徳村登志郎君） 答弁ありがとうございました。

ボランティアスタッフ、特に学生は私も有償ではないのかなというふうに思ったので、ちょっと確認したかったので、有償であれば、また、そのことをしっかり学生もボランティアでありながら、ちゃんと労働賃金も貰えるわけですから、しっかりまた拡充もしやすいのかなというところもあります。

それと送迎に関しても、いろんな実施場所によってやっぱりいろんな送迎が必要になってくるので、どのような対応をなさっているかということで、松本学園のほうでなされてらっしゃるということで確認が取れたところであります。

それと、特にこの学習支援の活動の様子はやっぱり随時記録としてたよりみたいな形にして、対象になるような世帯の子どもたち、家庭世帯に発送していただければと、そんなにたくさん世帯にのぼるということじゃないかと思しますので、それで対象となる世帯の子どもたち、また、親御さんたちが学習支援を今回、また、受けさせてみようかなというようなことも、その内容を見ながらできるんじゃないかなと思いました。

そういう形で、済みません再質問を終わります。

生活困窮者自立支援及び生活保護部会の報告書によりますと、高校生や高校中退した人、また、中学卒業後進学や就労していない人などの高校生世代、10代の若年層に対する支援が不足していると。学習支援だけでなく、自立に向けた相談支援が必要であり、教育部門との連携はもとより、就労支援機関との連携も含めた方策を検討すべきであるとあります。また、中学校を中退した人、中学卒業後進学や就労していない人などの自分の将来への意欲向上や具体的イメージの形成を促すことが必要ですし、希望する進路、就職、再就学、進学の選択のために基礎づくりも必要だと思われます。また、同報告書には、家庭で机に向かう習慣がないことが低学力につながる恐れがあることや中学生になると支援につながるまでの関係構築が難しいといった観点から、小学生や就学前からの早期支援が必要との指摘もあっているようです。本市におきましても、ぜひともこの貧困の連鎖を防ぐこの学習支援事業を拡充させていただきたいことを要望いたしまして、次の質問に移りたいと思います。

[10番 徳村登志郎君 登壇]

○10番（徳村登志郎君） 続きまして、いじめ通報アプリの導入についてお尋ねします。

先月、文教厚生委員会の行政視察で、千葉県柏市を訪問いたしました。柏市では、匿名でいじめを通報できるアプリ「STOP i t（ストップイット）」を昨年5月から公立学校としては全国で初めて市立中学校で取り入れ、全生徒を対象に無料で提供しています。実際、導入後、まだ1年足らずですが、その効果は従来の電話、メールに比べて相談件数が4倍に跳ね上がり、インターネットやSNSを通じたいじめの件数も減少したそうです。

柏市教育委員会は、本年度も継続するとともに小学校のモデル校を選んで、高学年の児童にも導入する方針を出しています。そのアプリ「STOP i t（ストップイット）」は、2014年に米国で開発されたスマートフォン用アプリです。周囲で発生したいじめを被害者や第三者が匿名でチャット形式での報告、相談できるのが特徴で、文章や画像などを送り、匿名のまま送信先とやりとりができます。パソコンでの利用も可能で、緊急時にはアプリ内に表示された相談窓口の電話番号表示につなげることもできます。販売元、東京都のストップイットジャパンによると、米国では約6,000校の332万人が利用し、実際にいじめの減少が報告されているそうです。柏市の担当者によると、各中学の50%から80%ほどの生徒がスマホを持っているといい、生徒にとっては身近で使いやすいアイテムのようです。アプリはタブレットやパソコン、インターネット接続可能なゲーム機でも利用できるそうです。アプリ導入は、スマホ所持を推奨することになるのではないかと導入反対意見もあったそうですが、事実上、子どもたちに普及しているスマホであれば、有効に活用すべきとの判断に至ったようです。

柏市では、発信者の情報は学校名と学年のみの匿名の形で、いじめの情報を市教育委員会に伝えられます。生徒から送信があると、市教育委員会内の2部署、いじめ・非行担当部署と少年補導センターに通知が届き、担当者は通知があれば必ずその生徒に返信します。例えば、「学校に連絡してもよいかなどを生徒とやりとりし、慎重に対応していきます。」と、話されています。気軽に通知、相談ができることで、日常的にやりとりをする生徒もいるそうです。このアプリが生徒に寄り添うことができるツールでもあったと話でした。文部科学省の全国調査によると、2016年度の小中学校と特別支援学校でのいじめの認知件数は、前年度比9万8,676件増の32万3,808件と、過去最多を更新しました。千葉県内に限っても、3万1,617件と3年連続で全国最多となっております。今回アプリを導入した柏市では、いじめ認知件数が最も多かったのが中学1年生であり、アプリによる相談も3分の2以上が中学1年生から寄せられており、中には教員とのかかわりに悩みを抱えた相談などもあったといいます。入学

して人間関係が余り構築されていない1年生を中心に早く手を差し伸べるべきだと感じました。

そこで柏市の事例を踏まえ、2点お尋ねいたします。1つ、本市のいじめ相談の現状について。2、千葉県柏市等で導入されているいじめ通報アプリ「STOP i t（ストップイット）」について。

以上、答弁をお願いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

〔教育部長 戸寄孝司君 登壇〕

○教育部長（戸寄孝司君） 徳村議員の小中学校におけるいじめの現状についての質問にお答えいたします。

玉名市教育委員会では、平成24年度から玉名市独自の小中学生を対象にした、いじめの有無や日常生活の様子を知るためのアンケート調査「タマにゃんチェック」を月1回程度実施し、いじめの早期発見、きめ細かな教育相談等による解決に努めております。また、すべての学校にいじめ対策校内委員会を設置し、組織を上げて共通理解を図り、早期対応、解消に努めているところでございます。また、県教委による心のアンケートにおいて、いじめに関する調査を毎年行っており、昨年1月時点でいじめと捉え対応した児童生徒は7名おりましたが、3月末時点でいじめが継続していると回答した児童生徒はおらず、いじめの解消率は100%でございます。この結果からしても重大ないじめ事案と認知するものではありませんでした。さらに、本年度も現在のところ教育委員会の2名の教育相談員へのいじめに関する相談は挙がっておらず、現在のところ教育委員会としましては、重大ないじめ事案は認知していないところでございます。

次に、千葉県柏市等で導入されているいじめ通報アプリ「STOP i t（ストップイット）」についてお答えいたします。導入についてどう考えるかとの質問でございますけれども、SNSの普及に伴い、インターネット上で行なわれているいじめ対策と同時に、最近の若年層の用いるコミュニケーションの手段としてSNSが圧倒的な割合を占めるようになっている実態でございます。SNSを活用した相談体制の構築が喫緊の課題となっております。

議員御指摘の千葉県柏市では、市内の中学生がいじめ通報アプリを無料でダウンロードできるようにし、昨年は1万人の対象者のうち486人が登録したとのことです。いじめの相談件数は、前年度の電話とメールの相談に比べまして5倍の133件に急増し、そのうち4割に当たる56件は、いじめやネットトラブルに関する相談だったとのことです。柏市教委は中学生の本アプリの活用により、いじめが深刻になる前に対応できると評価し、今年度はモデル校を選んで、小学校でも導入する予定であるとの報道がされております。このような中、今年度幾つかの地方公共団体が独自の取り組みを進めてお

り、熊本県においても昨年の通報窓口アプリの試験導入が実施されて、県北においては玉名高校及び玉名高校附属中学校が指定校となっております。それらの取り組みから、今年3月28日に、文部科学省よりSNS等を活用した相談体制の構築に関する当面の考え方の最終報告が出されております。これには、今後の方向性ととともに、さまざまな留意点が示されております。今後、この報告書をもとに、今後実施される地方公共団体におけるSNS等を活用した相談に関する取り組みの成果や課題等を踏まえ、ガイドラインが出されることが検討されております。それらを参考にしながら、システム導入について、今後検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 徳村登志郎君。

○10番（徳村登志郎君） 答弁ありがとうございました。

玉名市独自のいろいろ対策をいろいろお聞きしまして、いじめも7名報告を受けていて、それも解決したと。ただ、いじめがわからないのは、やっぱり潜在的に存在してるというところで、そういう意味でやっぱりこういうアプリがまた有用ではないのかなと、私自身は感じております。

柏市では、いじめ防止基本方針の改定から3年目を迎える2017年いじめ傍観者にならないことに視点を当てた指導に力を入れているそうです。アプリはいじめの抑止力になるとして期待されており、同時にいじめが起きる雰囲気をつくらないように教育が行なわれております。担当者は、教育現場では、クラスがいじめ問題に敏感かどうかといった雰囲気次第でいじめが悪化することもあると、解決しやすくなることもありますと語っております。いじめ傍観者にならない、自分も当事者だと意識を持って貰えるようにする。ここに手腕をおいた授業を実施し、アプリ「STOP it（ストップイット）」の使い方の説明もこの授業内で行なっているそうです。

本市においても、このいじめ通報アプリは大変有効だと確信しております。ぜひとも、いち早く導入を答弁のとおり御検討いただき、子どもたちがいじめのない学校生活を送れるよう、尽力していただきたいと要望してこの質問を終わりたいと思います。

〔10番 徳村登志郎君 登壇〕

○10番（徳村登志郎君） 次に、キッズウィークについてお尋ねいたします。

休み方改革へ、今、自治体の動きに注目が集まっております。ゴールデンウィークのような大型連休を地域ごとに新たに設け、家族と一緒に過ごせる時間を増やそうとする取り組みが各地で動き始めており、これはキッズウィークと呼ばれるもので、政府が進める大人と子どもの休み方改革の一環です。公明党が昨年5月政府の経済財政運営と改革の基本方針、いわゆる骨太の方針策定に向けた政府提言の中で主張し反映されたものです。柱は学校の長期休暇を分散化することになっており、例えば、夏休みのうち5日

間を別の時期に移動し、前後に土日を絡めて9連休とすることなどが想定されています。休日をどう分散化するかは自治体の判断に委ねられています。公立学校の休業日や教育委員会の判断で決めることができますが、政府は昨年9月学校教育法の施行令を改正し、家庭や地域での体験的な学習活動のためにも休みを設けられることを明示しました。自治体がより柔軟に取り組めるようにした点がポイントになっております。キッズウィークにはさまざまな効果が見込まれております。地域の行事にあわせて休みを設ければ、子どもが家族とともに参加しやすくなります。連休が地域によって分散されれば、ゴールデンウィークやお盆期間のような混雑を避けられます。観光業界にとっても年間を通じて安定した需要が期待できます。例えば、本市においてはしょうぶまつり期間をキッズウィークにするなどが考えられると思います。

文部科学省の調査によれば、47都道府県のうち、キッズウィークを既に導入しているのは7団体、導入を検討中が21団体にのぼっております。また、市町村でも導入が相次いでおります。本市においてもこれからの課題だとは思いますが、今現在、このキッズウィークの導入検討についてはいかがなものか、答弁をお願いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

〔教育部長 戸寄孝司君 登壇〕

○教育部長（戸寄孝司君） 議員のキッズウィークの導入の検討についてお答えいたします。

政府の発表によりますと、キッズウィークは地域ごとに学校の夏休みなど長期休業を分散化すること等により、大人と子どもが一緒に休日を過ごす機会を創出する取り組みです。消費活性化の一環で、親の有給休暇取得や家族旅行を促す狙いがございします。つまり、制度上は子どもの教育という視点を最優先に考えたものではないようです。そもそも、夏休みの期間は、酷暑のため、学習等に集中しづらい状況があるため、伝統的に長期間の休業が設定されたものと思料いたします。また、子どもにとって個性を伸ばし、地域に貢献するなど、大変意義のある休みであると考えております。また、本市では、平成18年度から授業時数確保と教育効果の向上を狙って2学期制を導入し、夏休み期間を既に4日間短縮しております。さらに本年度は、新学習要領の改定により、授業実数の増加への対応から、さらに2日間短縮することとしております。これ以上の短縮はなかなか厳しいものがあるのではないかと判断しているところでございます。

一方、国の提言に基づくキッズウィーク導入となれば、社会的環境の整備が追いつかず、子どもは休みでも親が休みを取れず、やむなく休日子どもだけで過ごす時代が生じるのではないかと危惧するものでございます。実際、週5日制の導入に当たっては、家族が一堂に、あるいは地域の方々と時間を共有するということが狙いとしてありましたが、それを実現可能とする社会的受け皿が整いませんでした。結果として、親が仕事

を休めず、核家族が多いこともあり、土曜日を子どもだけで過ごさざるを得ないことになったり、地域での受け皿もなく、塾通いが急増したり、ゲームに1日を費やしたりするという困った社会現象が生じております。

キッズウィーク導入となれば、ますますその状況が強まるのではないかと心配しております。また、学校では他と連携を必要とする各種行事が計画されておりますので、学校が単独で制度を導入することも難しく、休みを近隣の市町で揃える必要もあります。できれば、熊本県下で統一されたほうが望ましいとも考える次第でございます。

このようにキッズウィークの実施については、社会情勢をしっかりと見極めながら、玉名市という限定されたエリアだけではなく、他の市町の動向を見据えて、連携して取り組むべきものと考えております。

教育委員会といたしましては、今後とも子どもを取り巻く環境の整備状況の進捗を把握し、可能性を探りながら、子ども第一主義で判断してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 徳村登志郎君。

○10番（徳村登志郎君） 答弁ありがとうございます。

答弁いただいたとおり、導入については、いろいろな課題も多いかと思います。特に、忘れてはならないのは、保護者の有給休暇の取得を促すことだと私も考えております。企業を初め、社会全体で有休を取りやすい雰囲気づくりが重要になるはずです。人手不足が深刻な中小、小規模事業者には、職場の生産性を高める支援策も欠かせないと思います。また、学校の休日に保護者が休めない場合に備え、子どもの居場所づくりも考えなければならないと思います。いろんなことを、本市においても丁寧に今後検討を重ねていただいて、この休み方改革を前に進めていただきたいと要望して、この質問を終わりたいと思います。

それでは最後の質問となります。

〔10番 徳村登志郎君 登壇〕

○10番（徳村登志郎君） 次に、健康マイレージの導入についてお尋ねいたします。

近年各自治体で健康マイレージ制度の取り組みが始まっております。市民が主体的に健康づくりに取り組み健診の受診率向上を図ることに対してポイントが付与され、それに応じたサービスが得られるシステムになっております。ポイントを集め楽しむことが、健康的な生活習慣の動機づけにつながるというユニークな制度であります。御存じのとおり、マイレージは航空会社の顧客サービスの一つです。搭乗距離に応じて会員客にマイルポイントを付加、ポイント数に応じて無料航空券や商品、座席のグレードアップなどのサービスを提供するというものです。こうしたサービス以外でもフードマイレージなどといった環境への負荷の程度を図る指標としても使われ、なじみのある言葉と

なりつつあります。

健康マイレージは、行政サービスの一つとして取り組みが始まっております。近隣市の山鹿市においても本年度より、山鹿市健康ポイント事業が実施されます。既に今月から参加者の呼びかけも始まっています。きょうはちょっとチラシをもってきています。

〔徳村登志郎君 チラシを示す〕

○10番（徳村登志郎君） 拡大したものですけれども、これ山鹿市の平成30年度健康ポイント事業というチラシで、もう既に6月1日から参加できる方の呼びかけを行なっております。先着800名様にはウォーキングタオルをプレゼントとかということも載っております。

内容といたしましては、この健康診断、それと人間ドック、がん検診の受診や健康に関する事業、スポーツ大会、行事への参加、自分で決めた運動を継続して行なうと、健康づくりに取り組み、対象事業ごとに設定されたポイントを年間合計20ポイント以上貯めて応募すると、抽選でさまざまな特典が当たるというものになってるみたいです。

山鹿市では、配布されたポイントカードに自分で記入して提出するものですが、埼玉県で実施されている言葉健康マイレージというのがあるんですけれども、こちらは参加者が専用アプリをダウンロードしたスマートフォン又は送付される通信機能付き歩数計を身につけ、歩くとポイントが付与される仕組みが導入されております。1日に3,000歩で300ポイントが貯まり、3カ月ごとに3万ポイント貯めると、自動的に抽選に応募されて、県特産の農産物が当たるようになっているそうです。

本市におきましても、既に行政ポイント付与事業が実施されております。特に、健康マイレージは歩けば歩くほど健康になり、ポイントが貯まるといったウォーキングに主眼をおいたものでもあります。本市であれば、行政ポイント付与事業に加えれば、地域活性化の相乗効果も得られると思いますが、いかがでしょうか。

そこで、2点お尋ねいたします。

1つ、本市が実施している健康づくりについて。2、健康マイレージと行政ポイント付与事業の活用について。

以上、答弁をお願いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君

〔健康福祉部長 松野信生君 登壇〕

○健康福祉部長（松野信生君） まず、徳村議員の本市が実施している健康づくりについての御質問にお答えします。

本市では、第2次玉名市総合計画や健康玉名21に基づき、市民が生涯を通じて健康で安心して生活できるように、妊娠・出産から成人まで、人のライフサイクルに沿った健康づくり事業を実施しております。

主な事業としましては、母子の心身の健康づくりとして、母子健康手帳交付、赤ちゃん訪問事業、月齢ごとの乳幼児健診、育児相談、病気を予防するための予防接種事業等を実施しております。また、成人保険事業としましては、特定健診、がん健診等を実施し、結果に基づく保健師、管理栄養士の保健指導を行ない、生活習慣病の予防に取り組んでおります。また、健康な地域づくりのために、食生活改善推進活動の推進、毎年秋に市民への健康づくりの周知啓発のための健康食育フェアを開催しているところでございます。

続きまして、健康マイレージと行政ポイント付与事業の活用についてお答えします。まず、現在取り組んでおります行政ポイント付与事業の状況を申し上げますと、自治体ポイント事業の先進モデルとして始めたもので、結婚、出生及び転入の届出のほか、市民の健康や少子高齢化対策といたしまして、各種講座をはじめ、福祉祭や食育フェアなどのイベントへの参加者に対してポイントを付与しているところでございます。貯まったポイントは、玉名スタンプ会のハローポイントとして使うことができるということになっておりまして、商店街の活性化と健康への市民意識の向上を図るものでございます。また、健康マイレージにつきましては、ウォーキングなどの健康づくりのメニューを設定し、目標達成者に特典を与える取り組みを行なっている自治体があることは承知しているところでございます。

本市におきましては、日常生活の中で行なわれるウォーキングなどに対しポイントを付与することは今のところ具体的な考え方はありませんが、国民健康保険事業においても健康づくりへの取り組みが高く評価されている状況にありますので、健康への関心を高めるため、健康づくりに関するメニューの拡充を今後検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 徳村登志郎君。

○10番（徳村登志郎君） 答弁ありがとうございます。

先ほどは埼玉県のコバトン健康マイレージについて触れましたが、2017年4月から本格的に始動している同プロジェクトは、ドコモヘルスケアからのサービス提供を受けているそうです。現在、埼玉県にある63の市町村のうち、25の市町村と全国健康保険協会、協会健保ですね、が、埼玉支部ほか3団体と3事業者が参加し、平成31年度までに50以上の自治体が参加の意向を示しているそうです。

先月、文教厚生委員会で視察に訪れた和光市においても県と連携した和光健康マイレージとして実施されております。書類の郵送やウェイブサイトで申し込みを行なった参加者に対して、市町村が歩数計やリストバンド型活動量計ムーブバンドを配付、参加者は公共施設やドコモショップを初めとする地域店舗に設置される専用の情報端末に歩数

計などをかざして歩数データを読み取らせることができます。ウォーキングの歩数や運動教室への参加、特定健診の受診といった取り組みに応じて、参加者はポイントを獲得し、そのポイントに応じて抽選で地域点のクーポン券や特産品などが特典とされています。そして、これらのインセンティブのほか、さらなる利用者拡大と継続利用の工夫も考えられているそうです。

ここで先進事例の話をさせていただきましたが、本市におきましても、市民の健康増進と地域活性化のためにも、ぜひ、導入の推進を要望したいと思います。

それをもって今回の私の一般質問、終わりたいと思います。

ありがとうございます。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、徳村登志郎君の質問は終わりました。

以上で、本日の日程は、終了いたしました。

明14日は、定刻より会議を開き、一般質問を行ないます。

本日は、これにて散会いたします。

午後 5時17分 散会

第 4 号

6 月 1 4 日 (木)

平成30年第3回玉名市議会定例会会議録（第4号）

議事日程（第4号）

平成30年6月14日（木曜日）午前10時00分開議

開 議 宣 告

日程第1 一般質問

- 1 18番 前田 正治 議員（無会派：日本共産党）
- 2 8番 多田隈 啓二 議員（創政未来）
- 3 2番 吉田 真樹子 議員（創政未来）
- 4 15番 江田 計司 議員（無会派）

日程第2 議案及び請願の委員会付託

散 会 宣 告

本日の会議に付した事件

開 議 宣 告

日程第1 一般質問

- 1 18番 前田 正治 議員（無会派：日本共産党）
 - 1 市政運営について
 - （1）旧庁舎跡地に植えてあった小岱松がなくなり、その場所には記念碑が建っている。どのような手続がなされたのか、経緯について説明を求める
 - ア 旧庁舎跡地に小岱松を植えた経緯を聞く
 - イ 市の花、市の木及び市の鳥を制定したことはどういう意味があるか
 - ウ 市の花、市の木及び市の鳥について、市民への広報はどのようなことがなされているか
 - エ 市の花、市の木及び市の鳥を制定したことにより、市民や行政にどのような責務があるか
 - （2）玉名市広報の未配付対策はどうするか
 - 2 玉名市地域防災計画について
 - （1）熊本地震を経験して、どのような検証がなされたか。また、被災者支援を迅速で円滑に進めるため罹災証明書交付の条例化を求めるが、どうか
 - ア 各警報や注意報を市民に伝達する手段はどうするか
 - イ 各警報や注意報を視力・聴力障がい者世帯へ伝達する手段はど

うするか

ウ 身体障がい者（身体・視力・聴力障がい等）及び避難誘導支援員の訓練はなされているか

エ 避難所の運営や体制について、改善点は何か

オ 車中避難や軒先避難についての対応はどうするか

カ 玉名市安心メールの加入者数の推移を聞く（平成26年から現在まで）

キ 罹災証明書交付を行なうための人材育成の実施はできているか

ク 住んでいない住宅、小屋等について罹災証明書交付は行なうか

ケ 玉名市外在住の住民への罹災証明書交付は行なうか

コ 罹災証明書交付の手続は、何を基準に行なうか

2 8番 多田隈 啓二 議員（創政未来）

1 政治姿勢について

（1）「玉名はもっと輝ける、10年ビジョンのまちづくり」をどのように進めるのか

（2）副市長のまちづくりの姿勢、庁内組織改革の考えを伺う

（3）市職員の働き方改革の推進の取り組みは何か。また、人事評価のあり方について、どのように評価されているのか

（4）正職員と非常勤職員のバランスや配置基準の考え、今後の職員採用について。また、専門職の技術的な免許取得について

（5）来庁者への配慮について

（6）SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した情報発信について伺う

2 健康福祉行政について

（1）要介護認定制度、介護予防の取り組みについて

（2）要支援者の総合事業の取り組みについて

（3）通いの場事業について

（4）保育所の民営化をどのように進めていくのか

（5）本市の障がい児（者）への対応状況はどうなっているのか

3 2番 吉田 真樹子 議員（創政未来）

1 給食費について

（1）徴収方法、未納額の玉名市の状況は

（2）市長の現状を知っての考えは

2 就学援助費制度について

(1) 支給の基準は

(2) 制度の利用状況は

3 ひとり親家庭について

(1) 玉名市の状況は

4 15番 江田 計司 議員（無会派）

1 大河ドラマ「いだてん」の取り組みと対応について

2 大正開漁港跡地の太陽光発電のその後はどうなっているか

日程第2 議案及び請願の委員会付託

散 会 宣 告

+++++

出席議員（21名）

1番	坂 本 公 司 君	2番	吉 田 真樹子 さん
3番	吉 田 憲 司 君	4番	一 瀬 重 隆 君
5番	赤 松 英 康 君	6番	古 奥 俊 男 君
7番	北 本 将 幸 君	8番	多田隈 啓 二 君
9番	松 本 憲 二 君	10番	徳 村 登志郎 君
11番	城 戸 淳 君	12番	西 川 裕 文 君
13番	嶋 村 徹 君	14番	内 田 靖 信 君
15番	江 田 計 司 君	16番	近 松 恵美子 さん
18番	前 田 正 治 君	19番	作 本 幸 男 君
20番	森 川 和 博 君	21番	中 尾 嘉 男 君
22番	田 畑 久 吉 君		

+++++

欠席議員（1名）

17番 福 嶋 讓 治 君

+++++

事務局職員出席者

事務局 長	堀 内 政 信 君	事務局次長	荒 木 勇 君
次 長 補 佐	松 野 和 博 君	書 記	松 尾 和 俊 君
書 記	古 閑 俊 彦 君		

+++++

説明のため出席した者

市 長	藏 原 隆 浩 君	副 市 長	村 上 隆 之 君
総 務 部 長	西 山 俊 信 君	企画経営部長	水 本 明 子 さん

市民生活部長	村	崎	信	介	君
産業経済部長	松	本	忠	光	君
企業局長	松	本	優	一	君
教育部長	戸	寄	孝	司	君
会計管理者	竹	村	昌	記	君

健康福祉部長	松	野	信	生	君
建設部長	前	田	愼一郎	君	
教育長	池	田	誠	一	君
監査委員	元	田	充	洋	君

午前10時01分 開議

○議長（中尾嘉男君） おはようございます。

ただいまから、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（中尾嘉男君） 日程第1、「一般質問」を行ないます。質問は、通告の順序によって許すことにいたします。

18番 前田正治君。

〔18番 前田正治君 登壇〕

○18番（前田正治君） おはようございます。日本共産党の前田正治です。

通告に沿って一般質問を行ないます。

1、市政運営についてであります。

平成19年10月に玉名市の花として「肥後花しょうぶ」、市の木として「小岱松」、市の鳥として「しらさぎ」が制定してあります。当時の島津市長は、制定直後の12月議会で市民憲章、市の花、市の木、市の鳥を制定、新庁舎建設構想の策定などの新市の顔となるソフト面云々と述べております。

市の木に制定した「小岱松」は、新生玉名市の顔の一つとして位置づけてあります。合併前の旧玉名市におきましては、昭和54年12月に市の木「小岱松」が制定してあります。「玉名人検定テキストブック」では、「小岱松は有明海を望む小岱山麓に産する松、若い時期から古木のような龍の鱗状の樹皮になることから珍重され、植木、盆栽として全国に知られている。」と記述があります。また、「市勢要覧」では、「その姿は生氣に満ちており市勢発展を象徴している。」と紹介してあります。

庁舎玄関口、現在は旧庁舎跡地になりますが、そこに植えてあった小岱松がなくなり、その場所には高瀬校跡地の記念碑が建っております。記念碑のことを問題にするわけではありませんが、玉名市の木として制定してある小岱松が消えたことについては違和感があります。玉名市のインターネットや総合計画などには、旧庁舎に当時からあった小岱松写真が掲載してあります。庁舎玄関口に植えてあった小岱松は、市の木として制定したことを市民に周知するための代表としての一本ではなかったかと推察するものであります。小岱松が消えてなくなったことについて、どのような手続きや経緯であったのか、4点質問します。

ア、旧庁舎跡地、当時は庁舎の玄関口にありますが、旧庁舎跡地に小岱松を植えた経緯を聞く。

イ、市の木、市の花、市の鳥を制定したことはどういう意味があるのか。

ウ、市の木、市の花、市の鳥について、市民への広報はどのように行なっているか。

エ、市の木、市の花、市の鳥を制定したことにより、市民や行政にどのような責務があるか。

2の玉名市広報の問題は、自席から引き続き質問をいたします。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

〔企画経営部長 水本明子さん 登壇〕

○企画経営部長（水本明子さん） おはようございます。

前田議員の御質問のうち、記念碑の建立と小岱松がなくなっている件についてお答えいたします。

まず、記念碑についてでございますが、これは旧庁舎跡地が市役所の敷地となる前、明治以降、昭和22年ごろまでは高瀬尋常高等小学校として使われていた歴史があり、その歴史と記憶を後世につなげようと、卒業生など地元の方々有志により結成された高瀬校跡碑設立期成会という記念碑建立を目的とした期成会により、その設置計画が進められておりました。この期成会は、平成26年の結成で、市役所庁舎の移転に伴い、敷地の一部に記念碑の設置と当時の門柱の移設を目指し、必要な費用は寄附を募って調達され、先週末、6月9日に竣工、序幕式が行なわれたところでございます。

記念碑等の設置場所につきましては、計画当初から敷地を所管する管財課のほうに相談があっておりました。同課といたしましては、庁舎跡地の再利用計画が不透明な状態が続いている中、どのような計画になろうとも記念碑等の設置後に移設が発生しない場所が適当であり、敷地の北東の角であれば、国道208号交差点方面から徒歩での動線が既にあるため、人目につきやすいこと、かつ、同交差点に近いこと、今後、国道からの車両の出入口になる可能性が低いと想定されることなどから、当該場所が最も適切であると判断をしたものでございます。

期成会におかれましても、建立資金のめどが立たれたあと、昨年6月に行政財産使用許可申請書を提出され、所管課から市長名で許可証を発行しております。ただ、この時点での使用許可申請書には、小岱松はそのまま生かして、その横に記念碑等を設置する計画でございましたが、いよいよ着工という段階になりまして、本年2月、期成会から設置場所のスペースの関係上、どうしても樹木を撤去したいとの相談がございましたので、所管課としても承諾をしたものでございます。

もちろん、この時点で、市の木「小岱松」であることについての認識はございましたので、まず移植ができないかとも検討いたしております。ただ、移植をするならば、第一の候補地は、現在の市役所、新庁舎であろうと考えられますが、土地収用法に規定する事業認定により買収をした関係上、緑地の面積が極端に少ない上に最も適当と思われる場所、緑地のうち最も広くて整形な南西側のコーナーでございますけれども、ここに

は既に成人者の記念植樹が存在をしていること。また、埋め立てた土地でもあり、移植をしたあとに枯らしてしまうリスクが少なからずあること。さらには、新庁舎の完成前に、一市民の方から小岱松ではございませんが、松の木の寄附申し出があり、これに対して同様の理由でお断りをした経緯があることなどから、当該敷地内には移植をしないほうが好ましいと判断をしたものでございます。

なお、当該小岱松につきましては、記念碑の施工業者によりまして、今年の2月下旬、この業者の資材置場へ移植されて、石貫地区の小岱山麓にございます。

そして、今回の件は、5月下旬に開催されました教育委員会所管の会議の終了後に話題となり、疑問視をする声が多くございましたので、管財課といたしましても期成会の委員の方及び当該施工業者に相談をいたしましたところ、松の木自体に負担をかけないよう、移植に適切な時期、冬場ということでございますので、それまではそのままにしておいて、その間に適切な場所を決定し、市有地に移植をするということが適切であると考えを改めたところでございます。

以上が経緯についての答弁でございます。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

〔総務部長 西山俊信君 登壇〕

○総務部長（西山俊信君） おはようございます。

前田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、旧庁舎跡地に小岱松を植えた経緯でございますけれども、付近に設置してありました表示物から、合併前の玉名市の木でございました小岱松を周知するために、昭和59年4月に植樹されたものと思われましても、当時の資料が残っておりませんので、詳細については確認ができていないというのが現状でございます。

次に、市の花、市の木及び市の鳥を制定した意味でございますけれども、こちらにつきましては、1市3町合併協議会の協議事項としまして、新市において新たに制定することが決定されておりましたことから、玉名市合併2周年に当たります平成19年10月3日に市のシンボルといたしまして、「肥後花しょうぶ」「小岱松」及び「しらさぎ」をそれぞれの市の花、市の木及び市の鳥に制定したものでございます。

次に、市民への広報についてでございますけれども、制定の際に地域広報に掲載いたしますとともに、ポスターを作成いたしまして、小中学校をはじめとする公の施設に配布し、周知を行なったところでございます。現在におきましても、市のホームページ、市民手帳、総合計画をはじめとする各種計画などに掲載をいたしまして、引き続き周知を行なっておりますけれども、積極的な周知は行なっていないというのが現状でございます。

最後に、市民や市政の責務でございますけれども、市の花、市の木及び市の鳥が市のシンボルとして制定しているものでございますので、市民及び行政としての責務を求める

ものではございません。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） 小岱松なくなって、どこにいったかということで、業者の資材置場に置いてあって、冬場に移植すると、そういう計画であるということですが、記念碑を建てる位置ですね、あの場所が通行人からも見えて最適であるというようなことでありました。ところが、当初は小岱松も残して、記念碑もあそこに建てると。いざ建てるようになったら、ちょっとじゃまになるよというような話があったということですが、じゃまになるということになったら、私は、なぜ記念碑建立の場所をもうちょっと検討する、そういう余地がなかったのかなというふうな疑問も出てくるわけです。

小岱松は、玉名市のシンボルとして制定されました。玄関口にあった小岱松をなくしたということは、私は、市の木として制定していることへの認識が職員の皆さんにちょっと薄かったんじゃないかなと、甘かったんじゃないかなと、慎重さが不足していたのではないかなという、そういう疑念があります。小岱松を最終的にあそこからなくしたということについて、移転するということについて、課長あるいは係長、どのような判断をされたのかと、配慮に欠けていたのではないかなという思いがしてなりません。そういうことも含めて、ちょっと部長の見解をお尋ねいたします。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

○企画経営部長（水本明子さん） 前田議員の再質問にお答えいたします。

まず、市の木であることは、先ほども答弁いたしましたとおり、認識はございましたが、担当課のほうがこのような取り扱いを行なってしまった経緯でございますが、一つには、市の木は「小岱松」という種類を指定をしているもので、この松の木、その個体を指定をしているものではないということ。例えば、国指定の天然記念物である「大野下の大ソテツ」以外にも、本市が文化財として指定している樹木が幾つかございますが、それらのように個体が対象であれば、撤去や移植については固くお断りをしていたはずであるということでございます。また、ここ数年間は、少なくとも七、八年間は、当該小岱松の管理が行き届かず、ほぼ放置状態であったにもかかわらず、そのことに指摘を受けるようなことがなかったことなどから、当該小岱松に対する思い入れが薄かったことは否めないというふうにも申しております。それから、市の木であることに対して、期成会の方々から疑問が出されるようなこともございましたので、担当課としても軽率な判断をしてしまったというのが実情でございます。今回、「ぞんざいに扱っているのではないか。」ですとか、「悲しくなる。」といった声をお聞きいたしまして、この判断については非常に軽率であったと反省をしているところでございます。

以上が担当課の考えでございますが、先ほど私の見解もということでしたので、少し

補足させていただきますと、先ほど総務部長のほうから答弁いたしましたように、あの小岱松は恐らく昭和59年ごろに寄附により植樹をされたものと思われます。今から約34年前でございます。今回の件は、市の木としてあの松がどのくらい重要かという認識が市の職員の中で薄れていったということが原因ではないかというふうに私自身感じております。これは、年月がまず30年以上たっているということ。それから、また私自身の印象からは、植樹をして間もない昭和59年以降のころは、あの松こそが市の木「小岱松」という、シンボルという認識でございましたが、歳月の流れと、そして平成17年に1市3町で合併をしたということもありまして、あの小岱松を意識する職員が減ってきたということは事実ではないかと感じております。さらには、庁舎がこちらのほうに移ったということで、なおさら旧庁舎の小岱松の記憶が薄れていったのではないかと思います。さらに、それに重ねて、当初は寄附の内容が書かれた説明板が小岱松の前にそえてございましたが、いつのころからか消失をしております。あの松がそういった寄附によるものということについても、担当課の課長たちも存じておりませんでした。そういったこともありまして、ますます重要性の認識が薄れたものと考えております。しかし、私自身もそうでございますが、あの松はシンボルというイメージを私自身ももっておりますので、今回の御指摘をいただいたことで意識を改め、適切な対応をすべきと判断をしたところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） 適切な対応を今後されることを強く望みます。

副市長にちょっと再質問いたします。旧庁舎の場所に昔は学校があった証として、学校の入口にかかっていました橋が現在も残っております。錦橋の上流10メートル、学校橋という名前で現在も地域の生活の橋として利用されております。そして、現在の庁舎に移るまでの約60年間にわたり行政サービスを担ってきた庁舎が存在した場所があの場所であります。60年の庁舎の歴史を後世に伝えるということも私は大事なことでないかと思う次第であります。高瀬校の記念碑を建設する話があった際に、庁舎跡地としての何らかの形を残すということについて、行政マンとして考えが及ばなかったのかなと残念で仕方がありません。職員全体を束ねる副市長にちょっと見解をお尋ねします。

○議長（中尾嘉男君） 副市長 村上隆之君。

○副市長（村上隆之君） 前田議員の再質問にお答えします。

今、前田議員がおっしゃいました学校の橋、それから60年にも及ぶ庁舎の歴史ということで、後世に大事にやはり語り継ぐ、そして残していくということは非常に大切なことだというふうに思います。今、御意見を拝聴しまして、そのことにつきましても、

痛切に今感じているところでございます。先ほど水本部長が申しましたように、やはり職員の意識というものが年数とともに希薄になってきておったというのは否めない事実だろうというふうにも思っております。やはり今後、議員御指摘の件につきましては、十分庁内で検討し、また前向きに取り組んでいきたいというふうに思います。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） 私は、今回のことをきっかけに、職員の皆さんも、さらには市民も市の木「小岱松」ということの認識を再確認するとか、新たにするというか、そういったことが大事ではないかなというふうに考えます。

以前は、成人式の記念品として小岱松が配られておりました。そのことを通して、市の木としての小岱松の認知が市民の中には広がっていたものだと思っています。成人式での小岱松配布を復活する考えはありませんでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 前田議員の再質問にお答えをいたします。

今、前田議員申されましたとおり、確かに平成19年の成人式までは新成人の方々に小岱松の苗木を配布をされていたというふうに伺っております。しかしながら、その後、成人式の運営方法が、新成人者によります運用形態に変わったということがございまして、記念品につきましてもその実行委員会の中で選定をされるというような流れになったということでございまして、現在は小岱松の苗木については配布は行なわれていないというような状況でございます。今、前田議員申されましたとおり、これ非常に市の木ということでございますので、周知のほうから考えれば、以前配布がされておったということは非常に大事なことであり、重要なことであるというふうに思いますけれども、現在はそういう形でございますので、今後どういう形でできるのか検討させていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） 市の花、市の木、市の鳥、制定されておまして、どれほど認知度が広がっているかというのはよくわからないところでありますが、あるとき、こういうことがありました。レンコンの田ん中がありますね。あそこに鳥が入らんようにずっと網が張ってあったわけですよ。その中にしらさが3匹入って、できらんで、うろうろ暴れ回りよったわけですね。それを見まして、早速、職員の人に言うたら、もうすぐどやんかして出してやったという連絡がありました。その職員の人が、市の鳥「しらさぎ」というふうに認識しとったのかどうか、あるいは、一般的な、いわゆる動物を愛するというか、そういった観点からすぐ行動されたのかはよくわかりませんが、市の花、木、鳥として制定してある以上は、やっぱりそれなりの取り組みを市民の人に

は広げていただくということが大事ではないかなというふうに痛感したところであります。

それでは、次の質問の２番目、玉名市広報の未配布対策はどうするかという問題についてであります。「私の家には広報が配られない」、このような声があります。玉名市広報発行規程では、「広報の配布は、市内の一般世帯に対しては嘱託員が行い、その他のものに対しては郵送等により行うものとする。」としています。未配布問題の解決は、情報の共有という点からも放置できない問題であります。今日、未配布根絶について、どのような対策がなされているか、お聞きをいたします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 前田議員の御質問の玉名市広報の未配布対策はどうなっているかということについてお答えをいたします。

「広報たまな」につきましては、市の区域内の全世帯に配布すべく、各行政区の嘱託員を通じて各世帯に配布を行なっているところでございます。しかしながら、前田議員御指摘のとおり、自治会未加入の世帯に対しましては、一部の地区で広報が配布されていないというものも事実でございます。このような世帯に対しましては、未配布世帯からの相談に個別に対応を行っておりますとともに、新任嘱託員委嘱状交付式の際に全世帯への配布を呼びかけているところでございます。行政情報を等しく市民の皆さまにお伝えするためにも広報の全世帯への配布は必要と考えておりますので、今後とも嘱託員に協力を求めながら、未配布世帯の解消にさらに取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○１８番（前田正治君） 広報は、市の業務の一環であります。それを一部の地域においては嘱託員が配らんと、そういうことは、これはやっぱりあってはならないことじゃないかなと率直に思うわけです。転入者については、必ず嘱託員に書類と連絡が届いているかと思います。玉名市民として世帯を構えた以上は、広報もきちんと手元に届くというのが基本ではないかと思います。

この市の広報が届いていない世帯に、選挙公報はどうなっているか。もしかしたら、選挙公報も届いていないんじゃないかなという心配もあります。選挙公報の配布状況については、いかがでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 前田議員の再質問にお答えをいたします。

選挙公報の配布形態につきましても、広報紙と同様な形で嘱託員を通じて配布依頼を行なっているところでございます。したがって、今、議員申されましたとおり、一

部未配布ということは、実態調査は行なっておりませんが、未配布世帯があるというのは想定として思われるところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） 選挙公報もいっとらん、広報もいっとらんということになると、議会報もいっとらんとじゃないかなと、そういう気がするわけですけど。広報などがこの市民の手元に届かないという状態を放置をするということは、それは昨年だったですかね、制定をされた、一昨年だったかな、自治基本条例にも整合しないことであります。市広報などの未配布根絶に向けて抜本的な対策を私は求めたいと思いますが、部長の見解をお伺いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 前田議員の再質問にお答えします。

確かに市の情報発信のツールとして市の広報というのは重要な役割を占めているという認識はもっております。そういったことを含めまして、一部未配布の世帯がございますので、あらゆる手段を通じて、今後、前向きに取り組んでいきたいというふうに思っている次第でございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

〔18番 前田正治君 登壇〕

○18番（前田正治君） よろしく申し上げます。

次の質問に移ります。2、玉名市地域防災計画についてであります。熊本地震を経験して、どのような検証がなされたか。また、被災者支援を迅速で円滑に進めるため、罹災証明書交付の条例化などについて質問をいたします。アからいきますので。

ア、各警報や注意報を市民に伝達する手段はどうするか。

イ、各警報や注意報を視力、聴力障がい者世帯へ伝達する手段はどうするか。

ウ、身障者、身体とか視力とか聴力ですね、障がい者の皆さん及び避難誘導を支援する支援員の避難訓練はなされているか。

エ、避難所の運営や体制について、改善点は何か。

オ、車中避難や軒先避難についての対応はどうするか。

カ、玉名市安心メールの加入者数の推移をお尋ねいたします。

キ、罹災証明書交付を行なうための人材育成の実施についてはどうか。

ク、住んでいない住宅、小屋などについて罹災証明書の交付は行なうか。

ケ、玉名市外在住の住民へ、玉名市に所有する物件についての罹災証明書交付は行なうのか。

コ、罹災証明書の交付の手続きは、何を基準に行なうか。

以上、お聞きをいたします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

〔総務部長 西山俊信君 登壇〕

○総務部長（西山俊信君） 前田議員の各警報や注意報を伝達する手段はどうするかについてお答えをいたします。

現在、玉名市では、気象庁より大雨洪水警報などの各種警報が発表された場合や、自主避難所の開設を行なう場合は、防災行政無線での音声放送はもとより、玉名市安心メールとあわせて情報の伝達を行なっているところでございます。しかしながら、放送内容が聞き取りにくいという苦情が多いことも事実でございます。このような状況と既設の防災無線の老朽化に伴いまして、現在、防災行政無線のデジタル統合化に向けて整備を行なっているところでございまして、平成32年4月の運用開始時には、現在の運用とあわせて電話応答サービス、市のホームページ、「ひまわりてれび」の番組内での字幕スーパーによる放送など、多様な情報伝達手段を利用して運用構築を進めているところでございます。

続きまして、各警報や注意報を視力、聴力障がい者の世帯へ伝達する手段はどうするかについてお答えをいたします。先ほどの答弁の中で現在構築しております多様な情報伝達手段への取り組みについて答弁を行なったところでございますけれども、それらの機能とあわせて、重複障がい者団体の代表の方に文字情報機能を搭載しました個別受信機の配布を予定いたしておるところでございます。

続きまして、障がい者、身体障がい者、身体、視力、聴力障がい者等及び避難誘導支援員の訓練はなされているかについてお答えをいたします。一昨年の熊本地震におきましても、災害弱者の方々の安全確保が課題として浮き彫りになり、その支援体制の整備が求められているところでございます。特に、益城町や西原村では、熊本地震の発災後、消防団や自主防災組織によります共助による助け合いが功を奏し、多くの人命が救われたとお聞きをいたしており、改めて公助による限界と、自助、共助による防災体制の構築が必要であると痛感いたしましたところでございます。そのような中、現在、消防団や自主防災組織等による災害弱者の方々に対する安否確認、避難誘導などに対する訓練を推進しておりまして、昨年は11月に玉名町小学校をモデルにし、総合防災訓練の中で訓練を実施いたしましたところでございます。今後は、市内全域にこのような訓練が実施されますよう自主防災組織の結成、育成とあわせて推進を図ってまいりたいと考えているところでございます。

次に、避難所の運営や体制について、改善点は何かについてお答えをいたします。先の熊本地震において、避難生活が長期化した場合に女性の視点に立った避難所運営の欠

如、避難者のプライバシーの問題、職員主導の避難所運営など、さまざまな課題が浮き彫りになりました。このような課題を受けまして、現在各課題の洗い出し作業を進めているところでございまして、本年度中をめどに避難所運用・運営マニュアルの策定を行なっていきたいというふうに思っているところでございます。

次に、車中避難や軒先避難についての対応はどうするかについてお答えをいたします。先の熊本地震の折には、車中避難や軒先避難の方に対する物資の支給や情報伝達の遅れが大きな課題となったところでございます。幸い、当市におきましては、長期にわたる車中避難や軒先避難に対する問題はございませんでしたが、当時、益城町においては車中泊専用の一時避難の駐車場を確保されたと伺っております。今後、当市でこのようなことが発生した場合は、車中泊専用の一時避難の駐車場の指定や、避難者の実態を把握しながら、物資の供給や災害情報の発信に努めてまいりたいというふうに思っております。

次に、玉名市安心メールの加入者数の推移についてお答えをいたします。平成26年4月1日現在1,529名、平成27年4月1日現在432名の増、1,961名、平成28年4月1日現在446名増の2,407名、平成29年4月1日現在1,168名増の3,575名、平成30年4月1日現在905名増の4,480名の加入者数となっているところでございます。現在、玉名市安心メールへの加入者数のさらなる拡大を図るため、市のホームページはもとより、毎月の「広報たまな」での周知、自主防災組織の会合での周知、認知症サポーター養成講座などでの周知を図っているところでございます。

次に、罹災証明書交付を行なうための人材育成の実施はできているのかということについてお答えをいたします。先の熊本地震において、県内各地で罹災証明の発行の遅れが指摘されたところでございますが、その大きな要因としまして、被害認定を行なうための人材育成の取り組みが行なわれていなかったことが大きな課題となっております。そのような中、熊本県において内閣府より講師を招いての住家の被害認定調査等研修会が年1回程度行なわれることとなっております。今後、本市ではこの研修を受け、罹災証明書の発行業務の迅速化に向けて、庁内での職員研修会について開催を考えているところでございます。

次に、住んでいない住宅、小屋等について、罹災証明書交付は行なうかについてお答えをいたします。熊本地震における罹災証明書発行につきましては、内閣府の住家に対する被害認定基準を準用いたしまして、小屋等の非住家に対しても所有者罹災証明書として、全壊、大規模半壊、半壊、一部損壊、合わせて257件の発行を行なったところでございます。

次に、玉名市外在住の住民の方への罹災証明書交付は行なうのかについてお答えをい

たします。玉名市外在住の住民の方が所有する非住家住宅への罹災証明書交付につきましても、先ほどと同様、熊本地震の際、対応を行なっているところでございます。

次に、罹災証明書交付の手続きは何を基準に行なうのかについてお答えをいたします。災害発生後、被災者の求めがあった場合、内閣府が策定しました災害に係る住家の被害認定基準運用指針に基づきまして、全壊、大規模半壊、半壊、一部損壊の被害認定を行なうところでございます。今後、本市といたしましても、災害者支援を迅速で円滑に行なわれますよう認定業務の職員研修とあわせて罹災証明発行の交付手続きに対する例規の規程等についても検討を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） 障がいを持った人たちの避難訓練についてでありますけど、私は、やっぱりこれはその人に応じた個別の訓練というのが出てくるんじゃないかなという気がします。実際にそういった方々の訓練を通して、新たな課題というかな、問題点というか、そういうことも見えてくるものだと思いますので、障がいを持った方々が訓練に参加するというのは、なかなか並大抵じゃないと思いますけど、やっぱりそういった訓練も計画的に、答弁がありましたように、全市的な訓練が、全市といっても、一遍にせれということじゃなくて、全市的に広まっていくと、網羅していくと、そういうことを強くお願いしたいと思います。

再質問で避難所の運営や体制についてお尋ねします。本年度中にはさまざまな課題が浮き彫りになったために、そういったことをまとめてマニュアル的なものを作成するという答弁でありました。私は、やっぱり避難所の運営や体制というのは、これはとても難しい問題じゃないかなというふうに、熊本地震における熊本市内や益城やいろんな西原の避難所なんかにも行きましたけど、感じました。非常事態の状況の中で、やっぱりなれない場所に集団で生活するという、そして皆さん方が平常時ではない、いわゆる精神的にも肉体的にも疲労こんぱいの状況の中です。そういう中で、皆さんが生活をする、それを支える、サポートするという運営体制をつくっていくということもかなり難しい問題だなという気がします。

玉名市の避難所も開設をされまして、熊本地震のときですね、避難所運営にやっぱり数人の職員の皆さんも当たられました。この前つくられた、これは「繋ぐ」、未来へ繋ぐということですけど、これをずっと見よったら、最後のほうに避難所運営についてということで、課題が生じた点をいろいろまとめてあります。以前、質問したとき、避難所運営について運営に当たった職員さんからいろいろやっぱり聞き取りをすることが大事じゃないかというようなことを言った記憶がありますが、その後、執行部のほうでは避難所運営に当たった職員さんへの聞き取りがなされたら、きちんとした聞き取りじ

やなくても、運営に当たった人からこういった意見があった、このような考えが出されたとか、そういうことがあったら、幾つかちょっと紹介をしてもらいたいなというふうに思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 前田議員の再質問にお答えいたします。

今、議員申されましたとおり、熊本地震、災害が発生した後、玉名市、本市におきましても、最大40カ所で避難所の設営をいたしております。その中で、市役所の職員から各部局それぞれ3名程度ずつ避難所運営のほうに当たっていただいたというような経緯もございまして、その中で聞き取りも、すべての職員からではございませんが、行っております。

その結果、幾つかその課題といいますか、問題点を紹介いたしますと、まずは、やはり避難所マニュアルの作成が必要であるというところがやっぱり出ております。それから、最大で39日間、開設をいたした福祉センターなんですけども、あるということで、やっぱり長期にわたるということになれば、女性の視点によるやっぱり避難施設の運営というのは非常に大事になってくるということも課題として上がっております。それから、やはり衛生面的なところの問題ですね、そういったところもきちんとやっぱり対応・対策をしていく必要があるだろうというようなこともヒアリングの中では上がってきているというようなところでございます。問題点としては、そういうようなことでございすけども、やはりいつ何時、大きな災害が発生するかわからないという状況の中でございますので、今年度その避難所運営マニュアルを作成中でございますので、そういったいろいろなこれまでの問題・課題点を反映した中で、今後マニュアル作成に向けて取り組んでいきたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） 先ほど答弁でもありましたが、再質問ですけど、車中避難や軒先避難者に対して、情報が伝わらないとか、物資が届かないとか、そういうことが発生いたしました。やっぱりこういったことが、避難される方は、避難所はもとよりそうなんですけど、やっぱり自分が一番行きやすかところ、安全なところだと思うようなところにやっぱり行きなはるわけですね。ですから、自分のもう避難所まで行かずに軒先でよかと思ったら、軒先に1週間、2週間あるいは1カ月にわたって避難をされる、あるいは車の中で避難をすると、そういうことがあるわけですけど、情報が伝わらん、物資が届かんというようなことがあっては、これはやっぱりいけないことだと思うわけです。そのためには、区長さんや自主防災組織の力、そして何よりも緊急の連絡網として隣近所同士の連携を常日ごろからやっぱり確立することじゃないかなというふうに思

います。区長さんや自主防災組織、コミュニティーを中心とした助け合い、安否確認の仕組みを市内中心部、周辺部くまなく張り巡らせるといえるか、組織していくといえるか、そういうことが、全市を視野に入れた安否確認の訓練を積み重ねていくということが重要ではないかなと。自宅の中や車の中、軒先、公民館、さまざまな避難先を想定した安否確認の訓練実施についてはどのようなことを思っておられるか、ちょっとお尋ねをいたします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 今の前田議員の再質問にお答えいたします。

やはり災害が発生いたしますと、高齢の方々あたりは、確かに避難所のほうに早めに避難されるというような形態状況がございますけれども、一昨年熊本地震におきまして、やはり軒先避難とか、あるいは車中避難、多く我々も耳にしたところでございます。そういったところを考えると、やはり情報発信というようなことから申し上げますと、何らかの対策を取っていかなくちゃいけないというようなところは当然ございますし、物資の配分もそういうことでございます。そういったところをやはり解消するためには、日ごろの訓練の中で、消防団はもとよりですけども、自主防災組織のやはり実質的な実行性のある運営方法も訓練の中に取り入れていく必要がございます。そしてまた、それぞれの地域の中でコミュニティーに基づいた個人のつながりというのも大事になってきますので、地元のそれぞれの地域で全体的なところで自主防災組織を中心とした、そしてまた消防団もその中に加わっていただいて、地域ごとの防災対策、避難訓練等も必要になってくるんじゃないかというふうな認識はもっているところでございますので、今現在は玉名市で総合防災訓練、年に1度行なっておりますけれども、それぞれの地域でそういった広がりができるような対策は講じていきたいというふうに思っている次第でございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） 再質問で、次に進みます。各種の警報や注意報を迅速に市民に伝達するということについては、防災無線、デジタル化を急いで、聞き取りづらいということを解消すると。そして、安心メールということをはっきりおっしゃいました。

私は、玉名市安心メールの活用については、特に注目をいたします。今日、携帯電話やスマートフォンは、子どもから大人まで持っていない者はないほど普及しているのではないかと思います。どこでも瞬時に正確に情報を伝達する方法として、玉名市安心メールの活用は不可欠だと思います。先ほど安心メールの普及状況で、現在4,480名ということでした。熊本地震以後は、加入が増えてきたのかなという気がいたしますが、携帯やスマホの普及状況から考えれば、まだまだ加入者が少ないというふうに思います。

広報などを通じて加入も呼びかけてはありますが、この現在の加入状況から見れば、これはやっぱり自然発生増の域を脱していないんじゃないかなと、そういう気がいたします。防災のツールとして、迅速、正確、そして安価でだれでも加入可能な条件は整っております。安心メールの加入をそれこそ爆発的に普及させる特別な取り組みが必要ではないかと。そのためにも、いわゆる年次目標といいますか、きちんとした目標をもった加入促進の取り組みが必要かと思いますが、見解をお尋ねします。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 前田議員の再質問にお答えいたします。

確かにこの安心メールにつきましては、即時に情報が伝わるというような災害情報伝達システムの一つでございますので、なるべく多くの市民の方々に登録いたしていただいて、対応をとっていただくというのが非常に大事なことだろうというふうに思っています。しかしながら、現状といたしましては、そういった年次計画というものはございません。先ほど申し上げましたとおり、ホームページあるいは広報紙での啓発活動を行なっているというのが現行でございます。今後、どういう形でこの促進策が可能なのか、今後、調査検討を進めさせていただきたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） 防災行政無線が今度デジタル化になって、聞きづらいということがどれほど解消されるかよくわかりませんが、それを待つまでも災害がいつ何時起こるかわかりません。それで、やっぱり一番よかつは安心メールかなというふうな気がしますので、それこそ大体全世帯に携帯やスマホが今あつとじゃないかなという気がしますので、全世帯に加入者がいるというようなことがやっぱり一番安心・安全なくらしをつくっていくためにも必要じゃないかなという気がいたします。

次に、罹災証明書の交付における体制整備についてであります。

人材育成については、県の指導のもとに玉名でも始まったということであります。そういった研修を受けた人材が迅速に罹災証明書の発行を行なうためには、そのための条件整備も必要ではないかと。例規についても、今後検討課題だという答弁でありました。

熊本地震の際には、内閣府の災害に係る住家の被害認定基準運用指針に沿った事務であつたわけです。罹災証明書の交付について、災害対策基本法では、「市町村長は、当該市町村の地域に係る災害が発生した場合において、当該災害の被災者から申請があつたときは、遅滞なく、住家の被害その他当該市町村長が定める種類の被害の状況を調査し、罹災証明書を交付しなければならない。」と定めてあります。罹災証明書は、被災

者救済における公的な支援を受けるためには、これは絶対に欠かせない書類であります。全国的には交付に当たっての基準や規則、要綱などを制定した自治体が今増えつつあります。災害対策基本法からすれば、これは当然のことかと思います。罹災証明書の交付は、自治事務として位置づけられていますので、玉名市長の裁量権に属する事務であります。玉名でもこの交付に当たっての条例化、私が言う条例化が、熊本地震の検証を踏まえた、これは緊急課題ではないかなというふうに思います。

市長にちょっとお尋ねします。先ほど例規についても検討するという答弁がありました。私は、検討するだけ、今年のうちにつくとか、来年になつとか、再来年になつとか、よくわかりませんが、迅速な発行を行なっていくためには、条例化が絶対必要だと私は思っています。いま一度、罹災証明書交付の条例化につきまして、市長の認識と見解をお尋ねしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） ありがとうございます。

円滑に物事が速やかに図られるように、認定業務の、先ほど部長も申し上げましたが、職員研修のほうともあわせながら、罹災証明発行の交付手続きに対する例規の制定について検討するでは物足りないというようなお話でしょうか。速やかに検討していきたいと存じます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） そうですね、早うつくってください。

再質問しますので。熊本地震被害の状況におきましては、全壊、半壊、一部損壊、大規模半壊というのもありましたけど、判定がありました。全壊、半壊につきましてはさまざまな公的な支援がありますが、一部損壊については公的な支援は全くありませんでした。そこで、一部損壊住宅について、玉名市では修理費用を市の単独事業として県内市町村の中でも一番早く取り組みを開始しました。玉名市の施策が県内市町村の被災者支援におきましても大きな影響を与えたことはマスコミでも評価されております。二度も補正予算を組み、総額1億7,600万円の事業になりました。これは、一部損壊住宅への支援を求める市民から大変喜ばれた事業となりました。この事業は、熊本地震の際に行なわれた単独補助事業であります。台風、大雨などの災害も、玉名においては油断ができません。熊本地震のような激甚災害には指定されないものの、強力な暴風災害において、全壊や、あるいは半壊、一部損壊の住家損傷が発生することもあります。その際、一部損壊住宅への熊本地震における補助事業と同様なことを実施すべきと思いますが、市長の見解はいかがでしょう。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） 議員がおっしゃられるとおり、同様の手続き、条例というものを整備していかなければならないというふうに思いますけれども、今、議員も申されたとおり、前回と同様の地震であるということには限らず、水害、台風、あるいは竜巻でありますとか、災害というものはいろんなものが想定されますので、そういったところもできる限り網羅できるような形で制定をさせたほうが良いというふうに思うからこそ、しっかりと検討しなければならないというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 前田正治君。

○18番（前田正治君） しっかりとした検討が必ず実を結ぶというようなことに結びつけていただきたいと思います。

災害が起きたときに、被災者の皆さんに対して行なう行政の対応は災害救助といい、その根拠には災害救助法があります。6つの原則からできあがっております。

1つ、人命最優先の原則。災害救助においては、何よりも人命救助が優先し、徹底した救命措置はもとより、避難中に人命を失うことがないように最善を尽くすべきである。

2つ、柔軟性の原則。その災害に適合した最適な救助方法を、柔軟な発想をもって積極的に考案・創設することとし、一般基準に固執した硬直的な運用をしない。

3つ、生活再建継承の原則。災害救助は無理に応急的なものにとどめず、その後の被災者の生活再建につなげていく対応を行なうべき。

4つ、救助費国庫負担の原則。大災害時の救助費は、原則国庫が負担する。災害救助に当たる地方自治体は、一時的な費用負担をおそれて救助をちゅうちょしてはならない。

5つ、自治体基本責務の原則。災害救助は、地方自治体の基本的な責務であり、国の機関委任事務ではないことはもとより、被災者に対して責任を負って遂行されるべきものである。

6つ、被災者中心の原則。災害救助法は、被災者のために行なわれるものであり、被災者の生命、健康、生活を救済することを目的に行なわれるべき。

これは、「災害救助法徹底活用」という本に書いてありました。そのことを紹介いたしまして、私の一般質問を終了いたします。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、前田正治君の質問は終わりました。

議事の都合により、暫時休憩いたします。

午前11時08分 休憩

午前11時25分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

8番 多田隈啓二君。

〔８番 多田隈啓二君 登壇〕

○８番（多田隈啓二君） 皆さん、こんにちは。８番、創政未来、多田隈啓二です。傍聴の皆さん、お疲れさまです。いつもありがとうございます。

それでは、通告により一般質問を始めます。

１、政治姿勢について。

藏原市長、就任され７カ月がたちます。休暇もほとんどなく市政の発展のために取り組まれています。市長の仕事とは、市政の問題や課題を収集し、改善することで市民を中心とした行政を行ない、さまざまな計画や制度をつくりだして、市民の皆さんが安心して健康に暮らせるまちづくりをつくることだと思います。また、市民の声を聞き、どのようにしたら実現できるのか、市民の方がどのように考えているのかを総合的に判断し、実行して進めていくことが大切で、リーダーとしての資質が市長には求められています。玉名市の将来をどのようなまちにしたいのか、将来のビジョンを市民の皆さんに伝えることも重要だと思います。

そこで、質問いたします。１、公約でも、藏原市長、掲げておられました「玉名はもっと輝ける、１０年ビジョンのまちづくり」をどのように進めるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

〔市長 藏原隆浩君 登壇〕

○市長（藏原隆浩君） 多田隈議員の「玉名はもっと輝ける、１０年ビジョンのまちづくり」についての御質問にお答えいたします。

私は、昨年、就任の際に、１年後をめどに１０年ビジョンをお示しするというふうに申し上げておりました。それは、市政運営に当たっては長期的視点をもって取り組むことが大変重要であると認識しているため、市民の皆さまに１０年後の将来ビジョン、すなわち目指すべき姿を明確にお示しして、その将来像に向けて市全体で進んでいきたいというふうに考えているからでございます。

そこで、現在はそのビジョンの作成を進めているところでございますが、それには選挙戦で御支持をいただきました実行の三原則、これが基本となってくるというふうに考えております。

まず、１つ目の原則であります「市民生活の安定」につきましてですが、現在の少子高齢化の人口減少時代にありましては、社会保障費の増加や生産年齢人口の減少、さらには団塊の世代が後期高齢者となる２０２５年問題など、地方に共通する課題が山積をし、多くの市民が未来に不安を抱えて生活を今しています。そこで、高齢者が住みなれた地域で生きがいをもって楽しく生活できる環境づくりや安心して子育てができる環境づくりなど、市民が安心して笑顔でくらすようなまちづくりを目指してまいります。

2つ目の原則といたしまして、「まちづくりの充実」を掲げておりますけれども、市民が郷土に誇りを持ち、未来に向けて夢と希望をもてる魅力あるまちづくりが大変重要であると感じております。そのためにも、地域経済の活性化やにぎわいの創出、働きがいをもてる環境づくりなどが不可欠になってまいります。特に、大河ドラマ「いだてん」の放送決定は、本市にとって玉名の魅力を全国に発信する絶好のチャンスでありますので、官民連携のもとにこのチャンスをしっかりと生かして継続的な地域の活性化につなげていきたいと考えております。

3つ目の原則として「行政運営の進化」を掲げておりますが、菊池川流域の米作りに係る日本遺産認定に伴う取り組みや大河ドラマ「いだてん」に伴う取り組みなど、これは近隣市町や関係機関との連携は不可欠であり、また各種事業の推進においても国・県への要望、連携は大変重要であるため、積極的にトップセールスなどを行ない、太いパイプと強いつながりをもって市政運営に当たっていききたいというふうに考えております。

それから、質問初日の工業団地についての質問もございました。財政面を考えて、工業団地の整備はなかなか厳しいというような答弁にとどまっておりますけれども、これにはあとがありまして、ちょっと答弁がまわってきませんでしたので、ここでちょっと御紹介をさせていただきたいと思いますが、これまで市のほうで単独で持ち出しで工業団地を整備するということが叶わない状況の中に進んでまいりましたけれども、やはり企業誘致をこれから積極的に推進していくためにも、これは、官民連携による工業団地整備支援事業、そういったものを強力に推進していきたいというふうに考えています。

また、市役所内部におきましても、職員一人一人が仕事に誇りと責任をもって、市民の笑顔をつくり守っていくことで、それに専念をできる職場環境の整備に努めていきたいというふうに考えております。

以上の三原則をもとに10年後のビジョンを示し、職員や議員の皆さまはもとより、市民全員で将来像、ビジョンの実現に向けて、すべての市民が笑顔でくらせるまち、この実現に向けて進んでいきたいと考えておりますので、どうか御理解と御協力を賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。ありがとうございます。

市長の思いの詰まった、今からあと6カ月ぐらいですかね、12月議会では、市長が今おっしゃいましたビジョンがつくられて、具体的なビジョンを公表していただきたいと思いますので、私も6カ月間また待ちたいと思います。

市長が選挙で公約されてある、今答弁ありましたけど、「市民生活の安定」「まちづくりの充実」「行政運営の進化」、そして実行の三原則とともに、市民が笑顔でくらせるま

ちに向けて頑張って取り組んでいただきたいと思います。

また、市長、長期ビジョンもちろん大切ですが、提言としてちょっとさせていただければと思います。平成30年度の市長の年度の方針をやっぱり出されたほうが私は良いと思います。それはなぜかといいますと、この間、総務委員会の研修で兵庫県の小野市に行っていました。蓬莱市長さんの考えとして、まずこうありますけど、「民間の感覚と感性を市政へ」ということで、民間から市長になりました。そして、平成11年2月に民間出身の市長が誕生され、変革のスタートとうたって掲げたキャッチフレーズは「破壊と創造」と。「そうぞう」は、つくるほうの創造ですけどですね。ということで、現状打開と新たな創造ということを明確に打ち出されております。先ほど、市長も官民連携とありましたけど、官民の決定的な違いも、そのときに述べられております。成果と報酬が連動しない社会はおかしいと。画一的横並びの仲良しクラブじゃだめだと。顧客満足度の志向の欠如。前例にですね、踏襲型はとらわれないで施策を遂行するという意味の4点を、徹底的な違いを打ち出されております。そして、やはり行政の不作為の連鎖を断ち切ることが重要だと言われております。また、自治体のイノベーションとして、組織のあり方にも口を出されておりました、組織のあり方における重要ポイントと出されておりました、組織があっても機能があるわけではなく、機能があっても組織がある。機能とは、すなわち果たしうる役割であるということで、必要に応じて新しい組織をつくり、必要のない組織は潰すと明確にと言われております。

組織の肥大化は機能低下を招くとも言われており、当時就任されて、ちょっと何年かはお聞きできなかったんですけど、副市長さんが対応されて、やっぱり市長の思いを私たちにも伝えていただきました。その中で、やはり初めは、庁舎の職員の方には、本当に5万人ぐらいの市なんですけど、当初はやっぱりなかなか受け入れてもらえなかったというのを、副市長さんが本当に実体験として言っておられました。やはりその改革をするに当たって、やっぱりそういう気持ちになれば、ついてこれない職員さんもおられたというのも話されました。何人ぐらいおられたんですかと聞きますと、約100人ぐらい辞められたと言われました。ただ、100人辞められて、平均給与は700万円とすれば、7億円を市民のために使うということで、市の図書館が、その当時、土曜日は開いてなかったということで、そういう市民目線の施策にそのお金を使っていったという説明もされておりました。

小野市の行政経営の基本理念として、やっぱり打ち出されておりました、一貫した基本理念としては、市役所という字の「市」は、市民の中で市民の役に、「役所」の「役」ですね、立つ所ということで基本理念を掲げられて、行政も経営であると言われております。より高度で高品質なサービスをいかに低コストで提供できるかを追求され、やはりゼロベースの発想でチャレンジするということも明確に理念にうたわれておりま

す。その中で、行政経営戦略の4つの柱をまた立てられておりまして、「顧客満足度の志向」、やはり顧客ととらえて、どのように進めていくのか。そして、第2は、「成果主義」、何をやっているかでなく、何をなしえたかを問うと明確に書いてあります。そして、「オンリーワン」、ここにしかない小野らしさを追求すると。あと1つが、「後手から先手管理」、言われてからやるのではなく、言われる前にやるということで打ち出されております。単なるコストカッターでは終わらないと。行政を企業経営視点でとらえた変革の推進とうたわれております。

市長、ぜひ、そういう変革をしていただきたいと思います。さっき答弁でもありましたとおり、「行政運営の進化」と、3本柱にも入っております。ぜひ、そういう思いで改革をしていただければと思っております。また、顧客満足の志向にさらなる徹底と市民の意識改革による、し続ける、し続けられる仕組みにチャレンジされております。小野市の行政経営手法の最後のページには、仕組みをつくって終わりではない、キーワードとして「し続ける」こと。2点目が、「出る杭は打たれるのではなく、出ない杭は地中で腐るしかない」。3番目に、「まずはやってみなはれ」ということでうたっております。藏原市長には、ぜひ、単年度の毎年の市長の方針を出され、行政経営の戦略の柱を決められて、職員の皆さんにも市長の方針達成への共通の認識をもって取り組んでもらいたいと提言し、次の質問に移ります。

再質問として、市長の「よかボス宣言」はどのようなものがあるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） 「よかボス宣言」について御説明、お答えをいたしますけれども、その前に小野市の先ほどお話いただきました資料、ぜひともあとからいただければ、じっくりと読ませていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。

「よかボス宣言」とは、熊本を支える力強い産業の復活・発展と、魅力ある雇用の創出や県民の結婚・出産・子育ての希望の実現を目指して、子育て環境をはじめとするだれもが働きやすい環境の整備など、県民総幸福量の最大化に向けた熊本県の取り組みであります。

私は、その熊本県の趣旨に賛同しまして、玉名市におきましても、すべての市民の幸せな実現が、また人生が実現できるように、また満足できる生活が実現できるように次のことを宣言いたしました。

1つ目に、私は、全力で仕事に取り組んだ後は、たまなのうまかもんを食べて、家事をして、健康で幸せなくまもとライフ、たまなライフを楽しみますということ。

2つ目に、私は、楽しみながら仕事をし、早く帰って家事や余暇などの生活も楽しむ

職員を誇りに思います。

3つ目に、私は、計画的に休みを取って人生を楽しむとともに、職員にも休みを積極的にとるように勧めます。

4つ目に、私は、職員の結婚、子育て、介護など、それぞれのライフステージにおける希望や安心が実現できるよう応援します。

5つ目に、私は、たまなの「よかボス」を増やすため、企業や事業所、団体への働きかけを行います。

以上、5つの内容について宣言をいたしました。その取り組みが職員の仕事と私生活の充実はもとより、市民サービスの充実・向上につながり、また市内全域に広めることによって、全市民の幸せとワーク・ライフ・バランスの実現につなげていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

そうですね、やはり地方のトップがリーダーとしての「よかボス宣言」、やっぱり今から始まる藏原市政に対して必要じゃなかろうかなと思っております。

私たち、地元の大浜も、今度、有明広域行政事務組合と連携して、婚活事業として、JA大浜の青年部が「よかボス宣言」を、この市長もこうやってとられたと思います。これですね、とられて、「よかボス宣言」を出して、婚活に臨むということで、ここに婚活宣言もあります。これもネットのほうでみんな公開してありますので、見ていただければと思いますけど、やはり玉名市がよかボスを、市長、増やすために、企業や事業所、団体への働きかけを全力で行なってもらって、このよかボスの人を玉名でいっぱい増やしてもらって、活気溢れた玉名につなげていってもらいたいと思いますので、ぜひ働きかけをよろしくお願いします。

そして、次の質問に移ります。2、副市長のまちづくりの姿勢、庁内組織改革の考えを伺う。お願いします。

○議長（中尾嘉男君） 副市長 村上隆之君。

〔副市長 村上隆之君 登壇〕

○副市長（村上隆之君） 副市長に選任され、はや3カ月が経過したわけでございます。市民の皆さまの市政に対する熱い思い、そして藏原市政に対する期待の大きさがひしひしと伝わってまいります。藏原市長を補佐する任に当たりますことは身に余る光栄でありますとともに、改めてその責任の重さを痛感しているところであります。

玉名市をどのようにしたいか。私は、3つの事柄を思っております。

まず1点目に、市長が先に述べられました公約の基本原則、「市民生活の安定」「まち

づくりの充実」「行政運営の進化」を掲げられ、これらを誠心誠意、一つ一つ着実に実行することが、すべての市民が笑顔でくらせるまちを実現できるというふうに思っております。また、そういうふうな市になるよう努力してまいりたいと思っております。

2点目に、市民が主役の思いやりのある優しいまちにしたいというふうに思っております。市民の皆さんは主役であり、皆さんとしっかり話をし、何を求められているのか、そしてまた議員の皆さんともじっくり話をしながら、市職員一人一人が真摯に受けとめ、市政に反映させたいと、そういう市役所にしていきたいというふうに思っております。また、優しいまちづくりにつきましては、後期高齢となられる75歳の方は昭和18年生まれの人で、その前後の人たちを含め、まさに先の大戦の動乱の中に生まれて生き抜いてこられた人々でございます。この皆さんが今の日本、そしてこのまちを形づくってこられました。そういう方々に感謝の思いをもつ心を育む施策を形づくっていききたいというふうに思っております。また、そのほかの世代におきましても、子どもたちや親や家族が安心してくらしていける、互いを思いやる優しいまちづくりに努力してまいります。

3点目に、玉名市の強みを生かしたまちづくりを目指します。本市は、交通アクセスにも恵まれ、山、川、海など、自然環境に恵まれ、農業、水産業、温泉、文化、イベント等や5つの高校、大学を有する学園都市でもあります。各種会合等で、「玉名はなんでんあってよかな。」とよく言われます。このように豊富な資源を生かし、関係者と夢のあるビジョンを語り合いながら、特徴のある玉名市の未来づくりに努めてまいりたいというふうに思っております。

これらのことを主眼に、真摯に住んでいる人が誇れるまち、住んでみたいまち、住んで楽しいまちづくりに市長と共に、市長をそして補佐しながら前進していきたいというふうに思っております。

次に、市役所内の改革をもっと進めて、どういうふうにしていきたいか、そしてまた就任後にどのように取り組んできたかというふうなことから申し述べたいと思います。私が思うには、本市には非常に優秀な職員が多数おります。職員が能力を十分発揮できるような体制、環境づくりを行なうことが、ひいては市民サービスの向上に資すると考えております。とにかく、職員一人一人が市民のため、このまちを良くするためには何をすべきか、しっかりと意識改革を行なってまいります。

最後に、就任以降の取り組みにつきましては、新年度に入り、各部ごとの部課長と市長との懇談の場を設けたところでございます。各部、各課の思い、そして市長が思う方向性について互いに再認識をしながら、そして今年、平成30年度の事業を展開するためになったのではなかろうかというふうに思っております。そして、事務事業の改善といたしましては、旅費を伴わない出張命令等の簡素化や役所玄関前の入

口の行事案内板の設置を行なうなど、少しずつではありますがありますが、庁内の意識、そして組織改革を始めているところでございます。今後も、玉名市をもっと輝かせるため、市職員が能力を十分発揮できるような環境づくりを進め、市民の皆さまへ良質な行政サービスを提供できるよう庁内の組織改革を進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

副市長の思いが詰まった答弁じゃなかったのかなと思います。1点目は、柱でいけば、市長の三原則とともに頑張るということじゃなかったのかなと思います。また、2点目としては、市民がやはり主役のまちづくり。やっぱり市民目線でやっぱり市民との対話をしながら、まちづくりが一番大事だと私も思っております。そしてまた、優しいまちづくりという答弁も今ありました。また、感謝の心をもちながら頑張っていくんだという思いも聞けて良かったです。3点目が、玉名は、今ありましたけど、なんでんあるという中で、やっぱり夢のある玉名の未来づくり、まずそれに向けて、本当に市長も副市長も一体となって、またもちろん職員さんも一体となりながら頑張っていたきたいなと思っております。また、副市長は、市民参加率とおっしゃいましたけど、議会で全会一致いうですね、なかなか期待がここにあらわれているんじゃないかなと私は思っておりますけど、やはり期待も大きく、市民の皆さんに良質な行政サービスを提供できるように早急なまた庁内組織改革にも期待し、次の質問に移りたいと思います。

3、市の職員の働き方改革の推進の取り組みは何か。また、人事評価制度のあり方について、どのように評価されているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

〔総務部長 西山俊信君 登壇〕

○総務部長（西山俊信君） それでは、多田隈議員の御質問にお答えをいたします。市職員の働き方改革の推進の取り組みについてと人事評価のあり方についてお答えを申し上げます。

まず、働き方改革の内容としまして、長時間労働の解消、非正規と正社員の格差是正などがありますが、これらに関連する本市の取り組みについて御説明をいたします。

長時間労働の解消としまして、毎月第1金曜日を残業せずに帰宅いたしますノー残業デーと定めまして、職員へ周知をいたしているところでございます。また、市長によります先月5月28日の「よかボス宣言」を受け、職員におきましても計画的かつ効率的な業務執行に取り組み、積極的に年次有給休暇を取得できるように通知をいたしているところでございます。

非正規と正社員の格差是正については、地方公務員法及び地方自治法の一部を改正す

る法律施行に伴いまして、地方公共団体では一般職の非常勤職員である会計年度非任用職員制度を創設する必要がありますので、それによりまして非常勤職員の処遇改善が見込めるところでございます。スケジュールといたしましては、今年度から内容の検討、条例、規則の制定や、電算システムなどの整備に向けた作業などを行ない、平成32年度から施行に向け、準備を進めていく予定でございます。

次に、人事評価の本市の取り組みについて御説明申し上げます。

人事評価がもつ組織が期待する事項をあらかじめ職員に示し、実際の仕事や行動を評価することで組織に必要な人材を育てあげるという目的を重視し、評価結果を適正配置、昇任等、公正な処遇反映につなげることで人事の公平性を高め、みずからがもつ能力を最大限に発揮することを目的に実施をいたしております。

具体的な評価の流れを申し上げますと、まず、被評価者が成績、能力及び態度の項目につきまして自己評価を行ないます。そののち、一次評価者でございます直属の上司は、被評価者の1年間を通して仕事ぶりを把握した結果をもって一次評価を行ない、確認面談を実施して自己評価の確認や振り返りなどを行なっております。その後、二次評価者の評価と、そして評価者間での協議を行ない、最終的な評価結果を確定いたしているところでございます。

現在、評価結果については、昇任基準の一要素として活用いたしているところでございます。今後、昇級や賞与への反映も検討する必要がありますが、評価者間のばらつきなどが解消する必要がありますので、その解消したのちに公平性に活用できるよう実施時期や仕組みづくりなどについて十分検討を行なってまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈議員の一般質問の途中ですが、議事の都合により、午後1時まで休憩いたします。

午前11時58分 休憩

午後 1時01分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

多田隈啓二君。

〔8番 多田隈啓二君 登壇〕

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

推進として、会計年度任用職員について、期末手当の支給が可能となるように、給付に関する規定を整備され、平成30年4月1日から施行できるようにお願いしたいと思います。

また、人事評価につきましては、また先ほどの小野市になりますけど、小野市は、声かけだけでは成果はでないと言われて、成り行き管理から目標、期限を決めたターゲティングワークへの転換とうたっています。方針管理制度、政策評価よりも執行評価こそが重要だとこれにも書いてあります。そして、方針管理制度ということで目標管理を定められておまして、小野市は、5万人ですけど、副市長が2人おられます。なぜかといいますと、やっぱり市長の思いをどうやってこの施策に変えていくのかというのを、やっぱり右腕、有望な右腕が村上副市長おられますけど、左腕もということで、やりやすい取り巻きをつくってありました。その中で、市長をやっぱり方針の頂点として、それを実施するための部長、課長、係長へのブレイクダウンとして具体的な方向を立てて、PDCAのマネジメントサイクルを展開して、結果とプロセスを評価し、改善を進めながら組織全体として市長方針の達成を目指す仕組みをつくられております。

そして、実施実行書の様式あたりでは、まずつくられておまして、市長方針を達成するためにいつまで部長は何をするのか、また課長は部長の方針を達成するために課長はいつまで何をするのか、係長は課長の方針を達成するために係長はいつまで何をするのかというのを、まとめられる組織をつくられており、全員がやはり目標に向かって業務を遂行する方針体系表とは職順を自己方針をまとめてセッションをつくられております。

方針として、目標設定の事例として挙げさせてもらえば、目標として、例えば市民課長さんだったら、市民課の交付書の交付待ち平均時間を2分と目指すとか書いてあって、そのためには、じゃあ、どうするのかということですね。業務動線を考えたシステム機の配置を考えるということで目標を立てられております。例えば、会計管理者であれば、会計伝票の処理方法を改善し、正確かつ迅速な会計業務を行なうとあって、どうするのかということで、部署の伝票処理体制の状況を分析し、担当者の意識改革を行なうとか、上記の取り組みにより伝票誤り総件数を前年度比で10%削減するとか。例えば、ここは、消防は広域なんでないんですが、この小野市は単独の消防署をもっておられまして、例えば北分署に加えた3拠点運営体制を確立するために市内全域10分以内と、平均7分以下で救急車は到着させると、この目標を立てられております。そしてまた、これ何か市長がこだわられておったということで、選管事務局長としてどういう取り組みをされるのかというと、衆議院選の選挙での開票を県下一最速にするという思いが強く、一番に開票してやるという思いだったと思います。前回の選挙戦の課題を分析し、ゼロベースで新たな体制を構築する。開票時の動線を向上させるために、服装を見直され、開票事務従事者の目標の共有化を図り、事前説明会を開催されております。そして、県下最速を目指して、県下最速になったということでした。そのためには、例えば、そのほかにビブスをみんな着て開票に当たったり、運動靴を全員履いて、規則的なことなんですけど、こうしながら最速を目指されたというのを話の中に言っておられ

ました。

また、評価方法をマトリックス表から点数化されておりまして、また進化する方針管理制度を立てておられました。目標達成の難易度も加えた評価方法と人事評価への連動をここはされておりまして、人事評価制度の連動は能力評価と業績評価をされておりまして、発揮した能力の評価だったり、なしえた業績の評価をここはされておりました。

そしてまた、方針達成度評価の等級等は、また別につくられて、配分表をつくられておりました。そして、今、玉名も取り組まれていると思いますけど、勤勉手当等の範囲をどのようにしていくのかとって、もうこれは取り組まれておりました。方針管理制度の狙いとして、今までのやっぱり成り行き管理からターゲティングワークへの変換とやっぱり掲げられており、さらなるやらされる仕事からやる仕事へと、部下と上司のコミュニケーションの醸成と、目的を共有化した組織的な仕事の展開とか、タイムマネジメントの実践と進捗管理とか、職員の意識改革と向上を掲げて、最大の目的は職員の意識改革と明記されておりました。

小野市流は、皆さんされていると思いますけど、民間もいつもされていますけど、「ハウレンソウ」、報告・連絡・相談の仕組みをされておりまして、課内の所長からメールで秘書課へ、各課長からメールで秘書課にそのまま配信され、秘書課から市長に随時このメール配信でいろんな、例えば事件だったり、ミスだったり、トラブルだったり、マスコミ課の取材だったり、報道関係だったり、自治体の情報だったり、視察情報だったり、いろんなことがメールで共有されるということになっておりました。そのコメントも、また返信をされて、そして副市長が部長、職員へまたメール送信もされながら、年間、定数は2,100件を超えるメールのやりとりもされておりました。やっぱり狙いは職員の問題意識、これでメールで書くということで、問題意識があぶり出されるということも言っておられました。情報整理能力の向上にもつながっていくという話もされておりました。

また、その中で所属部門の提出状況もグラフ化、全庁にわかるように共有化がされておりまして、ここは教育委員会が一番ダントツで600件近いメールのやりとりをされていたんじゃないかなと思っております。仕事のやり方を変えるツール、そして文書を書くことによって職員自身がその問題についての整理・確認ができるということと、その結果、問題点を深く掘り下げることができると。課題を早期に発見することにより、後手から先手の管理の実践につながると。組織内での問題の共有が図られ、組織力の向上につながると。情報に対する職員の意識改革のリスクマネジメントとして機能すると。ポイントは、各課の点の情報をみんなが共有されて、線でつなぐことをされておりました。

また、さっき「ハウレンソウ」と言いましたが、ここは、上司に求められる「ハウ

レンソウ」といってまた別に2つあってですね。この上司に求められる「ホウレンソウ」は、まず「ホウ」は「方向性を示す」ですね。やはり部長さんたちが方向性を示されて、「レン」は「連携・ネットワーク」として、連携とネットワークをつくると。「ソウ」は「総括してまとめる」ということで、上司と部下の「ホウレンソウ」により組織力を強化されておりました。

また、情報は市民の財産という思いを市長があらためて、市民の意見を市政へ反映させるために、またそして職員の問題能力のためにも、いろんな多様な向上の手法を使われておられて、市長に手紙等もいろいろあつたですね。匿名からいろいろ、でも、匿名は返信はできないとおっしゃっていましたが、いろんな団体だったり、市政の懇談会、市長への手紙とか要望とか、まちの派遣員とか、行政サービスの研究グループとか、まちづくりの女性リポーターとか、いろんな団体からすべて文書で答えられて、市へどうやって反映するのかというのを、全課で市民からの意見を9つに分割されながら、意見を幅広く取り入れておられました。そしてまた、独自に情報の一元化システムを構築され、流れもつくられておりました。そしてまた、ここがすごいのは、またそういういろんな情報の受付をまたすぐ課に配信するんですけど、そのいろいろな課から回答が至る時間までもここ管理されていまして、その何日かかったのかと、この要望とか相談とか、いろいろな意見にですね。そして、その要望も一覧にグラフですぐ見れるようになって、地方自治の情報誌で紹介されて、処遇と連動させた方針管理制度でオンリーワンのまちづくりを推進されたといつて、兵庫県の小野市が大きく取り上げられたということでもあります。

玉名市も、この人事評価制度、まだまだ今から検討していくということでもありますけど、やはり実際、先進地はこうやって取り組まれています。ぜひ、早急にその辺も考えていただきたいと思います。現行の人事評価制度とともに、今後は方針実行書だったり、目標管理、マトリックスの評価からの点数化とか、方針達成評価とか、勤勉手当の反映を検討され、人事評価の新制度の運用を考えてもらい、質の高い行政サービスとともに、市民の皆さんの満足度の向上に向けて取り組んでいただくことをお願いし、次の質問に移ります。

(4) 正職員と非常勤職員のバランスや配置基準の考え、今後の職員採用について。

また、専門職の技術的な免許取得について伺います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 多田隈議員の御質問の正職員と非常勤職員のバランスや配置基準の考え、今後の職員採用についてと専門職の技術的な免許取得についてお答えをいたします。

まず、正職員と非常勤職員の状況でございますが、正職員数は合併後10年間3分の

1の採用によりまして、合併時697人から平成30年度は511人と186人の減少ということでございます。非常勤職員につきましては、平成19年度からになります、116人から265人と149名の増加ということになっております。ただ、年間業務量の増加とその内容が複雑化してまいっておりますので、職員減少のひずみが出てきているというのでも確かな状況でございます。今後は、各部署における必要数と定員管理などを考慮しながら採用枠を増やす方向で検討をしてみたいと考えているところでございます。

以上でございます。失礼しました。そのあとによろしいですか。もう一つ。

また、専門職の技術的な免許取得についてでございますけども、過去3年間の受験の状況になりますが、平成27年度は行政書士1名、土木施工管理等2名、平成28年度は建設技師・技術士1名、平成29年度は社会福祉主事3名、土木施工管理等5名が受験をいたし、今年度も今のところ土木施工管理等3名が受験予定となっているところでございます。

資格・免許につきましては、業務上要件として必要なものや、専門職としてのスキルや仕事の質の向上のためにも必要なものと考えております。ただし、生活保護ケースワーカーの要件であります社会福祉主事資格取得の費用につきましては、要件として必要なものであるため、取得に関する費用を公費として支出をいたしておりますけども、そのほかの資格・免許につきましては、今のところ助成金につきましては制度的には考えていないというところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

正職員は、10年間3分の1の採用、退職者ですね、採用ということで、511人まで減って、正職員が186名に減少し、非常勤職員の皆さんが149名増加し、今答弁でもありましたけど、職員の現状のひずみが出ているとの答弁でした。また、職員の皆さんも資格や免許を取りに行かれておりますが、採用試験については、この第3次玉名市行政改革大綱で、専門職員は、募集定数は平成30年度でこれ1人になっているんですよ。そして、平成31年度に2人、平成32年度に4人、平成33年度に1人という募集定数をこれ掲げておられます。初日の一般質問で松本議員の質問に対して、専門職が少ないとのやっぱり答弁がありました。改めてやっぱりこの採用では、これはちょっと足りない中で計画がこれでは、ちょっとまた専門職の皆さんがこれ足りなくなるんじゃないかなと思いますので、ぜひ早急なその辺もこの大綱にはうたってありますけど、変更を、また検討をお願いし、再質問に移ります。

再質問で、5月10日付けの人事異動について、なぜ行なったのか、お伺いしたいと

思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 多田隈議員の再質問にお答えをいたします。

昨日も北本議員の御質問でお答えをいたしたとおりでございますが、産業経済部内の異動につきましては、農地整備課の技術職員が4月1日以降に体調を崩したことが判明いたしましたために職場復帰に時間がかかるということでございましたので、今年度に工事を完成しなければならない渇水対策事業の工事に支障が出るおそれが見込まれることから、産業経済部内の農道や漁港、林道などの工事内容と職員の経験年数を考慮いたしまして、円滑に事業が進行、推進できるよう所管部長及び所管課長と協議をいたしまして、5名の人事異動を行なったところでございます。

次に、会計課と岱明、横島、市民生活課内の2名の異動についてでございますけれども、会計課におきまして、課長以下5名の職員のうち、3名の職員が会計課の経験年数が5年から6年と長期となっていたことから、職員の教育、人事育成上、異動したということでございますけれども、経験を有する職員が業務的に不足をいたすということとなったところでございます。そのようなことから、出納審査等の執行事務を確実に遂行するため、会計事務経験のある職員を事務支援といたしまして、期間を本年度9月までと限定いたしまして人事異動を行なったところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

きのうの北本議員の質問で、3分の1異動した課が40課の中に23課もあるんですね。やっぱり非常にこれは問題だと思います。やっぱりこれだけの本当にこの6割ぐらい近い人事異動をなされますと、やっぱり行政にこの負担がかかり、今回のまた異動につながったのじゃなかろうかなと思っております。

先ほど自分も説明してまいりました小野市の取り組みですけど、やはりこの人事異動に人事評価が評価としてこれできているのかなというの、これ疑問があります。このことから考えると、会計事務が回らない人事異動が適材適所だったのかという疑問も非常に残ります。そして、6月11日付けで3回目の人事異動もあっております。毎月、今人事異動があっている状態なんですよ。やはり人事のあり方を見つめ直すべきだと思います。

先ほどの第3次玉名市行政改革大綱では、平成34年度をめどに人事評価を構築していくと書いてあり、その人事評価も、これは喫緊の課題として、早急に市長、取り上げていただいて、やっぱり前倒しして、早急な検討をお願いしたいと思います。また、組織の目標は、実践と職員個人の目標、実績を結びつけ、組織の向上を図り、職員の意識

向上を促し、質の高い行政サービスが提供され、市民満足度の向上へもつながるような人事評価制度を一日も、市長、早くつくっていただくことを強くお願いし、次の質問に移ります。

(5) 来庁者への配慮について。

- 1、一般駐車場の通路部分に屋根はつけられないのか。
- 2、喫煙ブースや庁舎東側に擁壁などの考えはあるのか。
- 3、本庁舎1階ロビーへの電子案内板の設置の考えは。
- 4、婚約届におけるお祝いバックボードの設置の考えをお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

〔企画経営部長 水本明子さん 登壇〕

○企画経営部長（水本明子さん） 多田隈議員の来庁者への配慮に関する御質問にお答えをいたします。

まず、1点目の駐車場についてでございますが、現在、本庁舎南側駐車場には熊本県ユニバーサルデザイン建築ガイドラインに基づき、正面玄関の東側、ひさしの下に障がい者用駐車場を5台分、ベビーカー利用者などとして2台分を設けておりますので、この7台分については雨の日でもぬれずに庁舎に入れますが、それ以外の一般用駐車場につきましては、十分な幅を確保した通路を設けているだけとなっております。この通路の部分に議員御指摘の屋根を設置する場合、雨にぬれないというメリットはあるものの、柱を設置することで歩行者の通行に少なからず支障が生じるほか、柱の設置場所によっては一般車の接触事故の可能性が生じ、また産業祭やハーフマラソン等、多目的に利用している駐車場の配置の自由度が低くなる可能性もございます。さらに、玄関前のひさし部分との間の車道部分までは設置をできませんので、いずれにしてもぬれてしまうといった点があることから、当初から設置をしていないものでございます。

なお、庁舎に滞在されている間に雨が降り出し、車へ戻りたいけれども、傘をお持ちでない方に対しては、玄関脇に自由に使うことができるレンタル傘を置いております。これは、放置傘を有効利用したもので、使ったあとはいつでも構いませんので、次の機会に返却していただければよろしいというものでございます。やはりすべてを返却されているわけではございませんが、その分お役に立っているものと思われま。

次に、喫煙所に関する御質問についてでございますが、市役所本庁舎では、庁舎南東の角、自動販売機が設置してあるスペースを来客専用として、そのほか職員用につきましては、庁舎東側倉庫棟の南側と北側公用車駐車場などを指定して喫煙所としていただいておりますが、職員の喫煙に対しましては、長時間の滞在やたむろしているなどの苦情が以前からございます。喫煙するすべての職員がそうとは申しませんが、市民の方々からそのように見られていることは事実でございますので、これまで複数回、総務

部長との連名で文書による注意喚起を行なっているところでございます。

議員御提案の喫煙ブースやパーティションの壁などを設置すれば、確かに見栄えは良くなると思いますが、見えなければ良いというものでは決してございませんし、周囲からの視線を遮断することにより長時間の滞在を助長することにもつながりかねませんので、当初からその計画はございません。

なお、来庁者用の喫煙所につきましては、先ほど申し上げました庁舎南東の角でひさしの下にあって雨でもぬれずに行くことができますので、パーティションなどを設ける必要はないものと認識しております。

次に、本庁舎1階ロビーへの電子案内板の設置についてでございます。来庁者への情報提供という意味では大変大きなメリットがあるものの、他の自治体の事例のほとんどがスポンサー業者の広告料によって運営されており、その広告料を主に市内の業者に負担をいただくこと、また電子案内板自体の設置場所の確保も必要となります。現在、本市では行事の周知用として、昨年から正面玄関にホワイトボードを設置しておりまして、双方を比較検討しながら、今後対応を考えてまいりたいと存じます。

最後に、婚姻届や出生届などのお祝い記念撮影用のバックボードの設置についてでございます。今年度、こちらは市民課のほうで計画され、先だっの議員の聞き取りの時点ではそのデザインを校正中でございましたが、予定よりも早く準備ができて、一昨日から1階ロビーに設置済みでございます。ごらんになった方もおられるかと存じます。ボードのほうはキャスター付きで移動も簡単にでき、希望をされる方には喜んでいただけるものと思っております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

まずは、1点目の駐車場通路部分の屋根について、産業祭やハーフマラソン、いろいろ駐車場の自由度が低くなるとの答弁だったろうと思いますけど、調整池側の東側のあの通路に、途中まででいいんで屋根をつけていただければ、あそこは一番じゃまにはならないところであって、一列、片方になりますけど、屋根があれば、雨の日に、特によく自分たちも何人か言われたんですけど、「雨ん降りが、やっぱり足の不自由な方やったりなんたりが傘さしながら行くのは大変だ。」ということで、なかなかそういう高齢者の方が、大変雨の日はちょっと何か屋根かなんかないのかなというのを結構私たちは聞くんですね。だから、じゃまにならんとであれば、やっぱり東側の調整池の横に試験的に一列ちょっと、もちろんさっき答弁でも、庁舎につけると一応火災のときとかなんとか、いろいろ問題があるかもしれませんので、離していいんで、30メートルぐらいちょっと試験的にされればと思います。その辺の検討も、調査もお願いしたいと思い

ます。

また、2番目の喫煙ブースや庁舎東側に、例えば擁壁はできないかというのが、私たちも視察研修に行くと、結構やっぱりあるんですよ。私はたばこ吸わないんで、それがあってもなくてもあれなんですけど、やっぱり来庁された方が、ただもう何も無いところで、椅子も何も無いところで、ただ灰皿だけ置いてあるところが、ここが喫煙所ですと、市に視察来られた方々に説明するときに、「うーん、どうなのかな」って私は思います。やっぱりその辺も考えていただきたいと思います。今の答弁では、見えなくすれば長時間滞在を助長するとの答弁でしたが、他市町村もいっぱいつくってあるわけですよ。玉名市だけそういう職員の皆さんがなるというのは考えにくいところでもありますし、また喫煙所がつくられたから職員の皆さんが助長することであれば、やっぱりほかの自治体はきちっと仕事もされておりますので、やはり職員の意識改革を進められたほうが私はいいのじゃなかろうかなと思っております。そして、たむろしているなどの苦情等、今答弁ありましたけど、やはりその以前から結構苦情はあっていると思うんですよ。やっぱり入って、入口の右側の一番目立つところでもあるんですよ。今までは、自動販売機の前はまだこっちだったんで目立たなかったんですけど、その東側になれば結構目立っておりますんで、やはりその辺は、例えばブースができないのであれば、擁壁の1メートル50ぐらいでいいんで、つくっていただいて、2メートルぐらいですかね、あれつくっていただければ、来庁者の印象はすごく変わるんじゃないかなと思っております。その辺も、今まで自分が聞いたのはあれだったんですけども、全庁挙げて、庁議あたりで話されたことがあるのか、ないのか、ちょっと部長にお聞きしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 総務部長 西山俊信君。

○総務部長（西山俊信君） 多田隈議員の再質問にお答えをいたします。

確かに喫煙者、職員のほうにもかなり職員がおりますので、喫煙場所というのは現在指定をいたしておりますけども、やはり市民の皆さんからそういった御指摘を受けるようなことであってはならんということについての庁議での協議もいたしているところでございます。そういったところを踏まえまして、今後ともそういった職員の意識改革を含めまして、喫煙者については取り扱いを十分注意をしながら、今後とも取り組んでいきたいというふうに考えているところでございますし、庁議の中でも随時そういった話し合いは行なっている次第でございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

ぜひ検討しながら、ほかの自治体は入っているというところもたくさんありますので、

何かしらのこれだけの苦情があるのであれば、検討していただきたいと思います。民間では、休憩時間を決められている民間の会社あたりもあります。今の苦情のように、市民の方からどのように見られているのかは、行政としてやはり一番に考えるべき課題だと私は思います。今後、庁内協議でしっかり議論をしていただいて、どういう方向が一番いいのか、このままにしとくというやり方はどうなのかなと思います。ますます苦情が増えていくだけではないのかなと思います。ぜひその辺の検討をお願いし、次の質問に移ります。

済みません、3番目の本庁舎の1階ロビーへの電子案内板の設置について、スポンサー広告料をとりながら、市内業者等という答弁じゃなかったのかなと思いますけど、やはりこれも視察で行ってわかるんですけど、やはりこの電子案内板はすごく地元の、例えば特産品とか、そういうのも映し出されながら、庁内のこともいろいろ書いてあって、すごくわかりやすい。もちろん案内のところはあるんですけど、それを見ながらでもいろいろ調べられたりできる案内板もありますので、検討するということだったので、今後よろしくお願ひしたいと思います。

また、4番の婚姻届のお祝い用のバックボードの考えはということで、これは以前から副市長には僕は言いながら、何か仕掛けばしていただきたいなと思うところで、よその自治体は、やはり婚姻届を持って来られた方が、やっぱり開庁の時間に限定するんですけど、やっぱりバックボードで職員が撮って、せっかくの祝いの婚姻届を出されるときなんで、お二人に撮ってやれば、こういう何か温かい市に見られるんじゃないかなということ言っておりましたけど、早急に対応していただきましたことに関しまして、本当に感謝申し上げます。

また、他市では、副市長、まだこのただボードじゃなくて、これまた検討していただきたいんですけど、ボードだけじゃなくて、バックボードの前に前飾りスタンドというのを購入されております。小さなスタンドをして、そこにバックボードはここにあるんですけど、前にスタンドがあつて、そして、例えばマグネット式になっておりまして、婚姻届の人たちには「私たちは結婚しました。」みたいな感じでその前に貼ってもらって、そしてほかの子どもが生まれた方に対しては「新しい家族ができました。」とか、また貼りかえてもらって、前にですね、そして「玉名に引っ越してきました。」とか、こういう届け出の内容に応じたメッセージを書かれて、マグネットで貼りかえをしながら、写真をバックボードの中で撮っておられる自治体もあります。また、それを進めて、ネットで見ますと、市長がコメントを出してやるとか、いろいろ自治体的に工夫されている自治体があると思いますので、ぜひ、これ導入されたということなんですけど、もっともっと仕掛けを、市長、つくっていただいて、立ち寄りやすい、また市民に寄り添った庁舎にしていいただきたいと思います。今後、検討していただきたいと思います。

それでは、次の質問に移ります。(6) SNSを活用した情報発信について伺いたします。

○議長(中尾嘉男君) 企画経営部長 水本明子さん。

○企画経営部長(水本明子さん) 6番目のSNSを活用した情報発信についてお答えをいたします。

先日の坂本議員への答弁と重複するところがございますが、本年4月に地域振興課、情報発信係を設置し、新たな情報発信の手段として、玉名市公式フェイスブック「広報たまな」を開設、平成30年5月24日から運用を開始したところでございます。これは、昨今のインターネットの急速な普及に伴い、社会生活を送る上で重要な情報インフラとなっていること、またSNSのあらゆる年代への普及状況等を考慮し、情報発信力強化のために実施をしたものでございます。

議員御質問のSNSによる情報発信の目指すところにつきましては、市内外に向けた玉名市のイベント情報、観光情報、市政情報、緊急情報などの各種情報やまちの話題など、地域振興に係る情報発信を行なうことにより地域住民の愛着の高揚及び本市のPRにつなげればと考えているものでございます。

以上でございます。

○議長(中尾嘉男君) 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長(松本忠光君) 産業経済部のほうよりお答えいたします。議員御質問のソーシャルネットワーキングサービスについてお答えいたします。

まず、金栗氏のPRについては、これまでも懸垂幕やのぼり旗、チラシ等を作成するとともに、公用車へのPRマグネットシートの貼り付けやラッピングを行ない、県内外でのイベントへの参加等を通じて周知を図っているところでございます。

今後は、大河ドラマ館や金栗氏を周知するための専用ホームページを作成するとともに、各種媒体への広告掲載、ノベルティグッズの作成等を行い、一層の情報発信を図っていく予定でございます。また、議員提案のPR動画も有効な情報発信ツールの一つと考えており、今後も引き続き市内外でのイベント等で積極的なPR活動を図る中でより効果的な情報発信ができるようさまざまな手法を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長(中尾嘉男君) 多田隈啓二君。

○8番(多田隈啓二君) 答弁いただきました。

今まで、この熊本県、広い中ですね、14市ありまして、フェイスブックがなされてなかったのは玉名だけでした。やっとフェイスブックをされるということで、5月24日から運用開始とのこと。今後、玉名市のいろんな情報発信ができることは、本市のPRにつながっていくことだと思います。PRとして、何てすばらしいとこなんだろう

う、何てすばらしい玉名なんだろうと、行ってみたい、そんな感情に溢れる写真や動画を発信することが大切であり、自治体に今までやっぱり配信してなかったんで、いっぱい貯まっておると、すばらしい写真等があると思います。そういう豊富にストックされた写真を多く活用してもらい、玉名をアピールをしていただきたいと思います。今ある観光地をインスタ映え、今流行っておりますけど、する風景の整備が必要だとも思います。吉田憲司さんが言っておられますけど、岱明のあの海水浴場に写真がインスタ映えするフレームだけでも玉名でつくってもらえれば、そういう人たちが撮りに来られて、インスタ又はフェイスブック、いろんなツール使って、ライン等も使いながら、あげていただきながら、玉名を発信できる仕掛けを、また藏原市長にはいろんな仕掛けをつくっていただきたいと思います。

また、金栗四三さんのPR動画ですね、さっき答弁ありましたけど、ぜひ、鹿児島市のまねじゃありませんけど、やっぱり鹿児島市は高校生男子の体操部が西郷どんにふんして華麗なダンスで鹿児島市の魅力を紹介して、WEB限定の動画を作成し、盛り上がりを見せておられます。ぜひ、そういう金栗さんのやっぱりPR動画も考えていただきたいと思います。

そして、和水町で、私、昨年1月、和水町はくまモンと金栗さんだったんですけど、ピンバッチを500個、和水町も1月につくられておられました。それで、「玉名もつくってくれないかな。」と言うて、お願いしましたけど、なかなかつくっていただけないということで、だから、きょう、2つ、私、2種類、階段のほうにですね、みんながどういう絵がいいかなみたいな感じから始まって、2つ、きょうつけてきております。これで、私たちも微力でありますけど、少しでも金栗さん、また玉名のためにもアピールしていきたいなと思っておりますんで、きょう、朝、市長室に行きまして、市長に公務のときにこれをはめてもらえないかということでお願いしたところ、快く受け入れていただいて、きょう、名札の上につけてありますけど。また、議長にも、きょう、朝、ちょっと早くおじゃまさせていただいて、良ければ公務のときにということで、きょう、きちっとはめていただいております、本当にやっぱりいろんな交流が市長さんも議長さんもあると思いますので、ぜひ、そうやって少しでも金栗四三さんのアピールをしていただきたいと思います。

また、ほかは、和水町さんあたりは、運送会社の方とトラックのラッピングまで、今度2台目ができるそうです。2台目を走らせるという話もされておりました。また、先ほど昨年1月に500個つくられた金栗さんのピンバッチもイベントに来られた方にこのSNSにあげてくれたら、このピンバッジあげますということで渡されているという話もされておりました。それが500で足りんで、今500つくっているということなんで、ぜひ、いろんなやり方をよその市町村もされてますんで、玉名も玉名らしいアピ

ールをしていただければなと思っております。今後、そういうこともありまして、全国から多くの方が玉名に来ていただけるよう、今後もSNSで魅力ある玉名市の情報発信を期待し、次の質問に移ります。

2、健康福祉行政について。

介護保険法の一部改正により、厚生労働省は、新しい総合事業として、市町村が基準や単価を設定し、自治体が主体となることで自由度が高くなり、地域の実情に応じたサービスを提供し、既存の介護事業所だけじゃなく、NPO、ボランティア団体、地域住民が高齢者の生活を地域で支え合う取り組みが始まり、市民の方がどのように変わるのか大変心配されており、質問いたします。

(1) 要介護認定制度、また介護予防の取り組みについてお伺いします。

(2) 要支援者の総合事業の取り組みについてお伺いします。

(3) 通いの場の事業についてお伺いいたします。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

〔健康福祉部長 松野信生君 登壇〕

○健康福祉部長（松野信生君） 多田限議員御質問の要介護認定制度についてお答えします。

介護保険制度は、加齢による病気等で要介護状態となり、入浴、排泄、食事等の介護などが必要な方に対して、介護保険サービスが提供される制度です。要介護認定の判定は、2つのステップで行なわれます。まず、市に認定申請をされたあと、認定調査員の訪問による調査と主治医意見書をもとにコンピューターで算出する一次判定が1つ目のステップです。次に、一次判定の結果に基づき、学識経験者の介護認定審査会での審査による二次判定で総合的に判断され、この2つ目のステップで要介護状態の区分が決定されます。認定は、原則として申請日から30日以内とされています。ただし、心身状態で調査に日時を要するなどの特別な理由がある場合は、判定が遅れるケースもあります。

次に、介護予防の取り組みについてお答えします。本市では、高齢者がいつまでも自分らしく生き生きと健康に過ごせるよう、身近な地区公民館単位で歌、レクリエーション、ゲームなどを行なう「いきいきふれあい活動」が月1回、112カ所の公民館で1,950人が参加されております。また、「ゆた〜っと元気体操」は、月1回から4回、地区によって異なりますが、67カ所の公民館で988人の参加がっております。どちらの事業も、地域の方々が地区で立ち上げる地域住民の自主的な活動でございます。ほかに、福祉センターでの「元気づくり教室」、天水憩いの家での「オレンジながら体操」、岱明ふれあい健康センター、横島公民館、横島ゆとり一むにおいての介護予防事業に多くの方が参加されております。また、健康寿命の延長に寄与した取り組みとして、

新たに本年4月から介護予防拠点事業で整備した地区公民館で地域の有償ボランティアを活用した週1回の通いの場事業が8カ所でスタートしているところです。

次に、要支援者の総合事業の取り組みについてお答えします。これまで県の指定を受けてサービスを提供していた事業所は、総合事業開始に伴い、玉名市の指定を受けることになりました。現在、玉名市が指定している事業所は、通所、訪問、合わせて63事業所ございます。サービスの内容ですが、まず通所型サービスとしまして、3種類のサービスを行なっております。1つ目は、これまでのデイサービスと同様の基準、内容で行なう現行相当サービス。2つ目は、介護スタッフ数やサービス提供時間等を勘案して行なう基準緩和サービス。3つ目は、新たに民間企業に委託し、横島公民館で4カ月間の短期集中で体力改善を目的として行なう「元気あっぷ教室」でございます。また、訪問型サービスも3種類ございまして、1つ目は、同様に現行相当サービス。2つ目は、これも同様に基準緩和型サービス。それと、3つ目は、シルバー人材センターに委託して、掃除や調理等に限定し、家事支援員を派遣するふれあい家事支援サービスでございます。4月の利用者の状況では、デイサービスに425人、「元気あっぷ教室」に24人、ヘルパー利用が327人、ふれあい家事支援員の利用が23人となっております。

次に、通いの場事業についてお答えします。先ほどの介護予防事業の取り組みで説明いたしました「いきいきふれあい活動」は、月に1回の開催であり、多くの地区で参加者が固定化していること、区長さんや民生委員さんの負担感があることなどの課題もございました。また、公民館活動を毎週されている地区が月1回の地区より介護認定率が低いという結果も出ていることから、より介護予防効果を高めること、地域人材の活用を図ることを目的として、新たに通いの場事業が4月からスタートしました。事業内容は、地区公民館において週1回開催し、運営を地域のボランティアに担っていただき、軽い体操などを行ない、年1回は市から栄養・口腔講話や体力測定を実施することにしております。6月現在で8カ所開始されております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

6月現在で8カ所されているということで、本年度からの取り組み事業となっております。

そこで、再質問いたします。市内全部では何カ所ぐらい開所する、今後の計画なのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 通いの場は、現在8カ所が設置されておりますけれども、現在活動中であります「いきいきふれあい活動」や「ゆた〜っと元気体操」と連動

しながら設置を進めてまいりますけれども、特にこれらが無い地区においては、できるだけ早期に設置できますよう今後も推進してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

今のとり方でいけば、地域の公民館、大体全体でされるというとり方でよろしいですかね。

〔松野信生君 「はい。」と呼ぶ〕

○8番（多田隈啓二君） わかりました。地域の全体で今から全域に、まだ今は8カ所しかされておりませんが、今から全域に広げていくということだったんで、はい、わかりました。

そこで、再質問で、そういう場に行くために、やはり公民館、各地域にありますけど、地域公民館は。ただ、結構距離のあるところもあるんですよね。坂道もありますし、川もありますし、いろいろそのお年寄りの方が行き帰りの活動で、例えば怪我された場合は、だれが責任とるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 公民館活動につきましては、地域住民の自主的な活動で、高齢者自身が元気になるために自己責任のもと参加されることとなっております。活動中の事故につきましては全国市長会市民総合賠償保険、自宅から会場までの事故については交通災害共済制度の利用で対応してまいります。また、地域のボランティアにおきましては、社会福祉協議会のボランティア保険に加入されているところでございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

保険があるので、大丈夫という話、とらえ方でいいんですかね。

今のもう1点だけ、ちょっと活動まで、公民館まで行くまでの保険はあるんですよね。

〔松野信生君 「そうです。」と呼ぶ〕

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 自宅から会場までの事故については、交通災害共済制度ということで利用できるということになっております。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。わかりました。

そういう保険があるので安心しました。この通いの場事業というのは、本当に介護費抑制に関しても、これ今からどこの自治体も多く、広く取り入れられていくんじゃないか

ろうかなと思います。

そこで、もう1点、再質問いたします。通いの場事業拡大に当たり、公民館等で熱中症対策として何カ所の地域の公民館で空調を設置されておられるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

○教育部長（戸寄孝司君） 多田隈議員の再質問でございます。

自治公民館に空調設備はどれぐらい設置されているかということでございます。現行の玉名市自治公民館施設整備費補助金要綱では、新築、改築、増築のときに設置される空調については補助対象の経費として認められておりますが、建設後、単独についての設置については補助対象外となっております。

そのようなことから、今現在の設置状況につきましては、全258行政区の中に自治公民館をもたない公民館もございますので、24行政区ということになります。その24行政区を除いた234行政区の中に190行政区は、もう設置がされております。設置率といたしまして、81.2%が設置されている状況でございます。空調設置を公民館建設後に単独設置されている行政区の多くは、区費等の自己財源で設置されているという状況でございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

256行政区の公民館があつて、公民館があるのは234で、190、81.2%と、今答弁ありましたけど、やはりこの通いの場事業を進めていくに当たっては、それでも44公民館では空調がない中で、やはり今から通いの場事業を増やすと増やすしこ、この空調整備をセットでしなければ、なかなかこの通いの場事業は広がっていかないのかな、またお年寄りの熱中症対策にはなっていないのかなと思いますので、そこを今後どう公民館に通いの場事業とセットで空調を設置する考えがあるのか、藏原市長にお聞きしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

○市長（藏原隆浩君） 多田隈議員の再質問ですけれども、先ほど教育部長が答弁しましたとおりでございますが、空調の既に設置率が高いということ、それから既に区費などでそれぞれの公民館におきまして自己財源で設置をされているところがすべてでありますので、そういった公民館との公平性を考慮しますと、今後、突然、市から単独で空調の補助を出していくということは非常に公平性に欠けるものというふうに思っておりますので、補助金を導入することは現時点では厳しいというふうに思っておりますが、空調を設置されてない自治公民館がこれから新築、増改築を実施される場合には、先ほ

ど部長答弁でも申し上げましたとおり、補助の対象というふうになりますので、そのときにこの玉名市自治公民館施設整備費補助金ですかね、これを活用していただいて、快適な公民館運営に地域、地域で努めていただければ大変ありがたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

なかなか今までそういう補助金はないということなんで、厳しいとの答弁じゃなかったのかなと思います。ただ、やっぱり小さい区の小さい公民館は、軒数も少なく、なかなか、じゃあ、30万円、40万円のお金をその区の人が出せて言っても、なかなか難しいところも、今度の今、人口減少の中で、自治体が出てくるんじゃないかな。区の再編も叫ばれている中、やはりそういう柔軟な対応を今後は考えていつていただきたいと思います。今後は、良ければ、玉名市独自の補助金をつくっていただいて、そういう通いの場事業を空調設置できんけん取り止めなんだったとならないように、その辺は柔軟に対応していただきたいと思っております。

私は、大浜出身なんですけど、先日、藏原市長には要望書を、私たちはふれあいセンターというのがありまして、400名程度のふれあいセンターあります。そこには、空調入っておりませんで、当初も15年前なもので、やっぱり当初はなかなか空調まで建設でいっぱいだったということもありまして、ただその当時は、やっぱり市から2,400万円ぐらいだったですかね、全体工事費の7割ぐらいを補助してもらいながら建設に当たったというのもありますけど、やはりその中でそのときつければ、その7割補助みたいな感じでつけられたんですけど、今は15年たって地区でするしかないという中で、この間、電気屋さんに見積もりを取ったら、250万円かかるんですね。その250万円を簡単に、じゃあ、つけられるかと言ったら、なかなかつけられないという現状があります。もちろん、大浜区の全部の13区の持ち物でありますので、13区で出し合いながら、どうにか今後設置の方向にいくしかない。今、藏原市長にお願いしましたが、やっぱりそういう補助はないということだったんで、今後、漁業組合等のお金をお借りしながら設置の方向に今いっているところでもございます。ぜひ、その辺も対応していただきたいと思います。

私たちは、会派で大阪府の大東市に行きました。これの通いの場事業の先進地でございました。やはり高齢者がいつでも生き生きと元気に生活が続けられるとの思いから、大東市のオリジナル体操をさせて、体操のコンセプトは75歳以上の高齢者でも元気で安心でできるラジオ体操だったり、体操をすることでより元気になって若返っていただき、介護保険を使わない、自己負担も払わせなくていい、「効きまっせ！ 若うなりま

っせ！ 儲りまっせ！」三拍子そろったキャッチコピーで大東市は取り組んでおられます。玉名は、せっかく通いの場事業をされるのであれば、そういうキャッチコピーも大切かなと思っておりますので、その辺もどうぞ今後考えていただきたいと思います。

それでは、次の質問に移ります。4番、保育所の民営化について、どのように進めていくのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 多田隈議員の保育所の民営化問題についての御質問にお答えします。

本市の公立保育所の民営化につきましては、平成20年度にちどり保育所、天水東保育所の2園、平成24年度に梅林保育所、鍋保育所、玉名第二保育所の3園、平成29年度に滑石保育所、睦合保育所の2園、合わせて7園を実施しております。そして、伊倉保育所と大野保育所の2園につきましては、平成31年度から民営化する方向で進めており、既に先月、地域保護者に向けた説明会を済ませ、市の附属機関であります玉名市立保育所運営法人選定委員会の第1回目の会議を開催したところでございます。

今後の動きとしましては、7月になりますけれども、1カ月程度の期間で募集を行い、8月中旬ごろに運営法人選定委員会におけるプレゼンテーションの結果を踏まえて、移管先の法人を仮決定する予定でございます。なお、大野保育所の場合は、隣接する子育て支援センターくすの木も民営化し、大野保育所とあわせて運営する法人を募集する方針でございます。

現在、5園ある公立保育所の民営化につきましては、昨年11月に制定いたしました「玉名市公立保育所のあり方に関する基本方針」によって進めることとしておりまして、高道保育所は平成32年ごろをめどに民営化、豊水保育所は現在建設場所の選定を進めております玉名第一保育所と統合し、最終的には定員120人を予定する新しい玉名第一保育所を公立保育所として残し、一時保育、休日保育などの特別保育も実施していく予定でございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

民営化を今後進めていくと。第一保育所だけは、最後、残していくという答弁ですけど。

そこで、再質問したいと思います。民営化した保育園で実際に発生した問題についてお伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 議員御質問のある私立保育園におきまして、3月末に

一度に9人の保育士が退職いたしております。この園では、保育士の退職がわかった段階で、保育士の確保に向けて動いております。4月以降、系列の保育園からの異動や新規採用などで6人を補充するに至っております。市としまして、本年度の保育所入所にあたり大きな影響が生じることから、当該保育園に対して早急に必要保育士数を確保することを要請したものの、在園児1人に転園が生じるなど、入所調整に影響がございました。また、現時点で9月からの入所希望の子ども2人について、兄弟同時入所の調整ができていない状況にありますので、園に対しまして保育士確保の要請を行なっているところでございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

民営化の、やっぱり実際は、影響、問題もいろいろ出てくるようになってきました。まず、3月末に一度に9人の保育士さんが退職され、3月末という、受け入れが始まっておりますよね。保護者の方が、大変心配されて、これ受け入れできるんだろうかというですね、逆に保護者の方がちょっと心配されて、ちょっと相談に来られたというのもありました。今、具体的な内容まで部長のほうから話がありましたけど、やっぱり実際、在園児1人が転園するしかいけないということが決まっております。そして、入所が、私の近くの人なんですけど、やっぱり入所の子どもが一緒の園に行けないとなれば、やはりいろんな保育園は行事がありまして、いろんな保護者行事もあるし、年間の行事もありまして、もちろん運動会、いろいろあります。やっぱりその行事に対して、相当の不安を抱えておられます。分かれながら、子どもを見に行くとは仕方ないけど、ただ1年間それができるんだろうか、どうなのかというのも、やっぱり悩まれて、相談されております。やはりこれは早急にまず解決するものなのか、ないのか。もちろん、保育園の保育士に対して、例えば0歳児とか1歳から3歳までとかなければ、やっぱり例えば3人に1人の保育士とか、いろいろ条件がありますもんで、なかなかこれは難しい問題になるのかなと思いますけど、その辺はやっぱり保護者が心配されておりますので、部長、ぜひ、その辺の早急な改善案はなかなかないと思いますけど、やっぱり保育士確保をされて、そして兄弟やっぱり一緒の園に入れる、まず大優先でその取り組みをしていただくことを強くお願いして、次の質問に移ります。

（5）障がい児、障がい者への対応状況はどうなっているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 多田隈議員御質問の本市の障がい児（者）への対応状況はどのようなになっているのかということについてお答えいたします。

現在、本市の手帳保持者は、身体障害者手帳 3,710 人、療育手帳 614 人、精神保健福祉手帳 488 人となっております。

サービスにつきましては、居宅で生活されている障がい者に対し、入浴や食事など、生活全般にわたる援助を行なう居宅介護や、外出の際、同行し、必要な援助を行なう訪問系サービス、就労を希望する方に対し、生産活動や職場体験などの機会の提供や就労に関する相談を行なう日中活動系サービス、また障がいのある子どもへの支援として、日常生活における基本的な動作の指導や集団生活への適応力を高める訓練を行なう児童発達支援や放課後デイサービスなど、障がい者、障がい児、その家族が必要とするさまざまなサービスを近隣自治体と広域的な連携を図りながら推進しているところでございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

○教育部長（戸寄孝司君） 議員の障がい児への対応についてということでございます。学校の現状についてお答えいたします。

現在、玉名市の小学校の特別支援学級は 35 学級、児童数が 98 名、そのうち知的障害学級が児童 35 名、自閉・情緒障害の学級が 55 名、病弱学級が 3 名、肢体不自由学級が 4 名、弱視学級が 1 名、在席しております。中学校の特別支援学級は 13 学級、生徒数 38 名、そのうち知的障害学級が 15 名、自閉症・情緒障害学級が 21 名、肢体不自由学級が 2 名、在席しております。

学校の対応といたしましては、医療行為を必要とする児童生徒が 2 名おります。それぞれの児童生徒に看護師の資格を持った特別支援教育看護支援員を各 1 名配置しております。また、施設面では、校内に手すりやスロープの設置、できるだけバリアフリー化を図り、新設校にはエレベーター等も設置をしております。その他、既存の学校にも階段等の昇降が非常に不自由な方もいらっしゃいますので、そういう方たちのために、階段昇降機の配備やレール式椅子型の昇降機の設置等の移動手段の工夫も行なっているところでございます。さらに、体温調節が困難なお子さまやカテーテルを留置しているお子さん、それから排泄機能の不全、悪性腫瘍などの症状もある方がいらっしゃいます。エアコンの設置やトイレの改修、それからシャワー等の設置、加えて児童生徒のプライバシーもございますので、プライバシーを守るためにパーテーションやカーテンの配備なども可能な限り環境の整備を図っているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8 番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。

障がい児へですね、配慮を本当に医療行為を必要とする児童生徒には看護師の資格を

持った特別支援教育看護支援員を配置されており、またいろいろ学校ですね、本当に今お聞きすれば、いろんな取り組みをきめ細かくされているんだなというのもわかりました。施設面では、さまざまな本当に環境を行なっていただき、今後も2名ということななんですけど、きめ細やかな対応をお願いし、再質問に移ります。

県立荒尾支援学校に通われている保護者から、毎日送迎が大変であると話を聞きました。私は、じゃあ、バスがずっと出ておりまして、なぜバスに乗れないのかと伺ったところ、喉にその子どもは気管切開をしているということで、バスは資格を持った保育士が乗ってないために、毎日、荒尾まで送って、迎えに行つてを毎日されております。これは、どうにかならないかという、まず相談だったんですよね。そして、保護者の送迎の負担軽減になる、今現在、取り組みが何かされているのか、予定があるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 多田隈議員再質問の放課後デイサービスについてお答えいたします。

現在、下校時間にあわせて迎えに行ったり、療育終了後に自宅まで送迎が可能である放課後デイサービス事業者は、有明圏域で13事業所、玉名市内で5事業所ございます。また、重度の障がい児童の受け入れ、対応のできる放課後デイサービスにつきましては、今年度中に新設される施設が1つ予定されているところでございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 多田隈啓二君。

○8番（多田隈啓二君） 答弁いただきました。ありがとうございます。

今年度にそうやって放課後デイみたいな感じであるということで、その保護者が迎えに行かなくてもいい、朝は送らなければならないという話も聞いております。ぜひ、そういう取り組みがあるということで保護者も負担軽減になると思います。

最後になりますが、あと、はい、あと五十何秒あります。

あと、市として、先ほど小野市の市長の思いじゃありませんけど、小野市長、もう一つ言われた言葉を最後にですね、市として生き残りを目指すわけじゃないと、勝ち残りを目指すということを提言されておりました。ぜひ、藏原市長にも、勝ち残りをなれるような玉名市をつくっていただくことを切に期待し、一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、多田隈啓二君の質問は終わりました。

議事の都合により、暫時休憩いたします。

午後 2時24分 休憩

午後 2時40分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を行ないます。

2番 吉田真樹子さん。

〔2番 吉田真樹子さん 登壇〕

○2番（吉田真樹子さん） 皆さん、こんにちは。2番、創政未来、吉田真樹子です。

本日もお忙しい中に傍聴にお越しいただきまして、ありがとうございます。

まずはじめに、3月議会に学用品のリユースシステムについて質問をいたしました。その後の報告をさせていただきます。行政の答弁は、PTA、民間で取り組んでくださいということでしたので、地元の福田小学校保護者会長に提案をいたしました。3月末には全保護者宛に対し、御協力をお願いというプリントを配布されましたところ、ブレザー、ズボン、スカート、ポロシャツ、体育服、合計32着が集まっていました。破れ、色あせ、ほつれのないものでお願いをいたしましたので、きれいなものばかりだったそうです。今後は、注文書を配布して、無料でお渡しし、残ったものは11月のバザーで低価格で販売するという流れが本部役員と学校側で既に構成されておりました。保護者、先生方もいい取り組みだと積極的に進めていただきましたので、この流れを市のPTA連合会へも今後結果を報告し、より多くの生活と精神面での安心を感じていただきたいと願っております。

では、通告に従いまして、質問をさせていただきます。

1、給食費の徴収方法と未納額についてお尋ねいたします。

3月議会でも多田隈議員も言われておりましたが、給食費は公平に徴収し、その方法は保護者にも学校側にも負担がなく、滞納もなくしたいものです。

では、玉名市の給食費徴収方法と未納額、中学を卒業して3年が過ぎた不納欠損額はどのような状況でしょうか。不納欠損とは、何らかの理由で徴収が行なえず、今後徴収の見込みが立たないため、徴収を諦めることをいいます。この不納欠損額をわかる範囲で構いませんので、お尋ねいたします。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

〔教育部長 戸寄孝司君 登壇〕

○教育部長（戸寄孝司君） 吉田議員の給食の徴収方法、未納額の状況はということでございます。

まず、それぞれの学校における給食費の徴収方法についてお答えいたします。平成30年4月現在の徴収方法につきましては、保護者による手集めの徴収が、全小学校22校中12校で、口座による徴収が8校、それから児童が学校へ持参する方法が2校となっております。徴収方法には、それぞれ一長一短ございます。保護者による手集めは、未納額が少ない反面、集金にかかる労力と時間の負担や現金の管理にも大きな責任が伴

います。一方、口座振替は、保護者の労力や時間的負担は軽いものの、振込みの手数料の負担増や残額不足による振替不能の徴収率低下が懸念されます。また、児童が学校へ持参する方法は、保護者への負担は軽減されますけれども、学校側での事務負担と紛失及び盗難等の事故が懸念されております。このように、現状の徴収方法は、おのこの学校の実情に応じた方法であるかと考えておりますが、それぞれにメリット、デメリットも少なからずあることから、その見直しにつきましては、学校や保護者の要望等を十分考慮しながら、市といたしましても慎重に対応していかなければならないと考えております。

次に、給食費の未納の状況でございますが、直近3カ年の状況についてお答えいたします。未納額は、平成27年度12万4,864円、収納率99.95%、平成28年度21万295円、収納率99.91%、平成29年度33万4,457円、収納率99.86%となっております。未納率は、おおむね0.1%程度で推移している現状でございます。不納欠損額につきましては、平成27年度29万8,753円、平成28年度24万4,655円、平成29年度が22万815円で、3カ年の合計になりますけれども、76万4,223円を処理しているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 吉田真樹子さん。

○2番（吉田真樹子さん） ありがとうございます。

これまでの給食費未納累計額が133万円と聞いておりました。不納欠損の過去3年分の合計で76万円ということですが、仮に以前も同じような状況であったとするならば、不納欠損の過去3年分の合計で76万円、過去10年では253万円になります。給食は、子どもたちの健全育成のために欠かせないとても重要なものです。給食は、すべて給食費から準備をされております。給食の質を落とさないためにも、給食費の徴収方法を工夫する必要があります。

では、再質問です。給食費を児童手当から天引きしている自治体がございますが、これは給食費の徴収方法として実行的だと思われませんが、玉名市としてのお考えはいかがでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

○教育部長（戸寄孝司君） 議員の児童手当からの徴収はどうかということでございますけれども、給食費の児童手当からの徴収につきましては、平成24年の児童手当法の一部を改正する法律の施行により、受給資格者が児童手当の支払いを受ける前に、本人からの申し出があれば、徴収可能という規定がなされているところでございます。児童手当の支給の目的でございますけれども、「児童を養育している者に児童手当を支給することにより、家庭等における生活の安定に寄与するとともに、次代の社会を担う児童

の健やかな成長に資することを目的とする。」とされております。一概に児童手当から積極的に給食費を徴収することが適切であるかどうか、議論が分かれるところでございます。近隣の市町も含め、全国的にも実施しているところは少ないのが現状ではないかと思われまゝ。また、国では、学校給食費の公会計導入に向けてのガイドライン作成の動きもあり、それを注視しながら、学校、PTAの皆さまの御意見もお聞きしながら、児童手当からの徴収につきましても慎重に検討してまいりたいと思っております。

学校給食が児童生徒の心身の健全な発達に極めて重要な役割を果たしていることから、今後とも安全・安心で栄養バランスのとれた、おいしい学校給食の提供に努めるとともに、保護者間の公平な学校給食費の負担、適切な徴収に努力してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 吉田真樹子さん。

○2番（吉田真樹子さん） ありがとうございます。

児童手当からの天引きを実施されております長野県塩尻市教育総務課に確認をいたしましたので、お話しさせていただきます。塩尻市の人口は、玉名市と同じ6万7,000人、平成25年から、5年前から給食費を税金と同じ扱いとする公会計となり、入学時に学校を通して児童手当からの天引きもしくは口座振替でお願いするそうです。割合を聞いてみました。児童手当が4割、口座振替が6割だそうです。

次に、こちらは千葉県南房総市、人口は3万8,000人です。平成18年3月、12年前に7町村が合併してから公会計になったそうです。こちらの市は、口座振替のみの徴収方法で、児童手当受給月に給食費の滞納があれば、申し出をされている家庭に限っては天引きをされるそうです。この児童手当は、申し出がなければ天引きできないという問題が残るそうですが、こちらの南房総市は、平成29年度の未納額はありますが、今月の6月支給の児童手当からの差し押さえでほぼゼロになると言われておりましたが、過去の累計分だと149万円の滞納額があるということでした。

しかし、最初にお話しいたしました長野県塩尻市に滞納状況を尋ねましたら、ほぼ解消しておりますと言われました。

ここで、質問です。次の質問に移らせていただきます。市長は、選挙公約に給食費徴収方法の見直しについて掲げられておりました。この先進地の取り組みに対する市長自身のお考えをお聞かせください。

○議長（中尾嘉男君） 市長 蔵原隆浩君。

○市長（蔵原隆浩君） 吉田議員の質問にお答えをいたします。

先ほど担当部長もお答えをいたしましたとおりでありますけれども、一部給食費の滞納があることも認識しておりますし、公平な給食費負担となるためには滞納をなくして

いく努力も今まで以上に大切であるというふうに考えております。また、議員御指摘の給食費を徴収する保護者の負担軽減のためにも児童手当からの徴収、あるいは公会計の導入などにつきましても、担当課において、仮に徴収方法の一つとして導入する場合にはどのような問題が発生するのか、そのメリット、デメリットなどを検証しながら、また学校やPTA、そして児童手当支給の担当部署ともしっかりと協議をしながら、これから慎重に検討を行なってまいりたいというふうに思っております。何よりも学校給食が児童生徒の心身の健全な発達に極めて重要な役割を果たしているものと認識をいたしております。学校給食の安定運営に努めていくためにも、ただ今御提案がありましたような件、しっかりと検討してまいりたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 吉田真樹子さん。

○2番（吉田真樹子さん） 市長もPTA会長を経験されて公約に掲げられているように、給食費の徴収問題は重要な課題の一つと思われるはずです。公平に徴収し、保護者や学校側の負担を軽減し、そして何よりも子どもたちの健全育成のために先進地の取り組みを玉名市も取り入れ、その結果、未納状況も大幅に改善できると思われます。ぜひとも前向きに御検討をお願いいたします。

では、次の質問に移ります。就学援助費制度について。小中学校で必要な学用品や給食などにかかる費用を国と市町村がサポートする仕組みである就学援助費制度についてお尋ねいたします。学校教材費、校外活動費、修学旅行費、入学準備補助金、学校給食費など、教育を受けさせるのに必要な費用として支給をされておりますが、支給基準はどのようになっておりますでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

○教育部長（戸寄孝司君） 議員の就学援助費制度の支給基準についてお答えいたします。

就学援助費の支給対象者は、生活保護費を受給している要保護者と市町村教育委員会が要保護者に準じる規定程度に困窮していると認めた準要保護者であり、準要保護者の認定基準は、各市町村で規定することとなっております。

本市の準要保護者に係る認定のための基準は、以下の7項目となっております。

まず1番目に、生活保護の停止又は廃止を受けている世帯。2番目に、市町村民税が非課税となっている世帯及び市民税、個人事業税又は固定資産税の減免を受けている世帯。3番目に、国民年金保険料の減免を受けている世帯。4番目に、国民健康保険税の減免又は徴収猶予を受けている方。5番目に、児童扶養手当を受けている方。6番目に、生活福祉資金による貸し付けを受けている方。さらに7番目といたしまして、6項目のどの基準にも該当されない保護者については、世帯の所得が生活保護基準の1.3

倍以下の世帯。

この7項目のいずれかに該当する場合に就学援助費の支給対象者となっております。
この基準に従って、公平・公正な判定を行なっているところでございます。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 吉田真樹子さん。

○2番（吉田真樹子さん） ありがとうございます。

今回、答弁いただきました内容も調べればわかることでありましたが、子どもたちの健全育成のためにとっても重要な制度であるため、改めて市民の皆さんに周知していただきたいという思いで質問いたしました。

では、その就学援助費制度の利用状況をお聞かせください。

○議長（中尾嘉男君） 教育部長 戸寄孝司君。

○教育部長（戸寄孝司君） 利用状況でございますけれども、平成29年度の就学援助費の利用人数、玉名市内の小中学校の全児童生徒約5,100人おりますけれども、そのうち756人でございます。全体の15%ということになっております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 吉田真樹子さん。

○2番（吉田真樹子さん） 今回、就学援助費制度について、教育現場の方に尋ねてみるところ、関係者の皆さんの御尽力により就学援助が必要な方に援助が行き届くような取り組みがされているとお聞きしております。しかしながら、まだまだ受けるべき家庭が就学援助を受けていないという場合もあると言われました。そのような受けるべき家庭で受けられていない方の背景をぜひとも気にとめていただきたいと強くお願いしたいです。今後もこのような積極的な取り組みが継続され、援助が必要な方に行き届きますよう切に願います。

では、次の質問に移ります。ひとり親家庭について。離婚もしくは死別でひとり親家庭として玉名で生活されている方がいらっしゃいます。昭和37年より施行されました児童扶養手当受給者は当時の15万4,000人から、一昨年、平成28年には100万6,000人と、子どもは随分減少しておりますけれど、児童扶養手当の受給者は6.5倍と増えている状況でした。児童扶養手当は月に4万2,000円、それが4カ月に一度、16万8,000円支給されております。

そこで、お尋ねです。現在、玉名市での支給状況はどのようになっていますか。その後、御縁があって、婚姻により手当の支給が終了した世帯数もお聞かせください。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

〔健康福祉部長 松野信生君 登壇〕

○健康福祉部長（松野信生君） 吉田議員のひとり親家庭についての御質問にお答えし

ます。

玉名市では、父母の離婚等により父又は母と生計を同じくしていない18歳未満までの児童を養育されている家庭の生活の安定と自立を助け、児童の福祉の増進を図る目的として児童扶養手当を支給しております。

議員御質問の玉名市の現状についてでございますが、児童扶養手当の受給者数はここ数年横ばいの状況であり、平成29年度末時点で632人でございます。内訳としまして、母子家庭が570人、父子家庭が60人、祖父母や親族等の養育者が2人となっております。また、一方、婚姻により児童扶養手当の支給がなくなった受給者は、平成29年度中に38人となっております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 吉田真樹子さん。

○2番（吉田真樹子さん） ありがとうございます。

ここで、再質問をさせていただきます。母子会というひとり親家庭を支援している会があると聞いております。しかし、参加してもらいたい方に参加いただけないという問題があるようにもお聞きしましたが、詳しく教えていただけますでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 吉田議員の再質問にお答えします。

玉名市母子寡婦福祉連合会という組織がございます。活動内容につきまして御説明申し上げますと、ひとり親家庭の生活安定と福利厚生の向上を目指し、さまざまな活動を実施されております。例えば、親子の交流と子どもの健全育成を目的とした1日旅行やイベント等への参加、クリスマス会等の各種レクリエーションを実施されております。しかしながら、議員御承知のとおり、ひとり親家庭の会員拡大を図られておりますが、会の趣旨に賛同しても活動や会費の負担を理由に加入を見送られ、会員数が伸びず、高齢化しているのが現状でございます。

今後、市といたしましても、ひとり親家庭が連合会の活動に関心をもっていただけますよう支援を続けていきますとともに、児童扶養手当の申請受付時に「ひとり親家庭の皆さんへ」というリーフレットをお配りしておりますけれども、今後も家庭への情報提供等に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 吉田真樹子さん。

○2番（吉田真樹子さん） 今、会への参加会費と言われましたけど、年会費はどのくらいするのでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 健康福祉部長 松野信生君。

○健康福祉部長（松野信生君） 会費は、年会費といたしまして800円を徴収されて

いるようです。

それと、会員数について参考に申し上げますと、平成２７年度が７６人、平成２８年度が６７人、平成２９年度になりますと６０人ということになっているそうです。

○議長（中尾嘉男君） 吉田真樹子さん。

○２番（吉田真樹子さん） ありがとうございます。

私の身近な方にも３人の息子を一人の社会人として立派に育てあげられた方がおりまして、その方より寡婦福祉連合会は経験を重ねた先輩がいて学べる集まりだと聞いておりました。ひとり親の子育ての体験談を聞けるような場が必要だと考えます。この寡婦福祉連合会がされております各イベントで取り入れていかれると、情報交換の場、そして新たな取り組みのきっかけの場になるのではないかと考えます。人生には、縁とタイミング、そしてチャンスがあります。ぜひとも次の新たな仕事、楽しみ、仲間、居場所などの出会いの場にする必要があると考えます。一人でも多くの方が寡婦福祉連合会に参加してもらえよう子育て支援課におかれましても力を入れていただきたいと切に願ひまして、今回の私の一般質問はこれで終了させていただきます。

よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、吉田真樹子さんの質問は終わりました。

１５番 江田計司君。

〔１５番 江田計司君 登壇〕

○１５番（江田計司君） 皆さん、こんにちは。１５番、無会派の江田です。爽やかな吉田さんのあとに野暮ったいのが出てまいりました。お許しをいただきたいと思います。

昨年の１０月までは、無会派は大所帯でありました。大変にぎわっておりました。選挙が終わって、今は少数精鋭であります。そして、相棒が一人ちょっと休んでおりますけども、もうしばらくすると元気になってきますので、その分だけ私が頑張りたいと思います。そして、いつもながら、傍聴していただきまして、ありがとうございます。

それでは、通告に従いまして、質問をいたします。

大河ドラマ「いだてん」の取り組みと対応について質問をいたします。

主人公の金栗先生は、私たち玉名高校の大先輩であります。今年がちょうど玉名高校の創立、これは玉中時代からなんですけども、１１５周年、１１月１１日に大同窓会を予定しております。その記念事業として、金栗先生の銅像をつくる計画をいたしております。大体総工費が５００万円ぐらいかかるんですね。今、協賛をお願いしておりますけども、その銅像をどこに置くか、いろいろ検討されておりますけども、最終的には市役所をお願いして、どうも新幹線の駅の改札口を出たところのあの辺に決まるようになっているそうであります。

5月2日から4日にかけて広島県で行なわれましたフラワーフェスティバルですね、そのトップセールスとして議会からは中尾議長、そして城戸委員長、田畑副委員長はちょうど都合ができなくて、私が年寄りということで参加させていただきました。主催は、中国新聞社ですね。後援として広島県と広島市が行なっておりますけども、今年でちょうど10周年になるそうですね。玉名市が何であれかといいますと、ちょうど新幹線が開業にあたって、玉名市からPRに行って、それからずっと10周年毎回参加をしているそうですね。だから、玉名市にはものすごく大歓迎をされるんですね。この3日間の人出といいますか、大体140万人だそうです。同時に、博多どんたくが行なわれていますけども、この博多どんたくは何か120万人と発表されておりますけども、博多どんたくよりも多いというお話でありました。

玉名市も大変懇意にされていまして、熊本県もブースがあるわけですね。その中に玉名市の物産をするところがあるんですね。物産品を販売するところですね。そして、あそこは100メートル道路というんですかね、その道路が延々と二点何キロ続くんですね。そして、その両側に2列2列、4列大変な屋台が並んでおりました。

玉名市は大分優遇されまして、特設ステージがあります。そのステージで玉名市のコマーシャル時間というのを何かあったわけですね。そこに、議長、副委員長、私もちょっと同席されましたけども、司会をされたのが、ふるさとセールス課の和田課長補佐ですか、この方と観光協会の柿添委員長ですか、この二人が本当漫才のコンビみたいにプロと変わらんようなやり方で、いろいろその舞台の上でされておりました。職員の方が、その金栗先生に何かそっくりなんですね。金栗先生の若いときと。いろいろ衣装を着て、いろいろ精いっぱい活動されておりました。その司会をされている方がクイズ形式でいろいろされていまして、親子の方がクイズに当たられて、商品をやられて、「ところで、金栗さんは御存じですか。」と、会場の方にも「御存じですか。」と言われたけども、残念ながらだれも御存じありませんでした。そして、その親子の方に言われたら、その方たちも御存じでなかったけど、実は、この親子の人は40歳ぐらいだったけど、玉名工の出身の人なんです。だから、玉名工業出身、玉名の人でもやっぱり金栗先生はあまり知られてないというのが現状のようであります。その3日間、市の職員の方、大変一生懸命頑張っておられて、朝早くから夜遅くまで大変御苦労でございました。

そして、帰り、バスの中で、中尾議長といろいろ話をしておりました。中尾議長は、九州市長会に行ったときに、「玉名は恵まれとっですな。」と、その大河ドラマの「いだてん」のことを言われたわけですね。「私たちは、相当、要するに誘致の活動をしとっですよね。しかし、なかなか取り上げてもらえない。」と。ある議長さんですかね、何か30年ぐらい待たなんそうですよ。それぐらいこの競争というのは、激しいそうで

すね。

それで、質問をいたしますけども、玉名はどんな誘致を、活動をされたか、お伺いをしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

〔産業経済部長 松本忠光君 登壇〕

○産業経済部長（松本忠光君） 議員御質問の大河ドラマの誘致活動についてお答えいたします。

昨年４月に２０１９年ＮＨＫ大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」の主人公の一人に日本発のオリンピック選手、そして玉名市の名誉市民であられる金栗四三氏が決定いたしました。が、本市として大河ドラマで取り上げていただけるよう東京ＮＨＫへの誘致活動は行なっておりません。

特に、他市の状況を見てみますと、現在放送されている大河ドラマ「西郷どん」のゆかりの地、鹿児島市では、平成２２年度から誘致活動を始め、計１５回にわたり鹿児島県知事、鹿児島市長をはじめ、関係団体と共に東京ＮＨＫへ要望書を提出するなど、地道な活動があり、放送決定に至ったとお聞きしております。

今回の大河ドラマ放送決定につきましては、まさしく金栗四三氏ゆかりの地、玉名を全国に発信する千載一遇のチャンスととらえておりますので、今後もＰＲ活動、各種事業へ積極的に取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 江田計司君。

○１５番（江田計司君） 本当、藏原市長、ふのよかったですね。よそは、恐らく、今、部長の話では、８年だったですかね。しかし、私がいったときは、１０年以上かかったととですよ。だから、相当、皆さん、各市町村は努力して、とにかく日参して、いろいろ努力をされているんですね。ですから、恐らくその経費というのは、相当なものですね。だから、玉名市は経費ゼロで、これがチャンス回ってきととですよ。ですから、相当これからはお金ば使ってもよかつじゃなかろうかと、中尾議長は言われておりました。

ところで、そのドラマ館のことが、きのうからいろいろお話がっております。そのスケジュールについて、そしてその事業費、そのうち県が負担するのはどの程度か。これは、先ほども、きのうも言われたと思いますけども、念のためにお伺いをしたいと思います。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 大河ドラマ館のスケジュールについてお答えいたします。現在、大河ドラマ館につきましては、ドラマの世界観を表現し、集客を図る観光ス

ポットとなることから、本市としましては、現在設置の準備を進めているところでございます。スケジュールにつきましては、本議会へドラマ館に要する予算を上程しておりますので、御承認後、具体的な設置に向けた取り組みがすぐにでも行なえるよう準備を進めていきたいと考えております。

次に、総事業費についてお答えいたします。ドラマ館の設置運営に要する費用としては、建設費、展示工事費、販売管理費等を合計すると約4億5,000万円となっております。そのほかに1市2町協議会負担金や広告宣伝、小田地域の整備費等に要する事業費を合計いたしますと約5億1,500万円でございます。今後、記念イベントやフルマラソン大会等の実施に係る事業計画や事業費が固まった段階で予算要求を行なっていくと考えております。

次に、県の負担額はどの程度を予定しているのかでございますが、現在、今回の大河ドラマ館に関する事業に対する県や国の補助金や交付金の活用について、申請や協議を行なっているところです。主な活用内容としましては、県の地域づくり夢チャレンジ推進補助金、県広域連携プロジェクト推進補助金、復興基金交付金や国の地方創生推進交付金でございます。今後も引き続き県等との協議を行ない、補助金や交付金の活用を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 江田計司君。

○15番（江田計司君） 実は、私もこの一般質問するに当たって、何も知らんじやいかんもんだけん、鹿児島県のドラマ館を見に行きました。その「西郷どん」のドラマ館というのは、新幹線の鹿児島中央駅ですか、そこを下りたら、歩いて15分ぐらいです。何か昔の市民病院の跡だったそうです。敷地にすれば、相当広いですね。ちょっと面積は聞かなかったんですけども、それでそのドラマ館が建っているのが500平方メートルぐらいあったのですかね。その事業費というのは、2億5,000万円ぐらいだそうです。車は、乗用車が200台。駐車料金は、平日は1時間の200円ですね。土日で300円。話ば聞くと、ほとんど1時間ぐらいしかおんなはらんというような形ですね。バスは18台、1時間の2,000円、土日は3,000円ですね。このドラマ館に、いろいろ働いている人は31名だそうです。それで、日銀が試算したその経済効果といいますか、これは307億円だそうです。

だから、大河ドラマ館のその「西郷どん」の場合は、かなり知名度もあるし、恐らく金栗先生のあれも、しかも半年でしょう。あとの半年はですね。ですから、果たしてどれだけの経済効果があるか。金をかければいいという問題じゃないですけども、ただそれをつくっただけでは、果たしてどうだろうかと思います。

この鹿児島県のドラマ館を見て感心したのは、ここのドラマ館だけじゃなかったですよ。

結局、昔、10年前に「篤姫」がもちろんあったし、それと、そこから歩いて五、六分ぐらいですかね、その川沿いをずっと行くと、結局、鹿児島は、明治維新150周年に当たるそうですね。それを記念して、その「維新ふるさと館」というのはあるわけですよ。だから、これでの相乗効果といいますか。だから、恐らく300億円の経済効果というのは、それからだろうと思うんですね。

だから、西郷さんの場合は、それだけ知名度があるからいいんですけども、さあ、この金栗先生のほうが果たしてどれくらい、行政としても一生懸命頑張っておられると思うけど、これに対してあとの一過性にならないように何か計画はありますか。

○議長（中尾嘉男君） 産業経済部長 松本忠光君。

○産業経済部長（松本忠光君） 大河ドラマを一過性の効果にするのではなく、経済効果を生み出すその後の取り組みについてでございますけども、まず、今回の大河ドラマによる経済波及効果をドラマ終了後も持続して地域へ波及する事業として、フルマラソン大会の準備を進めているところでございます。特に、フルマラソン大会は、日本マラソンの礎を築かれた金栗氏の功績を称えるとともに、まさしくドラマの効果を一過性に終わらせず、なおかつ波及効果を持続させる事業であると考えているところでございます。

また、1市2町協議会の中で、和水町の生家や小田の住家、玉名温泉や地域の観光素材を結ぶ魅力ある観光ルートの開発を進めております。そして、これらの観光ルートを商品化し、今後も継続し、来訪者に来ていただくことで、さらなる経済効果につなげていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 江田計司君。

○15番（江田計司君） いろいろ答弁をいただきました。

確かに、行政としては一生懸命やっておられるんですけども、先ほど私が言いましたんですけども、ただこの大河ドラマ館、これだけで金をちょっと今のところ5億円ぐらい使うわけでしょう。だから、極端に言うと、幾ら使ってもよかわけですよ。ただこれを利用して、極端な場合は、今、この西郷さんのゆかりでいろいろあるのは、この西南戦争なんですよ。ですから、ここ今、西郷さんが終わっとるでしょうが。そうすると、それを利用して、例えば極端に言うと、文化センターですか、先ほどのあそこの維新館じゃないですけど、そういうとも利用したら、観光客自身も何かで来られるんじゃないかと。これは、もう答弁はいりませんね。私だけの要望ということで聞いてください。

その西郷さんのことなんですけども、きのうは、入ってくるときに、日赤の献血があっておりましたですね。この日赤のもともとの発祥地は、いろいろ言われているけど、

この玉名と玉東とあるんですね。私も勉強不足で、ただ少しだけおしゃべりをしますけども、司馬遼太郎さんの「翔ぶが如く」の小説の中に、西南の役における事実上の関ヶ原になった戦いは高瀬の戦いということをやたっているそうです。この西南の役の高瀬の戦いというのは、相当な悲惨だったらしいですね。だから、やっぱりせっかくならこういうのを利用して、実際、ライオンズクラブのあれは55周年だったですかね、そのときにこれをいろいろつくろうかということでしたけども、玉名はPRの仕方があまり上手じゃなかったですよ。だから、例えば、この西南戦争のときに、この高瀬の戦いがありました。このときに官軍と薩軍と戦って、ここの何か官軍の一番、ここ高瀬にあったつですね。だから、そこで、両方が戦って、その戦った負傷者を民間のあの人たちが治療したわけですね。その博愛社というのを御存じでしょう。この博愛社がその日赤の発祥のもとらしいんですよ。だから、これの発祥のもとを書いてあるのは、玉名女子校のあそこの門の中にあつたんですね。だから、こういうのとか、それと、西郷隆盛さんの末弟の西郷小兵衛さんですか、この方は、あそこの安楽寺ですか、あそこで戦死したんのはとですよ。

〔市長 藏原隆浩君 「永徳寺」と呼ぶ〕

○15番（江田計司君） はい。永徳寺ですか。安楽寺と間違えて。市長は詳しかですね。そうか、何せ勉強不足なもんだからですね。

だから、そういうととか、いろいろこれ全部つながって、こういうのも、そして繁根木八幡さんの石垣にその鉄砲の跡とか何とかいろいろあつたですよ。だから、いろいろこういうのをやっぱり観光の財源として、この際、お金ばここにボーンとですね。だから、ドラマ館だけじゃ、金は、恐らくさっき5億どしことか言いよんなはったでしょう。だから、もうちょっといろいろ金を使うところには使ってますね。だから、そういうことにしたらどうでしょうかね。だから、せっかく千載一遇のチャンスと言われていましたけどですね。だから、これを利用せん手はなかったですよ。だから、先ほど議長の話もしたばってん、よそは相当お金を使っているんですよ。だから、生きた金を使うためには、こういう点もですね。そして、ついでに観光面ばですね。だから、いろいろ玉名も観光あつたでしょう。蓮華院の誕生寺なんかは、あそこの五重塔、そしてあそこに南大門ってあつたですか。だから、いろいろそれを全部つながりださんと、やっぱりちょうど新幹線が開業の前に、当時のJRの石原社長さんが言われたんですけども、熊本県は、例えば新幹線が開通する前に、玉名とどこでも一生懸命しよんなはるて。ばってん、ばらばらなんですよ。鹿児島は、ドーンと鹿児島で、またテレビで宣伝するでしょう。鹿児島いらっしゃい、指宿どうのこうのと。だから、そういう全部が一体になっていったほうがいいんじゃないかと思います。

城戸議員もいろいろ言われていましたけども、やっぱりこのドラマ館に来るだけで

は、お客さんはあまり喜ばんとですよ。やっぱり一番は食ですよ。ですから、あそのの中に、玉名は、一番有名はラーメンですから。鹿児島の「西郷どん」の中にも、土日だけはそういう屋台が並んで、ステージなんかもあるそうです。だから、社団法人だったですかね、そういうのをつくってほしいとか言われとったですね。だから、やっぱりせっかくするならそこに、あれでしょう、市長、大俵まつりのときに、何かいろいろ食のブースがあるでしょう。あの人たちば、何か話しおうて、1年あつとですけん、いろいろこうして、やっぱり食いもんにつらるっとですよ。私は、大河ドラマ館には、あまりつられんと、そういうことを言うと怒られるばってんですね。

だから、そういうこともいろいろ考えていただいて、前田議員からもちょっと私に知恵をつけられました。

〔前田正治君 「余計なこつは言わんほうが。」と呼ぶ〕

○15番（江田計司君） よそからのお客さんばかり、今一生懸命みんななつとんのはるばってんが、地元の人にはひよっとするとあまり関心はなかかもしれないですね。だから、この地元の人にもうちょっと、地元が盛り上がりゃんといかんとですよ。そのためにはどうしたらいいかと。前田さんはいい知恵を授かったです。前売券ば売らんかいたて。そすと、確か鹿児島が、入場券は、あれは、部長、600円だったですかね。だから、前売券は500円とか。そして、強制的じゃなかばってん、こう言うのと、やっぱり送ったりなんかさすでしょうが。だから、そういう面でもしたらどうだろうかという話がありました。だから、私が言いたいのはどういうことかということ、結局、やっぱりあんま辛抱せんで、使うところはつこうて、そうせんと入ってくつとも、やっぱり辛抱して入ってくつけんですね。そういうことをお願いしたいと思います。そういうことで、次の質問に移りたいと思います。

2番目の大正開漁港跡地の太陽光発電のその後はどうなっているかと。この件については、平成27年の9月議会、平成28年の3月議会、昨年6月、9月議会、そしてきょうで5回も、何遍でん言うなと言われるかもしれませんが、ただ、前の方の議員さんはまだ1回も聞かれておられないし、恐らく市長もただ聞いただけで、ここの部長さん方も今回はじめてありますので、くどいようだけでも、もう一回簡単に説明をしたいと思います。

平成26年の9月なんですけども、この現場の近くですね、竹の伐採の件で、地元の方が陳情してくれということで陳情いたしておりました。ところが、その地元の方が私に電話がかかってきました。市役所から来とんのはるけん、ちょっと来てくれということですね。その打ち合わせをやりよったわけですよ。そしたら、何かそのちょっと先ば見っと、何か工事しよるわけですね。そこは大正開の跡地で、あんまり目立たんところですよ。聞いてみると、工事が何だったのかというのは、太陽光の発電の工事をやっ

るわけですね。地元の人に聞くと、「あら、あら市がしよったつじゃなかつな。」ということですね。私は、ほんな私の家から1キロもいかんところですね。全然知らなかったんですよ。それで、役所に行って、ちょっと調べてみました。そしたら、私が全く知らないことばかりです。寝耳に水とはこのことですね。大変なショックでありました。そして、その契約書を見て、またびっくりしました。契約の相手先は、東京のビーイーソーラーズリーという会社でありました。資本金は100万円。そして、設立は平成25年11月1日なんですよ。この話は、皆さん、御存じですね。市議員の選挙もあったし、市長選挙もあった年なんです。そして、その契約書の最後方を見ると、ただ玉名市とそのビーイーソーラーズリーさんとの契約だけで、中身見ても、保証人もなければ、保証費もないんです。私たちも、いろいろ不動産の方とか、いろいろ聞くと、「そら、ちいっと貸しとつとなんばってんな、20年も。」、上もたつとですね。「そら、現場の人に聞いてみつと、こら、あた、解体すつともおおごとですばい。」って、「そーな銭のかかつですばい。」と。だから、20年先にその会社があればよかですよ。20年先ですね。20年先、私ももうおらんですもんね。だから、そら、一番何かかんかあったときに、迷惑をかかるとは、もちろん行政でもありますし、その地元の人たちですね。私も、実際的に東京のとは別なことだったんですけども、東京の人には大変ひどい目に遭わされました。だから、そういうことを一般質問でわんわん言うたもんだから、東京のその会社の人にはえらく憤慨をされておりますと。私も、地元の議員として、やっぱり将来その地元で迷惑のかからないようにするのは、当然、私に与えられた義務なんですね。

結局、いろんな方で調査をいたしました。事の始まりは、平成24年、鹿児島のコンサルタント会社なんです。ここと東京の六本木にあります、これはスペイン系の投資会社なんですね。ここが市役所に来られて、企業誘致という形で平成25年3月に環境発電株式会社玉名営業所というのを設立されて、登録をされております。この平成25年の3月いっぱい、その次の年からは金額が下がるんですね。太陽光発電の売電料は、3月いっぱいまでは40円に消費税。しかし、そのあとは36円に下がるんですね。ですから、恐らくぎりぎりいっぱい出されたと思います。その契約は、結局、コンサルタント会社でなくて、最終的には株式会社ビーイーソーラーズリー。これは、いろいろ聞くと、3番目にその太陽光発電をするからビーイーソーラーズリーとですね。いろいろ調査をいたしました。ところが、この会社は5階建ての貸し切りで借りておられますけども、3階、4階はそこの建物の人が住んでおらるつとですね。3階にそのビーイーソーラーの親会社が2階に入っておられ、1階は喫茶店みたいなところですね。その入口の郵便受けを見ると、ほかの名前はいっぱいあるけども、その会社の名前は全然のつとらんとですよ。郵便受けにもない。結局、一番最初の六本木の投資会社のスペインの

ときは、企業誘致課から見には行かれました。しかし、その契約者のビーイーソーラー
スリーさんのときは、もう企画経営に移ったもんですから、見にも行っとなはらん。
結局、企業誘致から回ってきたけんということでですね、そのあれです。

ところが、私も心配なもんですから、そこの松本光明さんだったですかね。「会わせて
くれんですか。」と、役所の人いろいろな言いましたけども、なかなか会わせてもら
えません。単独で一回また東京に行って、いろいろ調べました。最終的に当時の永野議
長ですけども、永野議長にお願いして、アポを取って、松本光明さんと会わせてくれ
ということで言いまして、やっと2月3日だったですかね、お会いするようになりました。
ところが、お会いしたのは、親会社、役員の方とそれを担当されたマネージャーの
方ですね。相当怒られましたよ、私は。私は、熊本弁でわんわん言うたでしょうが。そ
って、結局、特に、また怒らるっかもしれないばってん、東京のどこの馬の骨とわからん
ごたっと契約してと。やっぱり地元の人でも知っとなはるなら、俺がしたっちゃよ
かという人がたくさんおんなはったつですよ。ところが、何で東京と契約せなんかとい
うのは、私の言い分です。何かあったときに、地元だったら、あそこが潰れたらわかる
ばってん、東京が潰れたってわからんことになるんですね。結局、そういうことで、1
時間半以上いろいろお話をして、打ち合わせをして、最終的に保証金はいまさら無理だ
けども、行政から要請があれば、保証人は親会社になってよかぞと。親会社は、いい会
社なんですよ。

それで、早速、平成29年、去年の6月議会にそれを一般質問いたしました。しか
し、当時の高寄市長は、こういうことを言われましたね。100万円の資本金がどうの
こうのじゃなくて、親会社がしっかりしておれば、当然、子会社もしっかりしていると。
遊休地を借りていただいているから、しかも20年間で3,000万円以上のお金が入
ってくるから、感謝をしていると。親会社の責任を言うのは、当然、契約書にあらうと
なかろうと責任はあるんじゃないかということと言われました。しかし、最終的には、
そっじゃ、私も納得できません。それは、親会社が責任もちますよと契約書に書いてあ
れば、よかけど、契約書に全然、親会社の名前も出てこんしですね。そのときも、私
は、確か市営住宅の件で、「保証人のおんなはらんなら、市営住宅貸すかいた。」って一
般質問しました。そしたら、担当者の方は、「保証人がおらんなら、絶対貸さんですば
い。」と、そういう状況なんですね。市の行政のやり方として、私もなかなか納得いか
んもんですから。例えば、極端な場合は、市が公共工事を発注するでしょう。入札で落
札する。落札した業者さんが工事請負契約結ぶわけです。このときは、請負金額の1割
を積まんとだめです。そやんでしょう。昔もそうだったけん、今もそがんそうですね。
それか、信用保証協会ですかね、そこが保証。ところが、玉名市はそぎゃんと昔はなか
ったですもんね。今はあるけどですね。だから、極端に言うと、1億円の契約をしたと

きは、1,000万円、それで契約と。これは、契約保証金なんです。この契約保証金、これはどうしてそういうぐあいに、恐らく昔からなっとなっと思ひますが、どういふ意味でそういうのがあつてゐるか、ちよつとお尋ねをしたいと思ひます。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

〔企画経営部長 水本明子さん 登壇〕

○企画経営部長（水本明子さん） 江田議員の大正開漁港跡地の太陽光発電事業誘致に関する御質問にお答えいたします。

〔江田計司君 「そうじゃなくて、契約保証金でしょう。それは、まだいいです。」と呼ぶ〕

○企画経営部長（水本明子さん） はい、失礼いたしました。

それでは、まず契約保証金の件についてお答えいたします。

契約保証金につきましては、玉名市財務規則におきまして、「市と契約を締結する者をして契約金額の100分の10以上の契約保証金を納めさせなければならない。」と定めております。ただし、「契約の相手方が保険会社との間に市を被保険者とする履行保証保険契約を締結したとき。」や「契約の相手方が過去2か年の間に国又は地方公共団体と種類及び規模をほぼ同じくする契約を数回以上にわたつて締結し、これらを全て誠実に履行し、かつ、契約を履行しないこととなるおそれがないと認められるとき。」、また、今回の大正開漁港跡地の件のように、「普通財産を貸し付ける契約を締結するとき。」などにつきましては、「契約保証金の全部又は一部を納付させないことができる。」とも定めております。

この契約保証金の法律的性質につきましては、民法第420条の規定による「賠償額の予定」に当たるものとされておりますが、賠償額の予定の制度は、相手方が契約上の義務を履行しないことにより損害を被つた場合、この損害賠償の請求について、損害の発生及び損害額についての立証を省略して、あらかじめ定めて納付した一定額の保証金を契約上の義務の不履行という事実に基づいて、当然納付を受けたものに帰属させるものでございます。これによって、両当事者間の損害賠償に係る債権、債務を消滅させることとしている制度でございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 本日の会議時間は、議事の都合により、あらかじめ延長いたします。

江田計司君。

○15番（江田計司君） それだけ、なかなか役所というのは厳しかつですよ。例えば、私が印鑑証明とかなんとかを取りに行くわけですね。私とわかつとつても、免許証を見せなんとですよ。それだけ厳しかつですね。ただ、前のときは、市長は、親会社が

しっかりしとるけん、そつでよかるかと言いなはるばつてん、20年先はわからんとですよ。だから、私は、何回も何で言いよったかという、結局、その会社がだれかが買うて、売電料を差し押さえかなんかしたりなんかして、その会社、倒産したりなんかするわけですよ。そつと、後片付けば、だれがするかですよ。ですから、私は、何回も何回も東京に行って、その保証人をお願いします。実際的には、やっぱり不動産関係なんかそう聞いてみると、やっぱり今当時、後片付けは今でも1,500万円ぐらいかかる。ですから、今でそがんだけん、20年先になると、やっぱりその倍ぐらいなるかもしれんですよ。というのはなぜかというと、一斉に全国この太陽光発電ばしよつとですよ。それが一斉に切るつとですよ。そつと、そういうのは、余ったりなんかしよんなかごつなつて、産業廃棄物でもう大変なんですよ。ですから、そのためには、私は、その保証人ということもお願いしましたが、結局、それは行政から要請があつたら保証人になつてもいいよというような言葉が、先方から聞き出したもんだから、それで一般質問しました。

その後は、どがんなつとつとですかね。

○議長（中尾嘉男君） 企画経営部長 水本明子さん。

○企画経営部長（水本明子さん） 江田議員の再質問にお答えいたします。

保証人の件についてでございますが、相手方の親会社はその意向がある旨、昨年の6月議会、9月議会と、江田議員からの発言がございまして、当方といたしましても十分承知をしているところでございますが、本市の決まり事として、貸し付けの場合は必ずしも保証人が必要ではないという規定でありますため、この契約に限らず、土地の貸し付け契約には保証を条件にしてはおりませんし、この契約についても当初から同様でございますので、現時点におきましても、まだ保証をいただいていない状況でございます。

昨年の9月議会での御質問に対しまして、担当課である管財課のほうから親会社に対し、この件について伝えている旨は答弁をしておりますが、保証の方法によって効果も違いますし、それに対する相手方の意向もでございますので、まだ検討中といった段階であると答弁をいたしておりました。具体的には、書面での保証だけで良いのか、金銭面等を含むものとしたほうが良いのか、それぞれに効果が違ってまいります。ただ、契約の前段階であれば可能であつたものも、約4年近くが経過いたしました現在の段階では難しいということもございますので、結論が出ないという状態が続いているところでございます。しかしながら、このままの状態がこれからも続いていくということは、決して好ましいとは言えませんので、相手方、親会社の意向も確認し、書面による保証について前向きに進めてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 江田計司君。

○15番（江田計司君） そういう状況ですね。だから、6月議会でそういう親会社と話をして、そういうぐあいになりました。全然進まなかったつですよ。ですから、9月議会で私が言うたのは、親会社がどうのこうのよりも、極端に言うと、売電料ですか、この売電料は1年間に3,000万円ぐらいあるわけですよ。それで、その契約、どうなるかわからんですよ。それを1年間ば担保、銀行は金貸したなら担保取ったりなんかするけんですね、保証人。それを1年間ば担保して、片付けてしもうたならば、そればという提案をしたのが、9月議会なんですよ。ですから、まだそれから進んだらんということは、こらあれで、だから、私もくどいようだけでも、何回も一般質問してるわけですね。

それで、市長もなられたばかりであれでしょうけども、一番今までずっと一部始終を聞いておられたのは村上副市長なんですね。なかなか同じ立場だから言いづらいでしょうけども、少しはしゃべってください。

○議長（中尾嘉男君） 副市長 村上隆之君。

〔副市長 村上隆之君 登壇〕

○副市長（村上隆之君） 江田議員からの御指名でございますので、いきさつ等については、ずっと拝聴しておりまして、思う点もございました。今、最後に部長が答弁いたしましたけれども、私のほうと市長もいろいろ担当部署ともお話をして、親会社さんがそういうことで書面による保証について保証できるということであれば、すぐ前向きに検討して進めていただきたいというふうなことで担当課には伝えたところでございます。以上です。

○議長（中尾嘉男君） 江田計司君。

○15番（江田計司君） 市長は、どんなふうでしょうか。

○議長（中尾嘉男君） 市長 藏原隆浩君。

〔市長 藏原隆浩君 登壇〕

○市長（藏原隆浩君） 済みません、簡潔に申し上げますけれども、やはり議員おっしゃられるとおり、後々の保全面を考えれば、やはり保証をいただくというのが当然のことではないかというふうに考えますので、副市長も申し上げたとおりでありますけれども、そういうふうに今担当課には指示を出しております。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 江田計司君。

○15番（江田計司君） なかなか言いづらいところがありますね。

私もずっとこの件を考えて、たまたま最初の「よかボス宣言」だったですか、これを市長に聞いたところ、結局、リーダーシップなんですね。ですから、ただ、こら私の一

人の考えと、独り言で聞いていただきたいと思うんですね。いろいろ話をしとったら、「そら、親会社もな、20年先はどがんなるか、保証ばしとったっちゃわからんばいた。」という声も聞こえました。これば、恐らく親会社の人が聞けば、またはらかきはるばってんですね。だから、こういうことはできんだろうと思いますけども、この親会社は投資会社なんです。そすと、5年ぐらいたってですよ、例えばある程度の利益がポンってあるなら、その会社ば行政で下取りばすんならどがんだろうかなと、こら、ただ、私が一人で思うとった。それは、不可能だろうと思いますけどですね。だけん、極端に言うと、5,000万円ばっか儲けばやってですよ、そすと、玉名市は五十何億円ぐらい基金のあつとですね。その前に、高寄市長が一遍言われたとが、「公共工事でその工事ばすつとたこうつくけんが、民間でそがんしよつとばいた。」というような言い方をさしたですね。だから、恐らく最初の計画書では、3億5,000万円で書いてあつたです。これは、3億5,000万円は1メガのときの総工費ですよ。ところが、これが八百何十キロワットですから、ですから、恐らく3億円かかつとらんとですよ。そすと、1年間に3,000万円。そすと、別に市は基金があつとですけん。そら、利子も何もいらんでしょうが。そすと、毎年3,000万円です。幾らもらったっちゃ、3,000万円の20年となると5年先、15年ぐらいたつと幾ら残るか。そら、地域の人に相当還元される。ただ、こら私が一人思うただけであつて、そういうことが不可能ばってん、不可能を可能にすつとも、この「よかボス宣言」で市長が、ということで、一人私は焼酎を飲みながら考えました。やっぱり20年後、地元の人が安心して、大丈夫ということのためにも、万全な考えをしていただくことをお願いいたします。私の一般質問を終わります。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、江田計司君の質問は終わりました。

これをもちまして、一般質問は、全部終了いたしました。

日程第2 議案及び請願の委員会付託

○議長（中尾嘉男君） 日程第2、「議案及び請願の委員会付託」を行ないます。

議第54号専決処分事項の承認について、専決第2号、工事施行協定の締結についてから議第90号人権擁護委員候補者の推薦についてまでの市長提出議案37件、請第1号築山小学校の施設整備を求める請願の請願1件、以上の事件を一括議題といたします。

まず先に、ただいま議題となっております事件のうち、議第70号農業委員会委員の任命についてから、議第90号人権擁護委員候補者の推薦についてまでの人事案件21件の委員会付託を省略することについてお諮りいたします。

議第70号から議第90号までの人事案件21件については、議事の都合により、会

議規則第37条第3項の規定に基づき、委員会付託を省略したいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。

よって、議第70号から議第90号までの人事案件21件については、委員会付託を省略することに決定いたしました。

議第70号から議第90号までの人事案件21件の委員会付託を省略いたします。

議第70号から議第90号までの人事案件21件については、26日の閉会日にその審議を譲り、会議にて直接審議することにいたします。

それでは、ただいま委員会付託を省略いたしました議案を除き、議題となっております事件につきましては、お手元に配付しております議案及び請願付託表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

議案及び請願付託表

総務委員会

- 議第55号 専決処分事項の承認について 専決第3号
平成29年度玉名市一般会計補正予算（第11号）
（総則・第1表歳入歳出予算補正 歳入の部・第1表歳入歳出予算補正 歳出の部、②総務費）
- 議第56号 専決処分事項の承認について 専決第4号
玉名市税条例等の一部を改正する条例の制定について
- 議第57号 専決処分事項の承認について 専決第5号
玉名市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について
- 議第59号 平成30年度玉名市一般会計補正予算（第1号）
（総則・第1表歳入歳出予算補正 歳入の部・第1表歳入歳出予算補正 歳出の部、①議会費、②総務費、③民生費1項社会福祉費中8目人権推進費9目男女共生推進費、④衛生費〔1項保健衛生費を除く〕、⑤消防費・第3表地方債補正 変更）
- 議第69号 工事請負契約の締結について

建設経済委員会

- 議第54号 専決処分事項の承認について 専決第2号
工事施行協定の締結について
- 議第59号 平成30年度玉名市一般会計補正予算（第1号）

(第1表歳入歳出予算補正 歳出の部、④衛生費1項保健衛生費中9目浄化槽設置整備費、⑥農林水産業費、⑦商工費、⑧土木費・第2表債務負担行為補正 変更)

議第62号 平成30年度玉名市浄化槽整備事業特別会計補正予算(第1号)

議第63号 平成30年度玉名市九州新幹線漏水等被害対策事業特別会計補正予算(第1号)

議第64号 平成30年度玉名市水道事業会計補正予算(第1号)

議第65号 平成30年度玉名市公共下水道事業会計補正予算(第1号)

議第66号 玉名市新玉名駅自動車駐車場条例の制定について

文教厚生委員会

議第55号 専決処分事項の承認について 専決第3号

平成29年度玉名市一般会計補正予算(第11号)
(第1表歳入歳出予算補正 歳出の部、⑩教育費)

議第58号 専決処分事項の承認について 専決第6号

玉名市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

議第59号 平成30年度玉名市一般会計補正予算(第1号)

(第1表歳入歳出予算補正 歳出の部、③民生費〔1項社会福祉費中8目人権推進費9目男女共生推進費を除く〕、④衛生費1項保健衛生費中1目保健衛生総務費、⑩教育費)

議第60号 平成30年度玉名市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)

議第61号 平成30年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)

議第67号 玉名市立小学校臨時教員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議第68号 玉名市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について

請第1号 築山小学校の施設整備を求める請願

○議長(中尾嘉男君) 各常任委員会におかれましては、会期日程に従い、審査をお願いいたします。

以上で、本日の日程は、終了いたしました。

この際、お諮りいたします。委員会審査のため、明15日から25日までの11日間、休会いたしたいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。

よって、明 15 日から 25 日までの 11 日間、休会することに決定いたしました。

26 日は、定刻より会議を開き、各委員長の報告を求めることにいたします。

本日は、これにて散会いたします。

午後 4 時 50 分 散会

第 5 号

6 月 2 6 日 (火)

平成30年第3回玉名市議会定例会会議録（第5号）

議事日程（第5号）

平成30年6月26日（火曜日）午前10時00分開議

開 議 宣 告

日程第1 全国市議会議長会表彰状の伝達

日程第2 委員会の中間報告

1 公共施設等建設特別委員長報告

日程第3 委員長報告

1 総務委員長報告

2 建設経済委員長報告

3 文教厚生委員長報告

日程第4 質疑・議員間討議・討論・採決

（議第54号から議第69号まで、請第1号）

議第54号 専決処分事項の承認について 専決第2号

工事施行協定の締結について

議第55号 専決処分事項の承認について 専決第3号

平成29年度玉名市一般会計補正予算（第11号）

議第56号 専決処分事項の承認について 専決第4号

玉名市税条例等の一部を改正する条例の制定について

議第57号 専決処分事項の承認について 専決第5号

玉名市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について

議第58号 専決処分事項の承認について 専決第6号

玉名市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

議第59号 平成30年度玉名市一般会計補正予算（第1号）

議第60号 平成30年度玉名市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）

議第61号 平成30年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）

議第62号 平成30年度玉名市浄化槽整備事業特別会計補正予算（第1号）

議第63号 平成30年度玉名市九州新幹線漏水等被害対策事業特別会計補正予算（第1号）

議第64号 平成30年度玉名市水道事業会計補正予算（第1号）

議第65号 平成30年度玉名市公共下水道事業会計補正予算（第1号）

議第66号 玉名市新玉名駅自動車駐車場条例の制定について

議第67号 玉名市立小学校臨時教員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議第 6 8 号 玉名市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部
を改正する条例の制定について

議第 6 9 号 工事請負契約の締結について

請第 1 号 築山小学校の施設整備を求める請願

日程第 5 閉会中の継続審査の件

日程第 6 市長提出議案審議（質疑・議員間討議・討論・採決）
（議第 7 0 号から議第 9 0 号まで）

議第 7 0 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 1 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 2 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 3 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 4 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 5 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 6 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 7 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 8 号 農業委員会委員の任命について

議第 7 9 号 農業委員会委員の任命について

議第 8 0 号 農業委員会委員の任命について

議第 8 1 号 農業委員会委員の任命について

議第 8 2 号 農業委員会委員の任命について

議第 8 3 号 農業委員会委員の任命について

議第 8 4 号 農業委員会委員の任命について

議第 8 5 号 農業委員会委員の任命について

議第 8 6 号 農業委員会委員の任命について

議第 8 7 号 農業委員会委員の任命について

議第 8 8 号 農業委員会委員の任命について

議第 8 9 号 人権擁護委員候補者の推薦について

議第 9 0 号 人権擁護委員候補者の推薦について

日程第 7 議員派遣の件

閉 会 宣 告

本日の会議に付した事件

開 議 宣 告

日程第 1 全国市議会議長会表彰状の伝達

日程第2 委員会の中間報告

1 公共施設等建設特別委員長報告

日程第3 委員長報告

1 総務委員長報告

2 建設経済委員長報告

3 文教厚生委員長報告

日程第4 質疑・議員間討議・討論・採決

(議第54号から議第69号まで、請第1号)

議第54号 専決処分事項の承認について 専決第2号
工事施行協定の締結について

議第55号 専決処分事項の承認について 専決第3号
平成29年度玉名市一般会計補正予算(第11号)

議第56号 専決処分事項の承認について 専決第4号
玉名市税条例等の一部を改正する条例の制定について

議第57号 専決処分事項の承認について 専決第5号
玉名市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について

議第58号 専決処分事項の承認について 専決第6号
玉名市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

議第59号 平成30年度玉名市一般会計補正予算(第1号)

議第60号 平成30年度玉名市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)

議第61号 平成30年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)

議第62号 平成30年度玉名市浄化槽整備事業特別会計補正予算(第1号)

議第63号 平成30年度玉名市九州新幹線漏水等被害対策事業特別会計補正予算(第1号)

議第64号 平成30年度玉名市水道事業会計補正予算(第1号)

議第65号 平成30年度玉名市公共下水道事業会計補正予算(第1号)

議第66号 玉名市新玉名駅自動車駐車場条例の制定について

議第67号 玉名市立小学校臨時教員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議第68号 玉名市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議第69号 工事請負契約の締結について

請第1号 築山小学校の施設整備を求める請願

日程第5 閉会中の継続審査の件

日程第6 市長提出議案審議（質疑・議員間討議・討論・採決）

（議第70号から議第90号まで）

議第70号 農業委員会委員の任命について

議第71号 農業委員会委員の任命について

議第72号 農業委員会委員の任命について

議第73号 農業委員会委員の任命について

議第74号 農業委員会委員の任命について

議第75号 農業委員会委員の任命について

議第76号 農業委員会委員の任命について

議第77号 農業委員会委員の任命について

議第78号 農業委員会委員の任命について

議第79号 農業委員会委員の任命について

議第80号 農業委員会委員の任命について

議第81号 農業委員会委員の任命について

議第82号 農業委員会委員の任命について

議第83号 農業委員会委員の任命について

議第84号 農業委員会委員の任命について

議第85号 農業委員会委員の任命について

議第86号 農業委員会委員の任命について

議第87号 農業委員会委員の任命について

議第88号 農業委員会委員の任命について

議第89号 人権擁護委員候補者の推薦について

議第90号 人権擁護委員候補者の推薦について

日程第7 議員派遣の件

日程第8 意見書案上程

（意見書案第1号）

意見書案第1号 旧優生保護法による不妊手術の被害者救済を求める意見書の提出について

日程第9 提案理由の説明

日程第10 意見書案審議（質疑・議員間討議・討論・採決）

（意見書案第1号）

意見書案第1号 旧優生保護法による不妊手術の被害者救済を求める意見書の提出について

日程第11 議員提出議案上程

(議員提出第1号)

議員提出第1号 金栗四三地域創造戦略特別委員会の設置について

日程第12 提案理由の説明

日程第13 議員提出議案審議(質疑・議員間討議・討論・採決)

(議員提出第1号)

議員提出第1号 金栗四三地域創造戦略特別委員会の設置について

日程第14 金栗四三地域創造戦略特別委員会委員の選任

(休憩中 委員会)

日程第15 金栗四三地域創造戦略特別委員会正副委員長互選結果報告

日程第16 市長提出追加議案上程

(議第91号及び議第92号)

議第91号 平成30年度玉名市一般会計補正予算(第2号)

議第92号 玉名市長等の給与の特例に関する条例の制定について

日程第17 提案理由の説明

日程第18 報告(1件)

報告第9号 有限会社横島町特産物振興協会の経営状況を説明する書類について

日程第19 議案の委員会付託

(休憩中 委員会)

日程第20 委員長報告

1 総務委員長報告

日程第21 質疑・議員間討議・討論・採決

(議第91号及び議第92号)

議第91号 平成30年度玉名市一般会計補正予算(第2号)

議第92号 玉名市長等の給与の特例に関する条例の制定について

日程第22 公共施設等建設特別委員会副委員長互選結果報告

閉 会 宣 告

+++++

出席議員(21名)

1番	坂 本 公 司 君	2番	吉 田 真樹子 さん
3番	吉 田 憲 司 君	4番	一 瀬 重 隆 君
5番	赤 松 英 康 君	6番	古 奥 俊 男 君
7番	北 本 将 幸 君	8番	多田隈 啓 二 君
9番	松 本 憲 二 君	10番	徳 村 登志郎 君
11番	城 戸 淳 君	12番	西 川 裕 文 君

13番 嶋村 徹 君
15番 江田 計 司 君
18番 前田 正 治 君
20番 森川 和 博 君
22番 田畑 久 吉 君

14番 内田 靖 信 君
16番 近松 恵美子 さん
19番 作本 幸 男 君
21番 中尾 嘉 男 君

+++++

欠席議員（1名）

17番 福島 讓 治 君

+++++

事務局職員出席者

事務局 長	堀内 政 信 君	事務局 次長	荒木 勇 君
次長 補佐	松野 和 博 君	書 記	小山 さおり さん
書 記	松尾 和 俊 君	書 記	古閑 俊 彦 君

+++++

説明のため出席した者

市 長	藏原 隆 浩 君	副 市 長	村上 隆 之 君
総 務 部 長	西山 俊 信 君	企画経営部長	水本 明 子 さん
市民生活部長	村崎 信 介 君	健康福祉部長	松野 信 生 君
産業経済部長	松本 忠 光 君	建 設 部 長	前田 慎一郎 君
企 業 局 長	松本 優 一 君	教 育 長	池田 誠 一 君
教 育 部 長	戸 寄 孝 司 君	監 査 委 員	元田 充 洋 君
会 計 管 理 者	竹村 昌 記 君		

午前10時01分 開議

○議長（中尾嘉男君） おはようございます。

ただいまから、本日の会議を開きます。

日程第1 全国市議会議長会表彰状の伝達

○議長（中尾嘉男君） 日程第1、「全国市議会議長会表彰状の伝達」を行ないます。

去る5月30日、東京都の東京国際フォーラムで開催されました全国市議会議長会第94回定期総会におきまして、自治功労者として、本市議会の2名の諸君が表彰状を贈呈されました。表彰状を贈呈されましたのは、議員20年以上の永年勤続特別表彰として前田正治君、議員15年以上の永年勤続表彰として森川和博君、以上の諸君であります。ここに、その栄誉を讃え、心からお喜び申し上げますとともに、長年の御苦勞に対し、深く敬意を表する次第であります。

なお、議員15年以上の永年勤続表彰につきましては、昨年11月12日をもって退職されました永野忠弘君、宮田知美君、横手良弘君も表彰状が贈呈されましたので、ここに御報告いたします。

また、去る4月26日、佐賀市のホテルニューオータニ佐賀で開催されました第93回九州市議会議長会定期総会におきまして、九州市議会議長会理事として会務運営の重責に当たられ、その使命達成に尽くされた功績に対し、同じく退職されました前議長の永野忠弘君に感謝状が贈呈されましたので、あわせて御報告いたします。

それでは、これより全国市議会議長会表彰状を伝達いたします。被表彰の2名の諸君は、演壇の前へお出で願います。

[18番 前田正治君、20番 森川和博君 演壇の前へ]

○議長（中尾嘉男君） 表彰状。玉名市、前田正治殿。あなたは、玉名市議会議員として20年の長きにわたって玉名市政の発展に尽くされ、その功績は特に著しいものがありますので、第94回定期総会に当たり、本会表彰規程によって特別表彰をいたします。平成30年5月30日。全国市議会議長会、会長、山田一仁。

おめでとうございます。

[表彰状の伝達]

[拍手]

○議長（中尾嘉男君） 表彰状。玉名市、森川和博殿。あなたは、玉名市議会議員として15年玉名市政の振興に努められ、その功績は著しいものがありますので、第94回定期総会に当たり、本会表彰規程により表彰いたします。平成30年5月30日。全国市議会議長会、会長、山田一仁。

おめでとうございます。

[表彰状の伝達]

[拍手]

○議長（中尾嘉男君） ただいま表彰状を受領されました2名の諸君におかれましては、ますます御自愛の上、市政の発展と市民の福祉増進のため、なお一層の御活躍を賜りますようお願い申し上げます。

以上で、全国市議会議長会表彰状の伝達を終わります。

日程第2 委員会の中間報告

○議長（中尾嘉男君） 日程第2、「委員会の中間報告」を行ないます。

公共施設等建設特別委員会に付託中の調査事項については、会議規則第45条第2項の規定により、同委員会より中間報告を行ないたいとの申し出があります。

あわせて、申し上げます。特別委員会の中間報告につきましては、定例会閉会日において付議事件の審議が終了した後に行なうことを通例としておりますが、今期定例会における同委員会の調査の経過と状況の報告は、一部、本日の審議において、議員の意思決定に大きな影響を与えるものと懸念されます。また、付議事件の審議が終了した後の報告では、時期を逸するおそれがあります。よって、この際、本日のすべての審議に先立って、同委員会の中間報告の申し出を許し、委員長の報告を求めることにいたします。

公共施設等建設特別委員長 田畑久吉君。

[公共施設等建設特別委員長 田畑久吉君 登壇]

○公共施設等建設特別委員長（田畑久吉君） 公共施設等建設特別委員会の中間報告をいたします。

去る5月29日に開催いたしました公共施設等建設特別委員会における調査の経過と結果について報告いたします。

本委員会に付託してあります公共施設適正配置計画、市民会館建設、サッカー場建設、旧庁舎跡地利活用に関することの4項目について、今年度に入ってから経過と進捗状況について、調査事項ごとに報告を受けた後、質疑と審査を行ないました。

初めに、公共施設適正配置計画に関するもののうち、天水支所周辺施設集約化事業について、執行部から、天水支所、天水町公民館、天水図書館、社会福祉協議会天水支所、包括支援センター天水支所の5つの機能を有している。総称を「玉名市天水市民センター」と称し、7月2日より業務を開始する予定とのことでございます。延べ床面積は約2,400平方メートルで、防災の拠点施設にも位置づけられている。地域の方々に親しまれる市民センターになるよう努めたいとの説明がありました。

質疑に入り、委員から、現在の天水町公民館の稼働率及び使用料金はどのように設定したのかとの質疑に対し、執行部から、現状の稼働率は20%ほどである。また、料金はほかの公民館との均衡を図り設定した。今後は、稼働率を上げていくよう努めていきたいとの答弁がありました。

次に、執行部から、岱明町公民館建設について、現公民館の施設概要の説明、岱明ふれあい健康センター併設計画から現地建てかえ計画に変更になったため、所管課をコミュニティ推進課に移行する。基本的な考え方として、地域住民や利用者等との意見交換を行ない、機能面を重視した効率的で効果的な管理運営を行なっていくとのこととございます。また、調理室については、岱明ふれあい健康センターを活用するものとし、設置しない方針であるとのこととありました。本年度になり、4月に利用者団体及び5月に支館長との意見交換を行なった際は、おおむね現地建てかえ計画に賛成の意見が多かった。来年度までに実施計画を行なうためには、本年9月議会での補正予算計上を考えている。建設工事を平成32年度までとし、平成33年度の供用開始を目指しているとの説明がありました。

委員から、岱明町公民館の出入り口付近の安全対策はできているのかとの質疑に対し、執行部から、出入り口の位置を検討してほしいとの意見も伺っている。交通量が多いため、その点については十分考慮していくとの説明がありました。委員から、財源はどのように考えているのかとの質疑に対し、執行部から、市民会館の進捗次第ではあるが、合併特例債を念頭に考えているとの説明があっております。

次に、市民会館建設に関することについて、執行部より、建設工事発注等に関して、業者の選定方法、入札スケジュール及び結果について、条件つき一般競争入札の結果、福岡市の東急建設株式会社九州支店が税込み36億8,604万円で落札し、仮契約を結んでいる段階であるとの説明があっております。

委員から、監理業務費は今回の金額とは別なのかとの質疑に対して、執行部から、別であり、2カ年で3,980万円を委託料として支出予定であるとの答弁がありました。委員から、入札は1社応札でも可能なのかとの質疑に対して、執行部から、一般競争入札なので、入札参加機会と競争性は確保されており、1社入札でも有効であるとの認識をしているとの説明があっております。

次に、サッカー場建設に関することについて、執行部から、陸上400メートルトラックの整備の必要性を検討し、あわせてサッカーやラグビー等のフィールド整備について検討することになるので、今後、多目的競技場整備として検討を進めていく。これまでの検討で踏襲できること、新たに検討すべきことなど、さまざまな角度からの課題の整理、規模・候補地を含めた再検討が必要なため、いましばらく期間を要するとの説明がありました。

委員から、建設の候補地は具体的にあるかとの質疑に対し、執行部から、場所、規模等については改めて再検討しなければならないとの答弁でありました。

次に、旧庁舎跡地利活用に関することについて、執行部から、文化センターも含め、民間活力を導入した検討も進めなければならない。「いだてん」ドラマ館で活用している間に活用計画をまとめていきたいとの説明があっております。

委員から、旧庁舎跡地やマルショク跡地等の利活用を迅速に進めてほしいとの質疑に対して、執行部から、まだ白紙状態なので、柔軟にあらゆる方向で検討していくとの答弁がありました。委員から、旧庁舎跡地の東側道路拡幅も含めて検討するのかとの質疑に対して、執行部から、東側の道路の拡幅は現時点では検討の中に入っていないとの答弁がありました。

そのようなことで、本委員会を閉会しました。

以上で、公共施設等建設特別委員会の中間報告を終わります。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、公共施設等建設特別委員長の報告は終わりました。

日程第３ 委員長報告

○議長（中尾嘉男君） 日程第３、「委員長報告」を行ないます。

これより各委員会に付託し、審査を終了いたしました事件の結果と経緯について、各委員長の報告を求めます。

議第５４号専決処分事項の承認について、専決第２号工事施行協定の締結についてから、議第６９号工事請負契約の締結についてまでの市長提出議案１６件、請第１号築山小学校の施設整備を求める請願の請願１件、以上の事件を一括議題といたします。

お手元に配付しております委員会審査報告書の朗読は、これを省略いたします。

審議の方法は、各委員長の報告のあと、質疑、議員間討議、討論の後、採決いたします。

あわせて、継続審査の申し出があります陳第１号玉陵小学校及び玉陵中学校の駐車場の見直しを求める陳情の陳情１件について、中間報告を行ないたいとの申し出がありますので、この際これを許します。

各委員長の報告を求めます。

総務委員長 内田靖信君。

〔総務委員長 内田靖信君 登壇〕

○総務委員長（内田靖信君） おはようございます。

今期、総務委員会に付託をされました案件は、議案５件であります。委員会における審査の経過と結果について報告をいたします。

まず、議第５５号専決処分事項の承認について、専決第３号平成２９年度玉名市一般

会計補正予算（第１１号）中付託分についてでございます。

歳入歳出それぞれ５億９,８０７万９,０００円を追加し、総額を３６５億３５１万円とするものでございます。歳入の主なものは、１款市税が２億６,６９０万円の追加で、市税の決算見込み及び地方消費税交付金等の各種交付金の決定などによる補正でございます。１９款繰越金は１億７,２５４万７,０００円の追加でございます。歳出においては、２款総務費の市有施設整備基金で５億９,７８９万９,０００円の追加は、今回の補正の剰余金を公共施設の老朽化対策の財源として積み立てを行なうものでございます。

まず、委員から、地方消費税交付金の動向はとの質疑があり、執行部から、平成２７年度１２億５,０００万円、平成２８年度１１億１,０００万円、平成２９年度１１億６,０００万円で横ばいの状況。配分基準は、消費税８％の内訳が、国税６．３％、県税１．７％であり、県税１．７％のうち２分の１が人口や従業者数により市町村に交付されとの答弁でございました。次に、委員から、法人市民税が増額になっている要因はとの質疑があり、執行部から、市内の大手製造業の申告額がふえたためとの答弁でございました。次に、委員から、普通交付税と特別交付税の確定額及び前年との比較はとの質疑があり、執行部から、特別交付税が９億５,０００万円、普通交付税が８７億６,０００万円、前年度の普通交付税が９２億３,０００万円のため、４億７,０００万円の減となっているとの答弁でございました。

以上、審査を終了し、採決の結果、議第５５号中付託分については、原案のとおり全員異議なく承認すべきものと決しました。

次に、議第５６号専決処分事項の承認について、専決第４号玉名市税条例等の一部を改正する条例の制定についてであります。

これは、地方税法等の一部を改正する法律の公布に伴い、平成３０年度税制改正による地方税法等の改正法へ対応する所要の改正で、個人住民税、固定資産税、市たばこ税に係る改正を行なうものでございます。

まず、委員から、中小企業の一定の設備投資に係る固定資産税の特例措置の期限後の課税についてはとの質疑があり、執行部から、３年間の特例措置のため、４年目以降は当時の取得価額をベースにした標準額で課税されとの答弁でございました。次に、委員から、生産性向上特別措置法の規定による市が主体的に作成した計画の進捗はとの質疑があり、執行部から、現在、国と協議中であり、８月中には認定結果が来る予定との答弁でございました。次に、委員から、新規の設備投資が対象となるものかとの質疑があり、執行部から、生産、販売、活動等の用に直接供されるものであること、中古資産でないこと等が要件となるとの答弁でございました。さらに、委員から、公的年金等控除から基礎控除へ１０万円の振りかえを行なうことで税負担は増加しないが、所得金額

が増加することで国保などの社会保障制度等に影響してくるのではとの質疑があり、執行部から、国の各所管において適切な措置を講じなければならないと税制改正大綱の中に盛り込まれているとの答弁でございました。

以上、審査を終了し、議第５６号については、異議があり、挙手による採決の結果、賛成多数で承認すべきものと決しました。

次に、議第５７号専決処分事項の承認について、専決第５号玉名市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定についてであります。これは、地方税法等の一部を改正する法律の公布に伴うもので、法改正に伴う項ずれに対応する改正、その他所要の改正を行なうものであります。

本件に関しては、特に質疑もなく審査を終了し、採決の結果、議第５７号については、原案のとおり全員異議なく承認すべきものと決しました。

次に、議第５９号平成３０年度玉名市一般会計補正予算（第１号）中付託分についてであります。

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ２億６,７７４万３,０００円を追加し、総額を３２４億３,３７４万３,０００円とするものであります。歳入の主なものは、１８款繰入金で補正の財源調整のため、財政調整基金繰入金を３億１,１１２万９,０００円追加するものであります。歳出の主な内容として、２款総務費が７,１７３万２,０００円の追加で、４月の定期異動に伴う職員給与等の調整、ふるさと寄附金をインターネットで受け付けるふるさと納税推進事業に係る経費等であります。

まず、委員から、玉名町小学校の解体が平成２９年度に前倒しされたが、全体のスケジュールに影響はあるのかとの質疑があり、執行部から、平成２９年度国の補正予算対応により３月補正に予算計上したが、予算を平成３０年度に繰り越しているため影響はなく、予定どおり進んでいるとの答弁でございました。次に、委員から、ふるさと寄附金の増額はとの質疑があり、執行部から、現在、株式会社さとふるに委託しているが、新たに１社委託業者を選定し、寄附金１,５００万円の増を見込んでいるとの答弁でした。次に、委員から、ふるさと寄附金の方向性はとの質疑があり、執行部から、シェアの広いポータルサイトを導入し、返礼品の品数もふやしていきたいとの答弁でございました。次に、委員から、ふるさと納税に係る本市への益金はとの質疑があり、執行部から、平成２９年度の寄附額２,９３３万円、経費１,４６１万円、税控除１,５３８万円であり、マイナス６６万円となったが、平成２８年度は１７２万円のプラスであったとの答弁でございました。次に、委員から、新たなふるさと納税サイトの考えはとの質疑があり、執行部から、市内に事業所があり、返礼品のＰＲもできて、出店者の募集ができる事業所を考えているが、あわせて品数をふやす働きかけも随時行なっていきたいとの答弁でございました。次に、委員から、フェイスブック費用はどういうシステムなの

かとの質疑があり、執行部から、投稿の予約ができるシステムであるとの答弁でございました。次に、委員から、自治基本条例推進委員会の報告状況はとの質疑があり、執行部から、市ホームページで公開しているが、年間スケジュールも決めていきたいとの答弁でございました。次に、委員から、攻めの園芸生産対策事業補助金の団体はとの質疑があり、執行部から、JAたまなが5組合、農業法人が3組合の計8組合であるとの答弁でした。次に、委員から、マイナンバーカードの市職員の作成状況はとの質疑があり、執行部から、全職員に作成してもらうようお願いをしているとの答弁でございました。次に、委員から、消防施設の防火水槽が民地に設置している事例があるのかとの質疑があり、執行部から、そういった事例は多数存在するとの答弁でございました。次に、委員から、有明広域消防本部への職員派遣の理由はとの質疑があり、執行部から、有明広域消防本部の建てかえに係る用地交渉のため、5月1日付の併任辞令が出ているとの答弁でございました。さらに、委員から、これに関連し、併任の基準はあるのかとの質疑があり、執行部から、有明広域消防と協定書を結んで対応しているとの答弁でございました。次に、委員から、災害時の職員の参集基準と市外の職員数の把握はとの質疑があり、執行部から、震度6弱が発生したら全職員が出動することとなっており、市外の職員が54名、玉名郡が27名の計81名であるとの答弁でございました。次に、委員から、自治振興公社の再任用の勤務実態はとの質疑があり、執行部から、フルタイムと短時間勤務があり、市の任用基準に準じているとの答弁でございました。次に、委員から、本市の災害危険箇所はどのくらい存在するのかとの質疑があり、執行部から、土砂災害指定の警戒区域が460カ所、熊本地震を契機に新たに100カ所の土砂災害危険箇所が発見されたとの答弁でありました。次に、委員から、先立っての法人市民税還付金の支払いのおくれに関するチェック体制の強化はとの質疑があり、執行部から、システムによる歳出簿との照合を複数人で行なう等の確認作業を徹底し、改善・防止策を強化していくとの答弁でした。また、健康増進法改正に伴う庁内喫煙についての質疑等がございました。

以上、審査を終了し、採決の結果、議第59号中付託分については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第69号工事請負契約の締結についてであります。

内容として、玉名市民会館の新築工事を行なうもので、契約方法は建築一式工事の建築業許可業者で、かつ、特定建設業許可を有する業者による条件付きの一般競争入札を実施し、入札の結果、東急建設株式会社九州支店が落札し、同社と仮契約を締結しており、議会の同意後に本契約を締結するものであります。

まず、委員から、事業費が約30億円から36億円にふえたが、財源の内訳はどうなっているのかとの質疑があり、執行部から、社会資本整備総合交付金の対象事業費の上

限が 21 億円となっているため、市の持ち出し分はふえることになるとの答弁でした。次に、委員から、市民会館建設に係る総額は幾らなのかとの質疑があり、執行部から、総額で約 38 億 8,000 万円になると想定しているとの答弁でございました。次に、委員から、条件つき一般競争入札だったが、公募の条件はとの質疑があり、執行部から、単体企業の場合、経営事項審査結果通知書の総合評定値 P 点が 1,600 点以上で、文化施設の建築工事を受注した実績があることを条件としたとの答弁でございました。次に、委員から、今回は一括発注しているが、分離発注の考えはなかったのかとの質疑があり、執行部から、経費面で高額になることが懸念されるため、一括発注方式を採用したが、解体工事や公園トイレの改修については地元企業を採用していきたいとの答弁でございました。次に、委員から、現市民会館解体後と跡地整備はどうなるのかとの質疑があり、執行部から、交付金の対象となっているため、舗装しない平らな駐車場兼広場を計画しているとの答弁でございました。次に、委員から、1 社入札の可否を市の方針として策定してはどうかとの質疑があり、執行部から、落札率の高騰など懸念される事項もあるが、今後の検討課題として捉えているとの答弁でした。また、現在の建設予定地には賛同しかねるとの意見もございました。

以上、審査を終了し、議第 69 号については、異議があり、挙手による採決の結果、賛成多数で可決すべきものと決しました。

以上で、総務委員会に付託されました案件の審査報告を終わります。

○議長（中尾嘉男君） 建設経済委員長 城戸 淳君。

〔建設経済委員長 城戸 淳君 登壇〕

○建設経済委員長（城戸 淳君） おはようございます。

今期、建設経済委員会に付託されております議案 7 件について、委員会の審査の結果と経過を御報告いたします。

まず、議第 54 号専決処分事項の承認について、専決第 2 号工事施行協定の締結についてであります。

執行部から、鹿児島本線大野下・玉名間 168 キロメートル 545 メートル付近、野口跨線橋新設工事に関する基本協定の締結を行なうものと説明がありました。

委員から、この工事は橋桁の工事かとの質疑に、執行部から、今年度の工事については軌道敷内にある電力設備の移設工事。来年度は橋桁をかける架設工事等で、全線開通は平成 32 年度の完成を目指しているとの答弁でした。

審査を終了し、採決の結果、議第 54 号については、原案のとおり全員異議なく承認すべきものと決しました。

次に、議第 59 号平成 30 年度玉名市一般会計補正予算（第 1 号）中付託分についてであります。

執行部から、歳出の部で主なものは、農業振興費の攻めの園芸生産対策事業補助金で1,158万1,000円の増額、市いだてん地域振興協議会負担金で2億4,282万5,000円で大河ドラマ館設置分であり、ほかに人事異動等による職員給与の調整などによる増減であるとの説明がありました。

委員から、大河ドラマ館の施設は旧庁舎跡地のみかとの質疑に、執行部から、旧庁舎跡地に予定しており、駐車場も同敷地に予定しているとの答弁でした。委員から、今回の大河ドラマ館設置に補助金等はあるのかとの質疑に、執行部から、予算には大河ドラマ館の入場料を予定し、入場者を30万人、1人当たりの単価を400円と想定しており、総額1億2,000万円。ほかに国・県補助金を見込んでいるとの答弁でした。委員から、建設においては計上された予算内でおさまることかとの質疑に、執行部から、総額4億5,000万円を総経費として計上しているが、今後新たに発生するものについては補正等をお願いしたいと考えているとの答弁でした。委員から、大河ドラマの構成はどうなっているのかとの質疑に、執行部から、大河ドラマは来年1月から1年間放送されるもので、内容については2人の主人公をリレーでつなぐようなものであり、前半が金栗四三氏、後半が田畑政治氏で、最後に2020年の東京オリンピックにつなぐ3部構成となっているとの答弁でした。委員から、予算の内容が簡潔にわかるように、また、位置図等をつけてもらいたいとの要望がありました。委員から、企業誘致についての現状はとの質疑に、執行部から、平成30年度の企業誘致促進費の予算は立地している誘致企業への奨励金が大半を占めており、状況は既に立地されている事業所と増設協定を結んだり、廃校の学校跡地を検討している企業に資料を提供したりと努力をしているとの答弁でした。委員から、南関町は企業誘致が進んでいたと思うが、その差は何と考えるかとの質疑に、執行部から、南関町は南部工業団地を持っていることが最大の要因だったと思われ、用地を所有していないことがデメリットであると思われるので、民間活力を生かして工業用地取得のためにインフラ整備など支援をするために準備をしているとの答弁でございました。また、委員から、しょうぶまつりや大河ドラマ館などに関して、経済効果はどのように見ているのかとの質疑に、執行部から、市外からの誘客を第一に考えているが、食事どころ等の弱さがあると認識している。また、県北広域連携で事業も行なっているが、宿泊については横ばいの状況で、宿泊客増加に向けて取り組んでいきたいとの答弁でした。大河ドラマ館については、たくさんの方に来てもらうため、昨年立ち上げた市いだてん地域振興協議会で食事どころや土産物や地域資源の磨き上げ、観光ルートの開発、おもてなしのためのガイドの育成にも取り組んでいきたい。また、大河ドラマ館のみならず、玉名に多くの来場者を呼ぶために、金栗四三氏のPRをすることで玉名市の認知度向上を図りながら、持続的に行なうことで継続的にお越しいただけるように全体的に取り組むことで効果をもたらせるように努力して

いきたいとの答弁でございました。また、委員から、「いだてん」を通して、玉名の知名度を上げて、市の観光に結びつけるということだが、とにかく玉名に来てもらい、玉名でお金を落としてもらうという経済活性化をしっかりと考えてほしいとの要望がありました。また、委員から、大河ドラマ館だけが主流なのか、西南の役や周辺の施設や歴史を生かしたらいかがとの提案でした。執行部から、市いだてん地域振興協議会にも西南の役を研究している団体にも参画してもらう予定なので、つなげて取り組んでいきたいとの答弁でした。また、委員から、金栗四三PR推進室が場所の狭さと、来訪者が2階にあるので不便を感じたり、盛り上がりには欠けるような市民の声もあるので、1階に推進室を置いたらどうかという質疑に、執行部から、部内の連携をとるためには現在の場所を最適と考えるが、最少人員を案内程度に配置するぐらいは可能と考えるとの答弁でございました。委員から、用地交渉もあると思うが、用地交渉は地主さんから分けてもらうので、必要性を説明しながら、丁寧に、また、一緒に協力しながらやっていきたいとの意見でございました。

審査を終了し、採決の結果、議第59号中付託分については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第62号平成30年度玉名市浄化槽整備事業特別会計補正予算（第1号）についてであります。

執行部から、歳入歳出予算の補正で、総額に214万5,000円を追加し、総額を4,397万2,000円とするもので、人事異動による調整分であるとの説明がありました。

特に質疑もなく審査を終了し、採決の結果、議第62号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第63号平成30年度玉名市九州新幹線湧水等被害対策事業特別会計補正予算（第1号）についてであります。

執行部から、歳入歳出予算の総額から73万9,000円を減額し、総額を5億2,482万2,000円とするもので、人事異動による調整分であるとの説明がありました。

特に質疑もなく審査を終了し、採決の結果、議第63号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第64号平成30年度玉名市水道事業会計補正予算（第1号）についてであります。

執行部から、収益的支出補正で、人事異動に伴う調整額であるとの説明がありました。

特に質疑もなく審査を終了し、採決の結果、議第64号については、原案のとおり全

員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第65号平成30年度玉名市公共下水道事業会計補正予算（第1号）についてであります。

執行部から、収益的支出補正で、人事異動に伴う調整額であるとの説明がありました。

特に質疑もなく審査を終了し、採決の結果、議第65号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第66号玉名市新玉名駅自動車駐車場条例の制定についてであります。

執行部から、新玉名駅の自動車駐車場を地方自治法に規定する公の施設として位置づけ、利用時間、利用料、その他管理に関し必要な事項を定めるとともに、指定管理者による管理について定めるものとの説明がありました。

委員から、利用台数は1日どのぐらいかとの質疑に、執行部から、既存の駐車場で平日は満車、西側は平日で6割程度、週末で8割程度の状態であるとの答弁でした。委員から、受益者負担で維持管理をどう賄うかとなると、今の利用台数で計算すると、例えば350万円を賄うとすると幾らぐらいの試算になるのかとの質疑に、執行部から、今回は利益を追求するものではなく、利用者が安心して利用できる形態を考えているもので、1日最大400円で、定期利用が4,000円と想定した場合、一般の利用者が6割の駐車場で300万円弱の試算となるとの答弁でした。委員から、有料化をすると、シルバー人材センターへの委託が不要となるのかとの質疑に、執行部から、樹木の剪定管理等々を含めて、約700万円の維持管理費の中の、駐車場の案内分が不要となると想定しているとの答弁でした。委員から、出入りのゲートは何カ所設置予定か、との質疑に、執行部から、3カ所になる。また、機械が1台当たり1,000万円から2,000万円で、3カ所で3,000万円から5,000万円で、4年から5年ほどで交換になるので、指定管理者にお願いするとなると新たなゲートの費用は不要となるので、管理体制・運営費など精査して、月額250万円から350万円の指定管理料となる見込みとの答弁でございました。委員から、利用者が多くて、指定管理者の利益が多くなった場合は料金の見直しはできるのかとの質疑に、執行部から、指定管理者の必要最低限の経費があり、必要経費は利益から引かれる。また、指定管理者が決まれば、5年間はそのままになるので、今のところは250万円から350万円は指定管理料とすると、少しの余剰は今後協議していくとの答弁でございました。委員から、連休中の状況はどの質疑に、執行部から、大型連休中の状況で、5月4日が満車状態の100%超えであるとの答弁でした。委員から、玉名は無料だから、どこからでも来ていたと思うが、有料になるとどうなるかわからないが、行政から1日300円と金額提示をして委託したほうがいいのかとの質疑に、執行部から、他市の状況を見て、玉名市の方針を決めてプ

ロポーザルを行ないたいとの答弁でした。委員から、駐車場の有料化も必要だが、ホームの無人化に加え駅自体の無人化も聞いたことがあるので、玉名自体、新幹線を利用して来客をふやすなどの全般的に考えて1日300円、定期利用で最大5,000円で、定住化も考慮して、業者に任せることなく考えて、ほしいとの要望でした。

次に、利用料金について、委員間討議に入りました。

まず、1日の利用料金は300円ぐらいが妥当であるとの意見や、基本的に西側駐車場整備で混雑は解消されているので、受益者負担で有料化するなら維持管理費を賄える設定で最低限400円と、定期利用で4,000円で、300万円程度の委託料で、一般財源から持ち出しがないようにすべきとの意見、周辺の状況も考慮すべきとの意見、一気に上げるより200円くらいにして利用者の減少を防ぐ意見など、出されました。

委員間討議の方向性として、1日最大300円が妥当であるとの意見で確認したとの結論でございました。

審査を終了し、採決の結果、議第66号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

その他の質問として、個人設置型浄化槽への補助や予算の過不足、水道事業の予算のあり方、下水道事業の処理場の負債について質問されました。

以上で、建設経済委員長の報告を終わります。

○議長（中尾嘉男君） 文教厚生委員長 徳村登志郎君。

〔文教厚生委員長 徳村登志郎君 登壇〕

○文教厚生委員長（徳村登志郎君） 今期、文教厚生委員会に付託されました議案7件、請願1件、継続審査としておりました陳情1件について、審査の経過と結果を報告いたします。

初めに、議第55号専決処分事項の承認について、専決第3号平成29年度玉名市一般会計補正予算（第11号）中付託分についてであります。

10款教育費で18万円の追加。これは、高校生への育英資金として寄附金を教育振興特別基金へ積み立てるものであります。

本件に関しては、特に質疑もなく審査を終了し、採決の結果、議第55号中付託分については、原案のとおり全員異議なく承認すべきものと決しました。

次に、議第58号専決処分事項の承認について、専決第6号玉名市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてであります。

これは、地方税法施行令の一部を改正する政令の公布に伴い、条例の整備を図るものであります。改正の内容は、課税限度額を現行の89万円から93万円に引き上げるとともに、国民健康保険税の減額の対象となる所得の基準額について、5割軽減対象世帯の軽減判定所得の算定において被保険者の数に乗すべき額を現行の27万円から27万

5,000円に、2割軽減対象世帯の軽減判定所得の算定において被保険者の数に乗ずべき額を現行の49万円から50万円にそれぞれ引き上げ、低所得者の負担軽減を図るものであります。

委員から、税の減収は考えられるかとの質疑があり、執行部から、限度額の改正により1,890万円の増収、軽減判定所得の引き上げにより160万円の減収、差し引きの1,730万円の増収を見込んでいるとの答弁でした。

以上、審査を終了し、採決の結果、議第58号については、原案のとおり全員異議なく承認すべきものと決しました。

議第59号平成30年度玉名市一般会計補正予算（第1号）中付託分についてであります。

3款民生費で6,183万2,000円の減額。主な内容は、定期異動及び組織機構の見直しに伴う熊本地震被災者支援課の廃止などに伴う職員給与等の調整、岱明ふれあい健康センタートレーニング室天井・照明・空調設備改修設計委託料の追加などによるものであります。4款衛生費は、2,625万8,000円の追加。主な内容は、定期異動等に伴う職員給与等の調整によるものであります。10款教育費は、5,155万8,000円の減額。主な内容は、定期異動等に伴う職員給与等の調整、玉陵小学校体育館建設による電波障害に伴う補償費の追加、玉名町小学校教室棟解体工事の前倒しに伴う減額、また、平成31年に開催される全国高等学校総合体育大会に向けて設立された玉名市実行委員会への負担金の追加などによるものであります。

まず、委員から、3款中社会福祉総務費の給料に関し、減額が大きい、異動者は何名かとの質疑があり、執行部から、3月末に熊本地震被災者支援課が係に縮小になったことによる職員の減であるとの答弁でした。次に、委員から、3款中保育所費の給料の減に関し、退職者が1名、保育士から事務職員への切りかえが1名とのことだが、保育士の数は足りているのかとの質疑があり、執行部から、入所児童からすればぎりぎり足りているが、余裕を持った保育との観点からすると十分ではないので、非常勤で対応しているとの答弁でした。さらに、委員から、保育士の希望で事務職員への切りかえがなされたのかとの質疑があり、執行部から、職員が健康上の理由で休職した後、復職する際に主治医からの助言と本人の希望により事務職員への切りかえを行なったとの答弁でした。次に、委員から、10款中事務局費に関し、報酬額が16万5,000円計上してあるが、ALTの報酬は年度を重ねるごとに報酬額が上がるのか、また、現在雇用しているALTの人数は何名かとの質疑があり、執行部から、報酬額は年度を重ねるたびに上昇する。現在の雇用は6名であるとの答弁でした。次に、委員から、10款中事務局費の補償補てん及び賠償金について、電波障害による補償とは何かとの質疑があり、執行部から、玉陵小学校体育館建設により建設地西側、戸建て借家集合住宅のテレビが

映らなくなったため、アンテナの設置費用を補償費として支払うものであるとの答弁でした。次に、委員から、10款中保健体育総務費の旅費に関し、どのような方が何名で視察に行くのかとの質疑があり、執行部から、職員2名とレスリング担当の県教諭1名の計3名であるとの答弁でした。

以上、審査を終了し、採決の結果、議第59号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第60号平成30年度玉名市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）についてであります。

歳入歳出それぞれ292万4,000円の追加。主な内容は、定期異動等に伴う職員給与等の調整によるものであります。

本件に関しては、特に質疑もなく審査を終了し、採決の結果、議第60号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第61号平成30年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）についてであります。

歳入歳出それぞれ2億3,649万1,000円を追加。主な内容は、歳出の1款総務費で定期異動等に伴う職員給与等の調整による減額、7款諸支出金で平成29年度介護給付費等の決定に伴う国、県及び支払基金への償還金であります。

本件に関しては、特に質疑もなく審査を終了し、採決の結果、議第61号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第67号玉名市立小学校臨時教員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。

これは、熊本県学校職員の給与改定に準じて、臨時教員の給与を改定するため、条例の整備を図るものであります。改正の内容は、修学旅行の引率業務、部活動の指導業務等に対して支給される教員特殊業務手当の引き上げを行なうものであります。

委員から、現在の臨時教員数は何名かとの質疑があり、執行部から、現在3名との答弁でした。

以上、審査を終了し、採決の結果、議第67号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第68号玉名市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。

これは、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、条例の整備を図るものであります。改正の内容は、学童クラブに従事する放課後児童支援員の資格要件について、一定の実務経験がある者までその対象を拡大するとともに、資格要件の1つとなっている教育職員免許についての取り扱いを明確化するものであります。

す。

委員からは、学童クラブの児童数はふえているのか、また、支援員は足りているのかとの質疑があり、執行部から、通常利用で617名であり、昨年度から比べると40人ふえている。また、支援員の数も今のところ足りているとの答弁でした。次に、委員から、学童の施設については、保育園、学校の空き教室等が利用されていると思うが、学校の統廃合により、その後の学校施設の学童施設としての使用については、教育総務課との庁内でのすり合わせは実施しているかとの質疑があり、執行部から、学校単位で学童クラブが必要となったときに具体的な協議を行なっているが、学童クラブの施設については厚生労働省、文部科学省から通達がなされており、玉名市としてもこの方針に従うことから、教育総務課とは共通理解しているものと考えるとの答弁でした。次に、委員から、第10条第3項に、「5年以上放課後児童健全育成事業に従事した者であつて、市長が適当と認めたもの」と追加されているが、この市長が適当と認めたものとは何をもって適当と認めるのかとの質疑があり、執行部から、学童クラブで資格を持たずに補助員として従事する方が、ある程度年数を経て支援員として採用されるパターンが多いと思われるが、判断は、履歴書、学童クラブへの照会等で行なうことになるとの答弁でした。

以上、審査を終了し、採決の結果、議第68号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、請願の審査について、請第1号築山小学校の施設整備を求める請願についてであります。

これは、少子化に伴う児童数が減少する中、築山小学校は校区内への転入者増等により児童数が増加傾向にあるものの、学校施設である体育館・プール・運動場は老朽化が進み、非常に狭隘であること、また、校区の災害避難場所でもあることから、体育館・プール・特別教室の安全かつ現在の児童数に準じた施設整備、避難場所としての十分な機能を発揮する広さを有する運動場への拡張整備、駐車場用地の確保、児童の安全面を考慮した道路整備、校舎の早急な施設整備を求めるものであります。

委員から、学校敷地に沿って農地があるような状況だが、そのあたりを買収して拡張する計画はないのか、また、現在の耐震の状況はどうなっているのかとの質疑があり、執行部から、校舎・体育館については、公共施設長期整備計画において計画しているものの、運動場については用地の問題もあり計画していないが、耐震は備えているとの答弁でした。次に、委員から、グラウンドに関しての見解について質疑があり、執行部から、過去に数度、用地買収の経緯があったが、うまくいかなかった。境川が近くにあるということから、なかなかめどが立たなかったと聞いているとの答弁でした。次に、委員から、区長会の方々の連名で請願が出されており、多くの区民からの要望でもあるの

で、これを機に進めてほしいと思うが、そういった考えはあるのかとの質疑があり、執行部から、時代の流れも変化しているので、用地買収、拡張整備については周辺が開発されるような土地で困難が予想されるが、今後、計画を立てて整備を進めていきたいとの答弁でした。次に、委員から、体育館の施設整備について、照明はＬＥＤを使用しているのか、また、他の小学校でもＬＥＤ化を進めているのかとの質疑があり、執行部から、新しいところはＬＥＤで整備を進めているが、既存の施設はそのままである。長期整備計画に合わせて、ＬＥＤ化は進めていきたいとの答弁でした。続けて、委員から、あとの小学校に関しても、今後、水銀灯は使えなくなるので、計画を立ててＬＥＤ化を進めてほしいとの意見がありました。次に、委員から、児童数の今後の伸びは把握しているのかとの質疑があり、執行部から、平成２９年度の６４３人を境に減少傾向にある。住宅開発は進んでいるが、少子化の面もあり、６４３人を超えることはないと考えているが、児童推計はゼロ歳児までしか把握できない状況であるとの答弁でした。最後に、委員から、築山小学校周辺は開発が進むことが懸念される。開発が進むと用地買収が困難になるため、スピード感を持って対応してほしいとの意見が出されました。

以上、審査を終了し、採決の結果、請第１号については、願意妥当と認め、全員異議なく採択すべきものと決しました。

次に、継続審査としておりました陳第１号玉陵小学校及び玉陵中学校の駐車場の見直しを求める陳情についてであります。

まず、執行部から、玉陵小学校開校後の駐車場利用状況について、開校式、小中学校入学式、中学校授業参観、中学校体育大会の際は、通常利用で対応できた。小学校の授業参観については、詰め込みにして満車であった。今後、３月までの大きな行事予定については、６月末の小中合同授業参観、９月の小学校運動会、２月の授業参観が予定されているとの報告がありました。

委員から、小学校の授業参観が満車とのことだが、２６６台が満車なのかとの質疑があり、執行部から、２６６台以外にも余裕スペースにとめたとの答弁でした。次に、委員から、どこの小中学校も授業参観時にはグラウンドを駐車場として使用している。グラウンドは広いので、運動会時にはグラウンドの一部を駐車スペースとして使用してはどうか、また、教育総務課としても駐車場の利用スペースについて精査、確認が必要ではないのかとの質疑があり、執行部から、グラウンドのスペースはあるが、水はけなどの環境維持を考えると、グラウンド内に車を入れることをなるべく避け、最小限にした。また、京写の理解もいただいていることから、不足する場合は、京写の駐車場も含め対応したい。９月の小学校運動会については、教育総務課で検証を行ないたいと考えているとの答弁でした。次に、委員から、小中学校合同の催しは年に何度あるのかとの質疑があり、執行部から、小中合同授業参観、小中合同ＰＴＡワンバウンドふらばー

バレー大会の2回が予定されているとの答弁でした。

以上、質疑がなされましたが、陳第1号については、今後、2回の小中学校合同行事、また、小学校の運動会を控えていることから、その様子を注視し、その結果をもって判断すべきとの理由から、継続審査を求める意見が出され、採決の結果、全員一致で継続審査とすべきものと決しました。

次に、その他の案件として審査した意見書案の提出の件について報告いたします。

旧優生保護法に基づく不妊手術の実態調査を行なうこと。都道府県の所有する優生保護審査会の資料などの保全を図るとともに、資料保管状況の調査を行ない、幅広い範囲で情報収集できるように努めること。的確な救済措置を一刻も早く講じること。この3点について、国に意見書として提出いたしたく、本会議へ文教厚生委員会から意見書を提出するものです。

この件について、委員から特段の意見はなく、採決の結果、全員異議なく文教厚生委員会から意見書案を提出することと決しました。

本意見書につきましては、本日、追加議案として上程することとなっておりますので、よろしくお願いいたしたいと存じます。

最後に、その他として、玉名第1保育所の位置、受動喫煙、大阪地震に関連したブロック塀点検、海でのライフジャケットの着用、学校跡地の利活用、交通安全協会自転車競技大会、玉陵校区内の旧小学校の備品など、多岐にわたって質疑がありましたので、あわせて御報告いたします。

以上で、今期、文教厚生委員会に付託されました案件の審査報告を終わります。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、各委員長の報告は終わりました。

議事の都合により、暫時休憩いたします。

午前11時04分 休憩

午前11時20分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第4 質疑・議員間討議・討論・採決（議第54号から議第69号まで、請第1号）

○議長（中尾嘉男君） 日程第4、「質疑・議員間討議・討論・採決」を行ないます。

これより質疑に入ります。

ただいままでの各委員長の報告について、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 質疑なしと認めます。

これより議員間討議に入ります。

議員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 議員間討議なしと認めます。

これより討論に入ります。

討論の通告がありますので、発言を許します。

5 番 赤松英康君。

〔5 番 赤松英康君 登壇〕

○5 番（赤松英康君） こんにちは。

通告に従い、反対討論を行ないたいと思います。

余談ですが、先ほど建設経済委員長の城戸委員長より委員会の報告を聞きまして、さすがに委員の皆さんの問題点を提起していただいたような気がします。私の予想どおりの疑問点が出たんじゃないかと思います。そういうことで、新玉名駅の駐車場の全面有料化について反対の意見を申し上げます。

理由としまして、まず、新玉名駅を誘致するとき、近隣の市や町より多大な協力をいただいた。2つ目に、通勤・通学の人たちの多大な負担を危惧する。3つ目、報告にもありましたとおり、大型連休時の5月4日などを含めて、1年間のうち、現時点ではまだ1年が過ぎておりませんのでわかりませんが、5月4日が満杯だったということですから、1年間のうち5%程度の日数は満車状態はあるかもしれないが、日ごろの西側の駐車場は駐車スペースに余裕があります。また、近ごろは、駐車できないということがなくなったという意見を多数耳にしております。それから、4つ目、費用に関して危惧するところは、駐車料金収入で管理委託料が賄えるのか。不足する可能性もあります。また、そのほかに光熱水費などの維持管理費約700万円くらいは有料化しても別途、市から支出しなければならないと思います。これは、無料化でも同じでございます。5つ目、最悪でも北側・南側の駐車場を有料にして、西側駐車場を無料にする案もあります。そして、交流広場及び芝生広場を正規の駐車場に整備することもできます。6つ目、執行部の案どおり、受益者負担の観点からという考えは理解できる部分もありますが、有料化はよく検証してからでもおそくないと思います。また、JR九州でも有料化による乗降客の減少を大変危惧されているようです。

以上の観点から、私は無料化維持を要望します。

余談ですが、最後に、西側駐車場への案内看板が小さく、わかりにくく、目立たないことをつけ加えて、反対討論を終わります。

以上です。ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） 18 番 前田正治君。

[18番 前田正治君 登壇]

○18番（前田正治君） こんにちは。日本共産党の前田正治です。

私は、今議会に提案してあります議案の中で、議第56号専決処分事項の承認について、専決第4号玉名市税条例等の一部を改正する条例の制定について、議第58号専決処分事項の承認について、専決第6号、玉名市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について、議第69号工事請負契約の締結について、以上の議案には反対をいたします。

今からその理由を述べます。

議第56号についてであります。今回の改正で、給与所得控除の上限額が適用される給与収入1,000万円が850万円に引き下げられました。あわせて、給与所得控除の額が220万円から195万円に下がります。給与所得控除は、事業所得者における経費に当たるものと公平性を保つために設けられた制度でありまして、労働力を維持するために必要な経費として位置づけられています。これを下げるとは、給与所得者には増税となります。また、給与所得控除及び公的年金等控除が現在より10万円引き下げられます。そして、基礎控除が10万円加算されます。これらは、国民健康保険税、介護保険料、後期高齢者医療保険料、保育料などの負担が増加し、市民生活に重大な影響があります。

議第58号についてであります。国民健康保険税の医療分の上限額が54万円から58万円に上がります。また、2割・5割軽減世帯の対象範囲が広がる改正であります。現在、軽減が適用されない世帯において、今回の改正で軽減世帯になることもあります。が、上限額が上がることで国保の加入家族が多い世帯にとりましては、3月議会における改正とあわせて、たび重なる増税になります。

議第69号についてであります。これは、市民会館の建設工事の請負契約を議会が議決するものであります。条件つき一般競争入札が行なわれて、1社のみが応札し、落札率は99.98%、余りにも高どまりであります。電子入札で行なわれておりますので、競争性は担保されているかとは思いますが、私は建設予定地の場所については反対をいたします。市民の中には、あれだけ利用者が多い広場につくらないで、違う場所だという声が根強くあります。

以上のようなことから、3つの議案については、反対をいたします。

これで討論を終わります。

○議長（中尾嘉男君） 3番 吉田憲司君。

[3番 吉田憲司君 登壇]

○3番（吉田憲司君） お疲れさまです。創政未来の吉田憲司です。

きょうは、小道具がありません。最近、寝不足でして、もちろんサッカーのワールド

カップがっておりますので寝不足なんです、今回この市民会館の問題、反対か、さらには反対討論をしていいのか、悩みました。

それでは、議第69号工事請負契約の締結について、反対の立場で討論をさせていただきます。

まず、今国会で審議されておりますカジノ、いわゆるIR法案、また、受動喫煙対策を盛り込んだ健康増進法改正案が国会で審議をされております。同じ党であっても意見が割れているとの報道がなされております。これまで一番記憶に残っているのは、小泉内閣時の郵政民営化法案です。今の野田聖子総務大臣は、反対票を投じ、離党に迫られました。一方で、本会議場で涙を流しながら賛成票を投じた議員もいました。レベルは違うかもしれませんが、この市民会館の問題は、私はこれまで12月議会の再積算予算案には賛成、3月議会では本体工事の予算については反対をさせていただきました。そして、今回、この6月議会で工事請負契約の締結について反対をさせていただきます。

ただ、今回、先ほども言いましたように、本当に迷いました。なぜなら、3月議会で私は反対したものの、予算案は可決、成立をし、あとは本契約、そして着工と、スピーディーなタイムスケジュールを後押しし、市長の思い、あの場所がいいと思われている市民の思いを尊重するのも議員及び議会の役目かなとも思いました。藏原市長との何気ない世間話をしていたとき、市長はおっしゃいませんし、どう思われているかわかりませんが、「今回は、よかったら賛成してくれませんか」的な思いが伝わってくるのを感じました。これは、あくまでも私の印象ですけども。しかし、この市役所庁舎4階の会派室、全員協議会室から福祉センターと博物館の間の市民広場をいろいろな思い、複雑な思いで見るとき、「賛成をしようかな」という自分を許せなかった自分がいました。

それから、もう1つ、ちょうど1年前、当初、建設費29億7,000万円という数字があったと思います。しかし、この数字は、その時点でも実勢価格に見合っていなかったのかもしれませんが。また、このころは、藏原市長も市長ではありませんでしたし、私も市議会議員ではありませんでした。しかし、昨年10月に藏原新市長が誕生し、前市長と同じ場所に建設することを表明されました。私は、それはそれで尊重しなくてはならないと思います。しかし、結果的には同じ場所となり、建設費は、監理費等を含めると、最終的には38億8,000万円となりました。この財源であります社会資本整備総合交付金や合併特例債などありますが、玉名市の一般財源や基金、いわゆる玉名市の手出しの部分がふえることは間違いありません。

私は、1回生議員です。この問題、これまで紆余曲折があったことも理解しているつもりです。そして、人間は生きていれば当然悩みます。考えます。価値観が変わることもあります。そのことも理解しているつもりです。

最後に、昨年１２月２６日の新聞記事の一部を読んで反対討論を終わりたいと思います。では、読ませていただきます。

玉名市の懸案だった市民会館建てかえ問題は、３度目の提出だった関連予算案が市議会を通過した。ただ、これまで反対してきた複数の議員が、市長の交代を機に賛成に回った点には疑問が残る。同じ課題の対応が、前市長と現市長で異なった理由を、市議会は、市民へ具体的に説明する責任がある。

以上で、議第６９号工事請負契約の締結についての反対討論を終わります。

以上です。

○議長（中尾嘉男君）　１６番　近松恵美子さん。

〔１６番　近松恵美子さん　登壇〕

○１６番（近松恵美子さん）　近松です。

まず最初に、私は、駅前駐車場有料化について賛成の立場で討論しますが、今の吉田議員の言われた最後の新聞に出ていた、「今まで反対していて、賛成した議員は、それをちゃんと市民に理解してもらわなければならないか」という、どこの新聞が書いたのかわかりませんが、議会報できちっとそれは書いてあったというふうに私は思います。私は、そういうふうに駐車場もちゃんと整備したので、進めるべきじゃないかということを議会報に自分の意見を明らかにいたしましたので、それだけ御報告しておきます。

では、議第６６号玉名市新玉名駅自動車駐車場条例の制定について、賛成の立場で討論しますが、私も西側駐車場ができてからときどき見ていますと、大体半分ぐらいはあいていましたので、これで行けるなら、あんなに３億円近くかけて買収、造成することは反対したけども、議会が賛成してできてしまった以上、それで賄っているなら有料でなくてもいいのかなと思ったこともあります。しかし、先日の５月の連休で足りなかったと、そういうことを聞きまして、そしてさらに昨年よりも７２台増加したそうでございます。だから、駐車場が整備されればされるほど、あちこちから車がふえてくるということです。もちろん、玉名市内の方も送っていただいたほうが安心して、自分で車で来たということも含まれると思いますけども、このふやしたけども、足りなかったということを聞きまして、やはりこれは有料化するしかないなと思った次第であります。

現在、西側駐車場を拡張して、総数は４６５台ということですが、５月の連休では５６４台、つまり１００台分足りなかったんですね。５月の連休、３日間は５００を超しているんですね。このような状況が年に何回かあるかということを尋ねたわけなんですけども。先ほど、赤松議員が何％ということをおっしゃいましたが、大体１０回ぐらいはあるということでした。何台が、５００台が１０回なのか、５５０

台が10回なのかは、私、確認しておりませんが。たった10回と思うかもしれませんが、ずっとインターネットで福岡で何の行事があるかをずっと職員は注目しとかなければいけないわけです。ソフトバンクの試合があるとか、何か有名な方のコンサートがあるとか、そういうのをずっと調査しときまして、それに対応して、芝生広場も開放するとか、そして、また、シルバー人材センターに整理をお願いするとかという配慮をずっとしないといけないんですね。それを職員が、たったその日だけじゃない、ずっと頭の中で情報をキャッチして対応をしておかなくちゃいけないという労力、そして、また、そのためにあけなくてはいけないというふうなことを考えますと、私は、やはり有料にすべきじゃないかなというふうに思っております。

また、一つには、有料化すると利用者が減るのではないかと、そのような懸念もあるかと思えますけども、私も一時期そのことも心配いたしましたし、前市長もそのように言われていたかと思えますけども、まず、駐車場をふやしたことで、この1年間で1日当たりの乗降客数が30人ふえたというようなことを駅長さんが言われていました。2年前と比較すると、1日40名増加しているそうでございます。これが有料化して減るかどうかということなんですけども、新大牟田駅も有料ですし、近隣の、いわゆる競合するといいますか、熊本駅も有料でございます。特に熊本駅は1日最大、新幹線利用者でも700円と高額であり、しかも民間駐車場があちこちにありますので、やはり大牟田も民間駐車場があります。分散しております。玉名は駅前にドンと1カ所にあつて、ここがだめならあそこを探さなくてもいいという、そういうふうな立地条件でありますので、非常にとめやすいという条件があります。そして、熊本が非常に高いというふうな条件ですので、やはり今までどおり、宇土とか宇城とか天草とか、それから合志あたり、やはり玉名駅に来られるんじゃないかと。玉名と熊本を比較しますと、これは競争にならないんじゃないかというふうに思いますので。若干、荒尾近辺の方が大牟田駅と玉名駅と駐車料金が同じでしたら、大牟田駅を利用されるかもしれないですけど。利用されるのは利用していただいて、この連休中のときもこの西側駐車場で足りるぐらいになるということが、それでいいんじゃないかというふうに私は思います。

そして、また、玉名のほうが近辺ですから、連休は多いかもしれないから、家族から送ってもらうにしても、そこにとめてある方はお金を払っている方だし、自分とはとめてもらうことで、費用を、駐車料金を払わなくていいということでの市民の満足感があるんじゃないかというふうに思います。

そういうことで、私としては、5月の連休が100台足りなかったと、西側駐車場をつくっても100台足りなかったと、そして、さらに、同時期の利用者の利用台数が昨年より72台増加してきたという、この2つの大きな事実から、この有料化について賛成であります。

以上です。

○議長（中尾嘉男君） 通告による討論は終わりましたが、ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） これにて討論を終結いたします。

これより採決に入ります。

まず、専決処分予算議案の採決に入ります。

議第５５号 専決処分事項の承認について 専決第３号

平成２９年度玉名市一般会計補正予算（第１１号）

以上、専決処分予算議案１件について、採決いたします。

ただいま採決に付しております議第５５号に対する各委員長の報告は、いずれも承認であります。各委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第５５号については、承認することに決定いたしました。

続いて、予算議案の採決に入ります。

議第５９号 平成３０年度玉名市一般会計補正予算（第１号）

議第６０号 平成３０年度玉名市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）

議第６１号 平成３０年度玉名市介護保険事業特別会計補正予算（第１号）

議第６２号 平成３０年度玉名市浄化槽整備事業特別会計補正予算（第１号）

議第６３号 平成３０年度玉名市九州新幹線渇水等被害対策事業特別会計補正予算（第１号）

議第６４号 平成３０年度玉名市水道事業会計補正予算（第１号）

議第６５号 平成３０年度玉名市公共下水道事業会計補正予算（第１号）

以上、予算議案７件について、一括して採決いたします。

ただいま採決に付しております議第５９号から議第６５号までの予算議案７件に対する各委員長の報告は、いずれも可決であります。各委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第５９号から議第６５号までの予算議案７件については、いずれも原案のとおり決定いたしました。

続いて、専決処分条例議案の採決に入ります。

議第５６号 専決処分事項の承認について 専決第４号

玉名市税条例等の一部を改正する条例の制定について

議第 5 8 号 専決処分事項の承認について 専決第 6 号

玉名市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

以上、専決処分条例議案 2 件については異議がありますので、あとに譲り採決いたします。

議第 5 7 号 専決処分事項の承認について 専決第 5 号

玉名市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について

以上、専決処分条例議案 1 件について、採決いたします。

ただいま採決に付しております議第 5 7 号に対する委員長の報告は、承認であります。委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 5 7 号については、承認することに決定いたしました。

議第 5 6 号専決処分事項の承認について、専決第 4 号玉名市税条例等の一部を改正する条例の制定について、採決いたします。

本案は、起立表決により採決いたします。

ただいま採決に付しております議第 5 6 号に対する委員長の報告は承認であります、異議があります。

委員長の報告のとおり決定することに、賛成諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中尾嘉男君） 起立多数であります。よって、議第 5 6 号については、承認することに決定いたしました。

議第 5 8 号専決処分事項の承認について、専決第 6 号玉名市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について、採決いたします。

本案は、起立表決により採決いたします。

ただいま採決に付しております議第 5 8 号に対する委員長の報告は承認であります、異議があります。

委員長の報告のとおり決定することに、賛成諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中尾嘉男君） 起立多数であります。よって、議第 5 8 号については、承認することに決定いたしました。

続いて、条例議案の採決に入ります。

議第 6 6 号 玉名市新玉名駅自動車駐車場条例の制定について

以上、条例議案 1 件については異議がありますので、あとに譲り採決いたします。

議第 6 7 号 玉名市立小学校臨時教員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の

制定について

議第 6 8 号 玉名市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について

以上、条例議案 2 件について、採決いたします。

ただいま採決に付しております議第 6 7 号及び議第 6 8 号の条例議案 2 件に対する委員長の報告は、いずれも可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 6 7 号及び議第 6 8 号の条例議案 2 件については、いずれも原案のとおり決定いたしました。

議第 6 6 号玉名市新玉名駅自動車駐車場条例の制定について、採決いたします。

本案は、起立表決により採決いたします。

ただいま採決に付しております議第 6 6 号に対する委員長報告は可決であります、異議があります。

委員長の報告のとおり決定することに、賛成諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（中尾嘉男君） 起立多数であります。よって、議第 6 6 号については、原案のとおり決定いたしました。

続いて、専決処分のその他の議案の採決に入ります。

議第 5 4 号 専決処分事項の承認について 専決第 2 号
工事施行協定の締結について

以上、専決処分のその他の議案 1 件について、採決に入ります。

ただいま採決に付しております議第 5 4 号に対する委員長報告は、承認であります。委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 5 4 号については、承認することに決定いたしました。

続いて、その他の議案の採決に入ります。

議第 6 9 号 工事請負契約の締結について

以上、議案 1 件について、採決いたします。

本案は、起立表決により採決いたします。

ただいま採決に付しております議第 6 9 号に対する委員長の報告は可決であります、異議があります。

委員長の報告のとおり決定することに、賛成諸君の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（中尾嘉男君） 起立多数であります。よって、議第69号については、原案のとおり決定いたしました。

続いて、請願の採決に入ります。

請第1号 築山小学校の施設整備を求める請願

以上、請願1件について、採決いたします。

ただいま採決に付しております請第1号に対する委員長報告は、採択であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、請第1号については、採択することに決定いたしました。

日程第5 閉会中の継続審査の件

○議長（中尾嘉男君） 日程第5、「閉会中の継続審査の件」を議題といたします。

付託事件の閉会中の継続審査について、お諮りいたします。

文教厚生委員長より、目下、文教厚生委員会において審査中の陳第1号玉陵小学校及び玉陵中学校の駐車場の見直しを求める陳情の陳情1件について、会議規則第111条の規定により、お手元に配付いたしました申出書のとおり、閉会中の継続審査の申し出があります。

お諮りいたします。

委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決定いたしました。

日程第6 市長提出議案審議（質疑・議員間討議・討論・採決）（議第70号から議第90号まで）

○議長（中尾嘉男君） 日程第6、「市長提出議案審議」を行ないます。

議第70号農業委員会委員の任命についてから、議第90号人権擁護委員候補者の推薦についてまでの市長提出議案21件を一括議題といたします。

これより委員会付託を省略しておりました、議第70号から議第90号までの人事案件21件の審議に入ります。

審議の方法は、質疑、議員間討議、討論の後、採決いたします。

これより質疑に入ります。

議第 70 号から議第 90 号までの人事案件 21 件について、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 質疑なしと認めます。

これより議員間討議に入ります。

議第 70 号から議第 90 号までの人事案件 21 件について、議員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 議員間討議なしと認めます。

これより討論に入ります。

議第 70 号から議第 90 号までの人事案件 21 件について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。採決は、1 件ずつ行ないます。

議第 70 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 70 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 70 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 71 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 71 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 71 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 72 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 72 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 72 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 73 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 73 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 73 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 7 4 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 7 4 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 7 4 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 7 5 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 7 5 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 7 5 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 7 6 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 7 6 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 7 6 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 7 7 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 7 7 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 7 7 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 7 8 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 7 8 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 7 8 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 7 9 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 7 9 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 7 9 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 8 0 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 8 0 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 8 0 号については、原案

に同意することに決定いたしました。

議第 8 1 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 8 1 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 8 1 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 8 2 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 8 2 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 8 2 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 8 3 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 8 3 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 8 3 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 8 4 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 8 4 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 8 4 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 8 5 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 8 5 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 8 5 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 8 6 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 8 6 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 8 6 号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第 8 7 号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第 8 7 号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第８７号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第８８号農業委員会委員の任命について、採決いたします。

議第８８号については、原案に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第８８号については、原案に同意することに決定いたしました。

議第８９号人権擁護委員候補者の推薦について、採決いたします。

議第８９号については、原案のとおり推薦に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第８９号については、原案のとおり推薦に同意することに決定いたしました。

議第９０号人権擁護委員候補者の推薦について、採決いたします。

議第９０号については、原案のとおり推薦に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第９０号については、原案のとおり推薦に同意することに決定いたしました。

日程第７ 議員派遣の件

○議長（中尾嘉男君） 日程第７、「議員派遣の件」を議題といたします。

お手元に配付しております派遣の内容について、職員に説明させます。

議会事務局次長 荒木 勇君。

〔議会事務局次長 荒木 勇君 登壇〕

○議会事務局次長（荒木 勇君） 命によりまして、派遣の内容につきまして御説明申し上げます。

派遣目的 クラリンド市への公式訪問団の派遣のため

派遣場所 アメリカ合衆国アイオワ州クラリンド市

派遣期間 平成３０年１０月１日から６日までの６日間

派遣議員 近松恵美子副議長、吉田真樹子議員

本市が、平成８年に姉妹都市を締結し、交流を深めているアメリカ合衆国アイオワ州クラリンド市へ交流促進を目的に、今回で７回目となる公式訪問団が派遣されることとなっております。よって、議会を代表して２名の議員が公式訪問団としての派遣が必要なため、議員派遣をお諮りするものであります。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、派遣の内容の説明は終わりました。

お諮りいたします。

お手元に配付のとおり、地方自治法第100条第13項及び会議規則第167条の規定により、議員を派遣することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議員を派遣することに決定いたしました。

この際、お諮りいたします。

ただいま議決した事項について、諸般の事情により変更する場合は、議長に一任を願いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議決した事項について、諸般の事情により変更する場合には、議長に一任することに決定いたしました。

議事の都合により、休憩にいたします。

午後 0時07分 休憩

午後 1時51分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程の追加についてお諮りいたします。

日程第8 意見書案上程

意見書案第1号 旧優生保護法による不妊手術の被害者救済を求める意見書の提出について

日程第9 提案理由の説明

日程第10 意見書案審議

日程第11 議員提出議案上程

議員提出第1号 金栗四三地域創造戦略特別委員会の設置について

日程第12 提案理由の説明

日程第13 議員提出議案審議

以上、日程に追加いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、日程に追加することに決定いたしました。

日程第8 意見書案上程（意見書案第1号）

○議長（中尾嘉男君） 日程第8、「意見書案上程」を行ないます。

これより意見書案を上程いたします。

意見書案第1号 旧優生保護法による不妊手術の被害者救済を求める意見書の提出について

以上、意見書案1件を議題といたします。

お手元に配付しております意見書案の朗読は、これを省略いたします。

日程第9 提案理由の説明

○議長（中尾嘉男君） 日程第9、「提案理由の説明」を行ないます。

ただいまの意見書案第1号について、提案理由の説明を求めます。

文教厚生委員長 徳村登志郎君。

〔文教厚生委員長 徳村登志郎君 登壇〕

○文教厚生委員長（徳村登志郎君） 意見書案第1号旧優生保護法による不妊手術の被害者救済を求める意見書の提出について、提案理由を述べさせていただきます。

昭和23年に施行された旧優生保護法は、知的障がい者や精神疾患を理由に本人の同意がなくても不妊手術を認めていました。同法は、平成8年に障がい者差別に該当する条文を削除して、母体保護法に改正されています。

厚生労働省によると、旧法のもとで不妊手術を受けた障がい者らは約2万5,000人。このうち、本人の同意なしに不妊手術を施されたのは1万6,475人と報告されています。

本人の意思に反して手術が施されたとすれば、人権上、問題があります。また、同様の不妊手術を行っていたドイツやスウェーデンでは当事者に対する補償等の措置が講じられています。旧法のもとで不妊手術を受けた障がい者らの高齢化が進んでいることを考慮すると、我が国においても早急な救済措置を講じるべきであります。

意見書では、1つ、旧優生保護法に基づく不妊手術の実態調査の速やかな実施、2つ、都道府県の所有する優生保護審査会の資料などの保全を図るとともに、資料保管状況の調査を実施すること、あわせて個人が特定できる資料について、当事者の心情に配慮しつつ、幅広く収集すること、3つ、的確な救済措置を一刻も早く講じること、この3点を国に求めるものであります。

議員におかれましては、意見書提出の採択をよろしくお願いいたします。

以上で、提案理由の説明を終わります。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

念のために申し上げます。意見書案第1号については、委員会提出の議案であるため、会議規則第37条第2項の規定により、委員会に付託しないことになっておりま

す。よって、意見書案第1号については、日程に従い、引き続き会議にて直接審議を行ないます。

日程第10 意見書案審議（質疑・議員間討議・討論・採決）（意見書案第1号）

○議長（中尾嘉男君） 日程第10、「意見書案審議」を行ないます。

改めて、

意見書案第1号 旧優生保護法による不妊手術の被害者救済を求める意見書の提出
について

以上、意見書案1件を議題といたします。

審議の方法は、質疑、議員間討議、討論の後、採決いたします。

これより質疑に入ります。

意見書案第1号について、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 質疑なしと認めます。

これより議員間討議に入ります。

意見書案第1号について、議員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 議員間討議なしと認めます。

これより討論に入ります。

意見書案第1号について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

意見書案第1号旧優生保護法による不妊手術の被害者救済を求める意見書の提出について、採決いたします。

意見書案第1号については、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、意見書案第1号については、原案のとおり決定いたしました。

日程第11 議員提出議案上程（議員提出第1号）

○議長（中尾嘉男君） 日程第11、「議員提出議案上程」を行ないます。

これより議員提出議案を上程いたします。

議員提出第1号 金栗四三地域創造戦略特別委員会の設置について

以上、議員提出議案１件を議題といたします。

お手元に配付しております議員提出議案の朗読は、これを省略いたします。

日程第１２ 提案理由の説明

○議長（中尾嘉男君） 日程第１２、「提案理由の説明」を行ないます。

ただいまの議員提出第１号について、提案理由の説明を求めます。

１１番 城戸 淳君。

〔１１番 城戸 淳君 登壇〕

○１１番（城戸 淳君） それでは、議員提出第１号の提案理由につきまして御説明申し上げます。

議員提出第１号金栗四三地域創造戦略特別委員会の設置についてでございますが、これは、本市で現在取り組まれている金栗四三ＰＲ推進事業をよりスピード感を持って展開させるべく、議会の政策立案及び政策提言による事業への参画と協力支援、並びに、金栗四三氏を活用した議会独自の地域創造戦略の構築による魅力あるまちづくりの実現を目指し、本市議会として十分な調査研究を行ない、もって本市の発展に資するため、地方自治法第１０９条及び玉名市議会委員会条例第６条の規定により、特別委員会の設置を求めるものであります。

内容といたしましては、１１人の委員をもって構成する金栗四三地域創造戦略特別委員会を設置し、１番、大河ドラマ館を活用した地域活性化に関すること、２番、金栗四三氏に係る地域振興及び集客・誘客施策に関すること、３番、金栗四三氏を起点とした各種事業に関すること、以上の３つの調査事件を付託し、調査を行なうものであります。

以上で、提案理由の説明を終わります。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

この際、お諮りいたします。

ただいま議題となっております議員提出第１号については、議事の都合により、会議規則第３７条第３項の規定に基づき、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議員提出第１号については、委員会付託を省略することに決定いたしました。

議員提出第１号の委員会付託を省略いたします。

議員提出第１号については、日程に従い、引き続き会議にて直接審議を行ないます。それでは、議事を進めます。

日程第 13 議員提出議案審議（質疑・議員間討議・討論・採決）（議員提出第 1 号）

○議長（中尾嘉男君） 日程第 13、「議員提出議案審議」を行ないます。

改めて、

議員提出第 1 号 金栗四三地域創造戦略特別委員会の設置について

以上、議員提出議案 1 件を議題といたします。

これより、ただいま議題となっております議員提出第 1 号の審議に入ります。

審議の方法は、質疑、議員間討議、討論の後、採決いたします。

これより質疑に入ります。

議員提出第 1 号について、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 質疑なしと認めます。

これより議員間討議に入ります。

議員提出第 1 号について、議員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 議員間討議なしと認めます。

これより討論に入ります。

議員提出第 1 号について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

議員提出第 1 号金栗四三地域創造戦略特別委員会の設置について、採決いたします。

議員提出第 1 号については、原案のとおり 11 人の委員をもって構成する金栗四三地域創造戦略特別委員会を設置し、1、大河ドラマ館を活用した地域活性化に関すること、2、金栗四三氏に係る地域振興及び集客・誘客施策に関すること、3、金栗四三氏を起点とした各種事業に関すること、以上の調査事件を付託の上、調査することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議員提出第 1 号については、原案のとおり 11 人の委員をもって構成する金栗四三地域創造戦略特別委員会を設置し、1、大河ドラマ館を活用した地域活性化に関すること、2、金栗四三氏に係る地域振興及び集客・誘客施策に関すること、3、金栗四三氏を起点とした各種事業に関すること、以上の調査事件を付託の上、調査することに決定いたしました。

この際、お諮りいたします。

金栗四三地域創造戦略特別委員会に付託いたしました、１、大河ドラマ館を活用した地域活性化に関する事、２、金栗四三氏に係る地域振興及び集客・誘客施策に関する事、３、金栗四三氏を起点とした各種事業に関する事、以上の調査事件につきましては、議員の任期の間、調査の終了するまで閉会中も継続して調査を行なうことにしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、金栗四三地域創造戦略特別委員会に付託いたしました、１、大河ドラマ館を活用した地域活性化に関する事、２、金栗四三氏に係る地域振興及び集客・誘客施策に関する事、３、金栗四三氏を起点とした各種事業に関する事、以上の調査事件につきましては、議員の任期の間、調査の終了するまで閉会中も継続して調査を行なうことに決定いたしました。

議事の都合により、休憩いたします。

午後 ２時０６分 休憩

午後 ２時０７分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程の追加についてお諮りいたします。

日程第１４ 金栗四三地域創造戦略特別委員会委員の選任

日程第１５ 金栗四三地域創造戦略特別委員会正副委員長互選結果報告

日程第１６ 市長提出追加議案上程

議第９１号 平成３０年度玉名市一般会計補正予算（第２号）

議第９２号 玉名市長等の給与の特例に関する条例の制定について

日程第１７ 提案理由の説明

日程第１８ 報告

日程第１９ 議案の委員会付託

日程第２０ 委員長報告

日程第２１ 質疑・議員間討議・討論・採決

以上、日程に追加いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、日程に追加することに決定いたしました。

日程第１４ 金栗四三地域創造戦略特別委員会委員の選任

○議長（中尾嘉男君） 日程第１４、「金栗四三地域創造戦略特別委員会委員の選任」を

行ないます。

先ほど設置されました金栗四三地域創造戦略特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、議長が指名することになっております。よって、金栗四三地域創造戦略特別委員会委員に、坂本公司君、吉田真樹子さん、吉田憲司君、一瀬重隆君、多田隈啓二君、松本憲二君、徳村登志郎君、城戸 淳君、江田計司君、近松恵美子さん、田畑久吉君、以上11名の諸君を指名いたします。よって、ただいま指名いたしましたとおり、金栗四三地域創造戦略特別委員会委員が選任されました。

金栗四三地域創造戦略特別委員会委員が選任されましたので、この際、金栗四三地域創造戦略特別委員会の正副委員長の互選のため休憩し、議長において委員会を第1委員会室に招集いたしますので、御了承願います。

金栗四三地域創造戦略特別委員会におかれましては、委員会を開会の上、正副委員長を互選し、その結果を議長まで報告願います。

それでは、金栗四三地域創造戦略特別委員会の正副委員長の互選のため、休憩いたします。

午後 2時10分 休憩

午後 3時00分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第15 金栗四三地域創造戦略特別委員会正副委員長互選結果報告

○議長（中尾嘉男君） 日程第15、「金栗四三地域創造戦略特別委員会正副委員長互選結果報告」を行ないます。

金栗四三地域創造戦略特別委員長、江田計司君。

金栗四三地域創造戦略特別副委員長、田畑久吉君。

以上のとおり就任されましたので、報告いたします。

これにて、金栗四三地域創造戦略特別委員会正副委員長互選結果報告を終わります。

日程第16 市長提出追加議案上程（議第91号及び議第92号）

○議長（中尾嘉男君） 日程第16、「市長提出追加議案上程」を行ないます。

これより市長提出追加議案を上程いたします。

議第91号平成30年度玉名市一般会計補正予算（第2号）、及び、議第92号玉名市長等の給与の特例に関する条例の制定についての市長提出追加議案2件を一括議題といたします。

お手元に配付しております議案の朗読は、これを省略いたします。

日程第 17 提案理由の説明

○議長（中尾嘉男君） 日程第 17、「提案理由の説明」を行ないます。

ただいまの各議案について、提案理由の説明を求めます。

総務部長 西山俊信君。

〔総務部長 西山俊信君 登壇〕

○総務部長（西山俊信君） 追加提案いたしました議第 91 号平成 30 年度玉名市一般会計補正予算（第 2 号）について御説明を申し上げます。

提案理由といたしましては、大河ドラマ館を活用した地域活性化、金栗四三氏に係る地域振興及び集客・誘客施策等の調査を目的といたしまして設置されました金栗四三地域創造戦略特別委員会に必要な経費を計上いたすものでございます。

それでは、お手元の予算資料の 1 ページをお願いいたします。

第 1 表歳入歳出予算補正につきましては、歳入歳出それぞれ 324 万 8,000 円を追加し、総額を 324 億 3,699 万 1,000 円とするものでございます。歳入につきましては、19 款繰越金を 324 万 8,000 円の追加で、今回の補正の財源調整でございます。歳出につきましては、1 款議会費は 324 万 8,000 円の追加で、金栗四三地域創造戦略特別委員会設置に伴う行政視察旅費及び費用弁償等でございます。

以上、主な内容について御説明申し上げましたが、詳細につきましては、所管の委員会において御説明申し上げますので、原案どおり御承認賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 副市長 村上隆之君。

〔副市長 村上隆之君 登壇〕

○副市長（村上隆之君） 追加提案いたしました議第 92 号の提案理由につきまして御説明申し上げます。

追加議案書の 1 ページをお願いいたします。

議第 92 号玉名市長等の給与の特例に関する条例の制定についてでございますが、これは、職員のたび重なる不祥事に伴い、市長及び副市長の給料月額を平成 30 年 7 月 1 日から同月 31 日までの間、市長にあつては 10%、副市長にあつては 5%削減するため、条例を制定するものでございます。

附則といたしまして、この条例は、平成 30 年 7 月 1 日から施行し、同月 31 日までの効力を失うものでございます。

以上、提案理由の御説明を申し上げますが、詳細につきましては、所管の委員会御説明申し上げますので、御審議の上、原案どおり御承認いただきますようお願い申し

上げます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

日程第 18 報告（1 件）

○議長（中尾嘉男君） 日程第 18、「報告」を行ないます。

報告第 9 号有限会社横島町特産物振興協会の経営状況を説明する書類についての報告があります。

総務部長 西山俊信君。

〔総務部長 西山俊信君 登壇〕

○総務部長（西山俊信君） 報告案件 1 件につきまして御説明申し上げます。

追加議案書の 2 ページのほうをお開き願いたいと思います。

報告第 9 号有限会社横島町特産物振興協会の経営状況を説明する書類についてでございますが、これは、地方自治法第 243 条の 3 第 2 項の規定により、議会に報告するものでございます。

別冊の有限会社横島町特産物振興協会経営状況説明書をごらんいただきたいと思います。資料の 2 枚をめくっていただきまして、平成 29 年度事業報告及び収支決算書中の 1 ページをお願いいたします。

まず、平成 29 年度の事業報告でございますが、2 の事業概要につきましては、玉名市より公共施設の管理運営を受託しました施設は、玉名市ふるさとセンター Y・BOX を初めとする 3 施設でございます。指定管理の対象施設の効果を最大限に発揮させるよう利用者のニーズを的確に把握し、質の高いサービスを偏ることなく提供するとともに、地域の産業振興の拠点となるよう努めたところでございます。

主な事業といたしましては、荒尾玉名地域の直売所と連携をいたしまして、熊本県内はもとより、関東及び関西方面の飲食店への食材の提供を目的とした商談会への参加、農産物の直売イベントへの出店を通じて、周辺地域で生産される特産品の振興及び PR 活動を行なったところでございます。

下段の 3、財務概要につきましては、平成 29 年度の収入及び支出決算でございますが、収入が 1 億 6,138 万 4,570 円、支出が 1 億 6,134 万 6,343 円で、当期損益は 3 万 8,227 円の利益となっているところでございます。

内容といたしましては、昨年 4 月及び 5 月の売上につきましては前年度を大きく上回りましたが、7 月から 12 月の売上につきましては農産物の不作により前年度を下回っております。しかしながら、直売所で販売する商品の再検討、ふるさと納税事業、県の補助金を活用した食材の営業活動などを積極的に行ない、従業員一丸となって売上高

の向上に取り組んだ結果、売上高につきましては前年度対比で３％の増額となったところでございます。

次に、５ページ、５枚めくっていただきまして、平成３０年度事業計画及び収支予算書中の１ページをお開き願いたいと思います。

平成３０年度の事業計画でございますが、指定管理者の受託施設の事業計画書に基づく事業展開を図るとともに、県内外の各種物産イベントへ積極的に参加をしていく予定でございます。

２ページ及び３ページをお願いいたします。

収入支出予算でございますが、収入が１億６，７００万１，０００円、支出が１億６，６３６万６，０００円で、当期損益は６３万５，０００円を予定いたしているところでございます。

以上が、有限会社横島町特産物振興協会の経営状況の報告でございます。

以上でございます。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、報告の説明は終わりました。

日程第１９ 議案の委員会付託

○議長（中尾嘉男君） 日程第１９、「議案の委員会付託」を行ないます。

改めて、議第９１号平成３０年度玉名市一般会計補正予算（第２号）、及び、議第９２号玉名市長等の給与の特例に関する条例の制定についての市長提出追加議案２件を一括議題といたします。

ただいま議題となっております議案２件につきましては、お手元に配付しております議案付託表のとおり、総務委員会に付託いたします。

議案付託表

総務委員会

議第９１号 平成３０年度玉名市一般会計補正予算（第２号）

議第９２号 玉名市長等の給与の特例に関する条例の制定について

○議長（中尾嘉男君） 総務委員会におかれましては、直ちに審査をお願いいたします。

本日の会議時間は、議事の都合により、あらかじめ延長いたします。

委員会審査のため、休憩いたします。

午後 ３時１２分 休憩

午後 ４時３５分 開議

○議長（中尾嘉男君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第 20 委員長報告

○議長（中尾嘉男君） 日程第 20、「委員長報告」を行ないます。

これより総務委員会に付託し、審査を終了いたしました議案の結果と経過について、委員長の報告を求めます。

議第 91 号平成 30 年度玉名市一般会計補正予算（第 2 号）、及び、議第 92 号玉名市長等の給与の特例に関する条例の制定についての市長提出追加議案 2 件を一括議題といたします。

お手元に配付しております委員会審査報告書の朗読は、これを省略いたします。

審議の方法は、委員長の報告のあと、質疑、議員間討議、討論の後、採決いたします。

委員長報告を求めます。

総務副委員長 多田隈啓二君。

〔総務副委員長 多田隈啓二君 登壇〕

○総務副委員長（多田隈啓二君） お疲れさまです。

総務委員長が都合により早退のため、私のほうから委員長報告をさせていただきます。

総務委員会に追加付託されました案件は、議案 2 件であります。委員会における審査の経過と結果について御報告いたします。

まず、議第 91 号平成 30 年度玉名市一般会計補正予算（第 2 号）についてであります。

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 324 万 8,000 円を追加し、総額を 324 億 3,699 万 1,000 円とするものであります。歳入については、19 款繰越金で補正の財源調整のため、324 万 8,000 円を追加するものであります。歳出の内容として、1 款議会費が 324 万 8,000 円の追加で、金栗四三地域創造戦略特別委員会の設置に伴う経費等であります。

まず、委員から、特別委員会の開催はどの程度予定しているのかとの質疑があり、執行部から、おおむね週 1 回を考えているが、場合によっては週 2～3 回になることもあり得るとの答弁でした。

以上、審査を終了し、採決の結果、議第 91 号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

次に、議第 92 号玉名市長等の給与の特例に関する条例の制定についてであります。

これは、職員の不祥事に伴い、市長及び副市長の給料を減額するための条例を制定するもので、内容として、平成 30 年 7 月 1 日から同月 31 日までの間、市長の給与を 1

00分の10、副市長の給与を100分の5、それぞれ削減するものであります。

まず、委員から、過去にこのような事例があったのかとの質疑があり、執行部から、市長等に係る減額条例は3回ほど発生しており、10%の1カ月もあったとの答弁でした。次に、委員から、不祥事に関して市長等の処分の基準等はあるのかとの質疑があり、執行部からは、職員に対しては懲戒処分の指針があるが、市長等にはないとの答弁でした。次に、委員から、賞与に影響はあるのかとの質疑があり、執行部から、7月末で効力を失うため、影響はないとの答弁でした。次に、委員から、該当職員にはどのような教育、指導を行なっていくのかとの質疑があり、執行部から、現在、自分を見つめ直すプログラム研修を受講させ、改善できるよう対策を講じていくとの答弁でした。さらに、委員から、これに関連し、研修期限はあるのかとの質疑があり、執行部から、現時点では本年度中を予定しているが、場合によっては延長の可能性もあるとの答弁でした。次に、委員から、研修先で同じような事案が発生した場合の責任はとの質疑があり、執行部から、それについては当然、本市の責任となるとの答弁でした。

以上、審査を終了し、採決の結果、議第92号については、原案のとおり全員異議なく可決すべきものと決しました。

以上で、総務委員会に追加付託されました案件の審査報告を終わります。

○議長（中尾嘉男君） 以上で、委員長報告は終わりました。

日程第21 質疑・議員間討議・討論・採決（議第91号及び議第92号）

○議長（中尾嘉男君） 日程第21、「質疑・議員間討議・討論・採決」を行ないます。

これより質疑に入ります。

ただいまの委員長報告について、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 質疑なしと認めます。

これより議員間討議に入ります。

議員間討議はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 議員間討議なしと認めます。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 討論なしと認めます。

これより採決に入ります。

まず、予算議案の採決に入ります。

議第 9 1 号 平成 3 0 年度玉名市一般会計補正予算（第 2 号）

以上、予算議案 1 件について、採決いたします。

ただいま採決に付しております議第 9 1 号に対する委員長報告は、可決であります。
委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 9 1 号については、原案のとおり決定いたしました。

続いて、条例議案の採決に入ります。

議第 9 2 号 玉名市長等の給与の特例に関する条例の制定について

以上、条例議案 1 件について、採決いたします。

ただいま採決に付しております議第 9 2 号に対する委員長の報告は、可決であります。委員長の報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、議第 9 2 号については、原案のとおり決定いたしました。

ここで、日程の追加についてお諮りいたします。

日程第 2 2 公共施設等建設特別委員会副委員長互選結果報告

以上、日程に追加いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中尾嘉男君） 御異議なしと認めます。よって、日程に追加することに決定いたしました。

日程第 2 2 公共施設等建設特別委員会副委員長互選結果報告

○議長（中尾嘉男君） 日程第 2 2、「公共施設等建設特別委員会副委員長互選結果報告」を行ないます。

本日、公共施設等建設特別副委員長の退任に伴い、新たな副委員長が互選されております。

公共施設等建設特別副委員長、古奥俊男君。

以上のとおり就任されましたので、報告いたします。

これにて、公共施設等建設特別委員会副委員長互選結果報告を終わります。

以上で、今期定例会に付議されました事件は、すべて議了いたしました。

ここで、市長より発言の申し出がありますので、これを許可いたします。

市長 藏原隆浩君。

〔市長 藏原隆浩君 登壇〕

○市長（藏原隆浩君） 御審議、終了いただきました今議会の閉会に当たりまして、一言お礼を申し上げさせていただきます。

6月議会の招集に当たりまして、議員各位の御協力により無事閉会を迎えることができました。今議会に提案をさせていただきました平成30年度一般会計補正予算を初め、39の議案に対しまして、慎重に御審議をいただき、提案いたしましたとおりに議決、承認を賜りましたことを改めて厚くお礼を申し上げます。

さて、5月28日に梅雨入りをし、災害の発生しやすい時期となっておりますけれども、その梅雨のさなか、6月18日に発生いたしました大阪北部地震では、小学4年生の児童を初め、5名の方がお亡くなりになり、現段階で負傷者408名、家屋の一部損壊515棟と、一昨年の私たちが経験した熊本地震を彷彿とさせる事態となりました。心よりお悔やみを申し上げますとともに、お見舞いを心から申し上げたいというふうに存じます。

特に学校施設の崩壊により通学時の児童が犠牲になった事例につきましては、心痛く、悲しみの念にたえません。本市におきましても、地震後、すぐに教育委員会を初め、関係部署において施設の点検を実施しているところであり、学校施設のブロック塀については、今のところ危険箇所はないという報告を受けておりますけれども、そのほかの公共施設を含め、今後の安全管理、そして防災対策について、施設の整備はもとより、管理する私たち自身も日ごろの意識向上を図ってまいりたいというふうに思っております。

また、先般より職員の不祥事を初め、事務処理のミスなど立て続けに起こりましたことは、市民の皆様を初め、議員各位にも御迷惑と御心配をおかけしていることと存じます。みずからを律しながら、すべての職員で今後、信頼回復にしっかりと努めてまいります。

沖縄地方では梅雨明けの宣言がなされましたけれども、九州北部地方はまだまだこれから大雨の予報もあるかというふうに思われます。これまでの教訓を生かしながら、緊張してこの梅雨どきを過ごさなければならないというふうに思っております。議員各位におかれましても、どうぞ、これからさらに暑い時期に入りますので、御自愛をいただくと同時に、引き続き閉会中も市政に対する御支援と御指導をいただきますよう心よりお願いを申し上げまして、お礼のごあいさつとさせていただきます。

大変ありがとうございました。

○議長（中尾嘉男君） これにて本会議を閉じ、平成30年第3回玉名市議会定例会を閉会いたします。

午後 4時47分 閉会

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により、ここに署名する。

玉名市議会議長 中 尾 嘉 男

玉名市議会議員 松 本 憲 二

玉名市議会議員 徳 村 登志郎

玉 名 市 議 会 会 議 録
平成 3 0 年 第 3 回 定 例 会

発行人 玉 名 市 議 会 議 長 中 尾 嘉 男

編集人 玉 名 市 議 会 事 務 局 長 堀 内 政 信

作 成 株 式 会 社 ア ク セ ス

電 話 (0 9 6) 3 7 2 - 1 0 1 0

玉 名 市 議 会 事 務 局

〒865-8501 熊 本 県 玉 名 市 岩 崎 163 番 地

電 話 (0 9 6 8) 7 5 - 1 1 5 5